

図 面 目 録
(建築工事関連図面)

図面番号	図面名称	縮尺	枚数	図面番号	図面名称	縮尺	枚数
建築意匠図							
特記-01	建築工事特記仕様書(その1)	NON	1	A-13	建具表	1:50	1
特記-02	建築工事特記仕様書(その2)	NON	1	A-14	詳細図-1	図示	1
特記-03	建築工事特記仕様書(その3)	NON	1	A-15	詳細図-2	図示	1
特記-04	建築工事特記仕様書(その4)	NON	1				
特記-05	建築工事特記仕様書(その5)	NON	1				
特記-06	建築工事特記仕様書(その6)	NON	1				
特記-07	建築工事特記仕様書(その7)	NON	1				
特記-08	建築工事特記仕様書(その8)	NON	1				
特記-09	建築工事特記仕様書(その9)	NON	1				
A-01	配置図	1:500	1				
A-02	仕上表・面積表	1:200	1				
A-02 a	敷地面積求積図		1				
A-03	平面図	1:100	1				
A-04	平面図(上部)・屋根伏図	1:100	1				
A-05	立面図	1:100	1				
A-06	断面図-1	1:100	1				
A-07	断面図-2	1:100	1				
A-08	断面詳細図-1	1:30	1				
A-09	断面詳細図-2	1:30	1				
A-10	平面詳細図-1	1:50	1				
A-11	平面詳細図-2	1:50	1				
A-12	展開図・天井伏図	1:50	1				
小計			22	小計			3

図 面 目 録
(建築工事関連図面)

図面番号	図面名称	縮尺	枚数	図面番号	図面名称	縮尺	枚数
建築構造図							
C-01	構造特記仕様書	NON	1	C-23	軸組図-4	1:100	1
C-02	鉄筋コンクリート配筋標準図(1)	NON	1	C-24	軸組図-5	1:100	1
C-03	鉄筋コンクリート配筋標準図(2)	NON	1	C-25	軸組図-6	1:100	1
C-04	鉄筋コンクリート配筋標準図(3)	NON	1	C-26	軸組図-7	1:100	1
C-05	鉄筋コンクリート配筋標準図(4)	NON	1	C-27	柱芯線図	1:100	1
C-06	鉄筋コンクリート配筋標準図(5)	NON	1	C-28	柱リスト	1:30	1
C-07	鉄筋コンクリート配筋標準図(6)	NON	1	C-29	基礎梁(1階床)リスト	1:30	1
C-08	鉄筋コンクリート配筋標準図(7)	NON	1	C-30	大梁リスト	1:30	1
C-09	鉄筋コンクリート配筋標準図(8)	NON	1	C-31	その他部材リスト-1	1:100	1
C-10	鉄筋コンクリート配筋標準図(9)	NON	1	C-32	その他部材リスト-2	1:20	1
C-11	鉄筋コンクリート配筋標準図(10)	NON	1	C-33	架構配筋図	1:100	1
C-12	鉄筋コンクリート配筋標準図(11)	NON	1	C-34	鉄骨詳細図(1)	1:30	1
C-13	鉄骨工作標準図(1)	NON	1	C-35	鉄骨詳細図(2)	1:30	1
C-14	鉄骨工作標準図(2)	NON	1	C-36	鉄骨詳細図(3)	1:30	1
C-15	杭伏図	1:100	1	C-37	土木接続図-1	1:50	1
C-16	基礎詳細図	1:30	1	C-38	土木接続図-2	1:50	1
C-17	1階床・梁・壁伏図	1:100	1	C-39	土木接続図-3	1:30	1
C-18	2階床・梁・壁伏図	1:100	1				
C-19	R階床・梁・壁伏図	1:100	1				
C-20	軸組図-1	1:100	1				
C-21	軸組図-2	1:100	1				
C-22	軸組図-3	1:100	1				
小計			22	小計			17

図 面 目 録
(建築工事関連図面)

図面番号	図面名称	縮尺	枚数	図面番号	図面名称	縮尺	枚数
建築機械設備図				建築電気設備図			
M-01	特記仕様書	NON	1	E-01	電気設備工事特記仕様書	NON	1
M-02	凡例・衛生器具表	NON	1	E-02	分電盤結線図・照明器具姿図	1:100	1
M-03	配置図	1:500	1	E-03	動力・弱電設備平面図	1:100	1
M-04	平面図	1:100	1	E-04	電灯設備平面図	1:100	1
M-05	平面図詳細図	1:30	1	E-05	コンセント設備平面図	1:100	1
M-06	排水縦断図・樹表	1:100	1	E-06	避雷針設備平面図(1)	1:100	1
M-07	空調換気機器表	NON	1	E-07	避雷針設備平面図(2)	1:100	1
M-08	換気平面図	1:100	1	E-08	避雷針設備立面図	1:100	1
M-09	平面図(上部)・屋根伏図	1:100	1				
M-10	立面図	1:100	1				
M-11	断面図(1)	1:100	1				
M-12	断面図(2)	1:50	1				
M-13	断面図(3)	1:30	1				
小計			13	小計			8
				合計			85

[illegible]

地業工事へ続き

3鋼杭地業

(4.2.2)(4.4.2)

種類の記事
・SKK400 ・SKK490

寸法、継手等

	種類	杭径(mm)	板厚(mm)	杭長(mm)	継手数	セツト数	長期設計支持力(kN/本)	備考
試験杭	上杭							
	中杭							
	下杭							
本杭	上杭							
	中杭							
	下杭							

杭先端部形状
・開放形 ・半開放形 ・閉そく形

先端部の補強
・標準仕様書 図4.4.1、表4.4.2による

先端部の補強（補強バンド等）及びその他付属品の材質

施工方法
・打込み工法（・油圧ハンマー ・ディーゼルハンマー ）
　ブレボリングの併用
・行わない
・行う
　掘削深さ及び径
　・明示による（ ）

　杭の精度
　・水平方向の位置ずれ
　　・杭径の1/4かつ100mm以下

　試験杭
　試験杭の位置
　・明示による（ ）
　打込杭推定支持力の算定
　　・明示による（ ）

・特定埋込杭工法
　・平13国土交通第1113号第6による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法
　・平13国土交通第1113号第6による地盤の許容支持力式の内α、β、γが下記の値を採用できる工法
　　　α＝（ ）、β＝（ ）、γ＝（ ）
　工法
　・中掘り拡大根固め工法

　杭の精度
　・水平方向の位置ずれ
　　・杭径の1/4かつ100mm以下

　試験杭
　試験杭の位置
　・明示による（ ）

杭の現場継手
・溶接継手
　形状
　・JIS A 5525による
　溶接材料
　・規格 J 7.2.5(a) (b)による
　・明示による（ ）

・無溶接継手（継手部に接続金具を用いた方式のもの）
　工法
　※審査（評定又は大臣認定）を受けた工法
　検査
　※審査（評定又は大臣認定）により定められた項目
　施工
　※審査（評定又は大臣認定）された施工管理基準による

杭頭の処理
・処理しない
・処理する
　処理方法（切断ともなう補強方法を含む）
　　・明示による（ ）

杭頭の中詰め材料

場所打ちコンクリート杭地業

(4.5.1)(4.5.4)
掘削工法
・アースドリル工法（安定液 ※使用する ・使用しない）
・リバーシ工法
・オールケーシング工法（孔内の水張り ・行う ・行わない）
併用する工法
・場所打ち鋼管コンクリート杭工法
・拡底杭工法（安定液 ・使用する ・使用しない）

寸法等

(4.2.2)

	軸径(mm)	拡底径(mm)	杭長(mm)	セツト数	長期設計支持力(kN/本)	備考
試験杭						
本杭						

鉄筋の種類

(4.5.3)

種類の記号	呼び径 (mm)	備 考
・SD295A		
・SD345		
・		

帯防

(4.5.3)

・明示による（ ）
・

砂利地業

(4.6.2)

●再クラッシュラン ●切込砂利及び切込砕石

砂利厚さ
※60mm
◎50

適用箇所
・基礎梁下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下
・明示による（ ）

捨コンクリートの厚さ
※50mm

施工範囲
・基礎梁下、土に接するスラブ下
・明示による（ ）

設計基準強度
※18N/mm²

スラップ
※15cm又は18cm

材料
●ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上

施工範囲
●建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下

床下防湿層

鉄筋工事

鉄筋の種類

(5.2.1)

種類の記号	呼び径 (mm)	備 考
●SD295A	D16以下	
●SD345	D19以上	
・		
・		

形状等

(5.2.2)

種 類	種類の記号	網目の形状、寸法、鉄線の径(mm)	使用部位
・溶接金綱			
・鉄筋格子			

継手方法等

(5.3.4)(5.5.2)(5.5.3)

部 位	継手方法	呼び径 (mm)
柱、梁の主筋	○ガス圧接 ・機械式継手 ○溶接継手	
耐力壁の鉄筋	○重ね継手 ・	
その他の鉄筋	・重ね継手 ・	
（ ）		

耐力壁の重ね継手の長さ

(5.3.4)

・明示による（構造関係共通図（配筋標準図）3.1(a)(2)）
・明示による（構造関係共通図（配筋標準図）3.1(a)(3)）

継手位置図

(5.3.4)

・明示による（構造関係共通図（配筋標準図）5.1、6.1、7.1、7.3、8.1）
・

鉄筋の定着長さ

(5.3.4)

●明示による（構造関係共通図（配筋標準図）3.1(b)）
・

鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金綱含む）

(5.3.5)

最小かぶり厚さ
●明示による（構造関係共通図（配筋標準図）表4.1）
・
　柱及び梁の主筋にD29以上の使用の有無
　・無し
　・有り 適用箇所（ ）
　主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保する

軽量コンクリートで土に接する部分
・無し
・有り 適用箇所（ ）
・最小かぶり厚さに加える厚さ （ ） mm
・
耐久性上不利な部分（塩害等を受けるおそれのある部分等）
・無し
・有り 適用箇所（ ）
・最小かぶり厚さに加える厚さ （ ） mm

鉄筋相互のあき（機械式継手及び溶接継手を除く）
・明示による（構造関係共通図（配筋標準図）4.1）
・

使用箇所
・明示による（ ）
H12建告第1463号に適合する性能

機械式継手の種類及び工法 （ ）
鉄筋相互のあき
・明示による（構造関係共通図（配筋標準図）4.1）
・

品質の確認方法
・明示による（ ）
不良となった継手の修正方法等
・明示による（ ）

使用箇所
・明示による（ ）
H12建告第1463号に適合する性能

鉄筋相互のあき
・明示による（構造関係共通図（配筋標準図）4.1）
・

継手の工法
・明示による（ ）
品質の確認方法
・明示による（ ）
不良となった継手の修正方法等
・明示による（ ）

各部配筋
・明示による（構造関係共通図（配筋標準図））
・

抜取試験
※超音波探傷試験
・引張試験

コンクリート工事

①コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度

(6.2.1～4)

設計基準強度(N/mm ²)	スラップ	適用箇所
-24		
◎33	15	躯体
◎18	15	捨てコン、押えコン

②軽量コンクリート(6.2.1～3)(6.10.1,2)

設計基準強度(N/mm ²)	スラップ	適用箇所
-		
-		

③コンクリートの類別

(6.2.1)

類別
※Ⅰ類（JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート）
・Ⅱ類（JIS A 5308に適合したコンクリート）

④セメント

(6.3.1)

種類
※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 使用部位（ ）
・高炉セメントB種 [国] 使用部位（ ）
・フライアッシュセメントB種 [国] 使用部位（ ）
・

⑤骨材

(6.3.1)

アルカリシリカ反応性による区分
※A ・B

⑥混和剤

(6.3.1)

●混和剤
混和剤の種類
※標準仕様書6.3.1(d)(i)による ・

・混和材
混和材の種類
※標準仕様書6.3.1(d)(ii)による ・

⑦気乾単位容積質量

(6.2.3)

・普通コンクリート
・2.3t/m³程度 ・

・軽量コンクリート
・

(6.10.1)

7軽量コンクリート

(6.10.1)

種類
・1種 ・2種

適用箇所
・明示による（ ）

適用期間
・明示による（ ）
・積算温度を基に定める場合
・明示による（ ）

構造体強度補正值(S)
※6N/mm² ・

適用箇所
・明示による（ ）

セメントの種類
・中炭熱ポルトランドセメント
・低熱ポルトランドセメント
・高炉セメントB種 [国]
・フライアッシュセメントB種
・普通ポルトランドセメント
・

混和材料
・混和剤
混和剤の種類
※JIS A 6204に適合するAE減水剤または高性能AE減水剤
・

スラップ
※15cm ・

設計基準強度
※18 (N/mm)<

[illegible]

20

ユニット及びその他の工事

1

フリーアクセスフロア

20.2.2

1 フリーアクセスフロア

20.2.2

2 移動間仕切

20.2.2

3 移動間仕切

20.2.2

4 トイレブース

20.2.2

5 視覚障害者用床タイル

20.2.2

6 階段滑り止め

20.2.2

7 手すり

20.2.2

8 黒板及びホワイトボード

20.2.2

9 鏡

20.2.2

10 表示

20.2.2

11 煙突ライニング

20.2.2

12 ブラインド

20.2.2

13 ロールスクリーン

20.2.2

14 カーテン

20.2.2

15 カーテンレール

20.2.2

16 ブラインドボックス及びカーテンボックス

20.2.2

17 天井点検口

20.2.2

18 床点検口

20.2.8

19 耐震スリット

20.2.8

20 止水板

20.2.8

21 エキスパンションジョイント金物

20.2.8

22 くつふきマット

20.2.8

23 流し台ユニット

20.2.8

24 旗竿

20.2.8

25 旗竿安全金物

20.2.8

26 車止め支柱

20.2.8

27 フェンス

20.2.8

28 ブレキャストコンクリート

20.2.8

29 間知石及びコンクリート間知ブロック積み積み

20.2.8

30 鋼製書架及び物品棚

20.2.8

31 屋内掲示板

20.2.8

32 洗面カウンター

20.2.10

33 防煙垂れ壁

20.2.10

34 収納家具

20.2.10

35 屋外掲示板

20.2.10

36 敷地境界石標

20.2.10

工事名

20.2.10

図面名

20.2.10

作成年月日

20.2.10

縮尺

20.2.10

会社名

20.2.10

事務所名

20.2.10

八代平野農業水利事業

20.2.10

流瀬川排水機場建設工事

20.2.10

建築工事特記仕様書(その8)

20.2.10

特記-08

20.2.10

20.2.10

九州農政局八代平野農業水利事業所

⑫排水工事

1屋外雨水排水

(21.2.1)(表21.2.1)

排水管材料

材種	管の種類	形状	呼び径	備考
・遠心力鉄筋コンクリート管	外圧管(1種)	・B形管 ・	・図示 ・	
○硬質ポリ塩化ビニル管	○VP		○図示 ・	
	・VU		・図示 ・	
	・RS-VU[□]		・図示 ・	
	・DV		・図示 ・	

基礎の厚さ及び種類 ○図示
硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料 ※接着剤
側溝の形状及び寸法 ○図示
排水側の種類 ○図示
砂地業に用いる材料
※標準仕様書(21.2.1)(g)(1)
・図示
砂利地業に用いる材料
※標準仕様書(21.2.1)(g)(2)
・図示

コンクリート基礎等に用いる材料
※標準仕様書(6.14)
設計基準強度18N/mm²とする。
ただし、コンクリートが簡易な場合の割合(容積比) セメント1：砂2：砂利4程度とする。
・図示

・凍上抑制層 (21.2.1)(表21.2.2)

厚さ ○図示
材料
・再生クラッシャー[□]
・クラッシャー
・切込み砂利
・川砂、海砂又は良質な山砂(75μmふるい通過量10%以下)
砂の粒度試験 ・行う ・行わない

2鉄鉄製ふた

(21.2.1)

名称	種類	適用荷重	鍵	備考
鉄鉄製マンホールふた	・水封形 ・簡易密閉形(パッキン式) ・密閉形(テーパー・パッキン式) ・中ふた付き密閉形(テーパー・パッキン式)	・T-2用 ・T-6用 ・T-20用 ・	・有り ・無し	左記以外の品質等は(公社)空気調和衛生工学会SHASE-S209による

3グレーチング

(21.2.1)

材質	形式	用途	適用荷重	メインバーピッチ	垂鉛めっき(付着量)	上面形状
・鋼製	・受枠付き、ボルト固定 ・	・溝ふた(横断用) ・溝ふた(側溝用) ・樹ふた用 ・U字溝用	・歩行用 ・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	・細目 ※普通目 ・細目	・(・)	・凹凸形 ・ ・平形 ・
・ステンレス製	・受枠付き、ボルト固定 ・	・溝ふた(横断用) ・溝ふた(側溝用) ・樹ふた用 ・U字溝用	・歩行用 ・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用	—	—	・凹凸形 ・ ・平形 ・

4街きよ、縁石、側溝

(21.3.1)(表21.3.1)

種類	形状、寸法
・縁石	・図示 ・
・L形側溝	・図示 ・
・U形側溝	・図示 ・
・U形側溝ふた	・図示 ・
・	・図示 ・

地業の材料 ※標準仕様書(4.6.2)(a)による
砂利地業の厚さ ※100(mm)
コンクリート基礎等に用いる材料
※標準仕様書(6.14)
設計基準強度18N/mm²とする。
ただし、コンクリートが簡易な場合の割合(容積比) セメント1：砂2：砂利4程度とする。
・図示

・凍上抑制層 (21.2.1)(表21.2.2)

厚さ
材料
・再生クラッシャー[□]
・クラッシャー
・切込み砂利
・川砂、海砂又は良質な山砂(75μmふるい通過量10%以下)
砂の粒度試験 ・行う ・行わない

5埋戻し土

(21.2.1)

※B種

2舗装工事

1路床

(22.2.2,3,5)

路床の材料

種別	材料	厚さ(mm)
・盛土	・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土[□]	・図示 ・
・凍上抑制層	・再生クラッシャーラン[□] ・クラッシャーラン ・切込み砂利 ・川砂、海砂又は良質な山砂(75μmふるい通過量10%以下) ・川砂、海砂又は良質な山砂(75μmふるい通過量6%以下)	・図示 ・ ・図示 ・
・フィルター層	・川砂、海砂又は良質な山砂(75μmふるい通過量6%以下)	・図示 ・

路床安定処理
・添加材料による安定処理
種類
・普通ポルトランドセメント
・高炉セメントB種[□]
・フライアッシュセメントB種
・生石灰(
・消石灰(
・)
添加量 kg(目標CBR・5以上
・)
・ジオテキスタイル
単位面積質量
・60g/m²以上
厚さ(mm)
・0.5～1.0
引張強さ
・98N/5cm(10kgf/5cm)以上
透水係数
・1.5×10⁻¹ cm/sec以上

試験
砂の粒度試験
路床土の支持力比(CBR)試験
現場CBR試験
路床締固め度の試験(現場密度)
・行う
・行わない
・行う
・行わない
・行う
・行わない

路盤の厚さ
路盤材料
・図示
・砕石
・再生クラッシャーラン[□]
・クラッシャーラン鉄鋼スラグ[□]
・図示

試験
路盤締固め度の試験
※行う
・行わない

2路盤

(22.3.2,3,5)(表22.3.1)

路盤の厚さ
路盤材料
・図示
・砕石
・再生クラッシャーラン[□]
・クラッシャーラン鉄鋼スラグ[□]
・図示

試験
路盤締固め度の試験
※行う
・行わない

3アスファルト舗装

(22.4.2～6)(表22.4.1～4)

アスファルト舗装の構成及び厚さ
※図示
材料
アスファルト
骨材
・再生アスファルト[□]
・道路用砕石
・アスファルトコンクリート再生骨材[□]

加熱アスファルト混合物の種類
区分
地域
種類
一般地域
寒冷地域
・密粒度アスファルト混合物(13)
・細粒度アスファルト混合物(13)
・密粒度アスファルト混合物(13F)

シールコートの施工
・行う
・行わない

試験
アスファルト混合物等の抽出試験
舗装の平坦性
・行う
・行わない
※通行の支障となる水たまりを生じない程度

4コンクリート舗装

(22.5.2～4,6)(表22.5.1～3)

コンクリート舗装の厚さ
舗装の種類
部位
厚さ(mm)
コンクリート舗装
歩行者用通路
車路及び駐車場
※70
・図示
・150
・図示

寒冷地の縁部立下り法等
・図示
材料
コンクリート
早強セメント
注入目地材料
目地
種類、間隔、構造
試験
コンクリート版厚さの試験
舗装の平坦性
・標準仕様書表22.5.2による
・使用する
・低弾性タイプ
・高弾性タイプ
※標準仕様書表22.5.3及び図22.5.1による
・図示
・行う
・行わない
※通行の支障となる水たまりを生じない程度

5カラー舗装

(22.6.2～4)(表22.6.1)

種類・工法	部位	基層	厚さ(mm)
・加熱系 ・加熱系 ・常温系	・アスファルト混合物 ・石油樹脂系混合物 ・ニート工法 ・塗布工法	・車道及び駐車場 ・歩行者用通路	・無し ・図示 ・ ・アスファルト舗装 ・コンクリート舗装 3～5 1程度以下

舗装厚さの許容差 ※標準仕様書(22.4.2(c))による
材料
加熱系混合物に添加する材料
配合
結合材に石油樹脂を使用する場合の顔料添加量
ニート工法及び塗布工法の配合等
試験
加熱系
抽出試験
舗装の平坦性
標準仕様書(22.4.6(a)～(c))
・行う
・行わない
※通行の支障となる水たまりを生じない程度

6透水性アスファルト舗装

(22.7.2,3,6)

材料	厚さ(mm)
ストレータアスファルト	・図示 ・

試験
開粒度アスファルト混合物等の抽出試験
舗装の平坦性
・行う
・行わない
・著しい不陸がないもの

7ブロック舗装

(22.8.2,3)

・コンクリート平板舗装

種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	備考
※普通平板(N) ・透水平板(P)	※300角 ・	・60 ・	※砂 ・モルタル	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し

歩行者用通路に使用するコンクリート平板は[□](再生材料を用いた舗装用ブロック)とする。
透水平板は[□](透水性コンクリート)とする。
仕上がり面の平坦性 ※歩行に支障のないものとし、コンクリート平板間の段差3mm以内

・インターロッキングブロック舗装

種類	部位	厚さ(mm)	曲げ強度(N/mm ²)	備考
※普通ブロック(N) ・透水性ブロック(P)	車路 歩行者用通路	※80 ※60	※5.0 ※3.0	色彩、表面加工 ・標準品 ・

歩道部に使用するブロックは[□](再生材料を用いた舗装用ブロック)とする。
透水平板は[□](透水性コンクリート)とする。
仕上がり面の平坦性 ※歩行に支障のないものとし、ブロック間の段差3mm以内

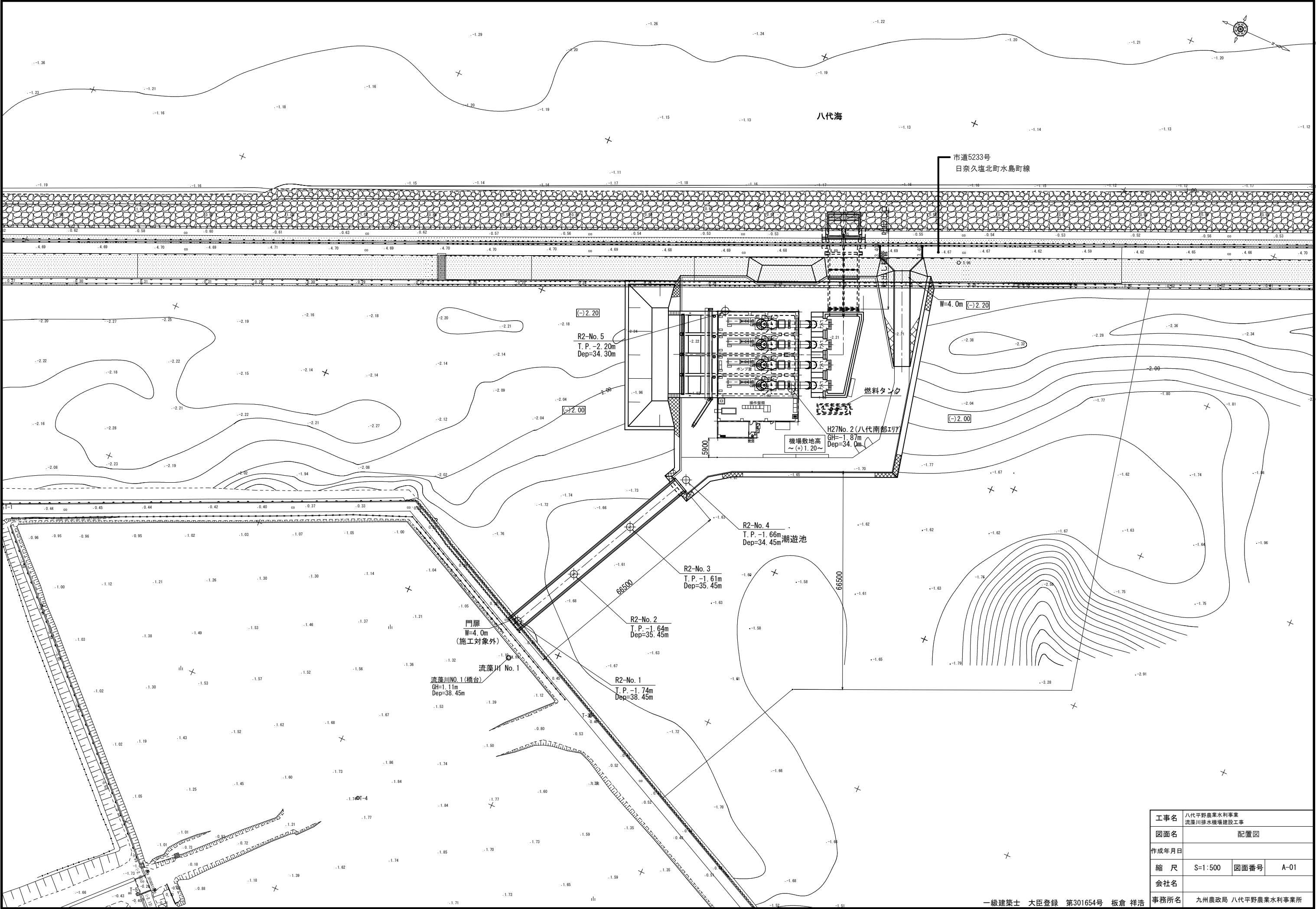
・舗石舗装

種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	施工方法	基層(mm)
・小舗石(花崗岩) ・	・ ・	・80 ・	・うろこ張り ・	・コンクリート舗装(※70 ・) ・アスファルト舗装(※50 ・)

仕上がり面の平坦性 ※歩行に支障のないものとし、舗石間の段差3mm以内
・ジオテキスタイル
品質
単位面積質量
厚さ(mm)
引張強さ
透水係数
・60g/m²以上
・0.5～1.0
・98N/5cm(10kgf/5cm)以上
・1.5×10⁻¹ cm/sec以上

種別
・A種

工事名	八代平野農業水利事業 流溪川排水機場建設工事		
図面名	建築工事特記仕様書 (その9)		
作成年月日			
縮 尺	-	図面番号	特記-09
会社名			
事務所名	九州農政局八代平野農業水利事業所		

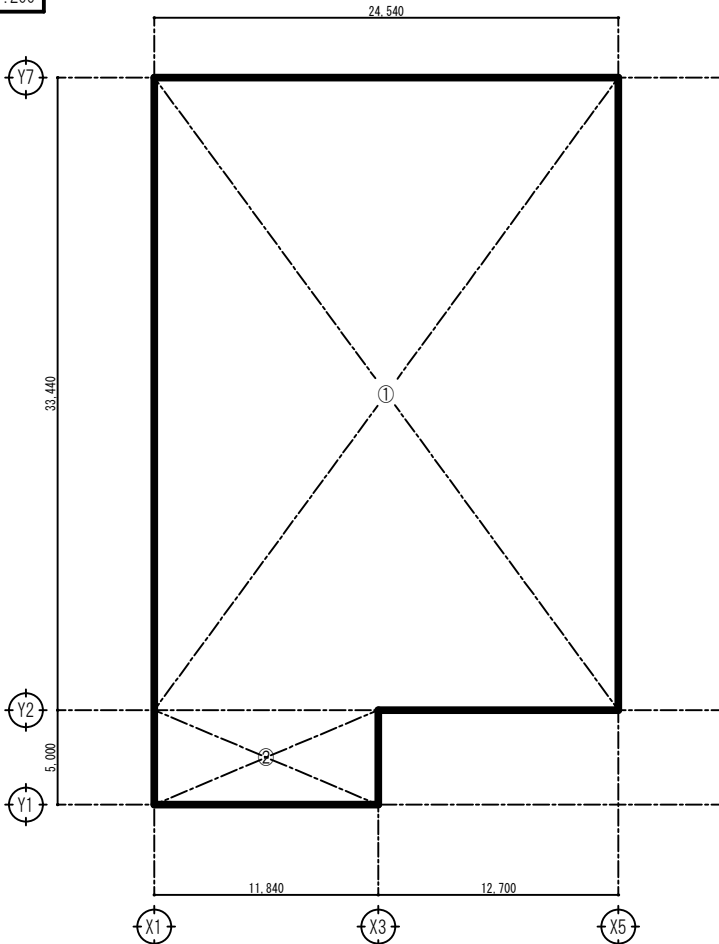


工事名	八代平野農業水利事業 流瀬川排水機場建設工事		
図面名	配置図		
作成年月日			
縮 尺	S=1:500	図面番号	A-01
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		

外部仕上表				
屋根	カラーステンレス t=0.45 縦葺き(耐風圧性能4600Pa) アスファルトルーフィング940 下地：木毛セメント板 t=20 母屋材は亜鉛メッキリップ溝形鋼(付着量片面90g/㎡ 両面180g/㎡) その他鋼材は溶融亜鉛メッキとする。	庇 (上部)	ウレタン系塗膜防水	
		(揚裏)	コンクリート打放し(B)(増打10)の上 複層仕上塗材E	
屋根(陸屋根部)	アスファルト防水+押えコンクリート t=80 水勾配1/50 鋳鉄製 横引きドレン100φ用	出入口ポーチ	コンクリート直均し仕上げ	
		搬入口スロープ	コンクリート 刷毛引き仕上げ	
外壁	コンクリート打放し(B)(増打20)の上 透湿弾性タイル(防水型複層仕上塗材RE) ゆず肌ローラー塗り(水系シリコン)	窓・扉	アルミサッシ・アルミ框ドア・スチール製ドア・スチール製シャッター	
巾木	コンクリート打放し(B)(増打20) H=300	足洗い場	コンクリートコテ仕上げ スチール製グレーチング ライニング：コンクリート打放補修 撥水塗装	
誘発・打継目地	PU-2 目地深さ15mm以下	ドレン・縦樋	鋳鉄製横引きドレン 100型 縦樋：VP100φ カラー	
揚裏	コンクリート打放し(B)(増打10)の上 複層仕上塗材E			

内部仕上表											
室名	床	床高	巾木	下地	腰壁	壁	下地	天井	廻り縁	天井高	備考
ポンプ室 電気室	無筋コンクリート直均し仕上げ(別途工事) t=300	1FL±0	木製巾木(桧)OSCL H=100	RC	コンクリート打放し(B)仕上げ(増打10)		木毛セメント板 t=20 現し				手動式チェーンブロック形天井クレーン(レール共別途工事) クレーンガーター：溶融亜鉛メッキ鋼材(本工事)
休憩室	桧フローリング(上小節 塗装品)張り t=12 ラワン合板 t=12(1類)下地 乾式二重床(パーティクルボード)	1FL+150		RC	電気室側：遮音パネル GB-R t=12.5 + 制振マット t=6 桧縁甲板(塗装品) t=12張り 外壁側：ポリスチレンフォーム断熱材 t=25 GB-R t=12.5 桧縁甲板(塗装品) t=12張り 流し前：GB-R t=12.5下地 化粧けいカル板 t=8			ロックウール化粧吸音板 t=12	木製 30X30 OSCL	2,600	流し台 L=1,500 ガス台 L=600 吊戸棚 L=1,500 流し上部アルミ水切 換気扇フード カーテンレール(ダブル)
休憩室 踏込	ビニル床シートFS t=2.5 下地：無筋コンクリート金こて モルタル金こて t=27	1FL+30	木製巾木(桧)OSCL H=100		電気室側：遮音パネル GB-R t=12.5 + 制振マット t=6 桧縁甲板(塗装品) t=12張り 外壁側：ポリスチレンフォーム断熱材 t=25 GB-R t=12.5 桧縁甲板(塗装品) t=12張り			ロックウール化粧吸音板 t=12	木製 30X30 OSCL	2,720	上り框：集成材 手洗いライニング LGS下地 けいカル板 t=8 EP塗装 化粧鏡
便所	ビニル床シートFS t=2.5 下地：無筋コンクリート金こて モルタル金こて t=27	1FL+30	ビニル巾木 H=60	RC LGS	ポリスチレンフォーム断熱材 t=25 GB-R t=12.5 化粧けいカル板 t=8 GB-R t=12.5 化粧けいカル板 t=8			GB-D t=0.5	塩ビ	2,600	

求積図 S=1:200

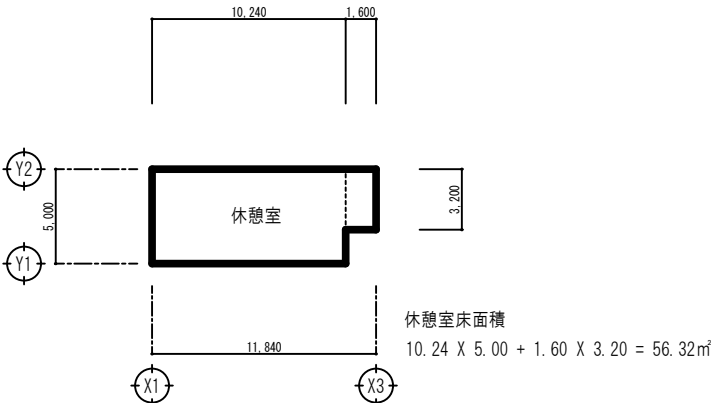
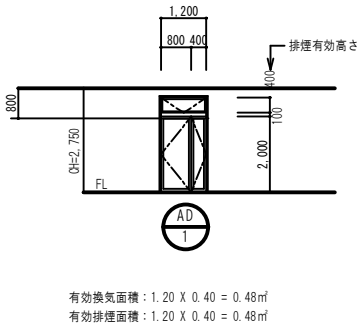
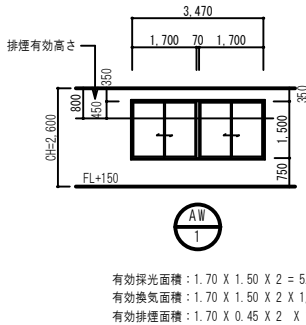


- ① 24.54 X 33.44 = 820.6176
② 11.84 X 5.00 = 59.2000

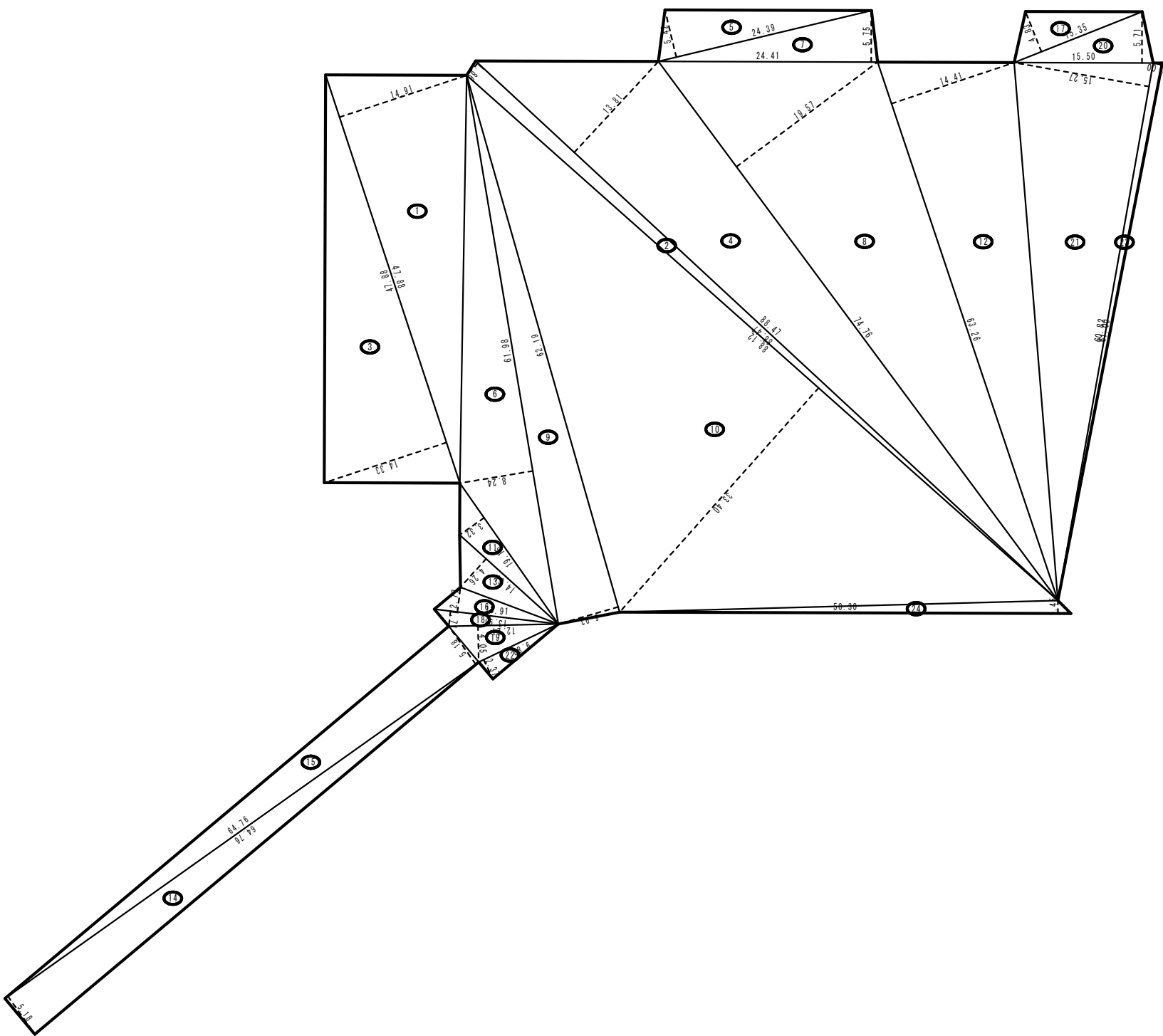
建築面積	① + ② =	879.8180	879.81㎡
床面積	① + ② =	879.8180	879.81㎡

■採光・換気・排煙上有効な開口のチェック

室名	室面積	採光			換気			令第116条の2第1項二号の開口部		
		必要採光面積	有効採光面積	判定	必要換気面積	有効換気面積	判定	必要開口面積	有効開口面積	判定
休憩室	56.32	1/20=2.82	5.10	OK	1/20=2.82	2.55 + 0.48 = 3.03	OK	1/50=1.13	0.76 + 0.48 = 1.24	OK

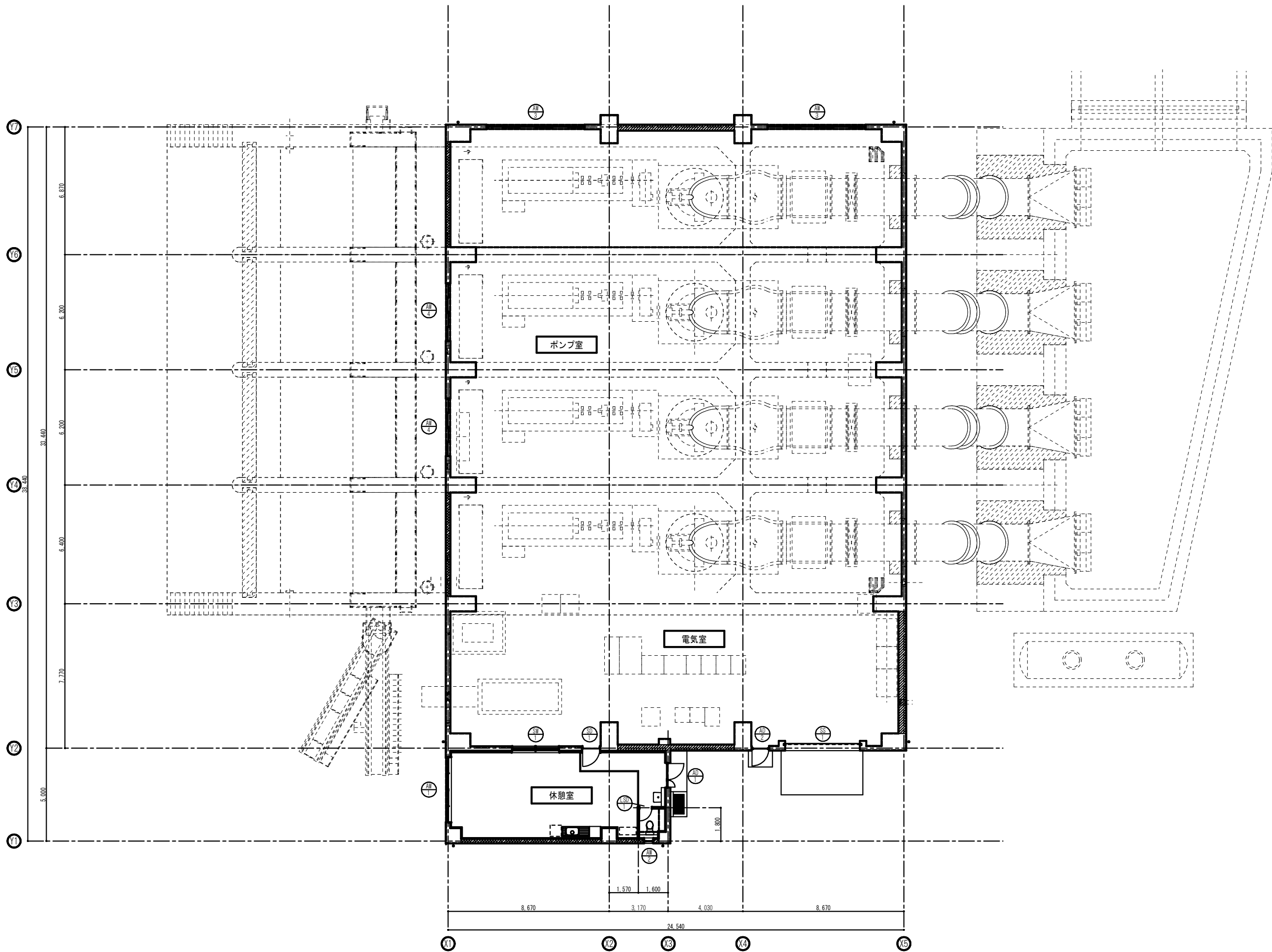


工事名	八代平野農業水利事業 流源川排水機場建設工事		
図面名	仕上表・面積表		
作成年月日	平成	年	月 日
縮 尺	S=1:200	図面番号	A-02
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		

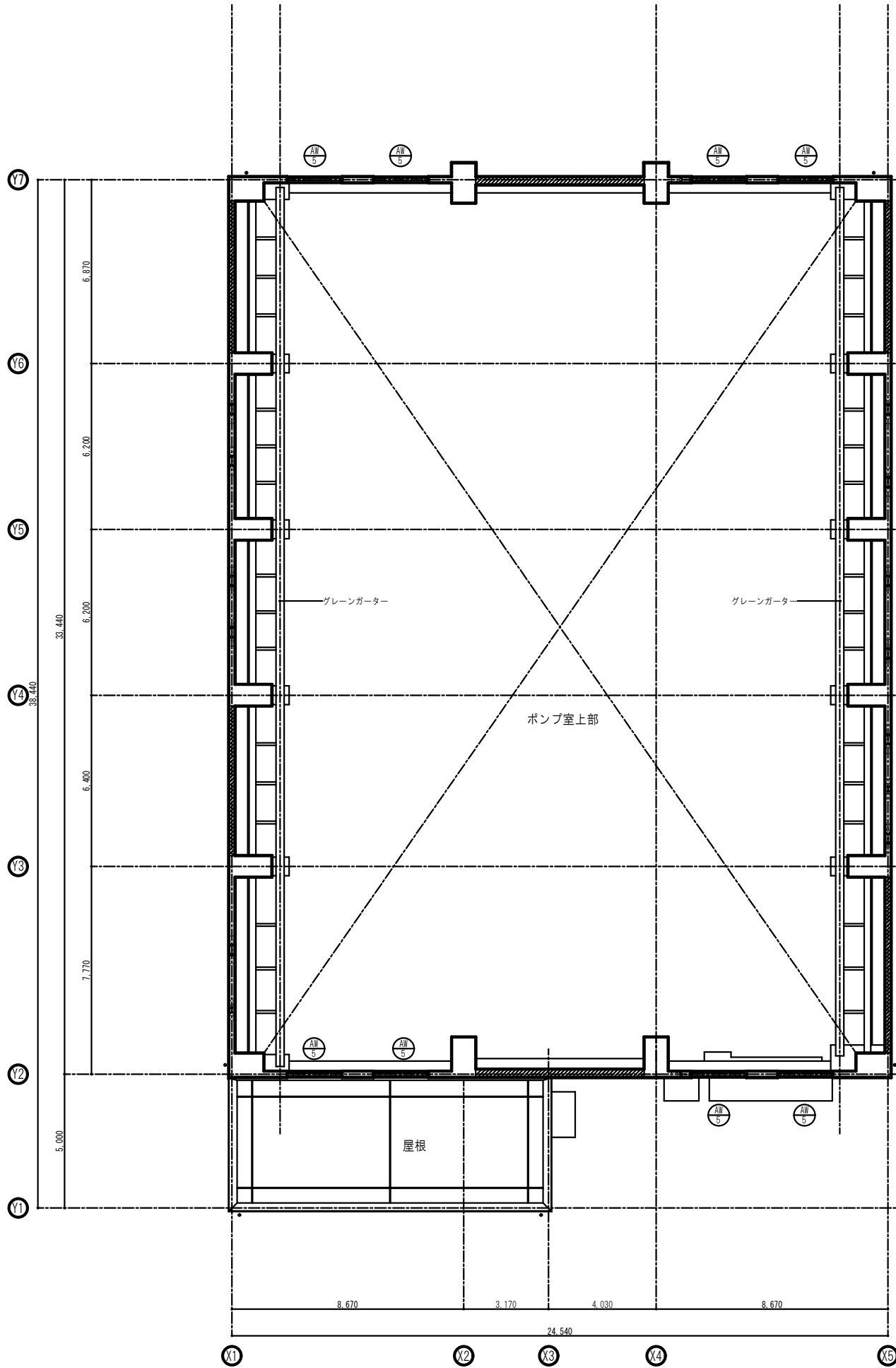


番号	底 辺	高 さ	倍 面 積	面 積
1	47.88	14.91	713.8908	356.94540
2	88.47	1.86	164.5542	82.27710
3	47.88	14.33	686.1204	343.06020
4	88.47	13.81	1,221.7707	610.88535
5	24.39	5.42	132.1938	66.09690
6	61.98	8.24	510.7152	255.35760
7	24.41	5.75	140.3575	70.17875
8	74.76	19.57	1,463.0532	731.52660
9	62.19	6.93	430.9767	215.48835
10	88.12	33.40	2,943.2080	1,471.60400
11	19.15	3.32	63.5780	31.78900
12	63.26	14.41	911.5766	455.78830
13	14.81	4.26	63.0906	31.54530
14	64.76	5.18	335.4568	167.72840
15	64.76	5.18	335.4568	167.72840
16	13.91	2.77	38.5307	19.26535
17	15.35	4.83	74.1405	37.07025
18	13.91	1.71	23.7861	11.89305
19	12.21	4.05	49.4505	24.72525
20	15.50	5.71	88.5050	44.25250
21	60.82	15.27	928.7214	464.36070
22	9.83	2.37	23.2971	11.64855
23	61.00	1.00	61.0000	30.50000
24	50.30	1.45	72.9350	36.46750
合 計				5,738.18280
敷地面積				5,738.18 m2

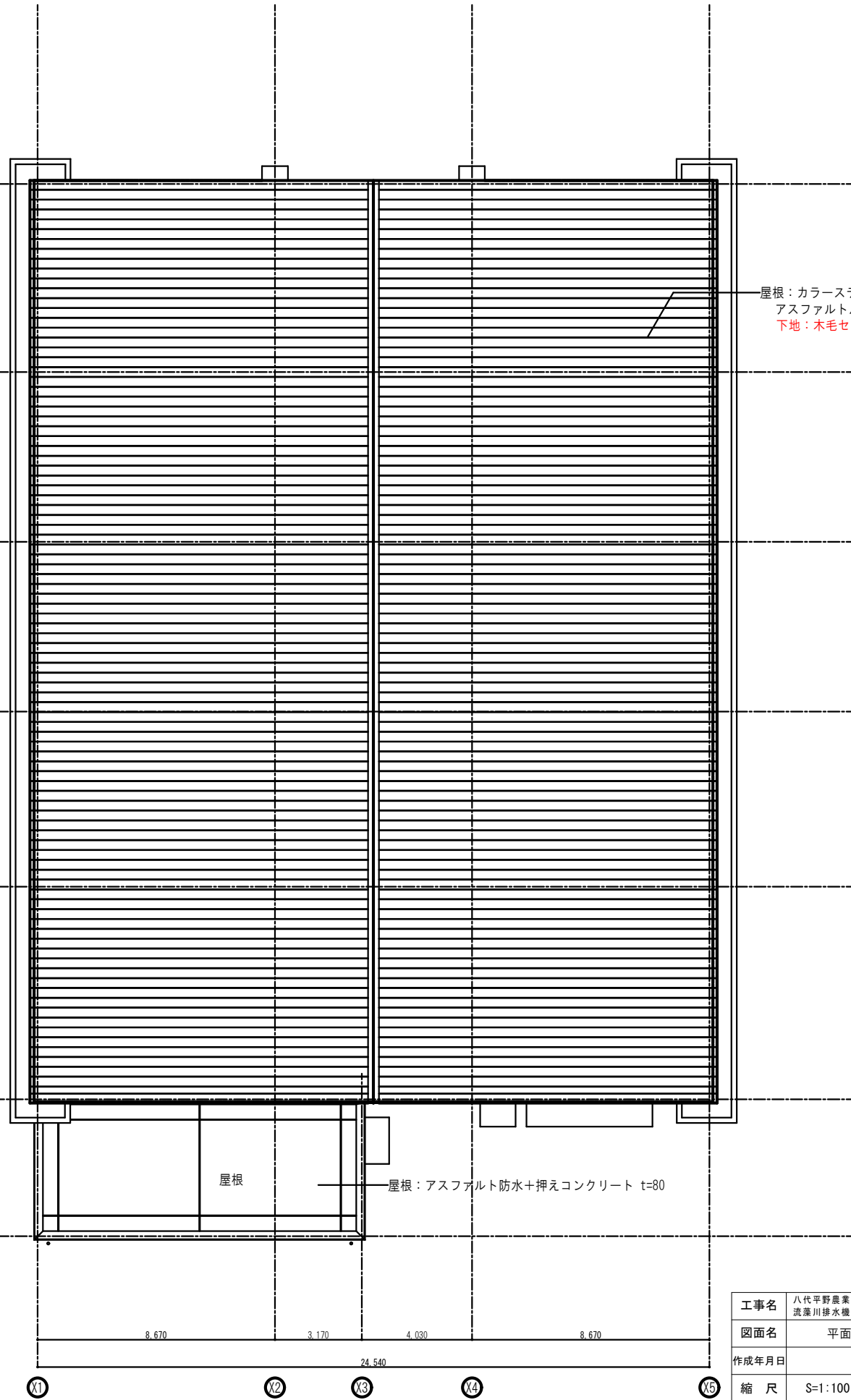
工事名	八代平野農業水利事業 流藤川排水機場建設工事		
図面名	敷地面積求積図		
作成年月日	平成	年	月 日
縮 尺	S=1:300	図面番号	A-02 a
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		



工事名	八代平野農業水利事業 流藻川排水機場建設工事		
図面名	平面図		
作成年月日			
縮 尺	S=1:100	図面番号	A-03
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		



平面図(上部)

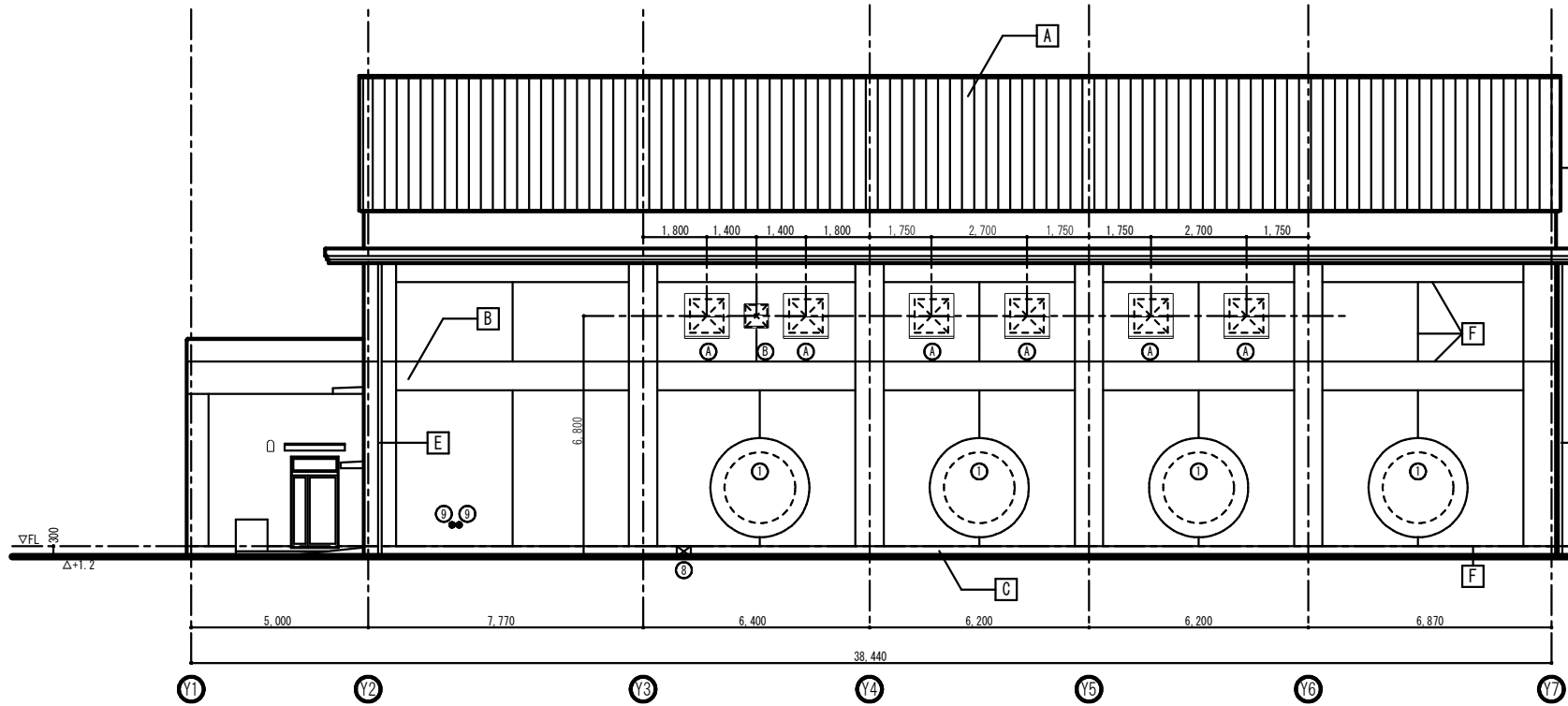


屋根伏図

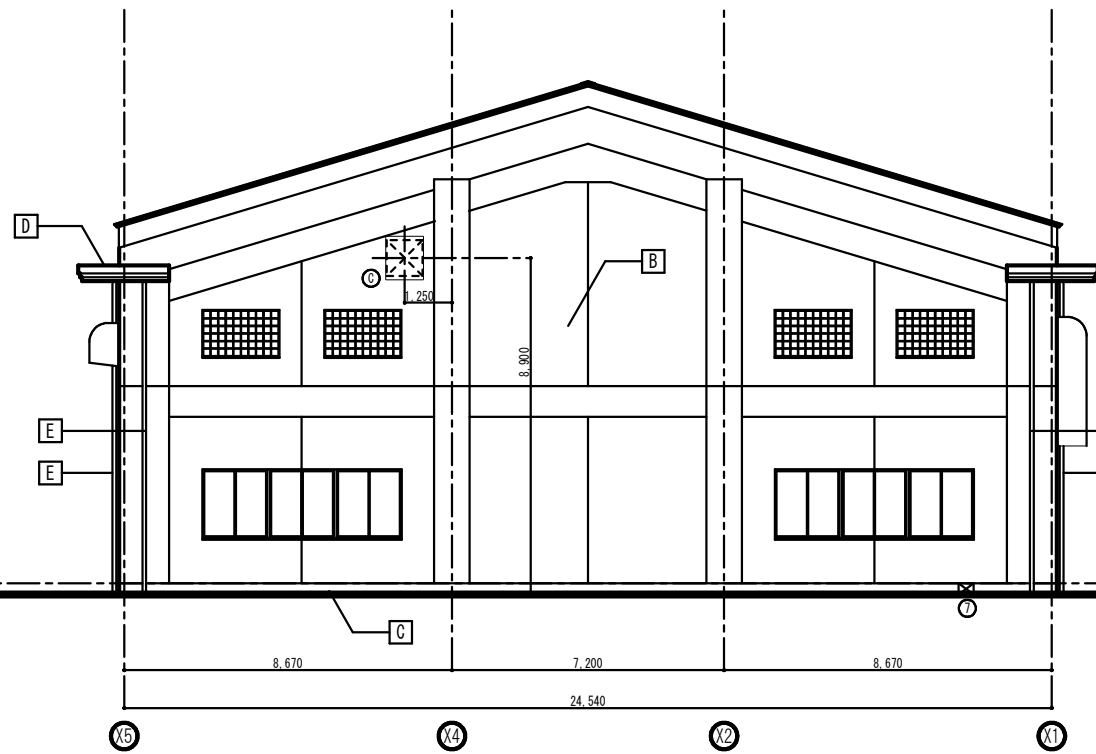
屋根：カラーステンレス t=0.45 縦葺き
アスファルトルーフィング940
下地：木毛セメント板 t=20

屋根：アスファルト防水+押えコンクリート t=80

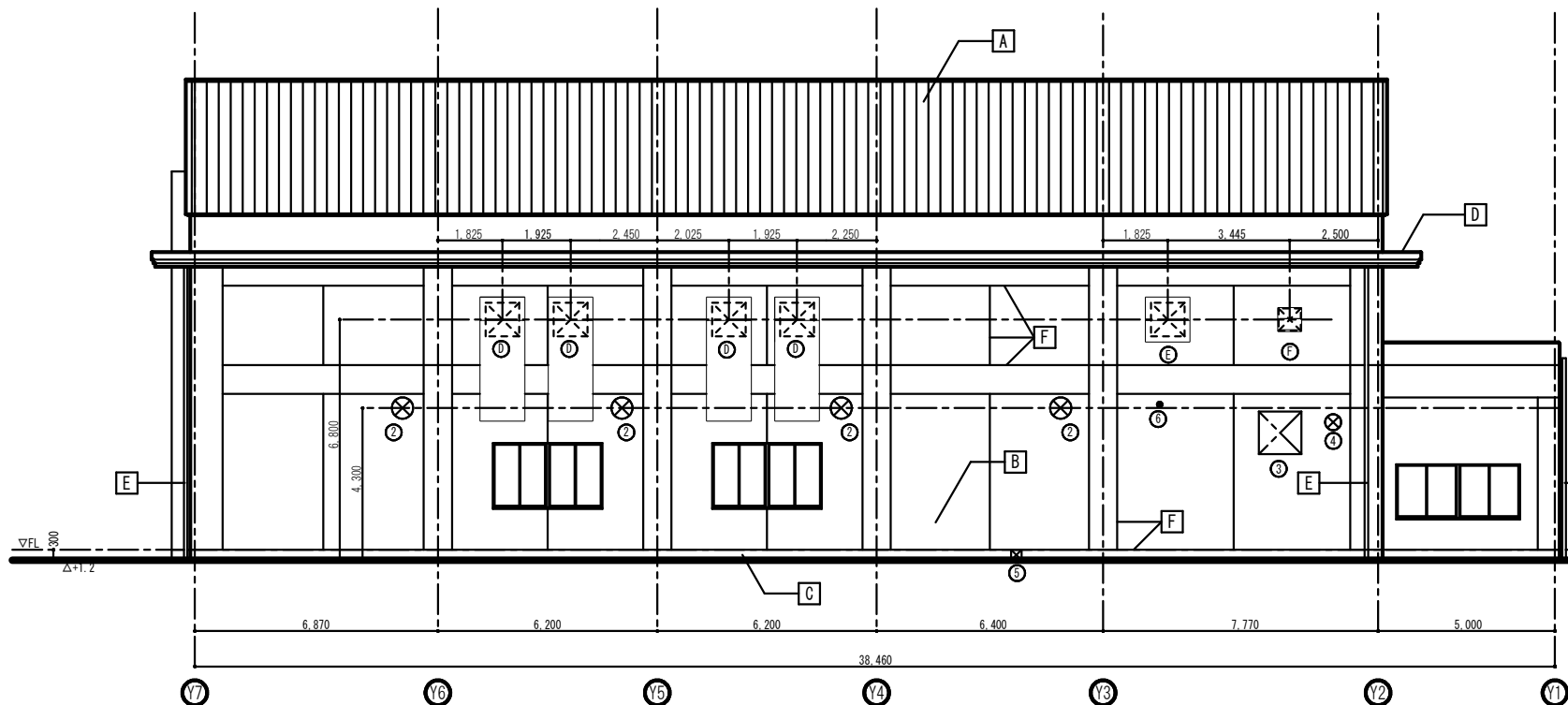
工事名	八代平野農業水利事業 流源川排水機場建設工事		
図面名	平面図(上部)・屋根伏図		
作成年月日			
縮尺	S=1:100	図面番号	A-04
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		



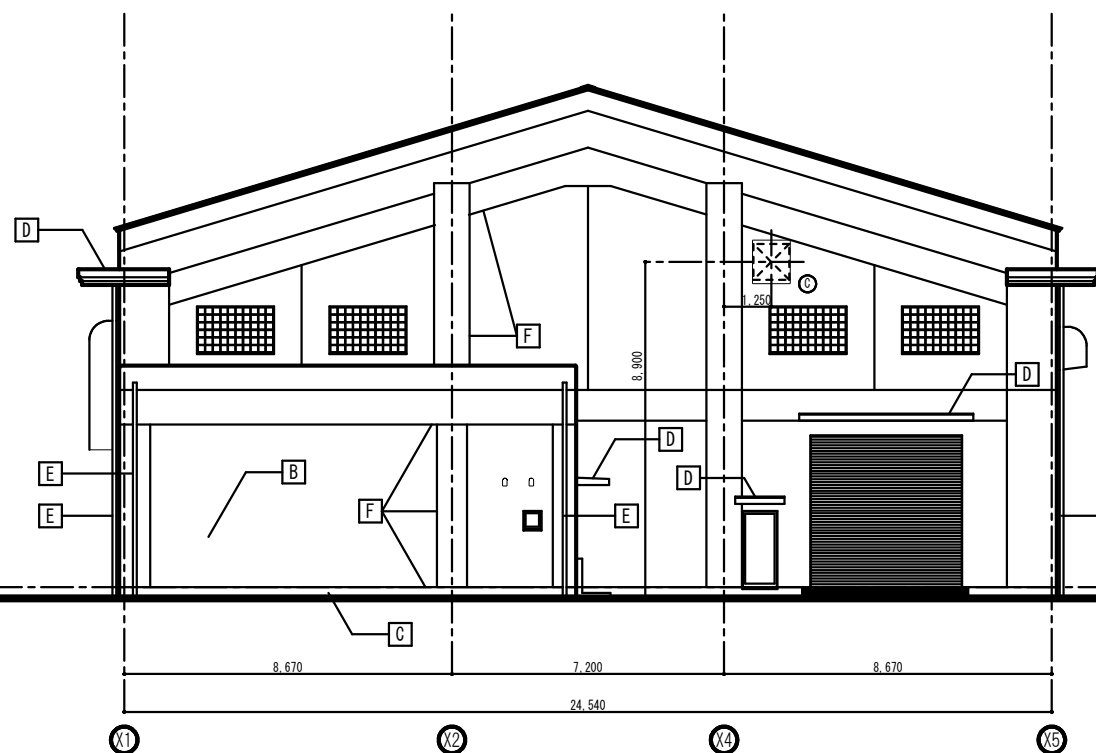
北立面図



西立面図



南立面図



東立面図

開口リスト表

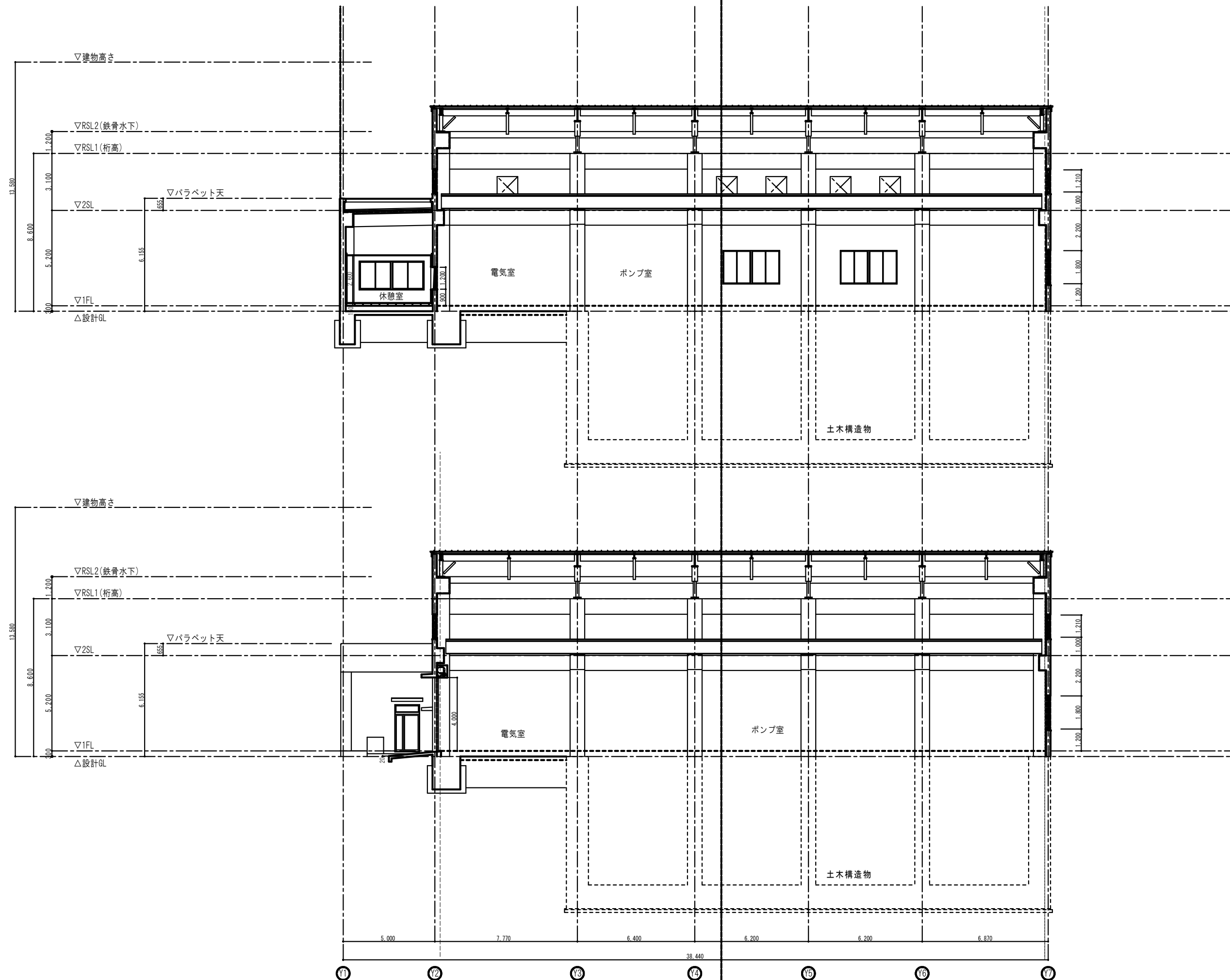
No	開口寸法	厚さ	場所	レベル(中心)	数量	備 考
1	φ 2600	220	壁	(+) 3.150	4	吐出管φ2000
2	φ 600	300, 220	壁	(+) 5.50	4	主エンジン排気管350A
3	1200W×1200H	220	壁	(+) 4.80	1	自家発エンジン排風ダクト 1100W×1100H
4	φ 450	220	壁	(+) 5.10	1	自家発エンジン排気管200A
5	300W×300H	300	壁	(+) 1.35	1	除塵機、水位計配線用
6	φ 150	220	壁	(+) 5.60	1	通気管 32A用
7	400W×300H	220	壁	(+) 1.35	1	引込み配線用
8	400W×300H	220	壁	(+) 1.35	1	屋外配線用
9	φ 150	400	壁	(+) 2.10	2	燃料配管40A用 .65A用

換気扇開口

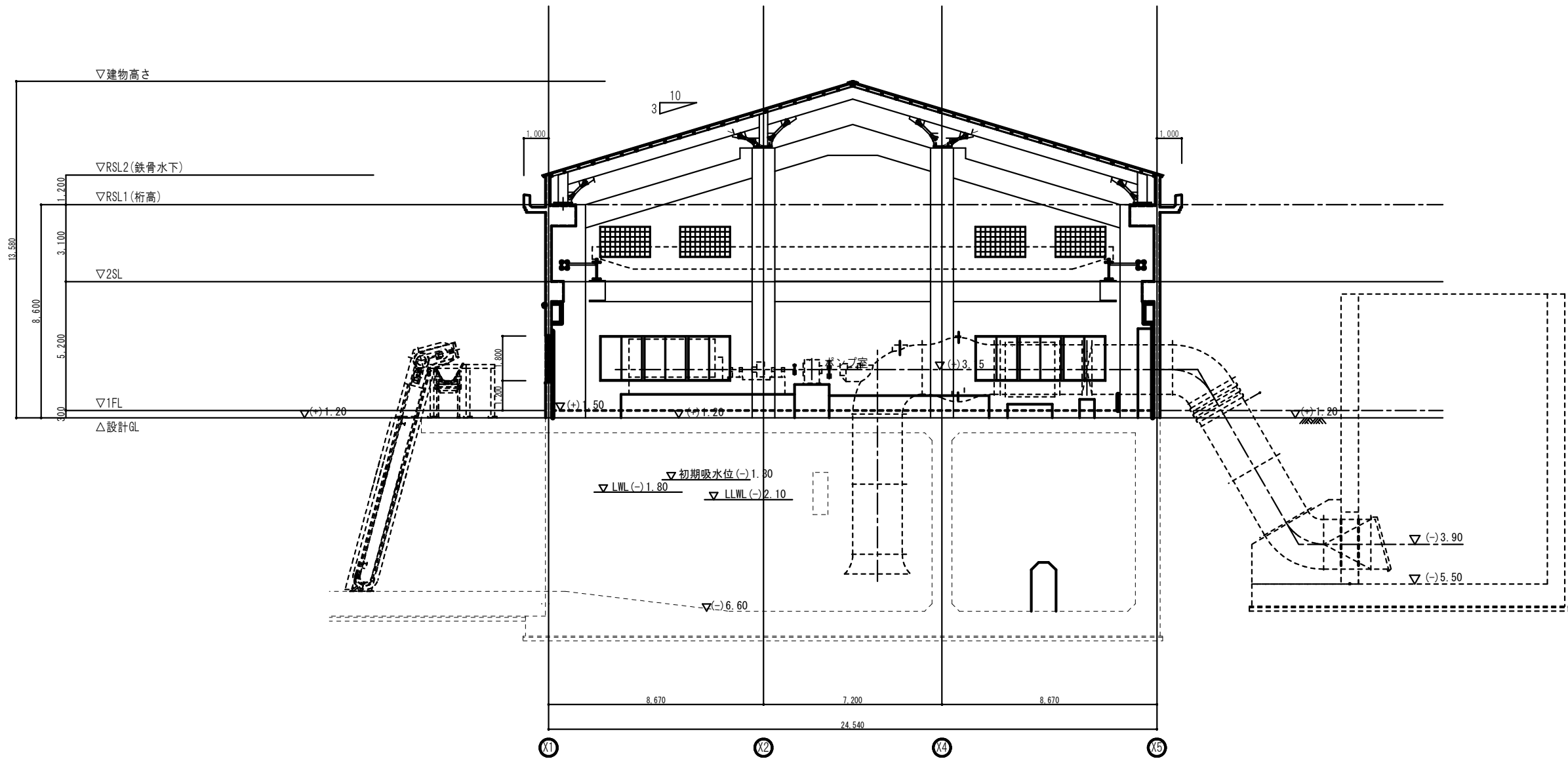
No	開口寸法	厚さ	場所	レベル(中心)	数量
A	W950 X H950	220	壁	(+) 8.00	6
B	W620 X H620	220	壁	(+) 8.00	1
C	W950 X H950	220	壁	(+) 10.45	2
D	W950 X H950	220	壁	(+) 7.10	4
E	W950 X H950	220	壁	(+) 7.10	1
F	W620 X H620	220	壁	(+) 7.10	1

記号	仕上・
A	屋根：カラスステンレス t=0.45 縦葺き
B	外壁：コンクリート打放し (B) 防水型複層仕上塗材 RE
C	巾木：コンクリート打放し (B)
D	応上部：ウレタン系塗膜防水
E	縦樋：VP100φ カラー
F	誘発目地・打継目地：PU-2

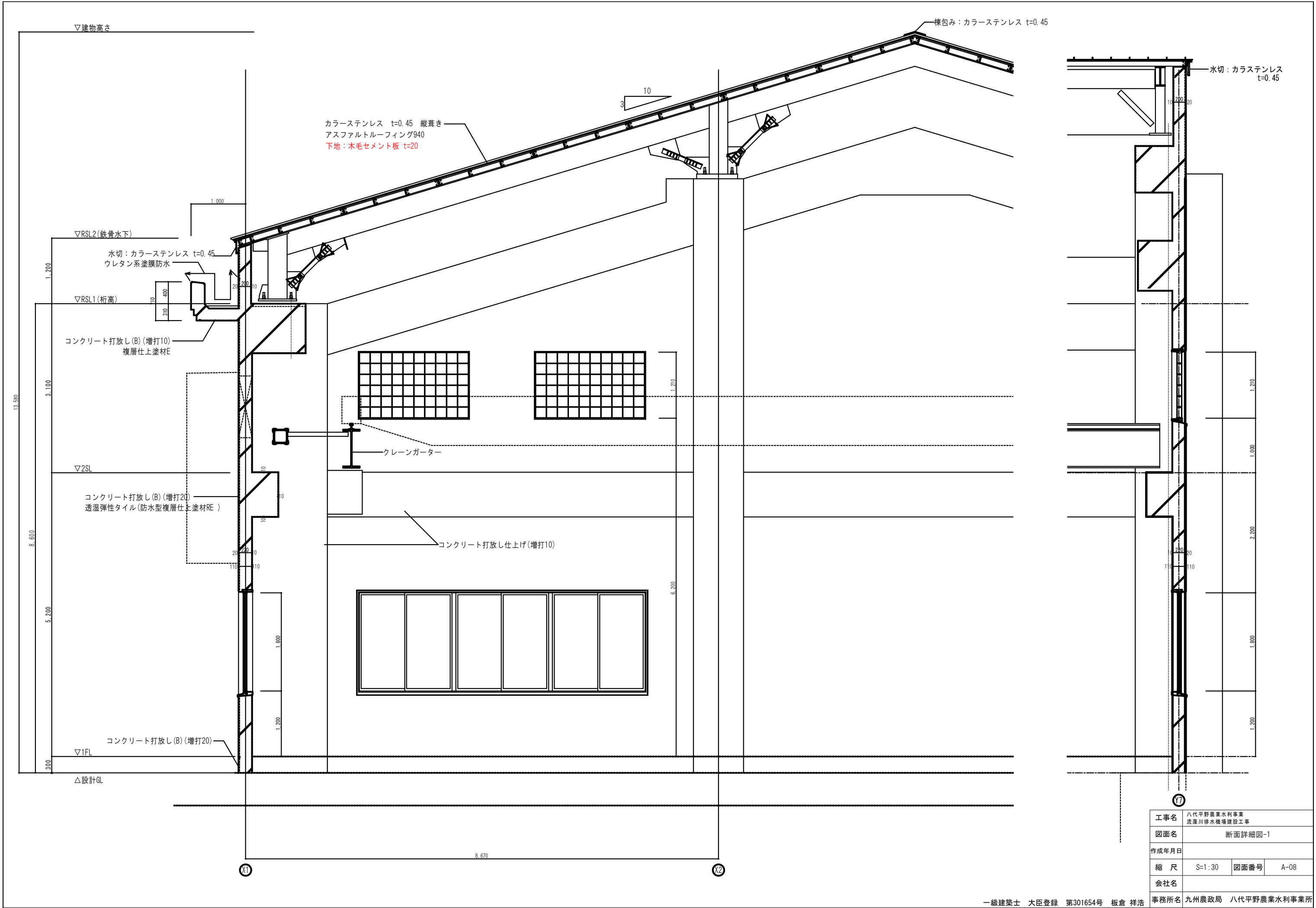
工事名	八代平野農業水利事業 流藻川排水機場建設工事		
図面名	立面図		
作成年月日			
縮 尺	S=1:100	図面番号	A-05
会社名			
事務所名	九州農政局	八代平野農業水利事業所	

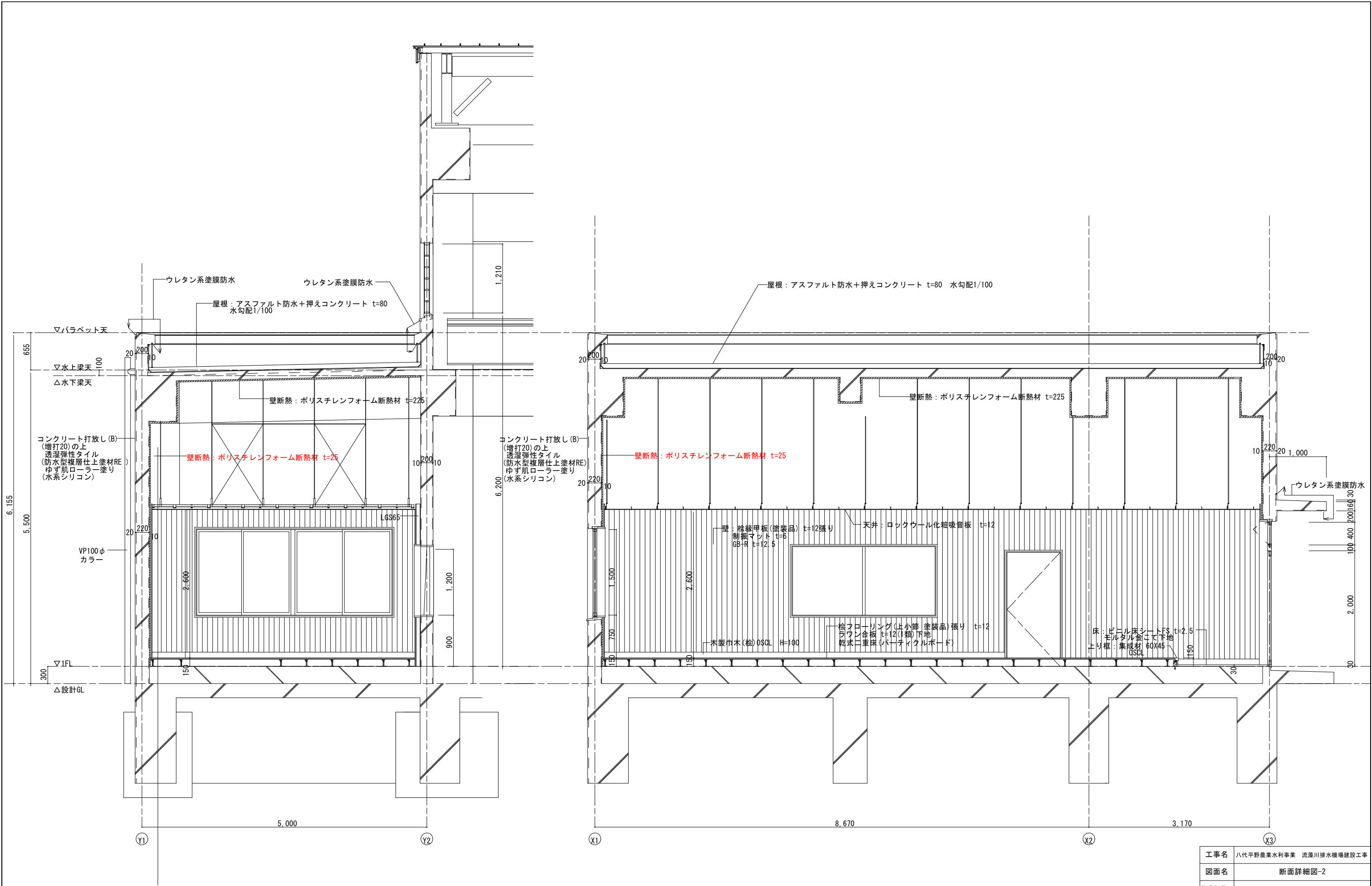


工事名	八代平野農業水利事業 流澤川排水機場建設工事		
図面名	断面図-1		
作成年月日			
縮尺	S=1:100	図面番号	A-06
会社名			
事務所名	九州農政局	八代平野農業水利事業所	

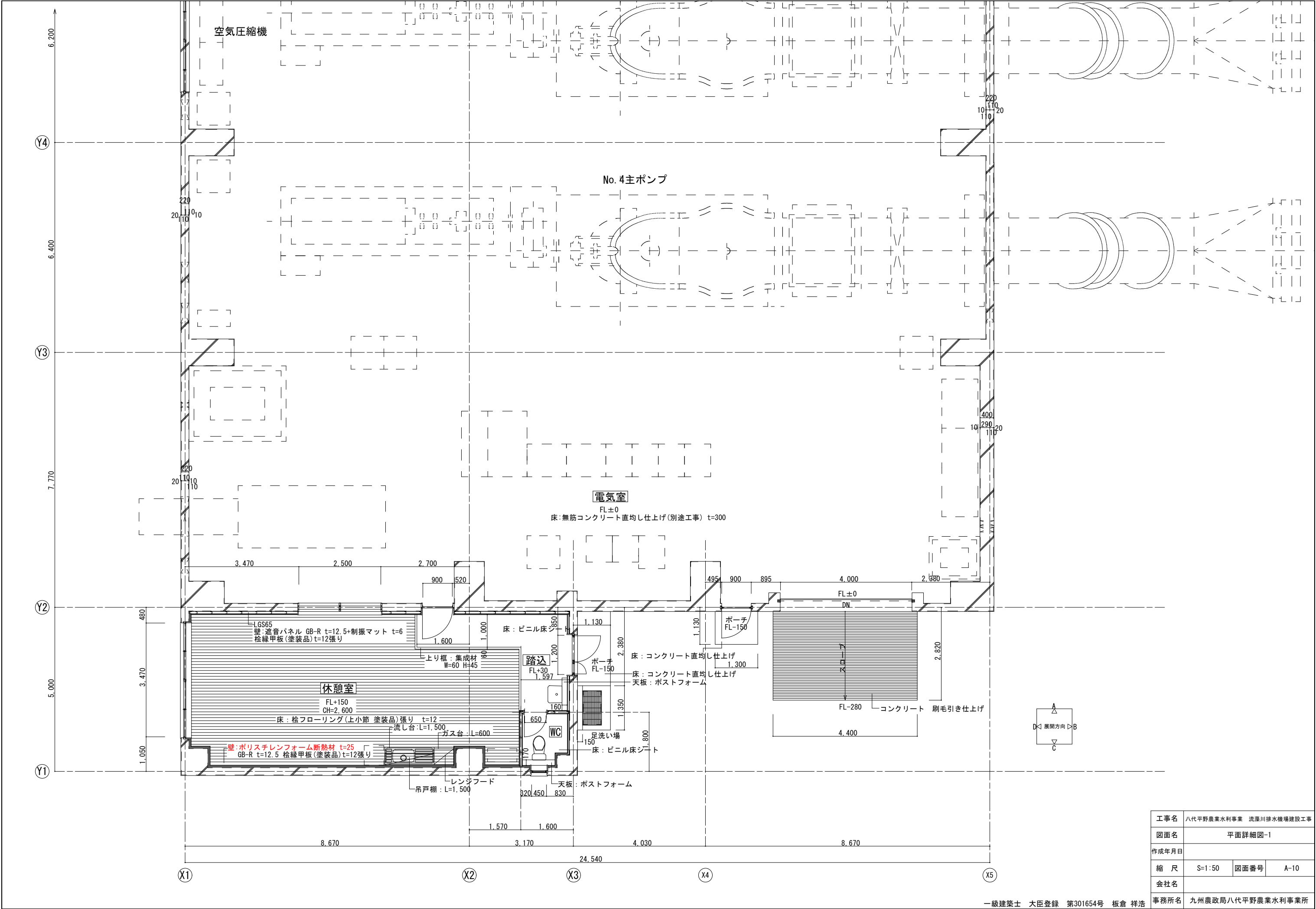


工事名	八代平野農業水利事業 流藻川排水機場建設工事		
図面名	断面図-2		
作成年月日			
縮 尺	S=1:100	図面番号	A-07
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		

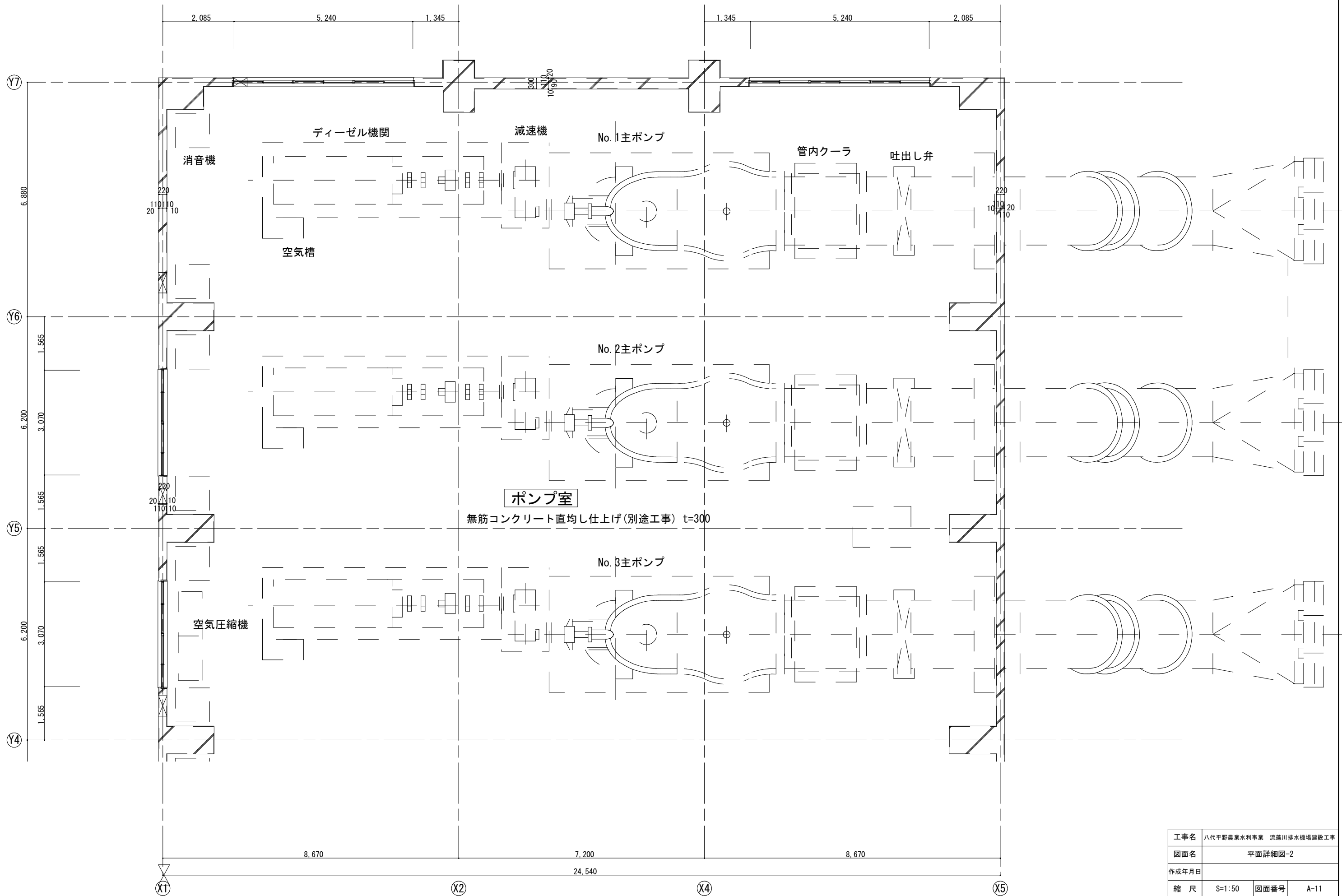




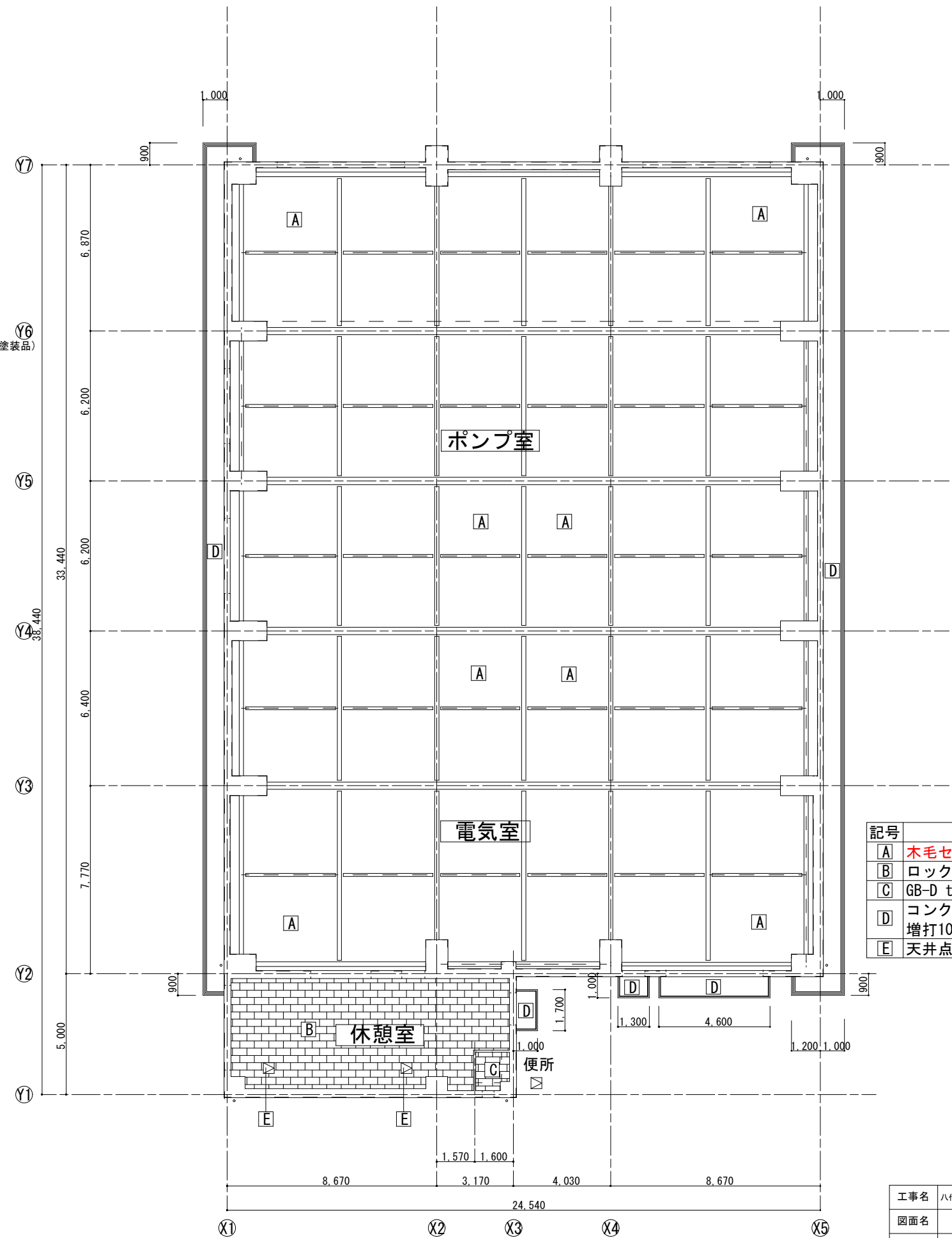
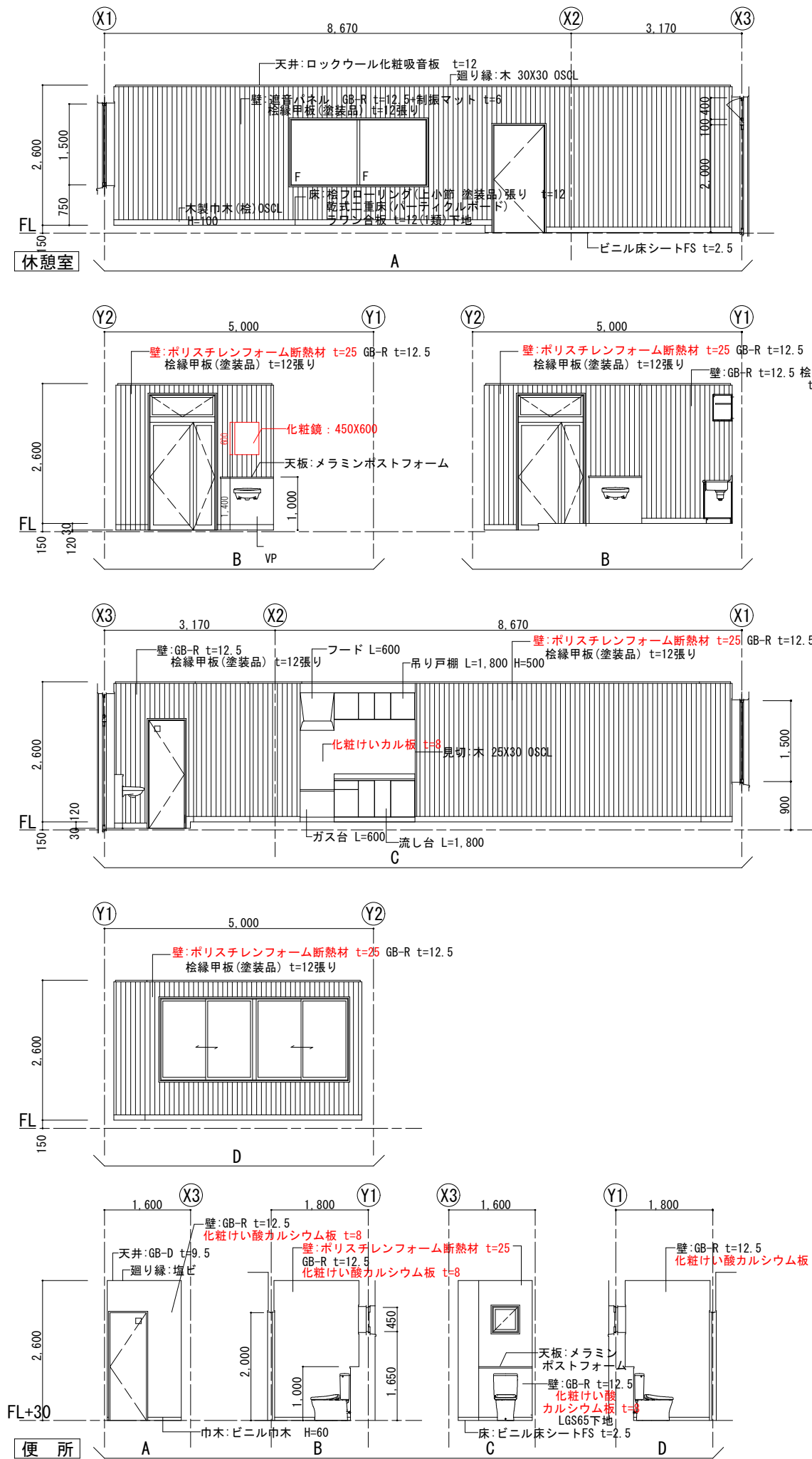
工事名	八代平野農業水利事業 流溪川排水機場建設工事		
図面名	断面詳細図-2		
作成年月日			
縮 尺	S=1:30	図面番号	A-09
会社名			
事務所名	九州農政局八代平野農業水利事業所		



工事名	八代平野農業水利事業 流藻川排水機場建設工事		
図面名	平面詳細図-1		
作成年月日			
縮 尺	S=1:50	図面番号	A-10
会社名			
事務所名	九州農政局八代平野農業水利事業所		



工事名	八代平野農業水利事業 流藻川排水機場建設工事		
図面名	平面詳細図-2		
作成年月日			
縮 尺	S=1:50	図面番号	A-11
会社名			
事務所名	九州農政局八代平野農業水利事業所		

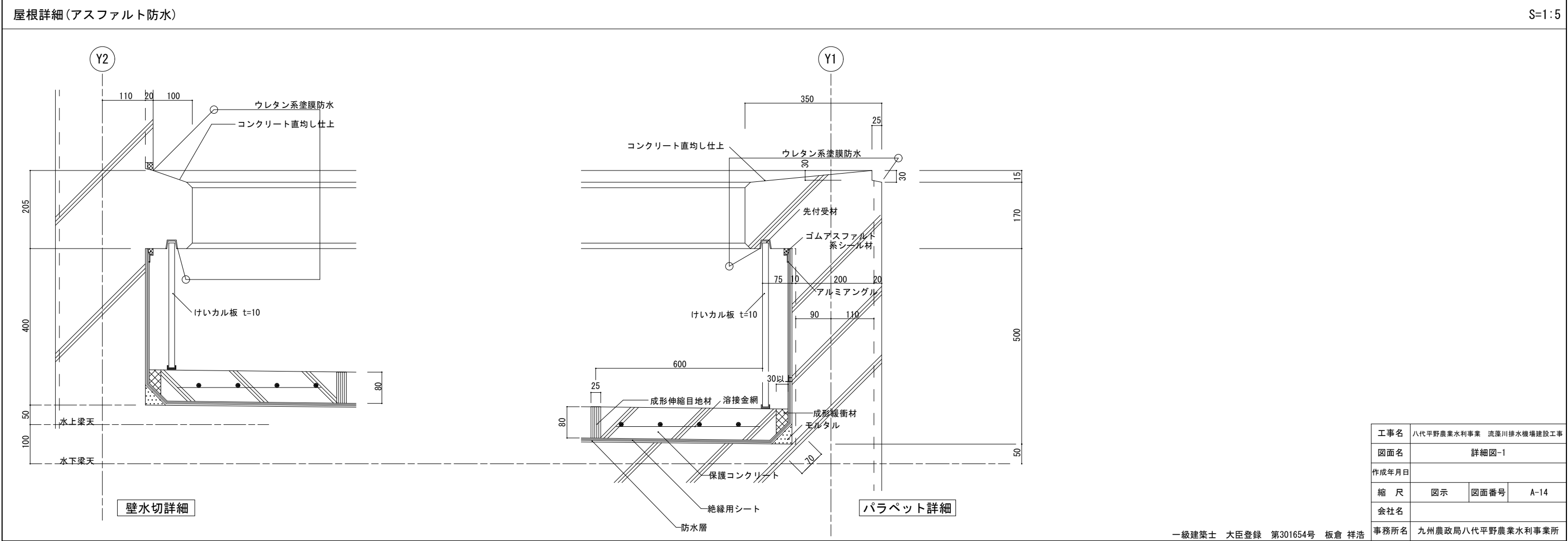
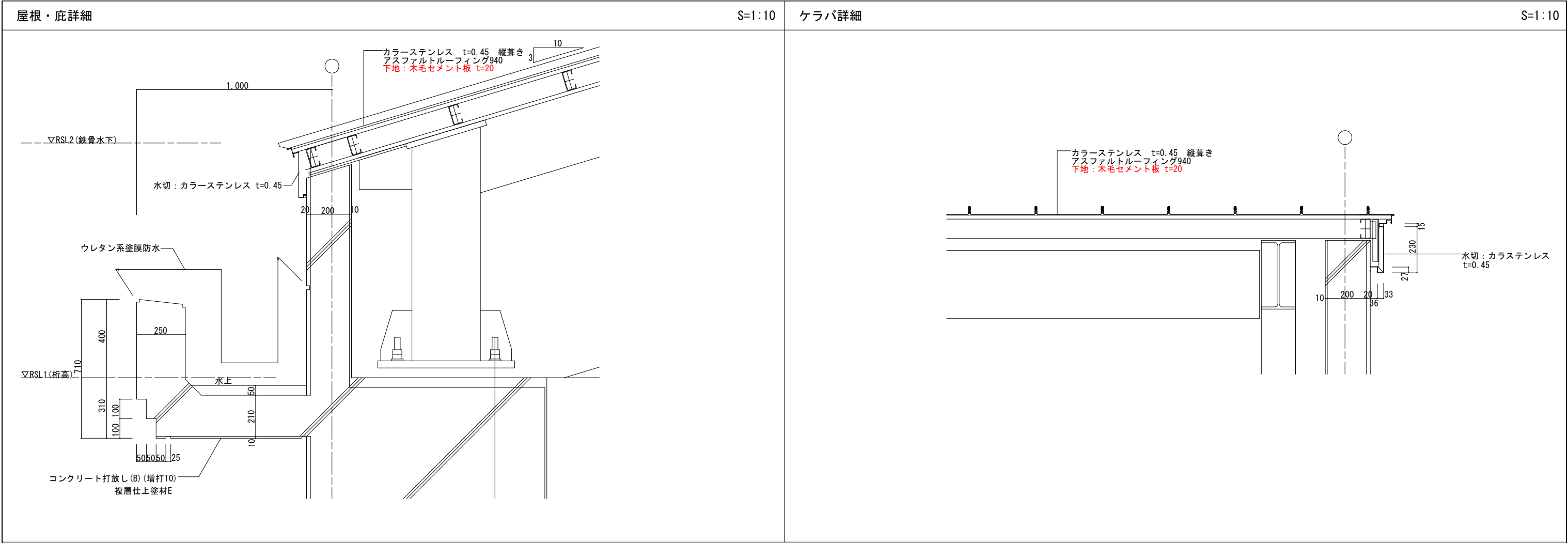


天井伏図

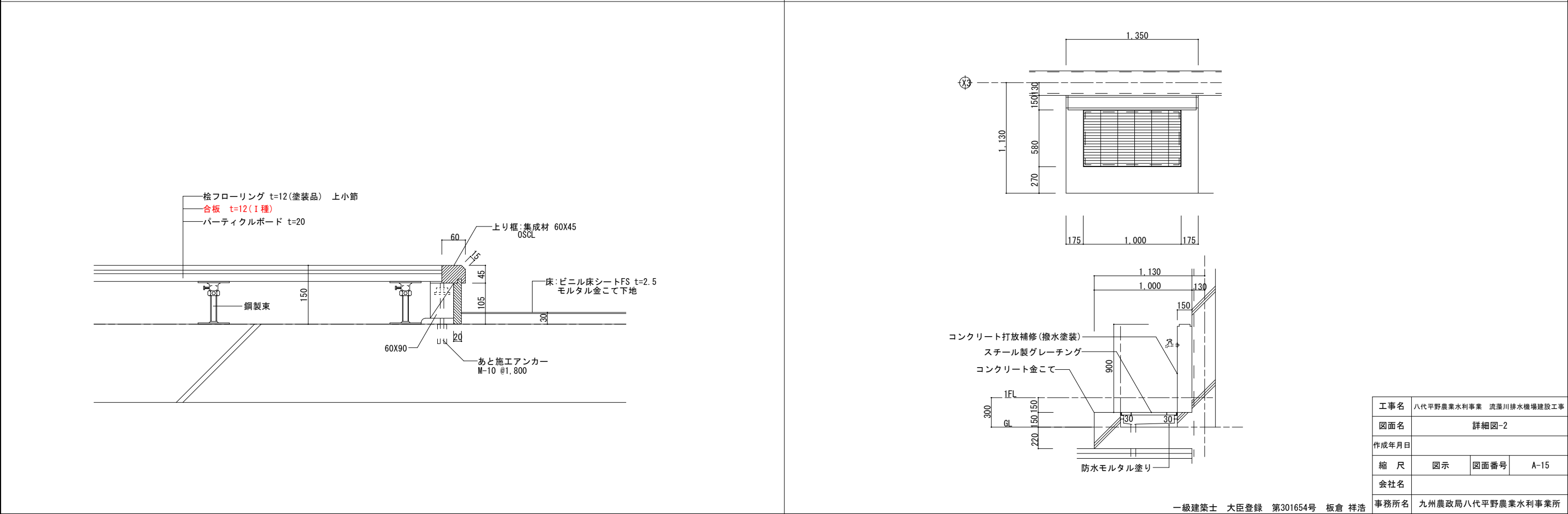
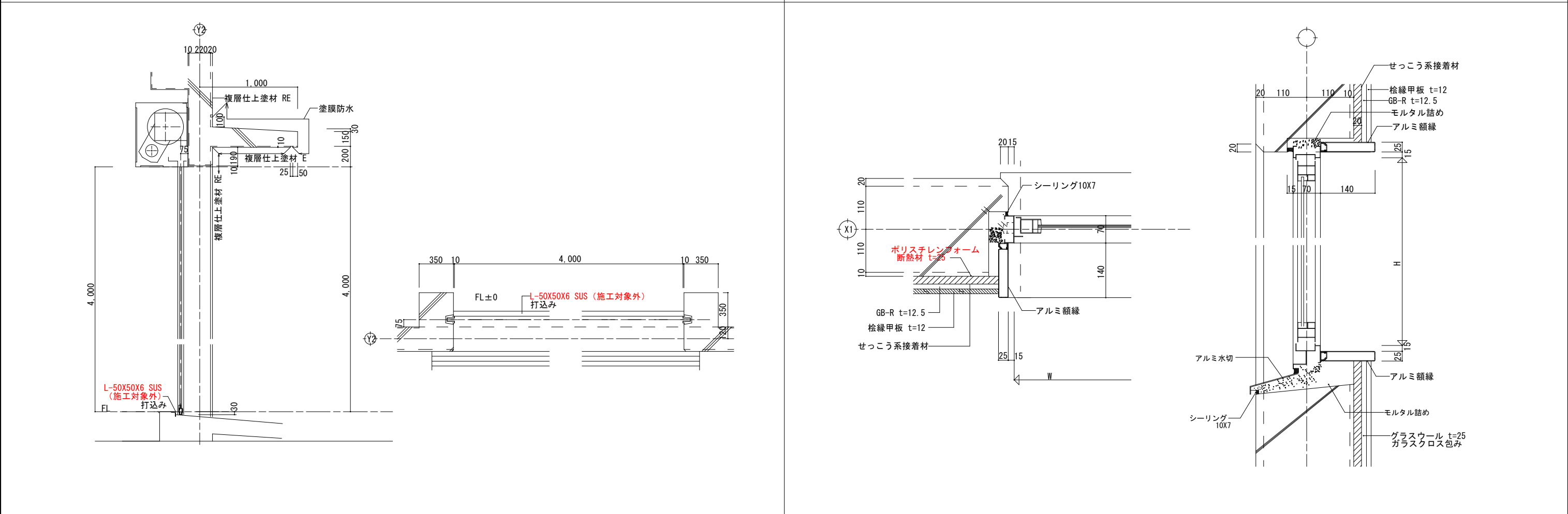
記号	仕上
A	木毛セメント板 t=20 現し
B	ロックウール化粧吸音板 t=12
C	GB-D t=9.5
D	コンクリート打放 (B) 増打10 複層仕上塗材E
E	天井点検口 アルミ製 450角

工事名	八代平野農業水利事業 流藤川排水機場建設工事		
図面名	展開図・天井伏図		
作成年月日			
縮尺	S=1:50	図面番号	A-12
会社名			
事務所名	九州農政局八代平野農業水利事業所		

符号 名称 個数			AW 1 アルミ製引き違い窓(2連)	1	AW 2 アルミ製こり出し窓	1	AW 3 アルミ製引き違い窓(3連)	2	AW 4 アルミ製引き違い窓(2連)	2	AW 5 アルミ製ガラスブロック窓	8				
姿図																
			場所		休憩室		ポンプ室		ポンプ室		ポンプ室					
			仕上 (枠共)		ステンカラー		ステンカラー		ステンカラー		ステンカラー					
			建具	見込												
				ガラス	網入り透明 t=6.8		網入り型 t=6.8		網入り型 t=6.8		網入り型 t=6.8		ガラスブロック 190X190X95			
建具枠見込 査摺			70		70		70		70		100					
建具金物			4周アルミアングル アルミ額縁 クレセント 付属金物一式		4周アルミアングル アルミ額縁 クレセント 付属金物一式		4周アルミアングル アルミ額縁 クレセント 付属金物一式		4周アルミアングル アルミ額縁 クレセント 付属金物一式		4周アルミアングル アルミ額縁 付属金物一式					
			アルミ水切り 網戸(ステンレス)		標準ハンドル ハンドルスペーサー アルミ水切り 網戸(ステンレス)		アルミ水切り 網戸(ステンレス)		アルミ水切り 網戸(ステンレス)		アルミ水切り					
			防火設備		防火設備		防火設備		防火設備		防火設備					
符号 名称 個数			AD 1 アルミ製親子開き扉＋上部排煙窓	1	AD 2 アルミ製片開き扉	1	SD 1 スチール製片開き扉	1	LSD 1 軽量スチール製片開き扉	1	SH 1 スチール製FIX窓	1				
姿図																
			場所		休憩室(踏み込み)		ポンプ室		休憩室		便所		休憩室			
			仕上 (枠共)		ステンカラー		ステンカラー		防錆塗装+SOP		化粧鋼板		防錆塗装+SOP			
			建具	見込					40		40					
				ガラス	網入り型 t=6.8		網入り型 t=6.8				アクリル板				FL t=8 + t=10	
建具枠見込 査摺			70 ステンレス		70 ステンレス		120 ステンレス		130 ステンレス		230					
建具金物			3周アルミアングル アルミ額縁 SUS丁番 付属金物一式		3周アルミアングル アルミ額縁 SUS丁番 付属金物一式		SUS丁番 DC		SUS丁番 DC		付属金物一式					
			レバーハンドル空錠 本締錠 DC カムラッチ フック棒		レバーハンドル空錠 本締錠 DC		レバーハンドル空錠 本締錠 DC		レバーハンドル表示錠							
備考			防火設備		防火設備		防音扉(T-3)				T-4					
符号 名称 個数			SS 1 ステンレス製電動重量シャッター	1												
姿図																
			場所		ポンプ室											
			仕上 (枠共)		スーパーステンレス(スラット)											
			建具	見込												
				ガラス												
建具枠見込 査摺																
建具金物			ケース・座板・マグサ：SUS 危害防止装置付													
			ガイドレール：スーパーステンレス													
備考			防火設備								一級建築士 大臣登録 第301654号 板倉 祥浩					
											事務所名 九州農政局 八代平野農業水利事業所					
											工事名 八代平野農業水利事業 流藻川排水機場建設工事					
											図面名 建具表					
											作成年月日					
											縮 尺 S=1:50 図面番号 A-13					
											会社名					



工事名	八代平野農業水利事業 流藻川排水機場建設工事		
図面名	詳細図-1		
作成年月日			
縮 尺	図示	図面番号	A-14
会社名			
事務所名	九州農政局八代平野農業水利事業所		



§1 一般事項

- 本配筋標準図(2021年版)は、(一社)日本建設業連合会と(一社)日本建築構造技術者協会が協働で作成した鉄筋コンクリート造の配筋標準図である。
- 本配筋標準図は、
 - 「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(平成31年版)」(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修)
 - 「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説(2018版)」(日本建築学会)
 - 「建築工事標準仕様書・同解説JASS5鉄筋コンクリート工事(2018年版)」(日本建築学会)
 - 「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説(2021版)」(日本建築学会)を参考に作成している。
- 本配筋標準図は表1-1に示すコンクリートおよび鉄筋を使用する鉄筋工事に適用する。高強度せん断補強筋を使用する場合は、構造図(伏図、軸組図、部材リスト、詳細図等の図面を示す)による。
- 構造図に記載された事項は、本配筋標準図に優先して適用するものとする。
- 本配筋標準図において、「監理者に確認」、「監理者に承認」と記載された内容は、監理者が設計者と協議し、設計者が承認した結果を示す。
- 図表中の寸法の値は最小値を示し、当該寸法以上を確保することを原則とする。(～程度、～以下、@、Pと表記しているものを除く)
- 本配筋標準図に☒印を記した項目は、適用しない。
- 杭に関する事項は、構造図による。

表1-1 適用範囲

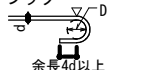
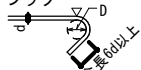
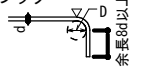
1. コンクリート	普通 $F_c=18\text{N/mm}^2$ 以上 60N/mm^2 以下 軽量 $F_c=18\text{N/mm}^2$ 以上 36N/mm^2 以下 SD390の鉄筋を使用する場合は $F_c=21\text{N/mm}^2$ 以上 SD490の鉄筋を使用する場合は $F_c=24\text{N/mm}^2$ 以上 SD490の鉄筋を使用する部位に軽量コンクリートを用いない。		
	規格番号	規格名称	種類の記号
2. 鉄筋	JIS G 3112	鉄筋コンクリート用棒鋼	SD295
			SD345、SD390
3. 溶接金網 および鉄筋格子	異形鉄筋はD41以下とする。		
	溶接金網および鉄筋格子は、JIS G 3551 (溶接金網および鉄筋格子)に適合するものを使用する。		

§2 鉄筋加工共通事項

2-1 折曲げ形状・寸法

- 鉄筋の折曲げ加工は常温加工とする。
- 折曲げ内法直径を表2-1の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の折曲げ試験を実施するかメーカー発行の性能試験証明書を確認した上で、監理者の承認を得ること。
- SD490の鉄筋を 90° を超える曲げ角度で折曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、監理者の承認を得ること。

表2-1 折曲げ形状・寸法

折曲げ形状	折曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法直径(D)
180° フック 	180° 135° 90°	SD295 SD345	D16以下	3d以上
135° フック 			D19～D41	4d以上
		SD390	D41以下	5d以上
			SD490	D25以下
		90° フック 		D29～D41

▽は折曲げ開始点を示す。
この開始点位置は、以下の図面において共通とする。

▽は折曲げ開始点を示す。
この開始点位置は、以下の図面において共通とする。
(注) 1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で 90° フックまたは 135° フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。
2. 90° 未満の折曲げ内法直径は構造図による。構造図に記載のない場合は、表2-1の 90° フックと同じとする。

2-2 鉄筋のフック

- 次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。(図中◎印)
- (1) 柱の四隅または梁の出隅および下端筋の両側にある主筋を重ね継手とする場合(フックの形状は 180° フックとする)

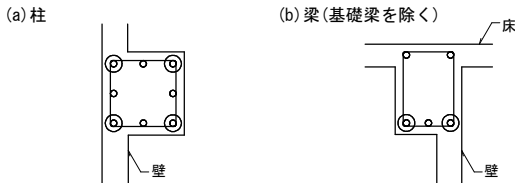


図2-2-1 フックが必要な重ね継手

- (2) 柱の四隅にある主筋で最上階(中間階で上に柱のない場合を含む)の柱頭部(フックの形状は 180° フックとする)

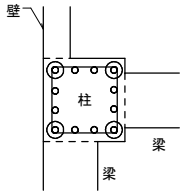


図2-2-2 最上階(上に柱がない場合を含む)の柱頭でフックが必要な主筋

- (3) あばら筋、帯筋(フック形状は2-3による)および幅止め筋(フック形状は図2-2-3による)

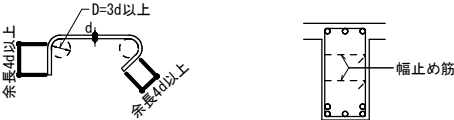
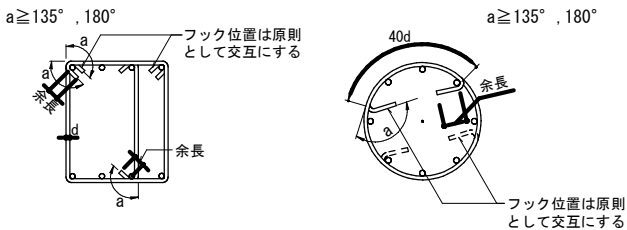


図2-2-3 幅止め筋の形状

- (4) 煙突の鉄筋(フックの形状は 180° フックとする)
- (5) 杭基礎のベース筋
単杭の場合は、監理者と協議すること。

2-3 あばら筋および帯筋形状・寸法

- あばら筋および帯筋のスパイラル筋形状、寸法は、図3-3-4による。



・ 135° フックの余長は6d以上、 180° フックの余長は4d以上とする。
図2-3-1 あばら筋・帯筋の形状(末端部がフックの場合)

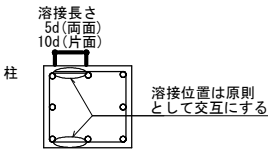
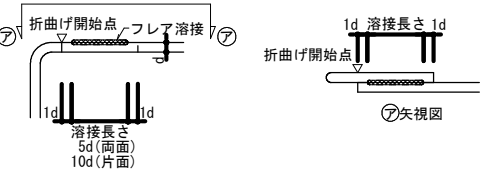


図2-3-2 あばら筋・帯筋の形状(末端部が溶接の場合)



- ・フレア溶接を採用する場合は監理者と協議すること。
- ・ビード形状は表3-1-3Iによる。
- ・フレア溶接は、折曲げ開始点、鉄筋材端から1d以上離すこと。

図2-3-3 あばら筋・帯筋の溶接要領

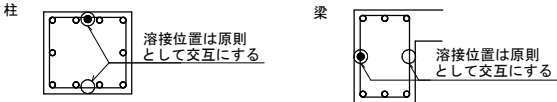
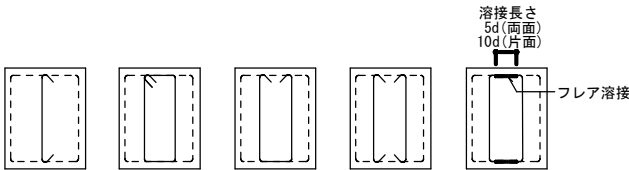


図2-3-4 あばら筋・帯筋の形状(溶接閉鎖形の場合)



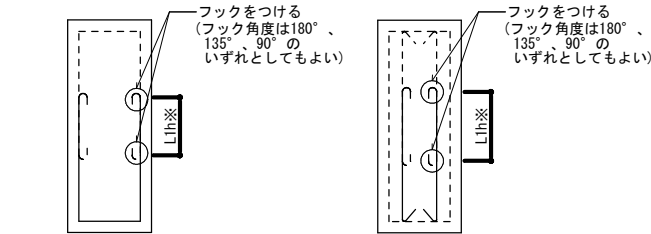
- ・スラブと同時に打ち込むT形、L形梁のキャップタイ末端部は本図によってもよい。
- ・スラブが取り付く側のキャップタイ末端部は、 90° フックとしてよい。
- ・スラブ付梁のキャップタイに 90° フックを使用する場合、フックの余長は8d以上とする。

図2-3-5 スラブ付梁のあばら筋(末端部がフックの場合)



- ・鉄筋末端部フックは、図2-3-1Iによる。

図2-3-6 副あばら筋・副帯筋の形状



- ※L1h(フック付重ね継手)は、表3-1-2による。
- ・原則、梁の上下にスラブが取り付く場合、かつ、梁せい1.5m以上の場合、使用可能とする。原則を守れない場合は、監理者と協議すること。

図2-3-7 梁せいの大きな基礎梁など、あばら筋を分割する場合のあばら筋・副あばら筋の形状

2-4 主筋のあき・2段筋の間隔

- 主筋相互のあきaは粗骨材最大寸法の1.25倍以上、隣り合う鉄筋呼び径の平均値の1.5倍以上とする。
- 粗骨材の最大寸法を25mmとして算出した数値を表2-4に示す。
- 粗骨材の最大寸法が25mm以外の場合のあき寸法、2段筋の間隔の最小値は、監理者に確認すること。
- 2段筋の間隔P2は構造図による。構造図に記載がない場合は表2-4による。
- 2段筋の間隔P2の最大値については、監理者に確認すること。

表2-4 主筋のあきaの最小値および2段筋の間隔P2 (単位mm)

呼び名(d)	最外径	主筋のあきaの最小値	2段筋の間隔P2の最小値
D10	11	32	43
D13	15	32	47
D16	19	32	51
D19	22	32	54
D22	26	33	59
D25	29	38	67
D29	33	44	77
D32	37	48	85
D35	40	53	93
D38	43	57	100
D41	47	62	109

(注) 1. 鉄筋の最外径は銘柄ごとに異なるため、使用する鉄筋に合わせて適宜判断すること。

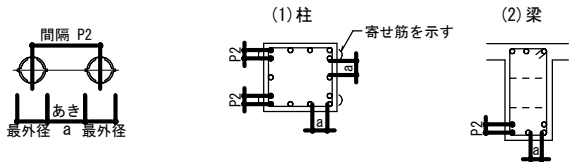


図2-4 柱梁主筋のあきと間隔

2-5 2段筋位置保持金物の形状および配置

- 2段筋がある場合は、原則として2段筋位置保持金物を図2-5-1にならない取り付けること。

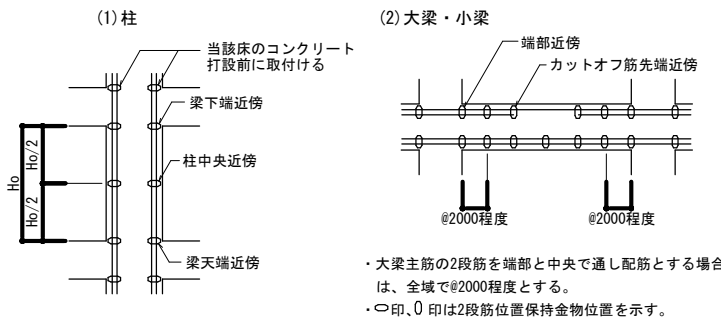


図2-5-1 2段筋位置保持金物の配置例

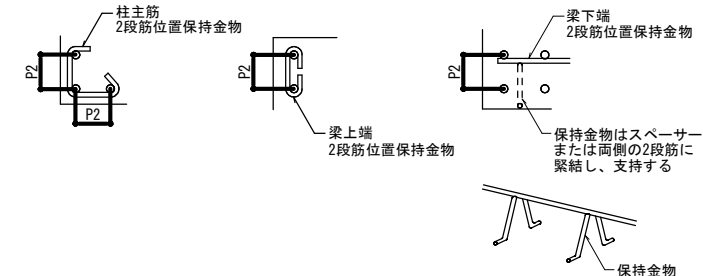


図2-5-2 2段筋位置保持金物の形状例

工事名	八代平野農業水利事業 流瀬川排水機場建設工事		
図面名	鉄筋コンクリート配筋標準図(1)		
作成年月日			
縮尺	-	図面番号	C-02
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		

53 継手および定着

3-1 継手

1. 対象とする継手は重ね継手、ガス圧接継手、フレア溶接継手とし、その他(機械式継手、突合せアーク溶接継手など)の仕様は構造図による。
2. 柱梁主筋の異形鉄筋重ね継手長さは構造図による。
3. 耐力壁主筋に直線重ね継手を使用する場合、継手長さは、表3-1-1による。
(表3-1-1の記載例：■採用、□不採用)

表3-1-1 直線重ね継手長さの指示

指示欄	構造計算方法	直線重ね継手長さ
□	構造計算を保有水平耐力計算等で実施したため、建築基準法施行令第73条の適用を除外する。	表3-1-2による。
□	上記以外	表3-1-2かつ40d以上(軽量コンクリートを使用する場合は、50d)とする。

4. D35以上の異形鉄筋には、原則として重ね継手を用いない。
5. 径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の径(d)により算出する。
6. あき重ね継手は、原則としてスラブ筋、基礎スラブ筋、壁筋に適用する。
その場合、あき重ね継手の継手長さは表3-1-2のL1を確保し、あき寸法は、0.2L1かつ150mm以下とする。(図3-1-3)
7. 梁主筋の重ね継手は水平重ね継手を原則とし、上下重ね継手とする場合は監理者と協議すること。

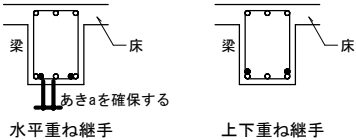


図3-1-1 梁主筋の重ね継手

8. ガス圧接およびフレア溶接の形状は、表3-1-3による。
9. 径の異なる鉄筋のガス圧接は、細い方の鉄筋の径(d)により算出する。径の差は原則として、7mm以下とする。
10. 鉄筋のフレア溶接は、原則として鉄筋の種類はSD345まで、鉄筋の径はD16までとする。
11. フレア溶接は、被覆アーク溶接またはガスシールドアーク溶接により、使用する溶接材料は、表3-1-4による。
12. 隣り合う継手の位置は、図3-1-2による。ただし、スラブ筋(基礎スラブ筋を含む)でD16以下の場合および壁筋の場合は除く。
13. 杭に用いる鉄筋の重ね継手長さは構造図による。

表3-1-2 鉄筋の重ね継手長さ L1, L1h

重ね継手長さ L1: フックなし L1h: フック付	Fc (N/mm ²) 鉄筋の種類	18	21	24 27	30 36	39 45	48 60
直線重ね継手の長さ L1	SD295	45d	40d	35d	35d	30d	30d
	SD345	50d	45d	40d	35d	35d	30d
	SD390	/	50d	45d	40d	40d	35d
	SD490	/	/	55d	50d	45d	40d
フック付重ね継手の長さ L1h 180° フックの場合 ※	SD295	35d	30d	25d	25d	20d	20d
	SD345	35d	30d	30d	25d	25d	20d
	SD390	/	35d	35d	30d	30d	25d
	SD490 <90° フックのみ>	/	/	40d	35d	35d	30d

- (注) 1. 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に5dを加えた値とする。
2. 継手位置は、各標準図に示す継手の好ましい位置に設けること。

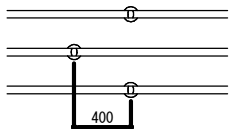
表3-1-3 ガス圧接・フレア溶接の形状

ガス圧接 ()内は、SD490の場合に適用する	ふくらみの直径・長さ 圧接面 1.4d以上 (1.5d以上) 1.1d以上 (1.2d以上) 圧接面のずれ d/4以下 折れ曲がり $\theta \leq 2^\circ$	片ふくらみ 圧接面 $\Delta h = h_1 - h_2 \leq d/5$ 以下 鉄筋中心の偏心量 圧接面 $e \leq d/8$	2mm以下 圧接面形状
フレア溶接 原則として鉄筋は、D16以下とする	片面の場合 d 10d以上 d	両面の場合 d 5d以上 d	溶接のビード幅 鉄筋径d 最小値 10 6 13 7 16 8 L (ビード幅)
曲げ加工した鉄筋に使用する場合、折曲げ開始点からフレア溶接末端を1d以上離すこと			

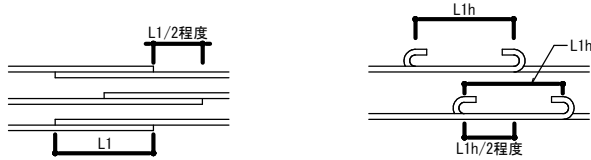
表3-1-4 フレア溶接に用いる鉄筋と溶接材料の組み合わせ

溶接される鉄筋の種類	被覆アーク溶接棒の種類 JIS Z 3211	ソリッドワイヤの種類 JIS Z 3312
SD295	E4316, E4915, E4916等の低水素系溶接棒	YGW11 YGW12 YGW13 YGW15
SD345	E4915, E4916等の低水素系溶接棒	YGW16 YGW18 YGW19

圧接の場合



主筋のあきが確保できる場合の重ね継手の場合



主筋のあきの確保が困難な場合の重ね継手の場合

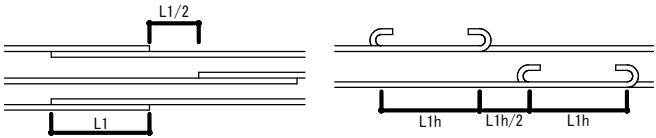
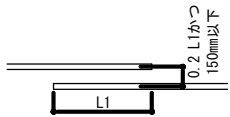


図3-1-2 隣り合う継手位置



あき重ね継手を使用する場合は、監理者に確認の上使用する。

図3-1-3 スラブ筋・基礎スラブ筋・壁筋のあき重ね継手

3-2 定着

1. 異形鉄筋の定着長さは、表3-2-1の鉄筋の定着長さによる。
ただし、小梁、スラブの下端筋の定着長さは、表3-2-2による。
2. 梁主筋の柱への定着は、原則として折曲げ定着とする。
3. 梁主筋の柱内定着において、定着の投影長さは原則柱せいの3/4倍以上とする。
4. 柱梁仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さだが、表3-2-1のフック付定着の長さL2hを確保できない場合は、全長を表3-2-1に示す直線定着の長さとし、余長を8d以上、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを、表3-2-3に示す長さLa以上とする。
5. 大梁内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さだが、表3-2-1のフック付定着の長さL2hを確保できない小梁及びスラブの場合は、全長を表3-2-1に示す直線定着の長さとし、余長を8d以上、仕口面から鉄筋外面までの投影長さを、表3-2-3に示す長さLb(かつ、原則として、定着される梁幅の1/2倍)以上とする。

表3-2-1 鉄筋の定着長さ L2, L2h

定着長さ L2: 直線定着 L2h: フック付定着	Fc (N/mm ²) 鉄筋の種類	18	21	24 27	30 36	39 45	48 60
直線定着長さ L2	SD295	40d	35d	30d	30d	25d	25d
	SD345	40d	35d	35d	30d	30d	25d
	SD390	/	40d	40d	35d	35d	30d
	SD490	/	/	45d	40d	40d	35d
フック付定着長さ L2h 90° フックの場合 ※ 折曲げ開始点	SD295	30d	25d	20d	20d	15d	15d
	SD345	30d	25d	25d	20d	20d	15d
	SD390	/	30d	30d	25d	25d	20d
	SD490 <90° フックのみ>	/	/	35d	30d	30d	25d

※フックを135° フック、180° フックとする場合のフック形状は表2-1による。

- (注) 1. 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に5dを加えた値とする。

表3-2-2 小梁・スラブの下端筋の定着長さ L3, L3h

下端筋定着長さ L3: 直線定着 L3h: フック付定着	Fc (N/mm ²) 鉄筋の種類	18~60
直線定着長さ L3	SD295 SD345 SD390	小梁 20d <25d> スラブ 10dかつ150mm <25d>
フック付定着長さ L3h	SD295 SD345 SD390	10d

- (注) 1. 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に5dを加えた値とする。
2. 「-」は適用範囲外を示す。
3. < >は片持ち部材の場合を示す。

表3-2-3 折曲げ定着長さ La, Lb

折曲げ定着長さ	Fc (N/mm ²) 鉄筋の種類	18	21	24 27	30 36	39 45	48 60
梁主筋の柱内折曲げ定着の投影長さ La	SD295	20d	15d	15d	15d	15d	15d
	SD345	20d	20d	20d	15d	15d	15d
	SD390	/	20d	20d	20d	15d	15d
	SD490	/	/	25d	25d	20d	20d
小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影長さ Lb	SD295	15d	15d	15d	15d	15d	15d
	SD345	20d	20d	15d	15d	15d	15d
	SD390	/	20d	20d	15d	15d	15d
	SD490	/	/	/	/	/	/

- (注) 1. La: 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影長さ(基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブの上端筋を含む)
2. Lb: 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影長さ(片持ち小梁及び片持ちスラブの上端筋を除く)
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

3-3 その他の継手および定着

1. 溶接金網の重ね継手は、図3-3-1による。構造図に記載のない場合は、応力伝達用とする。
溶接金網の合わせ面は、図3-3-2タイプA、タイプBいずれとしてもよい。
2. 溶接金網の定着は、図3-3-3による。
3. 帯筋にスパイラル筋を用いる場合の定着、継手要領は、図3-3-4による。
4. 鉄筋格子については、3-1 継手、3-2 定着による。

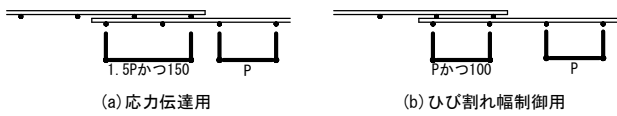


図3-3-1 溶接金網の重ね継手

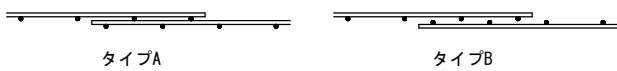


図3-3-2 溶接金網の重ね継手の合わせ面

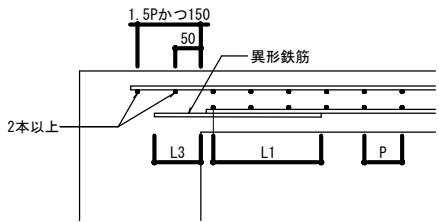
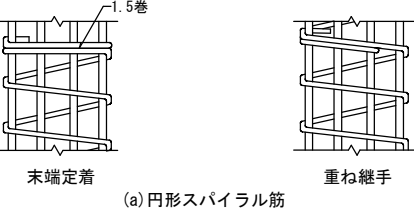
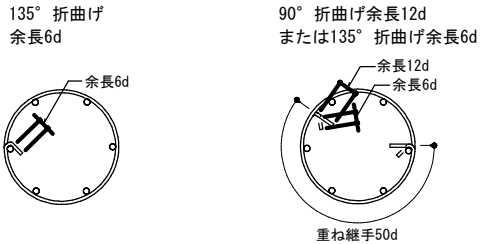
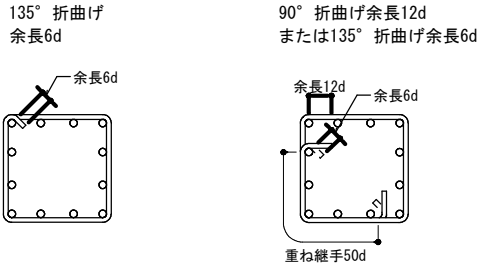


図3-3-3 溶接金網の定着



(a) 円形スパイラル筋



(b) 角形スパイラル筋

図3-3-4 スパイラル筋の末端定着・重ね継手要領

工事名	八代平野農業水利事業 流瀬川排水機場建設工事		
図面名	鉄筋コンクリート配筋標準図 (2)		
作成年月日			
縮尺	-	図面番号	C-03
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		

一級建築士 大臣登録 第301654号 板倉 祥浩

構造設計担当 田中 稔
一級建築士大臣登録 第134608
構造設計一級建築士 第3047

§4 かぶり厚さ

4-1 鉄筋のかぶり厚さ

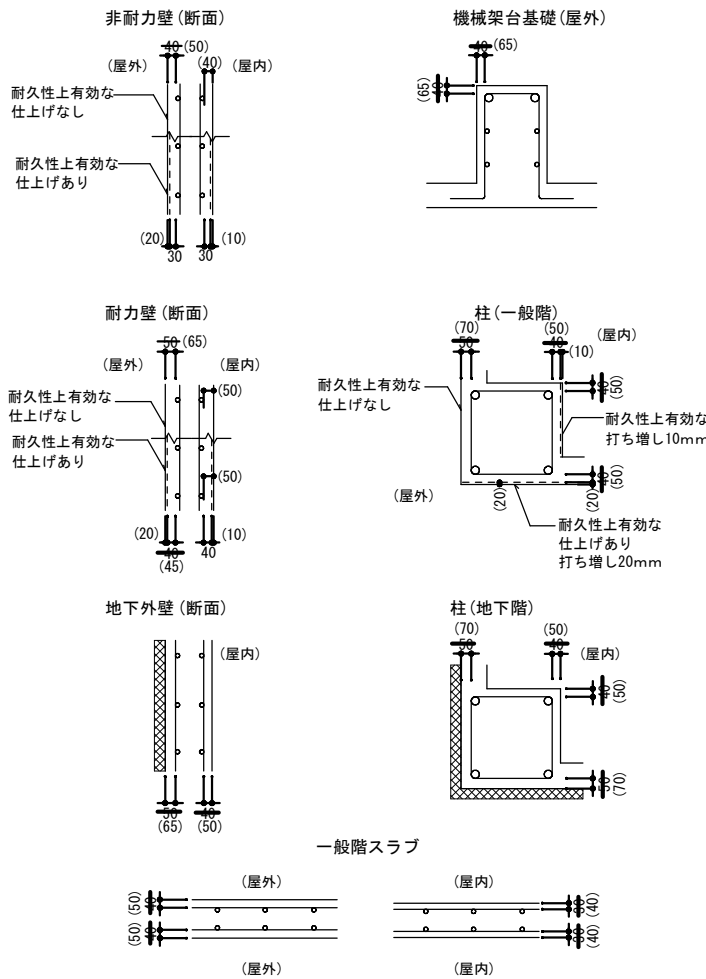
- 鉄筋のかぶり厚さは表4-1による。
- 柱、梁かぶり厚さは表4-1を満足し、かつ主筋に対する最小かぶり厚さは、主筋径の1.5倍以上とする。D29以上の鉄筋を使用する場合は、最小かぶり厚さが表4-1より大きくなる部位があるため、注意すること。
- 配筋は構造体寸法(打増しを除いた寸法)から所定の設計かぶり厚さを確保できる位置に行う。
- 耐久性上有効な仕上がりがある場合、表4-1の※1の値を10mm減じてよい。
耐久性上有効な仕上りの例
・タイル張り
・モルタル塗り(10mm以上)
・打増し(10mm以上)
- ひび割れ誘発目地、打継ぎ目地、化粧目地等がある場合は、目地からのかぶり厚さを確保する。
- 柱、梁で打継ぎ目地を設ける場合は、構造体寸法に目地深さを打増しとする。この打増しは上記4.により、耐久性上有効な仕上がりと考えることができる。
- 捨てコンクリートは、かぶり厚さに含まない。

表4-1 鉄筋のかぶり厚さ (単位mm)

部 位	設計 ※2		最小 ※3	分類記号
	かぶり厚さ	かぶり厚さ		
土に接しない部分	スラブ	屋内	30	a
		屋外	40 ※1	b
	柱・梁	屋内	40	c
		屋外	50 ※1	d
	耐力壁	屋内	30	e
		屋外	40 ※1	f
	煙突内面		60	g
	擁壁・基礎スラブ		50	h
土に接する部分	柱・梁・壁・スラブ 連続基礎の立上り部分		50	i
	基礎スラブ・擁壁		70	j
	基礎		70	k

※2 設計かぶり厚さ
施工誤差の割増10mmを標準として見込むことによって、打設後最小かぶり厚さを下回る危険性を少なくするように、設計時点で配慮したかぶり厚さを示す。

※3 最小かぶり厚さ
建築基準法施行令に規定されたかぶり厚さを基に、屋外側については耐久性の観点から10mm増したかぶり厚さを示す。

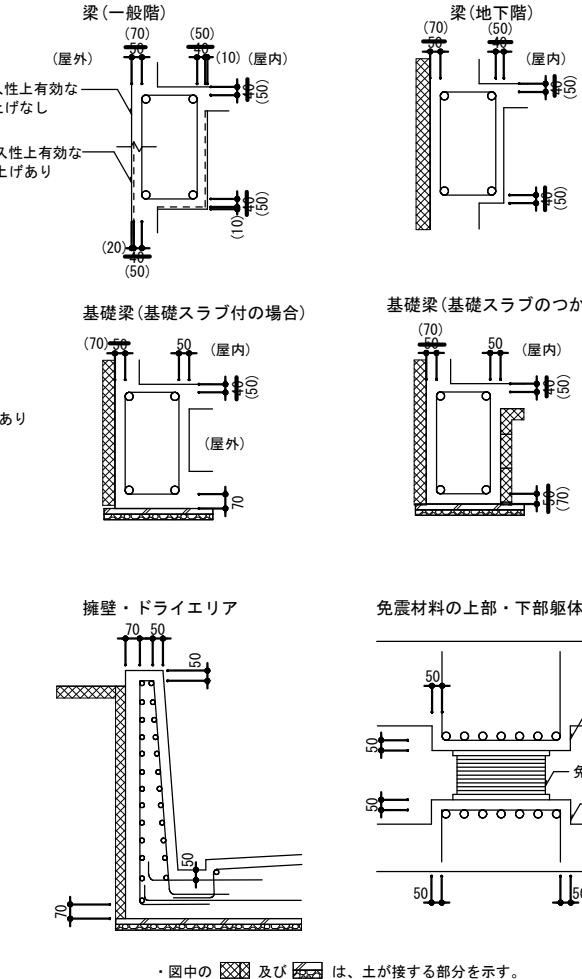


注) 柱梁主筋配置要領図を参照
流藻川排水機場の 柱・耐力壁のかぶり厚さ

表4-1A 流藻川排水機場の 鉄筋のかぶり厚さ (単位mm)

部 位	設計 ※2A		最小 ※3	かぶり厚さ
	かぶり厚さ	かぶり厚さ		
土に接しない部分	スラブ	屋内	30	a
		屋外	40 ※1	b
	柱・梁	屋内	40	c
		屋外	50 ※1	d
	耐力壁	屋内	30	e
		屋外	40 ※1	f
	煙突内面		60	g
	擁壁・基礎スラブ		50	h
土に接する部分	柱・梁・壁・(スラブ) 連続基礎の立上り部分		65 (60)	i
	基礎スラブ・擁壁		70	j
	基礎		70	k

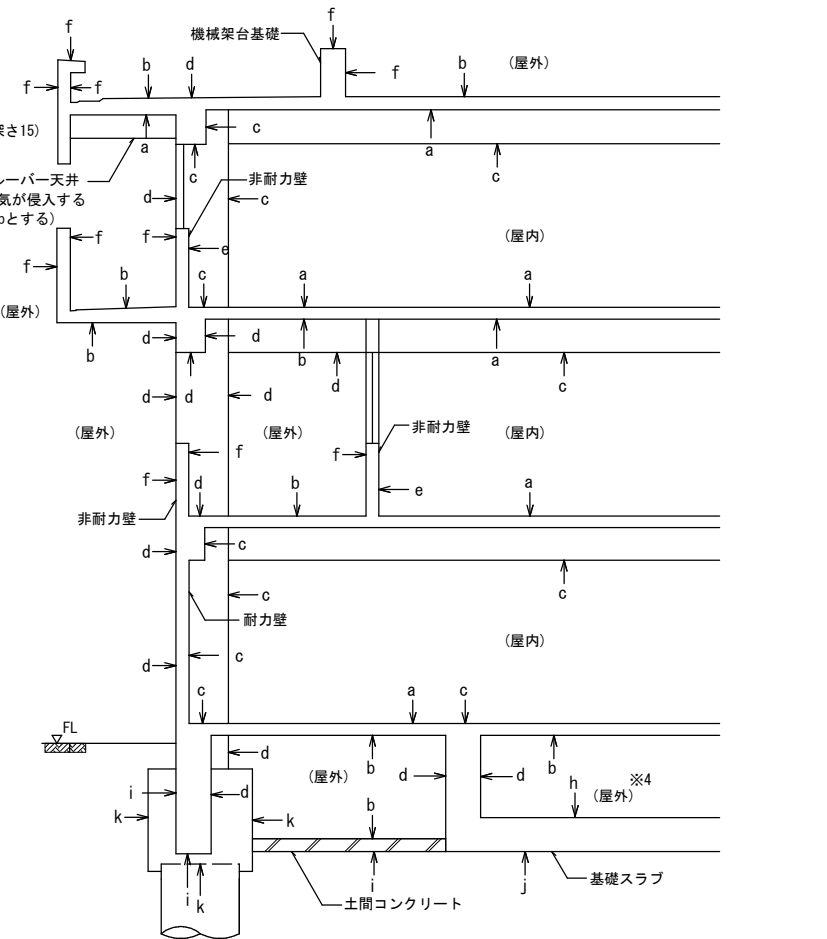
※2A 設計かぶり厚さ
柱・梁・耐力壁の最小かぶり厚に対する施工誤差の割増は15mmを標準とする。ただし、目地部及びスラブ、非耐力壁の割り増しは10mmとする。本工事でのコンクリート打増しは外部20mm、内部10mmとし、かぶり厚はその表面から有効とする。



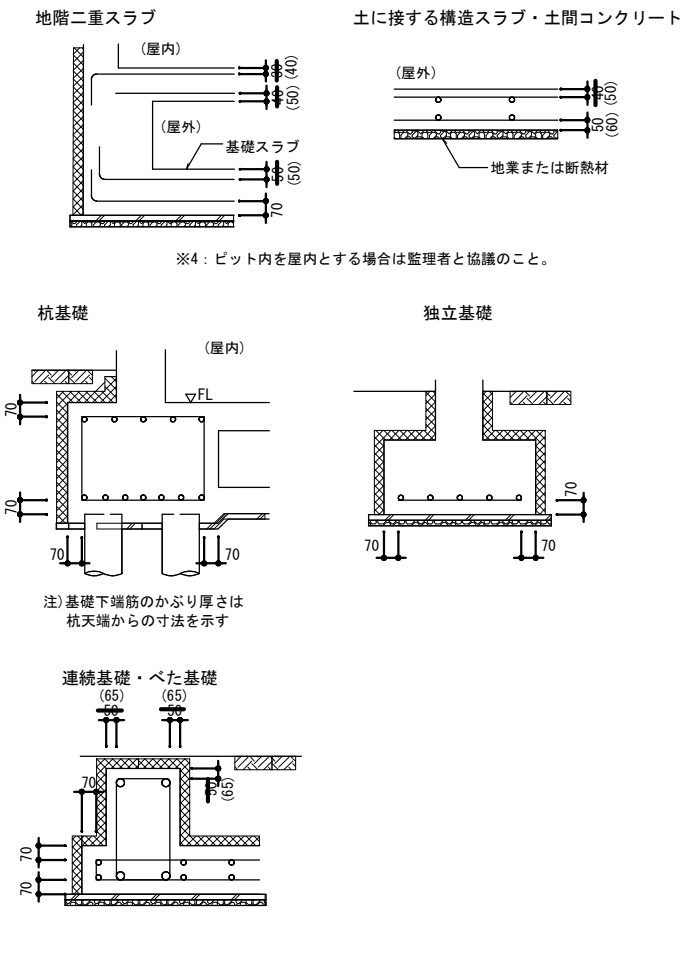
・図中の [hatched pattern] 及び [hatched pattern] は、土が接する部分を示す。

図4-1 部位別設計かぶり厚さ

注 ()内数値は流藻川排水機場に優先適用する



※4: ピット内を屋内とする場合は監理者と協議のこと。



- 4-2 鉄筋サポート・スペーサー・結束線
- 鉄筋サポート、スペーサーのサイズは設計かぶり厚さを満足するものを使用する。
 - 鉄筋サポート、スペーサーの種類は設計基準強度以上のコンクリート製、モルタル製または鋼製を使用する。柱、梁、基礎、基礎梁、壁、地下外壁の側面のスペーサーはプラスチック製でもよい。
 - 鉄筋サポート、スペーサーの数量、配置は図4-2-1、図4-2-2、図4-2-3、図4-2-4による。
 - スペーサー(ドーナツ形)は縦使いを原則とする。梁の側面の場合、スペーサーを設置する腹筋と近傍のあばら筋を動かぬよう緊結させる。
 - 断熱材打込み時の鉄筋サポートは断熱材用の製品(プレート付き)を使用するか、または鉄筋サポート下に樹脂パットを設置し、断熱材にめりこまないようにする。
 - 鋼製鉄筋サポートは在来型枠との接触面に防錆処理を施した製品を使用する。
 - 結束線は内側に折り曲げることを原則とする。

柱・梁
PIは1500程度とする。

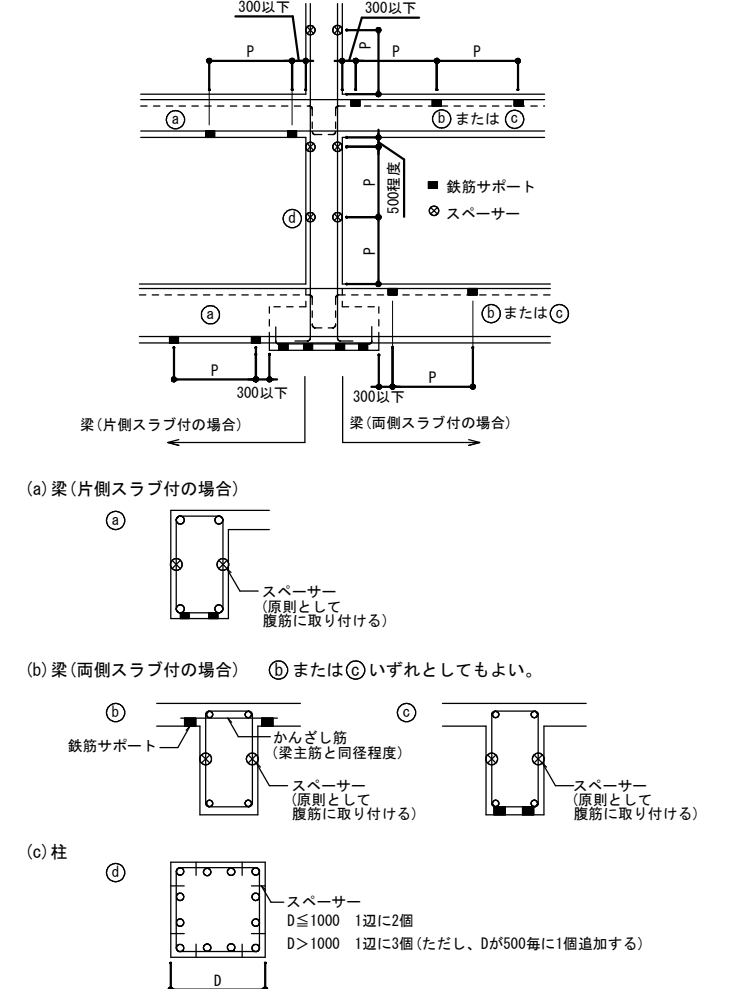
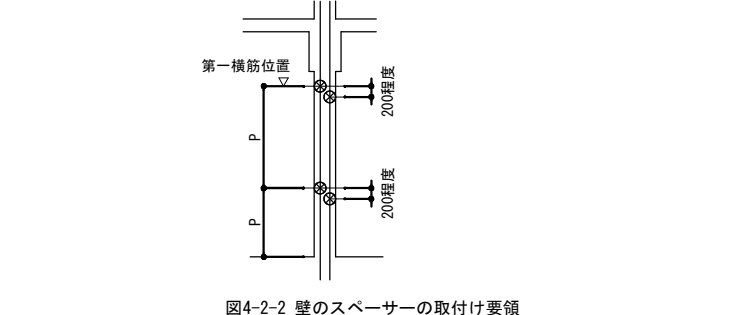


図4-2-1 柱・梁の鉄筋サポート・スペーサーの取付け要領

壁
PIは縦、横共1500程度とする。
壁前後のスペーサー位置は、縦方向、横方向のいずれかの間隔を200程度とすればよい。



工事名	八代平野農業水利事業 流藻川排水機場建設工事		
図面名	鉄筋コンクリート配筋標準図 (3)		
作成年月日			
縮 尺	-	図面番号	C-04
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		

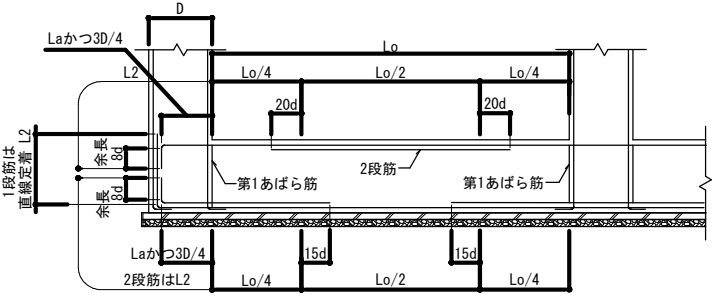
一級建築士 大臣登録 第301654号 板倉 祥浩

構造設計担当 田中 稔
一級建築士大臣登録 第134608
構造設計一級建築士 第3047

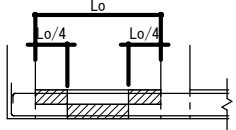
§6 基礎梁

6-1 基礎大梁の定着・カットオフ筋長さおよび継手位置

1. 採用するタイプは、基礎に浮き上がりが生じない場合はA1、B1、C1、浮き上がりが生じる場合はB2、C2とし、配置は構造図による。
2. 柱を介して連続する基礎梁の主筋本数が異なる場合は、通し筋以外の基礎梁主筋を柱内に定着する。または柱コンクリート面より定着長さをもって反対側の梁内に定着する。
3. カットオフ筋長さは、構造図による。構造図に記載のない場合は、図6-1-1、図6-1-2、図6-1-3による。

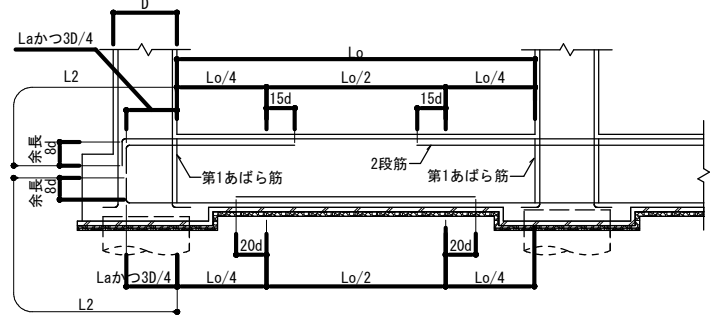


(a) 定着およびカットオフ筋長さ (タイプA1)

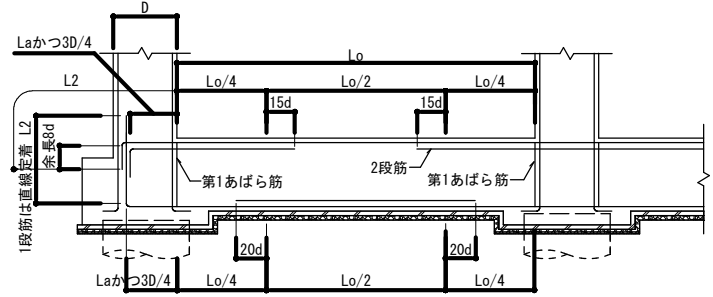


(b) 継手位置

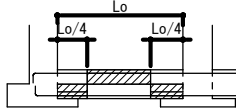
図6-1-1 ベた基礎・連続基礎の場合(タイプA1)



(a) 定着およびカットオフ筋長さ (タイプB1)

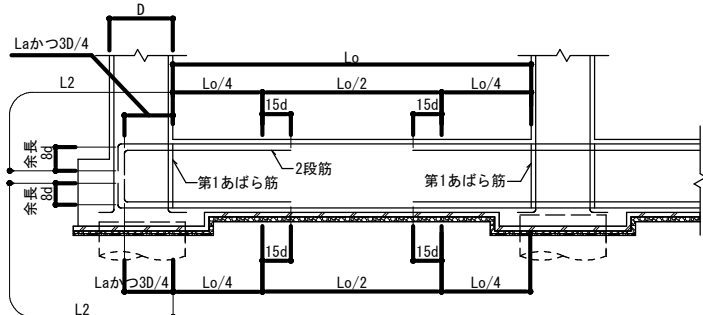


(b) 定着およびカットオフ筋長さ (タイプB2)
(地震時などに基礎に浮き上がりが生じる場合)

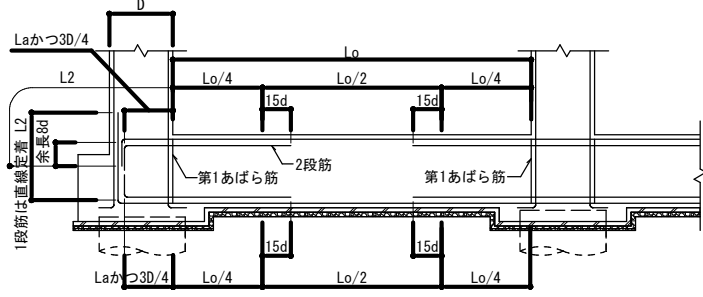


(c) 継手位置

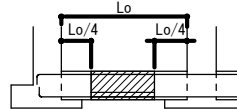
図6-1-2 杭基礎・独立基礎の場合(タイプB1・タイプB2)



(a) 定着およびカットオフ筋長さ (タイプC1)



(b) 定着およびカットオフ筋長さ (タイプC2)
(地震時などに基礎に浮き上がりが生じる場合)

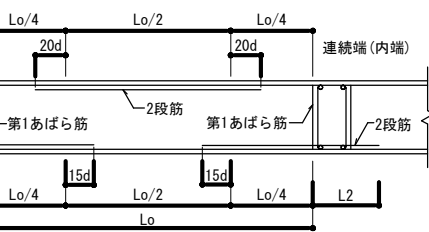
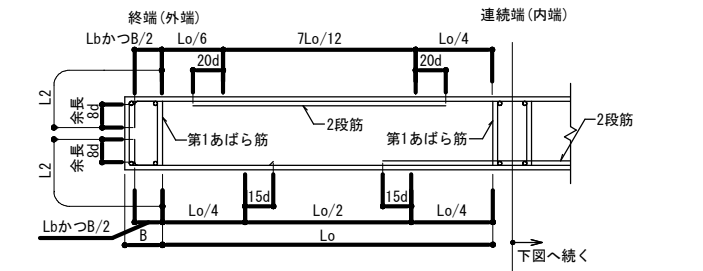


(c) 継手位置

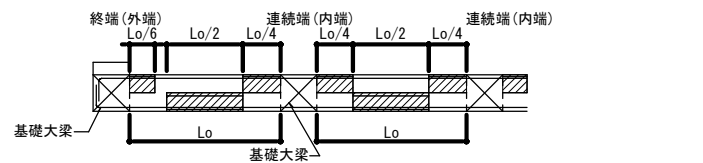
図6-1-3 杭基礎・独立基礎の場合(タイプC1・タイプC2)

6-2 基礎小梁の定着・カットオフ筋長さおよび継手位置

1. 採用するタイプは、基礎小梁が連続する場合はA1、B1、連続しない場合はA2、B2とし、配置は構造図による。

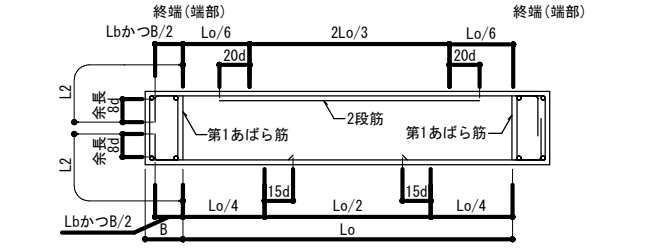


(a) 定着およびカットオフ筋長さ

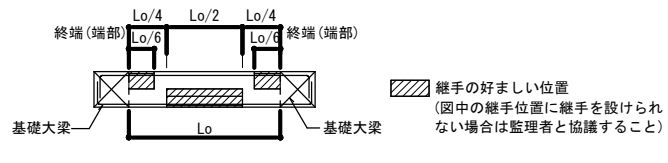


(b) 継手位置

図6-2-1 基礎小梁が連続梁の場合(タイプA1)

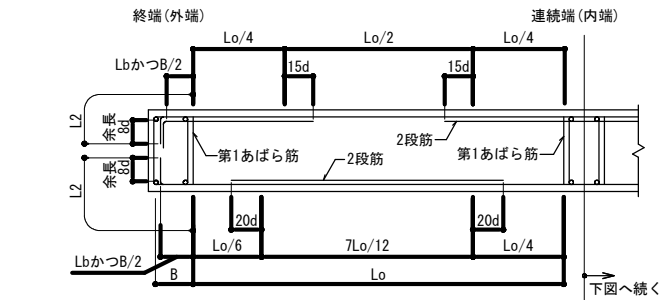


(a) 定着およびカットオフ筋長さ

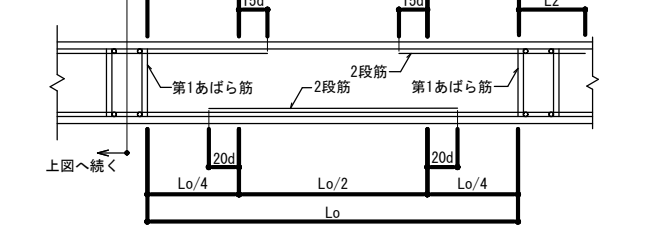


(b) 継手位置

図6-2-2 基礎小梁が単独梁の場合(タイプA2)

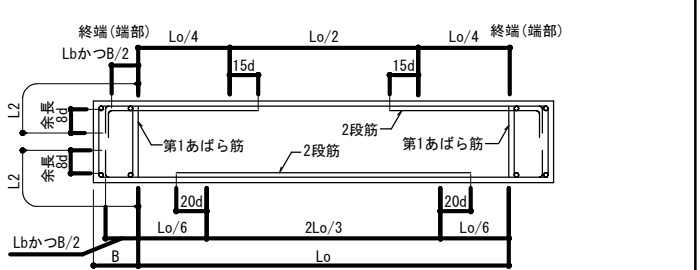


(a) 定着およびカットオフ筋長さ

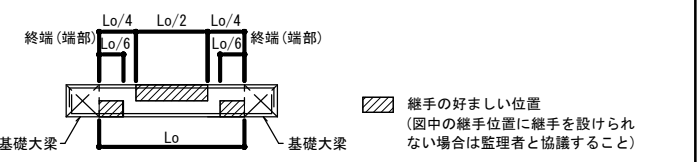


(b) 継手位置

図6-2-3 基礎小梁が連続梁の場合(タイプB1)



(a) 定着およびカットオフ筋長さ



(b) 継手位置

図6-2-4 基礎小梁が単独梁の場合(タイプB2)

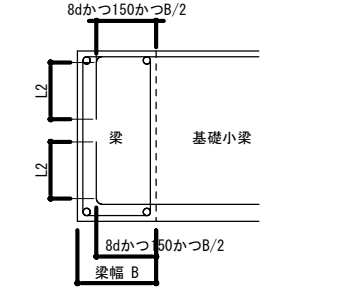


図6-2-5 幅の小さい梁への定着要領
(Lbが確保できない場合)

6-3 基礎梁と基礎の取合い部補強要領

1. 基礎梁と基礎の取合い部補強要領は構造図による。構造図に記載のない場合は、図6-3による。
2. 取合い部補強の幅は、基礎梁と同じとする。

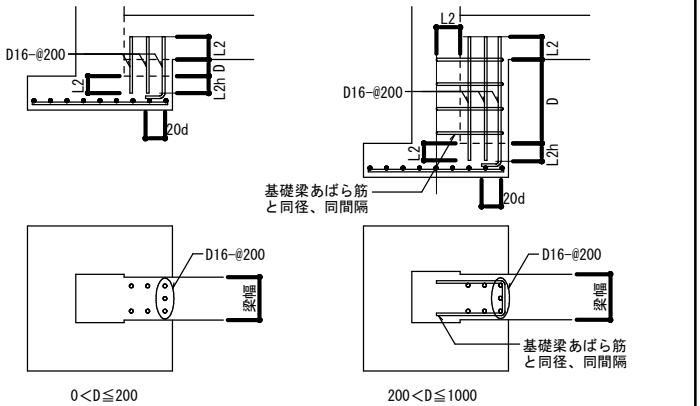


図6-3 取合い部補強要領

6-4 基礎大梁と最下階柱の取合い部配筋要領

基礎大梁と最下階柱の取合い部配筋要領は構造図による。構造図に記載のない場合は、図6-4による。

- (1) 基礎大梁幅が柱幅より大きい柱脚の場合
- (2) 基礎大梁幅が柱幅より小さい柱脚の場合

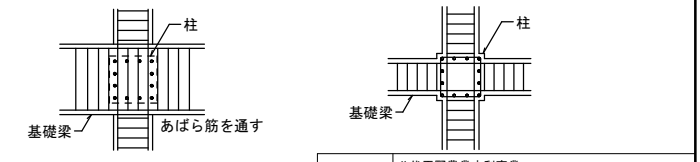


図6-4 基礎大梁と最下階柱の取合い部配筋要領

工事名	八代平野農業水利事業 流瀬川排水機場建設工事		
図面名	鉄筋コンクリート配筋標準図 (5)		
作成年月日			
縮尺	-	図面番号	C-06
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		

§7 柱

7-1 柱の定着・カットオフ筋長さおよび継手位置

- 継手はガス圧接、重ね継手を示し、それ以外の継手の仕様は構造図による。
- Hoは柱の最大内法高さとする。
- 柱主筋の定着は以下による。
 - 柱頭主筋の定着：柱に取り付く最も高い梁下端からL2以上かつ最も高い梁天端から15d以上とする。
 - 柱脚主筋の定着：柱に取り付く最も低い梁天端からL2以上かつ最も低い梁下端から15d以上とする。
- カットオフ筋長さは以下による。
 - 柱頭カットオフ筋長さ：柱に取り付く最も低い梁下端からHo/2+15d以上とする。
 - 柱脚カットオフ筋長さ：柱に取り付く最も高い梁天端からHo/2+15d以上とする。

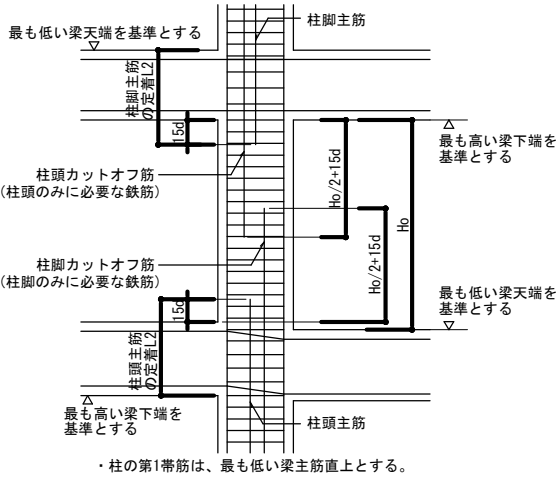


図7-1-1 柱主筋の定着およびカットオフ筋長さ

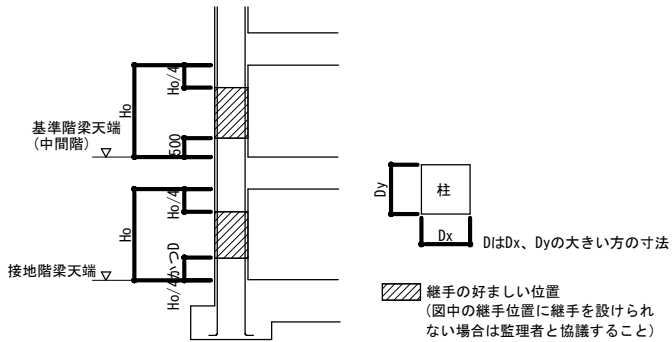


図7-1-2 継手位置

7-2 柱の仕口部(柱・梁接合部)

- 柱の仕口部の範囲は構造図による。構造図に記載のない場合は、柱に取り付く全ての梁せいが重なる範囲を仕口部とする。(図7-2-1)
- 直交梁がない場合、柱の仕口部帯筋範囲は構造図による。構造図に記載のない場合は、仕口部帯筋配筋は適用しない。(図7-2-2)
- 柱の仕口部帯筋の範囲は、図7-2-3による。
- 柱の仕口部帯筋の配筋要領は構造図による。

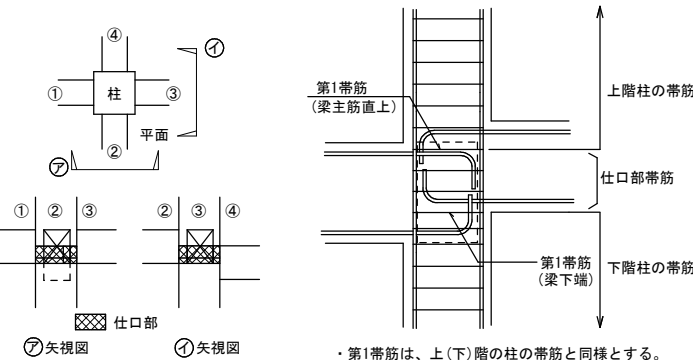


図7-2-1 柱の仕口部の範囲

図7-2-3 仕口部帯筋の範囲と第1帯筋位置

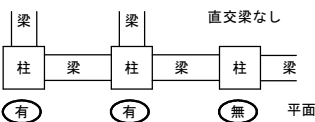


図7-2-2 柱仕口部範囲の有無

7-3 定着

- 柱部の定着は図7-3-1による。
- 柱脚部の定着は図7-3-2、図7-3-3による。

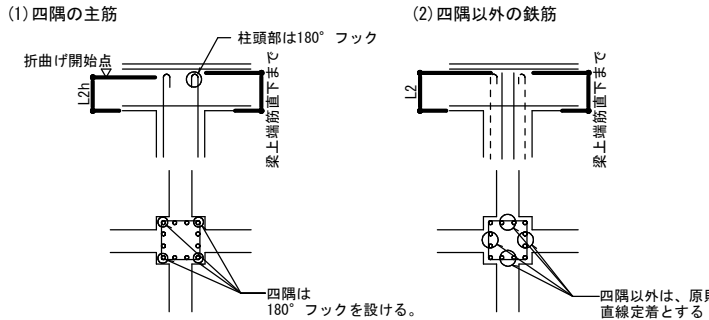


図7-3-1 最上階の柱の場合(中間階で上に柱のない場合)

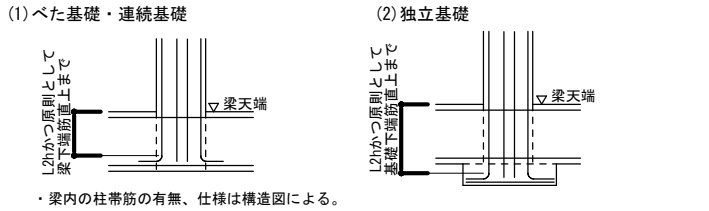


図7-3-2 最下階の柱の場合

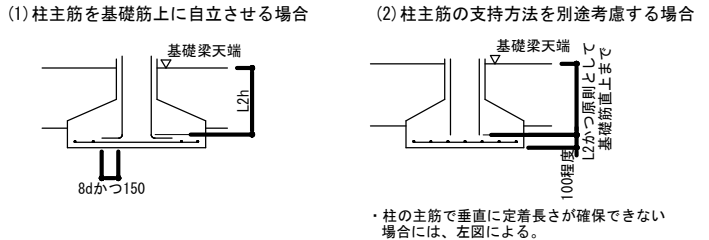


図7-3-3 最下階の柱主筋の定着と支持方法

7-4 柱主筋の折曲げ位置および帯筋

- 柱主筋の折曲げ位置は、梁の主筋間隔内でとる。(図7-4-1)
- 柱主筋を折り曲げて通し筋とする場合(図7-4-1)の梁上第1帯筋は、上階柱帯筋と同径の帯筋を2組重ねる。

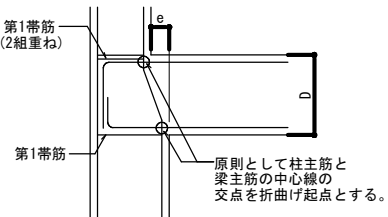


図7-4-1 柱主筋を折り曲げて通し筋とする場合(柱のしほり勾配 e/D≤1/6の場合)

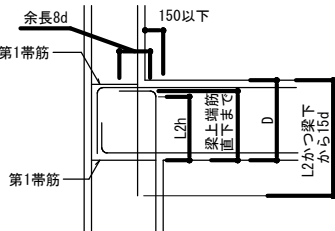


図7-4-2 柱主筋を通し筋としない場合(柱のしほり寸法が150mm以下の場合)

§8 大梁

8-1 大梁カットオフ筋長さおよび継手位置

- カットオフ筋長さは、構造図による。構造図に記載のない場合は、図8-1による。
- 大梁継手位置は、図8-1による。

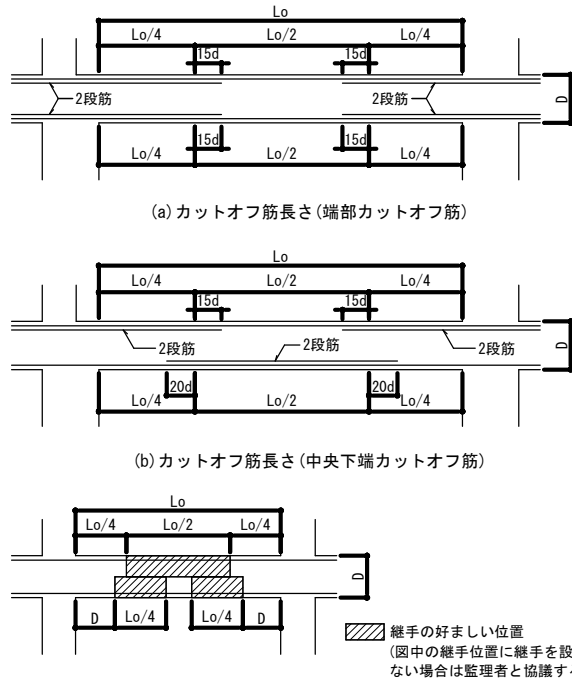


図8-1 大梁のカットオフ筋長さおよび継手位置

8-2 梁主筋の柱への定着

- 梁主筋の柱への定着は原則として折曲げ定着とし、定着要領は構造図による。構造図に記載のない場合は、図8-2-1、図8-2-2による。
- 下端筋の定着は、曲上げを原則とする。曲上げ筋がおさまらず、曲下げとする場合(図中の破線)は、監理者と協議すること。

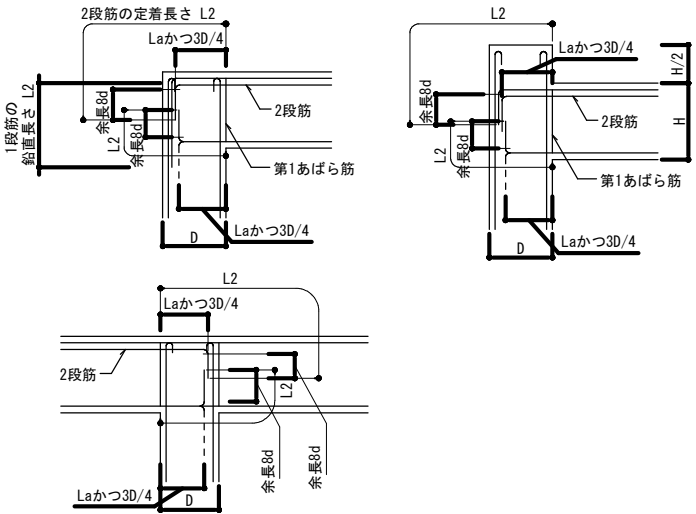


図8-2-1 最上階の場合(上に柱のない場合)

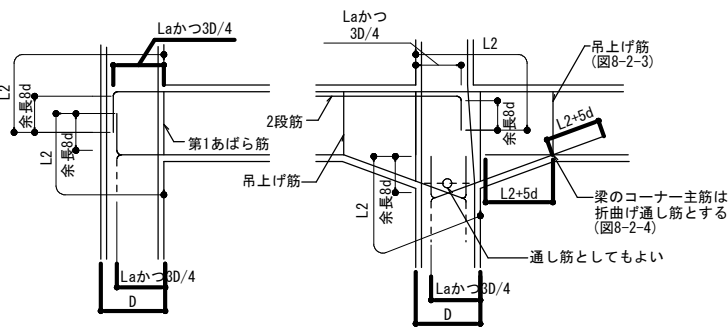


図8-2-2 中間階の場合



図8-2-3 吊上げ筋の形状

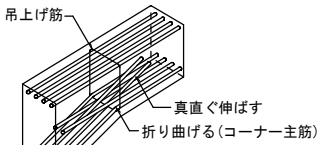


図8-2-4 ハンチ部配筋

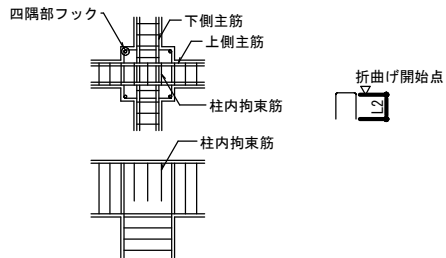
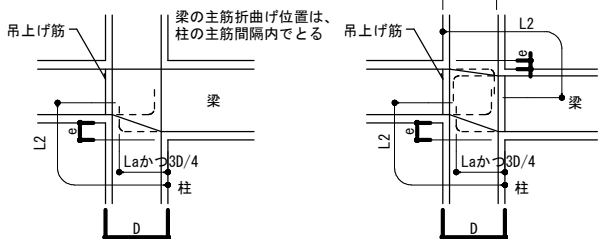


図8-2-5 最上階柱頭補強(上に柱のない場合)

- 8-3 梁主筋が真直ぐ通らない場合のおさまり
梁主筋は原則として通し筋とするが、鉄筋のあき寸法が確保できる場合は折曲げ定着としてもよい。直線定着とする場合は、監理者と協議すること。

(1) e/D≤1/6の場合



(2) e/D>1/6の場合

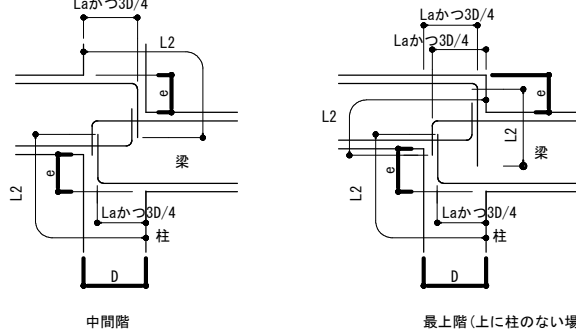


図8-3-1 鉛直方向にずれのある場合

(1) e/D≤1/6の場合

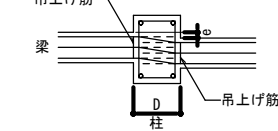
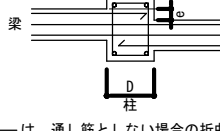


図8-3-2 水平方向にずれのある場合

(2) e/D>1/6の場合



← は、通し筋としない場合の折曲げ定着を示す。

----- は、通し筋としない場合の折曲げ定着を示す。

一級建築士 大臣登録 第301654号 板倉 祥浩

構造設計担当 田中 稔
一級建築士大臣登録 第134608
構造設計一級建築士 第3047

工事名	八代平野農業水利事業 流瀬川排水機場建設工事		
図面名	鉄筋コンクリート配筋標準図 (6)		
作成年月日			
縮尺	-	図面番号	C-07
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		

8-4 柱梁配筋概要図

1. 本図は § 6～8 に示す規定をラ－メン形に集約したものである。
2. 最上階大梁は中央カットオフ筋、中間階大梁は端部カットオフ筋、基礎梁は端部カットオフ筋(タイプC)の配筋を示す。
3. 柱梁接合部に機械式定着工法を適用する場合、各機械式定着工法に定める規定を満足すること。

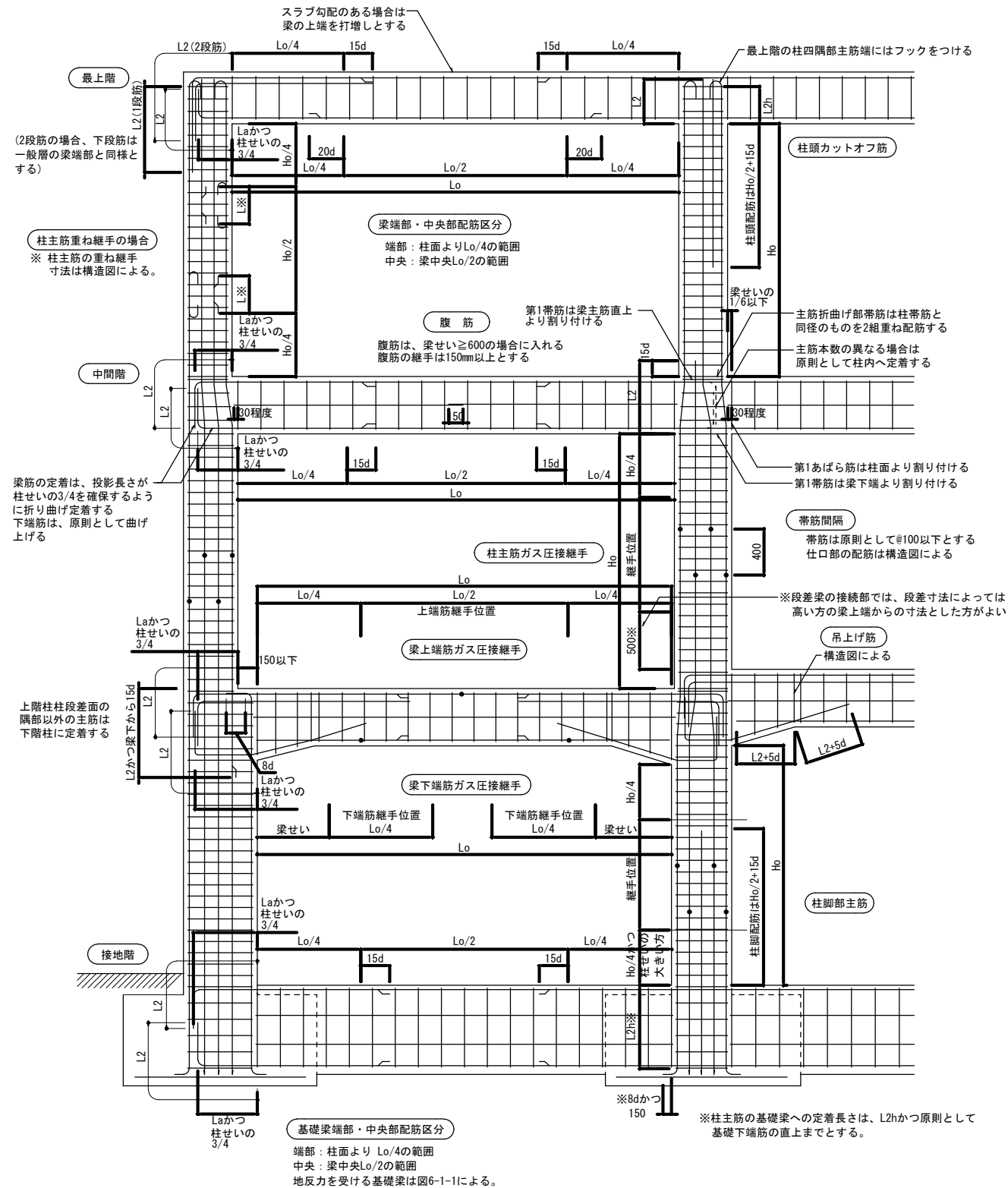
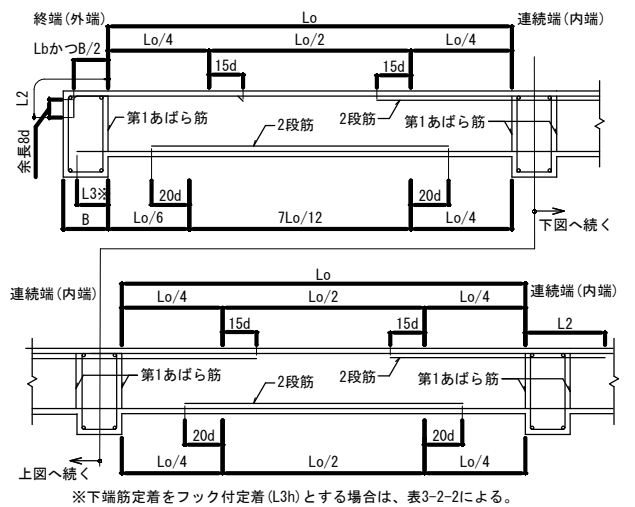


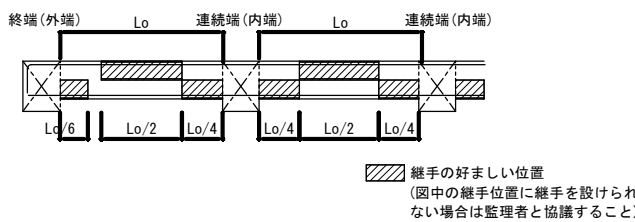
図8-4 柱梁配筋概要図

§ 9 小梁・片持ち梁

9-1 小梁の定着・カットオフ筋長さおよび継手位置

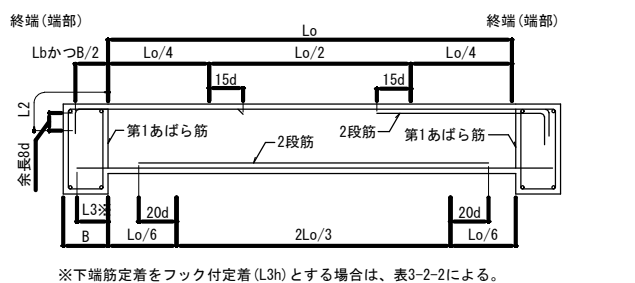


(a) 定着およびカットオフ筋長さ

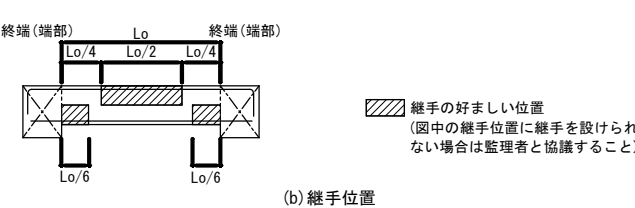


(b) 継手位置

図9-1-1 小梁(連続小梁)



(a) 定着およびカットオフ筋長さ



(b) 継手位置

図9-1-2 小梁(単独小梁)

9-2 小梁と大梁の取合い

1. 小梁主筋の定着で垂直に余長が確保できない場合は、上端筋は斜め定着、下端筋は斜め定着あるいは水平定着としてもよい。

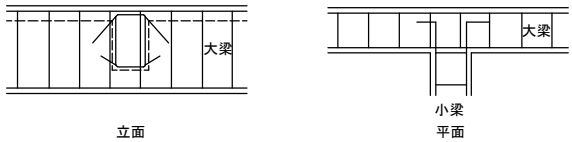


図9-2-1 小梁と大梁の取合い

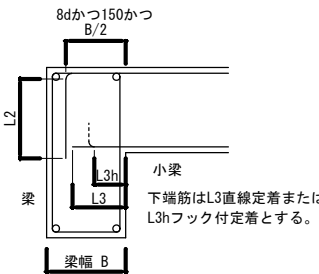
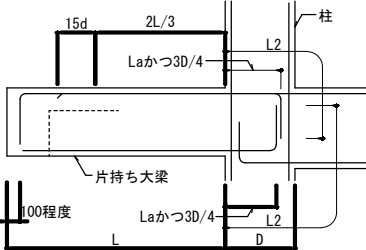


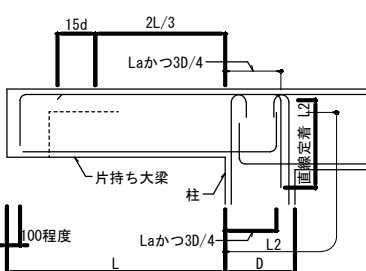
図9-2-2 幅の小さい梁への定着要領 (Lbが確保できない場合)

9-3 片持ち大梁・片持ち小梁の定着・カットオフ筋長さおよび継手位置

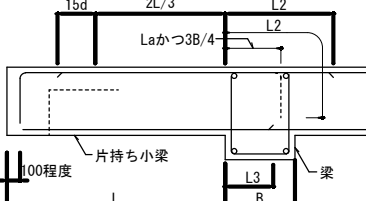
(1) 片持ち大梁(中間階)



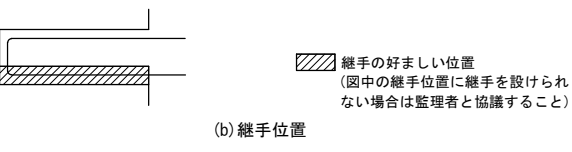
(2) 片持ち大梁(最上階)



(3) 片持ち小梁



(a) 定着およびカットオフ筋長さ



(b) 継手位置

図9-3 片持ち梁

工事名	八代平野農業水利事業 流藤川排水機場建設工事		
図面名	鉄筋コンクリート配筋標準図(7)		
作成年月日			
縮尺	-	図面番号	C-08
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		

・スラブの配筋が梁左右で同じ場合は通し筋としてもよい。

Figure 1 illustrates the reinforcement layout for a rectangular slab. The top view shows the overall dimensions L_x and L_y , with reinforcement bars spaced at $L_x/4$ and $L_y/4$. The bottom view shows the cross-section of the slab, with dimensions L_x and L_y indicated. The reinforcement layout includes top and bottom reinforcement bars, column bands, and column spacing bands. The bottom view also shows the reinforcement layout for the column bands and column spacing bands.

[illegible]

D13かつスラブ筋以上

$b \geq t$

Figure 10: Reinforcement details for a wall with a horizontal reinforcement bar (D13) and a vertical reinforcement bar (D13). The diagram shows a cross-section of a wall with a horizontal reinforcement bar (D13) and a vertical reinforcement bar (D13). The horizontal bar is labeled "D13かつスラブ筋以上" and the vertical bar is labeled "D13かつスラブ上端筋と 同径、同間隔以上をU形配筋". The wall thickness is indicated as "70未満" and the horizontal distance from the wall face to the bar is "L2". The vertical distance from the top of the wall to the bar is "L3". The horizontal distance from the wall face to the bar is "b" and the vertical distance from the top of the wall to the bar is "t". The condition "b ≧ tかつ250mm" is noted at the bottom.

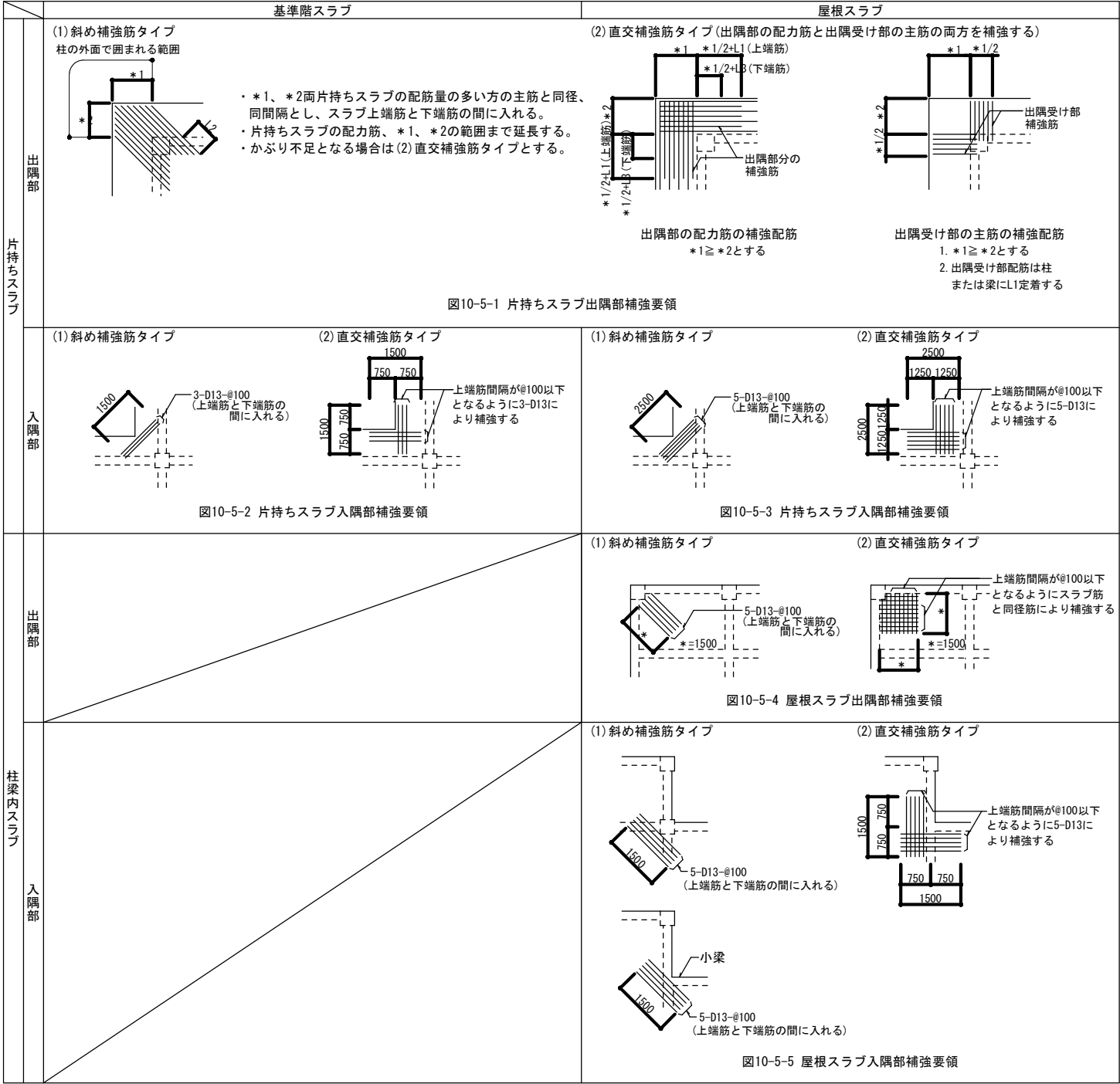
(a) 隣接スラブと同一レベルの場合

The diagram illustrates a cross-section of a cable assembly. It shows a central core surrounded by multiple layers of insulation and conductive materials. Key dimensions and labels include:

- L2**: Label for the top layer of insulation.
- a**: Dimension indicating the thickness of a specific layer.
- 8d**: Dimension indicating the diameter or width of a component.
- 10d**: Dimension indicating the diameter or width of another component.
- 100以下**: Dimension indicating a length or distance.
- 直線定着の場合は25d**: Note indicating that in the case of linear fixation, the dimension is 25d.

工事名	八代平野農業水利事業 流溪川排水機場建設工事		
図面名	鉄筋コンクリート配筋標準図（８）		
作成年月日			
縮 尺	-	図面番号	C-09
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		

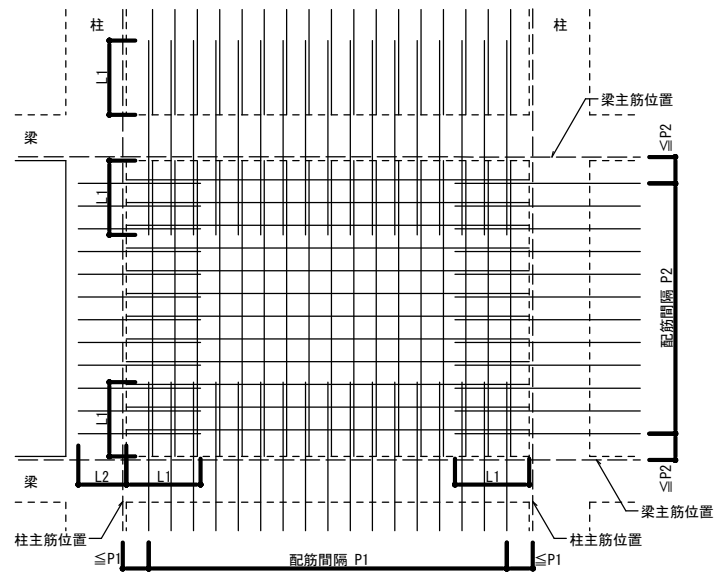
- 10-5 補強筋
1. 片持ちスラブの出隅部および入隅部補強筋は構造図による。構造図に記載のない場合は図10-5-1、図10-5-2、図10-5-3による。
2. 屋根スラブの出隅部および入隅部補強筋は構造図による。構造図に記載のない場合は図10-5-4、図10-5-5による。



§ 11 壁

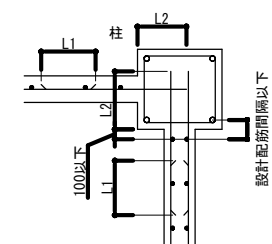
11-1 壁と柱・梁とのおさまり

1. 壁筋の継手は、壁内とし、柱、梁内に設けない。
2. 壁筋の柱、梁内の定着方法は、図11-1-2、図11-1-3、図11-1-4による。
3. 壁の第1横筋と縦筋は、柱面、梁面から100mm以下かつ柱主筋、梁主筋から設計間隔以内に配置する。



- ・ 図中のP1、P2は、壁筋の間隔を示す。
- ・ 壁配筋の重ね継手はL1、定着長さはL2とする。
- ・ 幅止め筋は、縦横ともD10-@1000程度とする。

(1) 柱に定着する場合



(2) 梁へ定着する場合

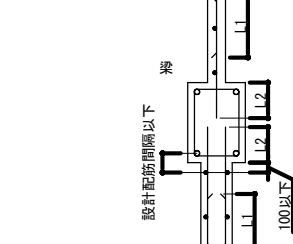
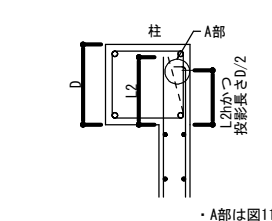


図11-1-2 帯筋、あばら筋内に配置する壁筋の定着方法

(1) 柱に定着する場合



(2) 通し筋とする場合

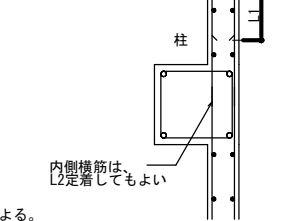
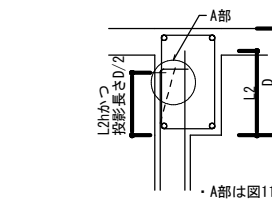


図11-1-3 柱主筋の外側を通る壁横筋の柱への定着方法

(1) 梁に定着する場合



(2) 通し筋とする場合

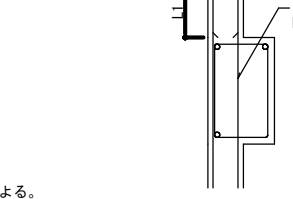
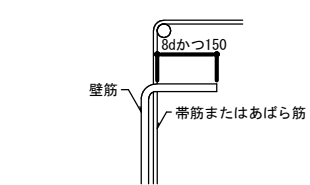
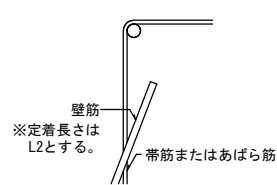


図11-1-4 梁主筋の外側を通る壁縦筋の梁への定着方法

(1) 先端90° フックとする場合



(2) 先端を斜めに折り曲げる場合



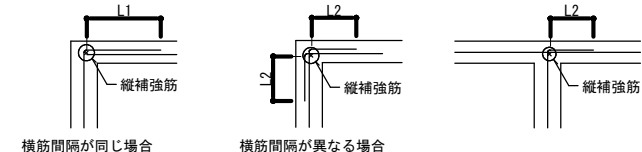
- ・ 壁筋が帯筋、あばら筋から離れた位置となる場合は、90° フックの余長部分を8dかつ150以上、帯筋、あばら筋内に定着する。

図11-1-5 A部鉄筋折曲げ形状と寸法

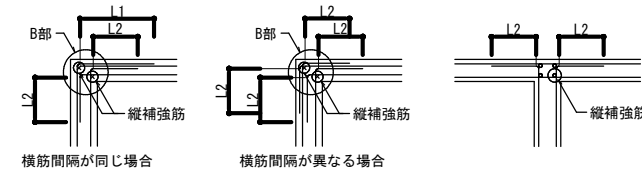
11-2 壁と壁・スラブとのおさまり

1. 縦補強筋は、D13以上かつ壁縦筋最大径以上とする。
2. 横補強筋は、D13以上かつ壁横筋最大径以上とする。

(1) シングル配筋の場合



(2) ダブル配筋の場合



(3) 壁交差部(B部)の縦補強筋配筋要領図

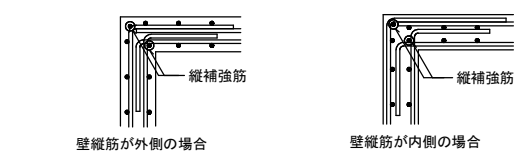
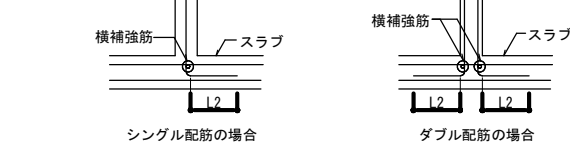


図11-2-1 壁端部と直交壁の接合部おさまり(L形・T形)

(1) 壁脚部



(2) 壁頂部

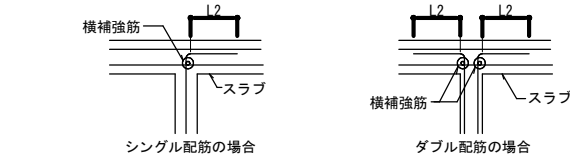


図11-2-2 壁とスラブの接合部おさまり

11-3 壁端部・開口部小口補強

	コ形補強筋が外側の場合	コ形補強筋が内側の場合	壁筋にフックを設けた場合
耐力壁			

- (注) 1. 耐力壁の場合、コ形補強筋は壁筋と同径、同間隔とする。
2. L寸法は構造図による。構造図に記載のない場合は15dとする。
3. 壁筋にフックを設けた壁で、壁厚が250mm以下の場合、開口部小口補強は省略することができる。

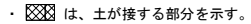
図11-3 壁端部・開口部小口補強

工事名	八代平野農業水利事業 流瀬川排水機場建設工事		
図面名	鉄筋コンクリート配筋標準図 (9)		
作成年月日			
縮 尺	-	図面番号	C-10
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		

一級建築士 大臣登録 第301654号 板倉 祥浩

構造設計担当 田中 稔
一級建築士大臣登録 第134608
構造設計一級建築士 第3047

1. 地下外壁筋筋の定着は、図11-4-1、図11-4-2、図11-4-3、図11-4-4による。
2. 地下外壁の筋筋の継手は、地下外壁内とし、柱、梁に設けない。(図11-4-5)
3. e1は壁外面と柱外面のずれ、e2は壁外面と梁外面のずれを示し、e1、e2寸法は構造図による。
4. e1、e2が70mm以上の打増し部補強は、表13-1、表13-2-1及び表13-2-2による。
5. 土に接する側の縦筋、横筋は原則として柱、梁主筋の外側を通す。



・ は、土が接する部分を示す。

図11-4-3 壁上部のおさまり

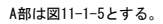
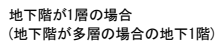


図11-4-4 地下外壁と基礎梁の接合部おさまり

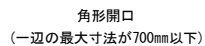


地下階が多層の場合

 継手の好ましい位置
(図中の継手位置に継手を設けられない場合は監理者と協議すること)

図11-4-5 継手位置

1. 一辺の最大寸法が700mm以下の開口に対するスラブ補強は、図12-1-1による。
2. 開口が連続するスラブの場合および片持ちスラブに開口を設ける場合の補強は構造図による。
3. スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下の場合、鉄筋を1/6以下の勾配で曲げること、または50mm以下ですることにより補強筋を省略することができる。ただし、開口部から設計かぶりを確保すること。
4. 一辺の最大寸法が700mm以下の開口に対する非耐力壁の内壁の壁開口補強は、図12-1-2による。
5. 耐力壁、非耐力壁の外壁および開口が連続する壁の場合の開口補強は構造図による。
6. 壁開口、スラブ開口が柱または梁に接する場合、接する柱、梁の部分には補強筋を省略できる。(図12-1-4、図12-1-5)
7. 壁開口の最大径が両方向の配筋間隔以下の場合、鉄筋を1/6以下の勾配で曲げること、または50mm以下ですることにより補強筋を省略することができる。ただし、開口部から設計かぶりを確保すること。



(一辺の最大寸法が700mm以下)

・開口寸法がスラブの配筋間隔以下の小開口の補強は、図12-1-3による。

・開口寸法が壁の配筋間隔以下の小開口の補強は、図12-1-3による。

(開口の大きさが、床壁の配筋間隔以下の場合)

工事名	八代平野農業水利事業 荒瀬川排水機場建設工事		
図面名	鉄筋コンクリート配筋標準図 (10)		
作成年月日			
縮 尺	-	図面番号	C-11
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		

§ 13 柱・梁・壁・スラブ打増し部配筋要領

1. 構造図に記載のない打増しを行う場合は事前に監理者と協議すること。
2. 柱、梁の打増し部に耐力壁が取り付く場合の打増し配筋要領は構造図による。
3. 打増し寸法a、a1、a2が70mm未満の場合は補強筋不要とする。
打増し寸法a、a1、a2が70mm≦a≦200mmの場合の打増し部補強要領は図13-1-1～図13-3-2による。
4. 打増し寸法a、a1、a2が200mmを超える場合の打増し部詳細事項は構造図による。
5. 部は打増しコンクリートを示す。
- ※部の打増し補強筋の定着長さについては、監理者に確認すること。

13-1 柱

1. 梁、耐力壁およびスラブの鉄筋の定着長さは、柱躯体内で確保し、打増し部は定着長さに算定しない。
2. 柱の打増し部配筋要領は表13-1、図13-1-1、図13-1-2による。

表13-1 柱補強筋 (耐力壁が取り付く場合の要領は構造図による)	
補強主筋	D16-@300程度
補強帯筋	D13-@100程度

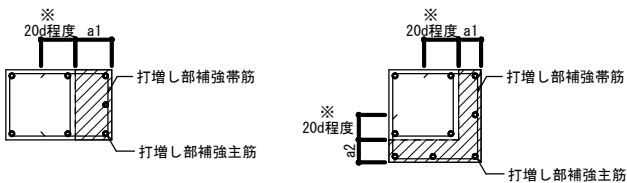


図13-1-1 柱の打増し要領

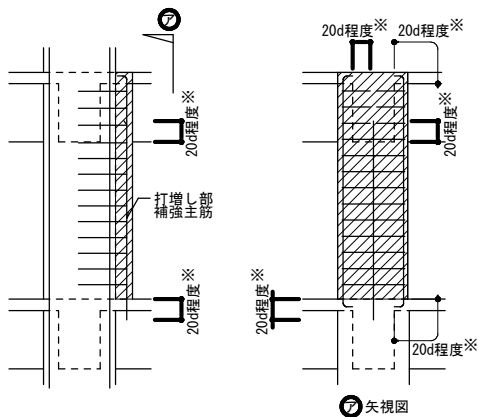


図13-1-2 柱打増し部の補強主筋の定着

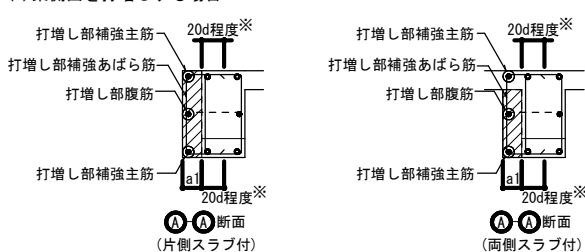
13-2 梁

1. 小梁、耐力壁およびスラブの鉄筋の定着長さは、梁躯体内で確保し、打増し部は定着長さに算定しない。
2. 梁の打増し部配筋要領は表13-2-1、表13-2-2、図13-2-1による。
3. 打増し部腹筋は梁と同径、同段数とする。

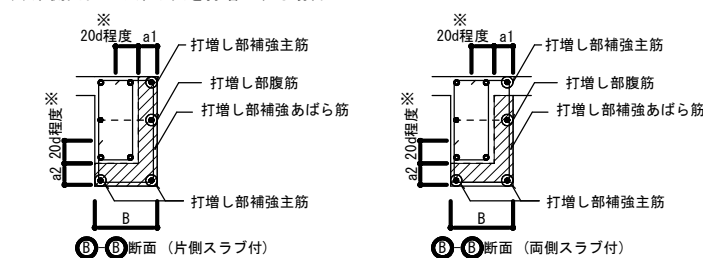
表13-2-1 梁側面補強筋 (耐力壁が取り付く場合の要領は構造図による)	
補強主筋	D16
補強あばら筋	梁あばら筋と同径、 間隔200mm以下

表13-2-2 梁上下面補強筋 (耐力壁・スラブが取り付く場合の要領は構造図による)		
梁幅	B≦350mm	350mm<B
補強主筋	2-D16	D16-@250以下
補強あばら筋	梁あばら筋と同径、間隔200mm以下	

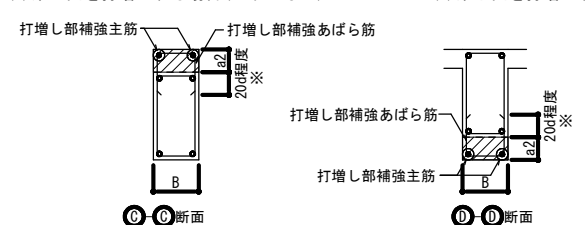
(1) 梁側面を打増しする場合



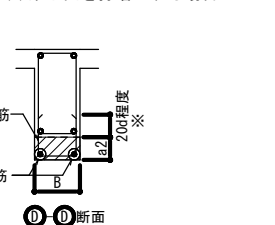
(2) 梁側面および梁下面を打増しする場合



(3) 梁上面を打増しする場合(スラブなし)



(4) 梁下面を打増しする場合



・スラブが取付く場合は図10-3-2、図10-3-3を参照。

図13-2-1 梁の打増し要領

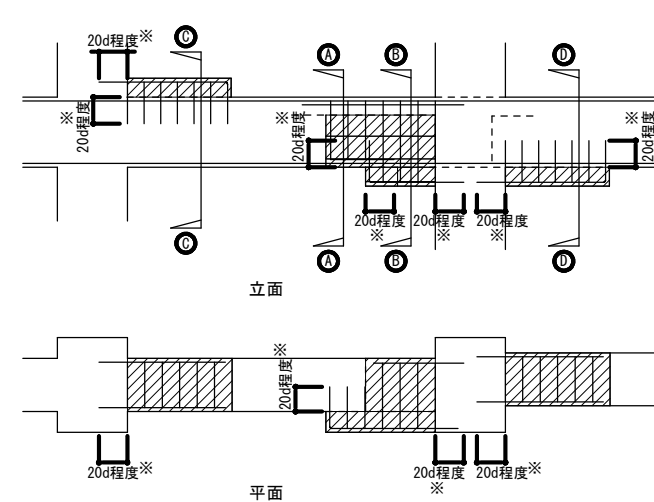


図13-2-2 梁打増し部の補強主筋の定着

13-3 壁・スラブ

1. 壁およびスラブの打増し部配筋要領は図13-3-1、図13-3-2による。

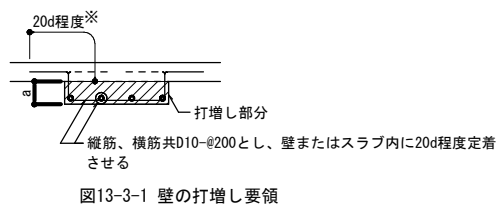


図13-3-1 壁の打増し要領

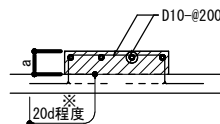


図13-3-2 スラブの打増し要領

工事名	八代平野農業水利事業 流瀧川排水機場建設工事		
図面名	鉄筋コンクリート配筋標準図 (11)		
作成年月日			
縮 尺	-	図面番号	C-12
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		

鉄骨工作標準図（１）																																															
1 本標準図は溶接接合の標準を示すもので、構造図は本標準図より優先する。2 構造図、本標準図に記載なきは、① 公共建築工事標準仕様書、② 建築鉄骨設計基準及び同解説、③ J A S S 6 鉄骨工事 に倣うものとする。3 完全溶込み溶接部の検査は超音波探傷試験を行なう。																																															
溶接記号の記載方法 ＊両面溶接とは、裏はつりの有無にかかわらず、鋼材の表側と裏側の両面より溶接を行うものとする。		裏当て金 片面溶接に用いる裏当て金は、断続隅肉溶接とする。裏当て金の材質は、原則として母材と同等以上のものとする。		余盛り、裏はつり 余盛り 突合わせ継手、かど継手、隅肉溶接及びフレア溶接の溶接部は余盛りを行い、その高さの限度は下記による。 (単位：mm) <table><tr><th>溶 接 継 手</th><th>溶 接 工 法</th><th>余盛りの限度</th></tr><tr><td>突合わせ継手</td><td>手溶接</td><td>3</td></tr><tr><td>かど継手</td><td>半自動溶接</td><td>4</td></tr><tr><td></td><td>自動溶接</td><td>4</td></tr><tr><td>隅肉溶接</td><td>手溶接</td><td></td></tr><tr><td>フレア溶接</td><td>半自動溶接</td><td>3</td></tr></table> 裏はつり 突合わせ溶接における両面溶接は、原則として裏はつりを行い、裏はつりは、健全な溶接部分が現れるまではつり取った後、裏溶接を行う。但し、自動溶接において完全溶込みがえられたことが超音波探傷試験等で確認できる場合は、裏はつりを省略することができる。		溶 接 継 手	溶 接 工 法	余盛りの限度	突合わせ継手	手溶接	3	かど継手	半自動溶接	4		自動溶接	4	隅肉溶接	手溶接		フレア溶接	半自動溶接	3	エンドタブ エンドタブは原則として母材と同等以上のものとし、同厚、同開先ものをを用い、長さは下記による。 (単位：mm) <table><tr><th>溶接工法</th><th>L (mm)</th></tr><tr><td>手溶接</td><td>35以上</td></tr><tr><td>半自動溶接</td><td>38以上</td></tr><tr><td>自動溶接</td><td>70以上</td></tr></table>		溶接工法	L (mm)	手溶接	35以上	半自動溶接	38以上	自動溶接	70以上	スカラップ 本工事の開先加工及びスカラップ加工は Ⅱ) を原則とする。角形鋼管柱－ノンスカラップ標準詳細図参照のこと。		スニップカット 本工事のガセットプレートに適用する。 (単位 mm) <table><tr><td>t</td><td>6</td><td>9</td><td>12</td><td>16以上</td></tr><tr><td>Sc</td><td>10</td><td>12</td><td>14</td><td>15</td></tr></table>		t	6	9	12	16以上	Sc	10	12	14	15
溶 接 継 手	溶 接 工 法	余盛りの限度																																													
突合わせ継手	手溶接	3																																													
かど継手	半自動溶接	4																																													
	自動溶接	4																																													
隅肉溶接	手溶接																																														
フレア溶接	半自動溶接	3																																													
溶接工法	L (mm)																																														
手溶接	35以上																																														
半自動溶接	38以上																																														
自動溶接	70以上																																														
t	6	9	12	16以上																																											
Sc	10	12	14	15																																											
溶接工法 アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接 セルフガスシールドアーク半自動溶接 サブマージアーク自動溶接 アークスタッド溶接 溶接継手 突合わせ溶接 T型継手 隅肉溶接 部分溶込み溶接 フレア溶接 溶接面 片面溶接 両面溶接		裏当て金の厚さ (単位：mm) <table><tr><th>溶接工法</th><th>t₃</th></tr><tr><td>手溶接</td><td>6以上</td></tr><tr><td>半自動溶接</td><td>9以上</td></tr><tr><td>自動溶接</td><td>12以上</td></tr></table> 溶接のサイズ (単位：mm) <table><tr><th>裏当て金の厚さ</th><th>S</th></tr><tr><td>t₃ ≤ 9</td><td>5</td></tr><tr><td>t₃ > 9</td><td>9</td></tr></table> 注）R付き裏当て金についても本図、表に倣うものとする。		溶接工法	t ₃	手溶接	6以上	半自動溶接	9以上	自動溶接	12以上	裏当て金の厚さ	S	t ₃ ≤ 9	5	t ₃ > 9	9	突合わせ継手 (B) (単位：mm)		T型継手 (T) Sは、補強隅肉溶接を示し、そのサイズは突き合わせる板厚の1／4以上 かつ 10mm以下とする。 (単位：mm)		かど継手 (L) Sは、補強隅肉溶接を示し、そのサイズは突き合わせる板厚の1／4以上 かつ、10mm以下とする。 (単位：mm)		スニップカット 溶接の交差部をスニップカット（Sc）で処理する場合の標準寸法は、鋼材の板厚に応じて下記表によるものとし、スニップカット部は、溶接により埋めるものとする。ただし既製鋼のスニップカットは、Sc = r + 2mmとする。																							
溶接工法	t ₃																																														
手溶接	6以上																																														
半自動溶接	9以上																																														
自動溶接	12以上																																														
裏当て金の厚さ	S																																														
t ₃ ≤ 9	5																																														
t ₃ > 9	9																																														
H （アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接およびセルフガスシールドアーク半自動溶接）		A （サブマージアーク自動溶接）		H （アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接およびセルフガスシールドアーク半自動溶接）		A （サブマージアーク自動溶接）		H （アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接およびセルフガスシールドアーク半自動溶接）		A （サブマージアーク自動溶接）																																					
1（片面溶接） t ≤ 6		1（片面溶接） t ≤ 12		1（片面溶接） t ≤ 6		1（片面溶接） t ≤ 12		1（片面溶接） t ≤ 6		1（片面溶接） t ≤ 12																																					
2（両面溶接） 6 < t ≤ 19		2（両面溶接） 12 < t ≤ 22		2（両面溶接） 6 < t ≤ 19		2（両面溶接） 12 < t ≤ 22		2（両面溶接） 6 < t ≤ 19		2（両面溶接） 12 < t ≤ 22																																					
19 < t ≤ 32		22 < t ≤ 32		19 < t ≤ 32		22 < t ≤ 32		19 < t ≤ 32		22 < t ≤ 32																																					
32 < t ≤ 49		49 < t ≤ 65		32 < t ≤ 49		49 < t ≤ 65		32 < t ≤ 49		49 < t ≤ 65																																					
49 < t ≤ 65		65 < t ≤ 99		49 < t ≤ 65		65 < t ≤ 99		49 < t ≤ 65		65 < t ≤ 99																																					
65 < t ≤ 99		99 < t ≤ 149		65 < t ≤ 99		99 < t ≤ 149		65 < t ≤ 99		99 < t ≤ 149																																					
99 < t ≤ 149		149 < t ≤ 199		99 < t ≤ 149		149 < t ≤ 199		99 < t ≤ 149		149 < t ≤ 199																																					
149 < t ≤ 199		199 < t ≤ 249		149 < t ≤ 199		199 < t ≤ 249		149 < t ≤ 199		199 < t ≤ 249																																					
199 < t ≤ 249		249 < t ≤ 299		199 < t ≤ 249		249 < t ≤ 299		199 < t ≤ 249		249 < t ≤ 299																																					
249 < t ≤ 299		299 < t ≤ 349		249 < t ≤ 299		299 < t ≤ 349		249 < t ≤ 299		299 < t ≤ 349																																					
299 < t ≤ 349		349 < t ≤ 399		299 < t ≤ 349		349 < t ≤ 399		299 < t ≤ 349		349 < t ≤ 399																																					
349 < t ≤ 399		399 < t ≤ 449		349 < t ≤ 399		399 < t ≤ 449		349 < t ≤ 399		399 < t ≤ 449																																					
399 < t ≤ 449		449 < t ≤ 499		399 < t ≤ 449		449 < t ≤ 499		399 < t ≤ 449		449 < t ≤ 499																																					
449 < t ≤ 499		499 < t ≤ 549		449 < t ≤ 499		499 < t ≤ 549		449 < t ≤ 499		499 < t ≤ 549																																					
499 < t ≤ 549		549 < t ≤ 599		499 < t ≤ 549		549 < t ≤ 599		499 < t ≤ 549		549 < t ≤ 599																																					
549 < t ≤ 599		599 < t ≤ 649		549 < t ≤ 599		599 < t ≤ 649		549 < t ≤ 599		599 < t ≤ 649																																					
599 < t ≤ 649		649 < t ≤ 699		599 < t ≤ 649		649 < t ≤ 699		599 < t ≤ 649		649 < t ≤ 699																																					
649 < t ≤ 699		699 < t ≤ 749		649 < t ≤ 699		699 < t ≤ 749		649 < t ≤ 699		699 < t ≤ 749																																					
699 < t ≤ 749		749 < t ≤ 799		699 < t ≤ 749		749 < t ≤ 799		699 < t ≤ 749		749 < t ≤ 799																																					
749 < t ≤ 799		799 < t ≤ 849		749 < t ≤ 799		799 < t ≤ 849		749 < t ≤ 799		799 < t ≤ 849																																					
799 < t ≤ 849		849 < t ≤ 899		799 < t ≤ 849		849 < t ≤ 899		799 < t ≤ 849		849 < t ≤ 899																																					
849 < t ≤ 899		899 < t ≤ 949		849 < t ≤ 899		899 < t ≤ 949		849 < t ≤ 899		899 < t ≤ 949																																					
899 < t ≤ 949		949 < t ≤ 999		899 < t ≤ 949		949 < t ≤ 999		899 < t ≤ 949		949 < t ≤ 999																																					
949 < t ≤ 999		999 < t ≤ 1049		949 < t ≤ 999		999 < t ≤ 1049		949 < t ≤ 999		999 < t ≤ 1049																																					
999 < t ≤ 1049		1049 < t ≤ 1099		999 < t ≤ 1049		1049 < t ≤ 1099		999 < t ≤ 1049		1049 < t ≤ 1099																																					
1049 < t ≤ 1099		1099 < t ≤ 1149		1049 < t ≤ 1099		1099 < t ≤ 1149		1049 < t ≤ 1099		1099 < t ≤ 1149																																					
1099 < t ≤ 1149		1149 < t ≤ 1199		1099 < t ≤ 1149		1149 < t ≤ 1199		1099 < t ≤ 1149		1149 < t ≤ 1199																																					
1149 < t ≤ 1199		1199 < t ≤ 1249		1149 < t ≤ 1199		1199 < t ≤ 1249		1149 < t ≤ 1199		1199 < t ≤ 1249																																					
1199 < t ≤ 1249		1249 < t ≤ 1299		1199 < t ≤ 1249		1249 < t ≤ 1299		1199 < t ≤ 1249		1249 < t ≤ 1299																																					
1249 < t ≤ 1299		1299 < t ≤ 1349		1249 < t ≤ 1299		1299 < t ≤ 1349		1249 < t ≤ 1299		1299 < t ≤ 1349																																					
1299 < t ≤ 1349		1349 < t ≤ 1399		1299 < t ≤ 1349		1349 < t ≤ 1399		1299 < t ≤ 1349		1349 < t ≤ 1399																																					
1349 < t ≤ 1399		1399 < t ≤ 1449		1349 < t ≤ 1399		1399 < t ≤ 1449		1349 < t ≤ 1399		1399 < t ≤ 1449																																					
1399 < t ≤ 1449		1449 < t ≤ 1499		1399 < t ≤ 1449		1449 < t ≤ 1499		1399 < t ≤ 1449		1449 < t ≤ 1499																																					
1449 < t ≤ 1499		1499 < t ≤ 1549		1449 < t ≤ 1499		1499 < t ≤ 1549		1449 < t ≤ 1499		1499 < t ≤ 1549																																					
1499 < t ≤ 1549		1549 < t ≤ 1599		1499 < t ≤ 1549		1549 < t ≤ 1599		1499 < t ≤ 1549		1549 < t ≤ 1599																																					
1549 < t ≤ 1599		1599 < t ≤ 1649		1549 < t ≤ 1599		1599 < t ≤ 1649		1549 < t ≤ 1599		1599 < t ≤ 1649																																					
1599 < t ≤ 1649		1649 < t ≤ 1699		1599 < t ≤ 1649		1649 < t ≤ 1699		1599 < t ≤ 1649		1649 < t ≤ 1699																																					
1649 < t ≤ 1699		1699 < t ≤ 1749		1649 < t ≤ 1699		1699 < t ≤ 1749		1649 < t ≤ 1699		1699 < t ≤ 1749																																					
1699 < t ≤ 1749		1749 < t ≤ 1799		1699 < t ≤ 1749		1749 < t ≤ 1799		1699 < t ≤ 1749		1749 < t ≤ 1799																																					
1749 < t ≤ 1799		1799 < t ≤ 1849		1749 < t ≤ 1799		1799 < t ≤ 1849		1749 < t ≤ 1799		1799 < t ≤ 1849																																					
1799 < t ≤ 1849		1849 < t ≤ 1899		1799 < t ≤ 1849		1849 < t ≤ 1899		1799 < t ≤ 1849		1849 < t ≤ 1899																																					
1849 < t ≤ 1899		1899 < t ≤ 1949		1849 < t ≤ 1899		1899 < t ≤ 1949		1849 < t ≤ 1899		1899 < t ≤ 1949																																					
1899 < t ≤ 1949		1949 < t ≤ 1999		1899 < t ≤ 1949		1949 < t ≤ 1999		1899 < t ≤ 1949		1949 < t ≤ 1999																																					
1949 < t ≤ 1999		1999 < t ≤ 2049		1949 < t ≤ 1999		1999 < t ≤ 2049		1949 < t ≤ 1999		1999 < t ≤ 2049																																					
1999 < t ≤ 2049		2049 < t ≤ 2099		1999 < t ≤ 1999		2049 < t ≤ 2099		1999 < t ≤ 1999		2049 < t ≤ 2099																																					
2049 < t ≤ 2099		2099 < t ≤ 2149		2049 < t ≤ 2099		2099 < t ≤ 2149		2049 < t ≤ 2099		2099 < t ≤ 2149																																					
2099 < t ≤ 2149		2149 < t ≤ 2199		2099 < t ≤ 2149		2149 < t ≤ 2199		2099 < t ≤ 2149		2149 < t ≤ 2199																																					
2149 < t ≤ 2199		2199 < t ≤ 2249		2149 < t ≤ 2199		2199 < t ≤ 2249		2149 < t ≤ 2199		2199 < t ≤ 2249																																					
2199 < t ≤ 2249		2249 < t ≤ 2299		2199 < t ≤ 2199		2249 < t ≤ 2299		2199 < t ≤ 2199		2249 < t ≤ 2299																																					
2249 < t ≤ 2299		2299 < t ≤ 2349		2249 < t ≤ 2299		2299 < t ≤ 2349		2249 < t ≤ 2299		2299 < t ≤ 2349																																					
2299 < t ≤ 2349		2349 < t ≤ 2399		2299 < t ≤ 2299		2349 < t ≤ 2399		2299 < t ≤ 2299		2349 < t ≤ 2399																																					
2349 < t ≤ 2399		2399 < t ≤ 2449		2349 < t ≤ 2399		2399 < t ≤ 2449		2349 < t ≤ 2399		2399 < t ≤ 2449																																					
2399 < t ≤ 2449		2449 < t ≤ 2499		2399 < t ≤ 2399		2449 < t ≤ 2499		2399 < t ≤ 2399		2449 < t ≤ 2499																																					
2449 < t ≤ 2499		2499 < t ≤ 2549		2449 < t ≤ 2499		2499 < t ≤ 2549		2449 < t ≤ 2499		2499 < t ≤ 2549																																					
2499 < t ≤ 2549		2549 < t ≤ 2599		2499 < t ≤ 2499		2549 < t ≤ 2599		2499 < t ≤ 2499		2549 < t ≤ 2599																																					
2549 < t ≤ 2599		2599 < t ≤ 2649		2549 < t ≤ 2599		2599 < t ≤ 2649		2549 < t ≤ 2599		2599 < t ≤ 2649																																					
2599 < t ≤ 2649		2649 < t ≤ 2699		2599 < t ≤ 2599		2649 < t ≤ 2699		2599 < t ≤ 2599		2649 < t ≤ 2699																																					
2649 < t ≤ 2699		2699 < t ≤ 2749		2649 < t ≤ 2699		2699 < t ≤ 2749		2649 < t ≤ 2699		2699 < t ≤ 2749																																					
2699 < t ≤ 2749		2749 < t ≤ 2799		2699 < t ≤ 2699		2749 < t ≤ 2799		2699 < t ≤ 2699		2749 < t ≤ 2799																																					
2749 < t ≤ 2799		2799 < t ≤ 2849		2749 < t ≤ 2799		2799 < t ≤ 2849		2749 < t ≤ 2799		2799 < t ≤ 2849																																					
2799 < t ≤ 2849		2849 < t ≤ 2899		2799 < t ≤ 2799		2849 < t ≤ 2899		2799 < t ≤ 2799		2849 < t ≤ 2899																																					
2849 < t ≤ 2899		2899 < t ≤ 2949		2849 < t ≤ 2899		2899 < t ≤ 2949		2849 < t ≤ 2899		2899 < t ≤ 2949																																					
2899 < t ≤ 2949		2949 < t ≤ 2999		2899 < t ≤ 2899		2949 < t ≤ 2999		2899 < t ≤ 2899		2949 < t ≤ 2999																																					
2949 < t ≤ 2999		2999 < t ≤ 3049		2949 < t ≤ 2999		2999 < t ≤ 3049		2949 < t ≤ 2999		2999 < t ≤ 3049																																					
2999 < t ≤ 3049		3049 < t ≤ 3099		2999 < t ≤ 2999		3049 < t ≤ 3099		2999 < t ≤ 2999		3049 < t ≤ 3099																																					
3049 < t ≤ 3099		3099 < t ≤ 3149		3049 < t ≤ 3099		3099 < t ≤ 3149		3049 < t ≤ 3099		3099 < t ≤ 3149																																					
3099 < t ≤ 3149		3149 < t ≤ 3199		3099 < t ≤ 3099		3149 < t ≤ 3199		3099 < t ≤ 3099		3149 < t ≤ 3199																																					
3149 < t ≤ 3199		3199 < t ≤ 3249		3149 < t ≤ 3199		3199 < t ≤ 3249		3149 < t ≤ 3199		3199 < t ≤ 3249																																					
3199 < t ≤ 3249		3249 < t ≤ 3299		3199 < t ≤ 3199		3249 < t ≤ 3299		3199 < t ≤ 3199		3249 < t ≤ 3299																																					
3249 < t ≤ 3299		3299 < t ≤ 3349		3249 < t ≤ 3299		3299 < t ≤ 3349		3249 < t ≤ 3299		3299 < t ≤ 3349																																					
3299 < t ≤ 3349		3349 < t ≤ 3399		3299 < t ≤ 3299		3349 < t ≤ 3399		3299 < t ≤ 3299		3349 < t ≤ 3399																																					
3349 < t ≤ 3399		3399 < t ≤ 3449		3349 < t ≤ 3399		3399 < t ≤ 3449		3349 < t ≤ 3399		3399 < t ≤ 3449																																					

鉄骨工作標準図（２）

１ 構造図は本標準図より優先する。

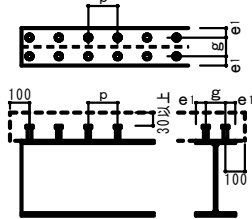
２ 構造図、本標準図に記載なきは、① 公共建築工事標準仕様書、②建築鉄骨設計基準及び同解説 及び ③ J A S S ６ 鉄骨工事に倣うものとする。

スタッド溶接

- (1) スタッド溶接は、アークスタッド溶接方式による直接溶接とし、溶接姿勢は下向きを原則とする。
- (2) スタッド溶接材料は、JIS B1198「頭付スタッド」の規格に適合するものとし、適用する呼び名は、１３、１６、１９、２２の４種類とする。
- (3) スタッド溶接はデッキプレート上から行なってはならない。ただしデッキプレート厚 $t=1.6\text{mm}$ 以下で、あらかじめ良好な溶接が得られることが確認された場合についてはこの限りではない。

表１ スタッドの間隔、ゲージ等の寸法

項目	寸法
間隔 p	呼び径の 7.5 倍以上 60mm 以下
最小ゲージ g	呼び径の 5 倍以上
へりあき e	40mm (S 部)、100mm (RC 部) 以上
かぶり	30mm 以上
最大径	2.5 t 以下 (ウエブ直上は別)



高力ボルト接合等

表２ ボルト孔の径 (mm)

ボルトの種類	M12	M16	M20	M22	M24
高力ボルト (F10T, S10T)	14	18	22	24	26
溶融亜鉛めっき高力ボルト (F8T相当) * 1		17.5	22	24	26
普通ボルト * 2	12.5	16.5	20.5	22.5	24.5

* 1 大臣認定条件による。

* 2 母屋、胴縁類の取付用ボルトの場合はボルト径+1.0mmとすることができる。

表３ 縁端距離及びボルト間隔 (mm)

ねじの呼び径	縁端距離 e	ボルト間隔 p
M12 M16 M20 M22	40	60
M24	45	70

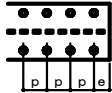


表４ 千鳥打ちのゲージ及び間隔 (mm)

ゲージ g	千鳥打ちの間隔 p t	
	M12, M16, M20, M22	M24
35	50	65
40	45	60
45	40	55
50	35	50
55	25	45
60	--	40

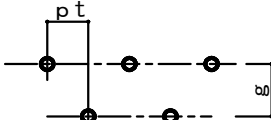
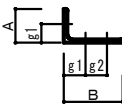
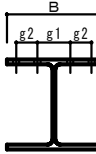
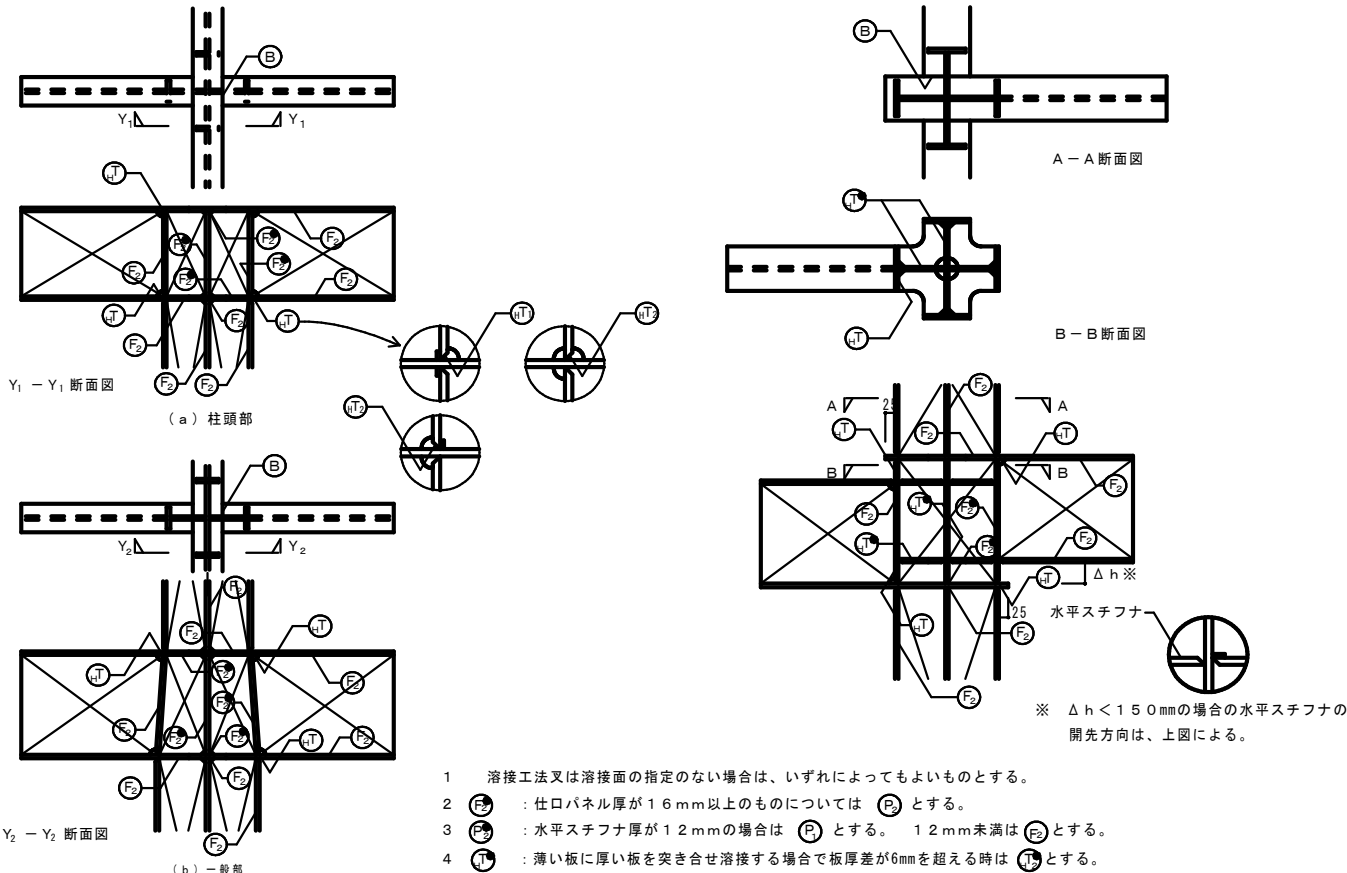


表５ 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径

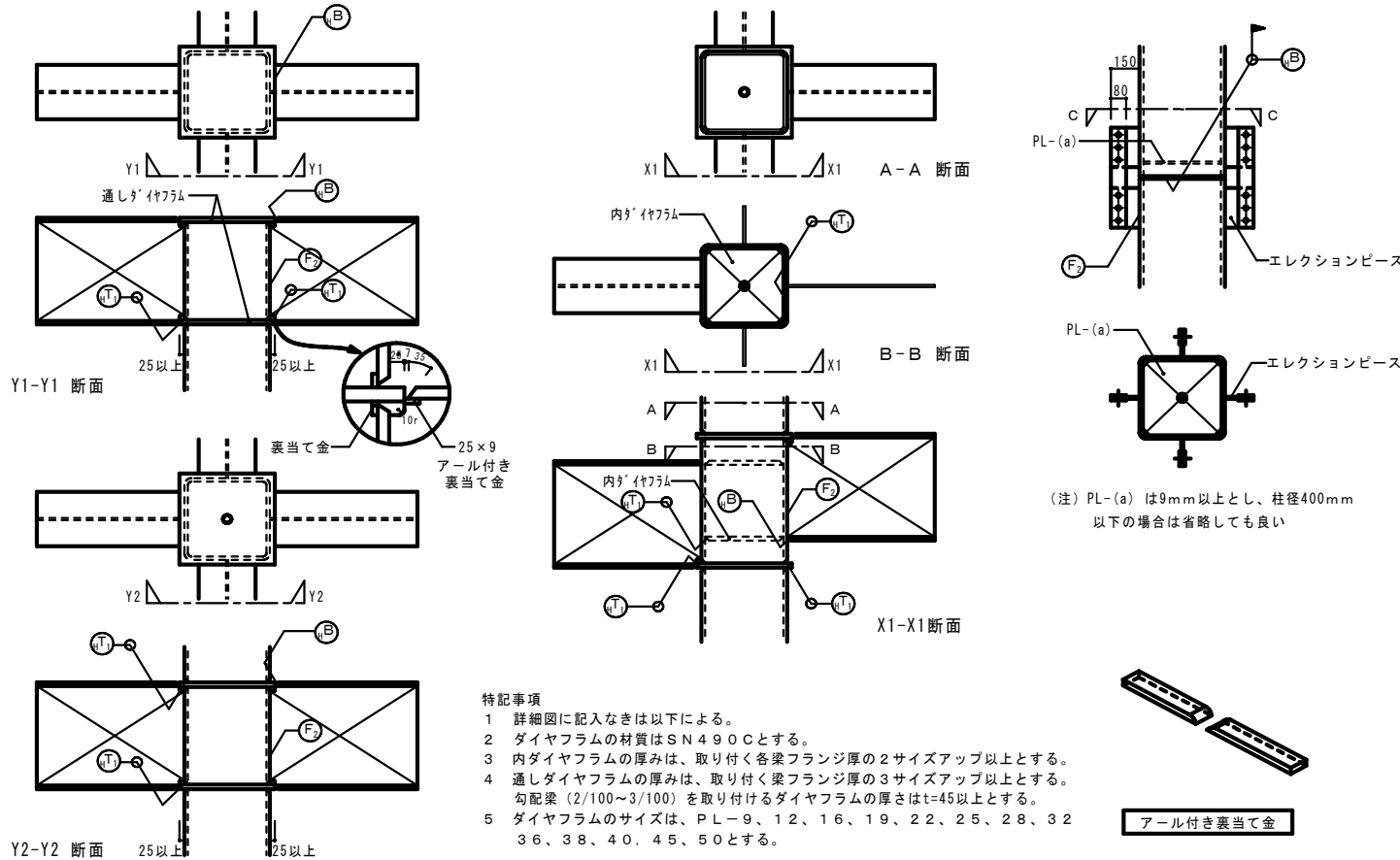
											
A 又は B	g 1	g 2	最大軸径	B	g 1	g 2	最大軸径	B	g 3	最大軸径	
45	25	---	12	100	56		16	50	30	12	
50	28	---	16	125	75		16	65	35	20	
60	35	---	16	150	90		22	70	40	20	
65	35	---	20	175	105		22	75	40	22	
70	40	---	20	200	120		24	80	45	22	
75	40	---	22	250	150		24	90	50	24	
80	45	---	22	300	150	40*	24	100	55	24	
90	50	---	24	350	140	70	24				
100	55	---	24	400	140	90	24				
125	50	35	24	* 印は千鳥打ちとした場合							
130	50	40	24								
150	55	55	24								
175	60	70	24								
200	60	90	24								

* 印は千鳥打ちとした場合

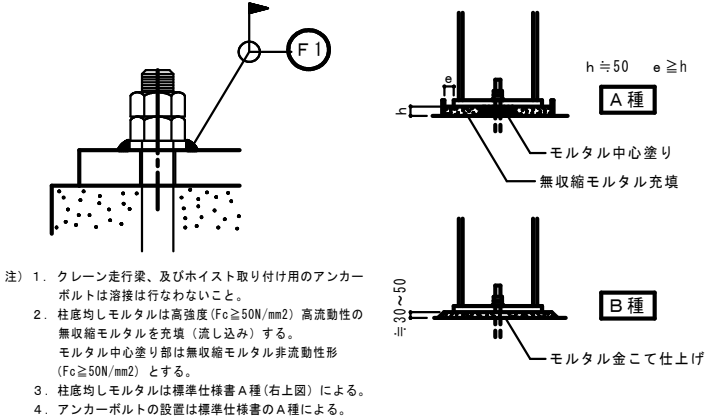
仕口部溶接組立要領図－１（十字型柱＋梁通しタイプ）



仕口部溶接組立要領図－２（通しダイヤフラム形式）及び 鋼管柱現場継ぎ手要領



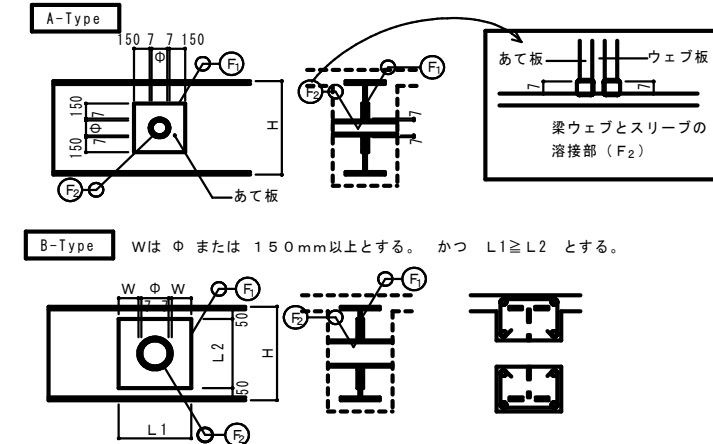
座金とアンカーボルトの全周溶接 及び 柱底均しモルタル等



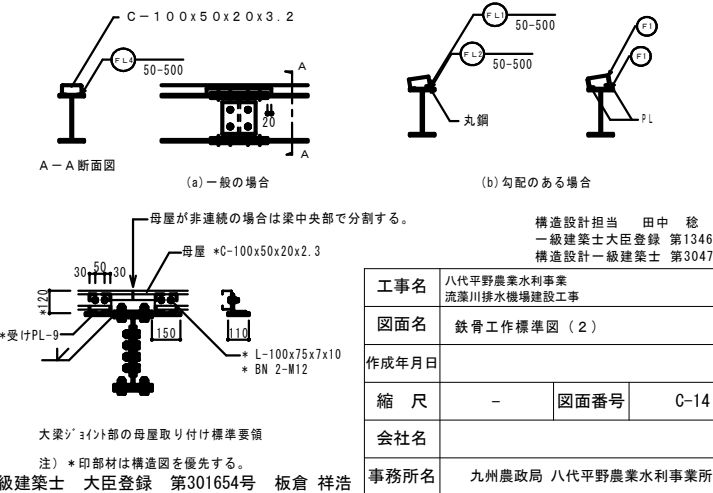
鉄骨梁貫通孔補強要領図

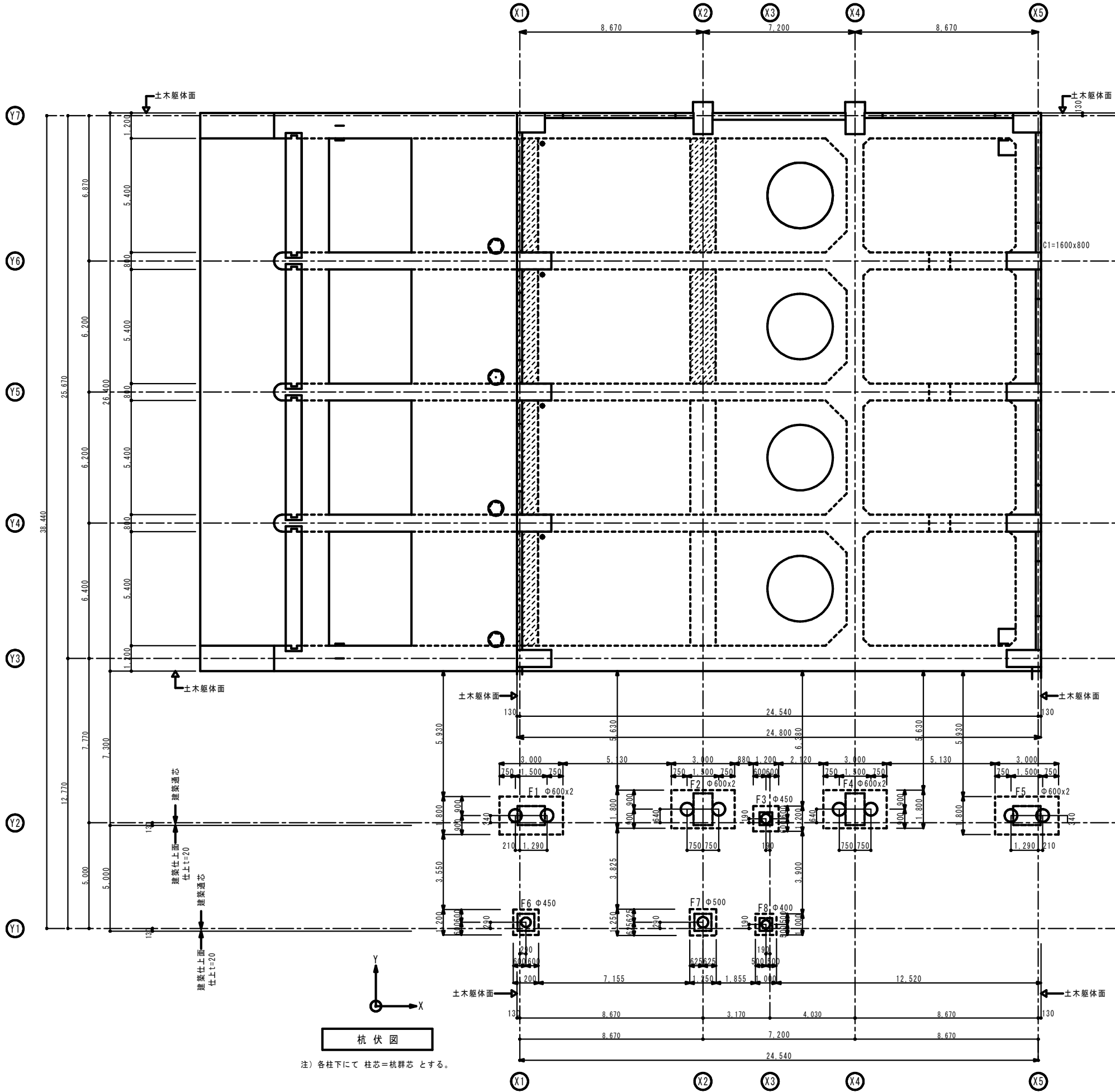
貫通 孔径	スリプ・サイズ (STK400)	あて板 補強形式	H鋼梁成								
			H=400	450	500	550	600	650	700	750	800
75	89.1×4.2	A-Type B-Type	PL-t	PL-t	PL-t	PL-t	PL-t	PL-t	PL-t	PL-t	PL-t
100	114.5×4.5										
125	139.8×4.5										
150	165.2×5.0		2PL-t	2PL-t							
175	190.7×5.3			2PL-t	2PL-t	2PL-t					
200	216.3×5.8				2PL-t	2PL-t	2PL-t	2PL-t	2PL-t	2PL-t	2PL-t
250	267.4×6.6					2PL-t	2PL-t	2PL-t	2PL-t	2PL-t	2PL-t
300	318.5×7.9						2PL-t	2PL-t	2PL-t	2PL-t	2PL-t
350	355.6×7.9										2PL-t

１. A タイプを原則とするが、孔径大なる時は B タイプとする。 あて板の t は鉄骨梁ウェブプレート厚以上とし、材質は母材に同じとする。
２. 最大孔径 $\phi \leq H/2$ かつ Δ 部分は適用外とする。 貫通孔位置は梁中央とする。



折版受材の取付け Hジョイント部の母屋受け





杭頭処理 ※ 土木設計図に従うこと。

基礎符号	F1	F2	F3	F4
杭径 D-ts	600-6	600-9	450-9	600-9
杭体内補強鉄筋	16-D22	16-D25	14-D25	16-D25
中詰め補強鉄筋	8-D22	8-D25	7-D25	8-D25
L1	900	1000	1000	1000
帯筋	D13@150	D13@150	D13@150	D13@150

基礎符号	F5	F6	F7	F8
杭径 D	600-6	450-9	500-6	400-6
杭体内補強鉄筋	16-D22	14-D25	12-D25	10-D22
中詰め補強鉄筋	8-D22	7-D25	6-D25	5-D22
L1	900	1000	1000	900
帯筋	D13@150	D13@150	D13@150	D13@150

特記事項
1. 杭の仕様は土木設計図による。D=杭径 ts=上杭の鋼管厚を示す。
2. 杭頭はつり工事、中詰めコンクリート及び中詰め補強鉄筋工事は建築工事とする。
3. はつり工事では、杭体内補強鉄筋を傷つけないこと。また、折り曲げも不可とする。やむおえず折り曲げる場合は1/6以下の勾配とする。
4. 中詰めコンクリートの強度は基礎フーチングに同じとする。

※ 土木設計図より転記（土木図が優先である）

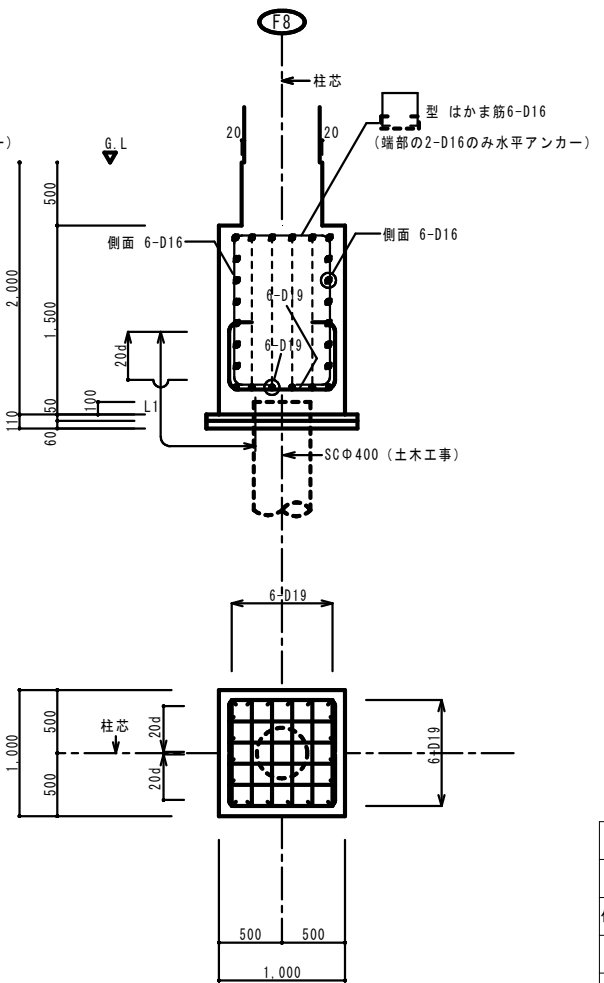
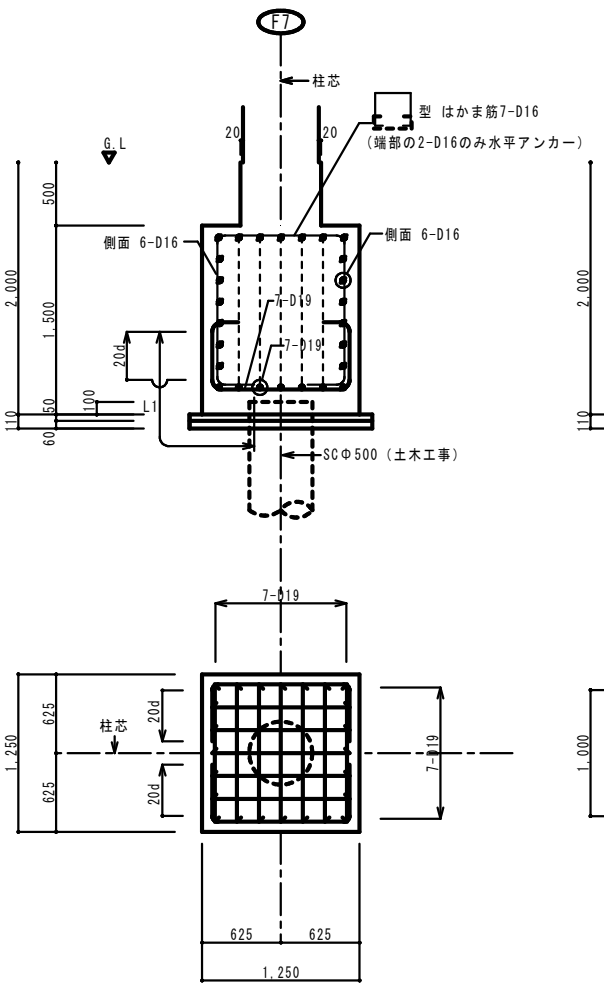
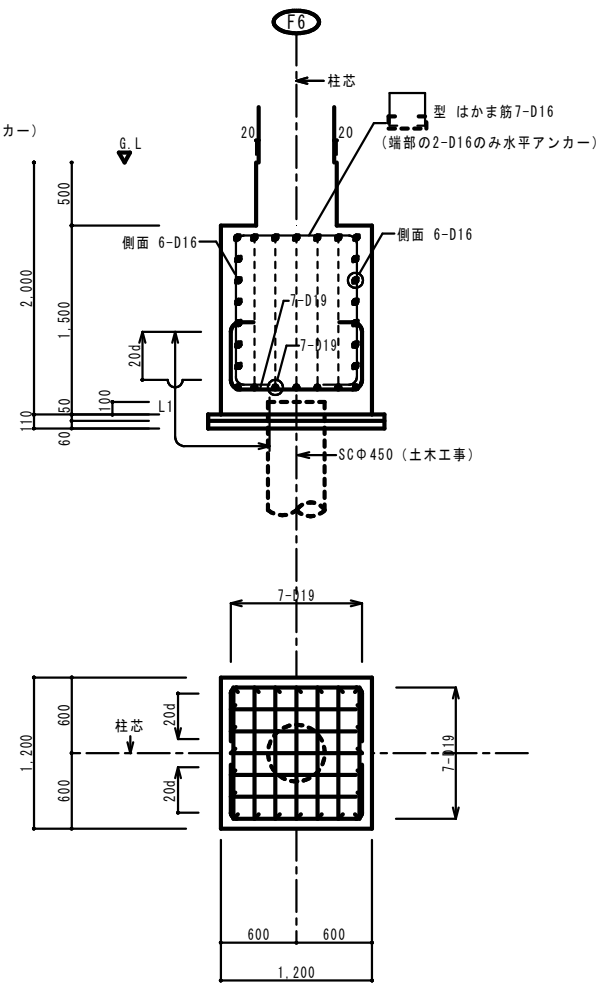
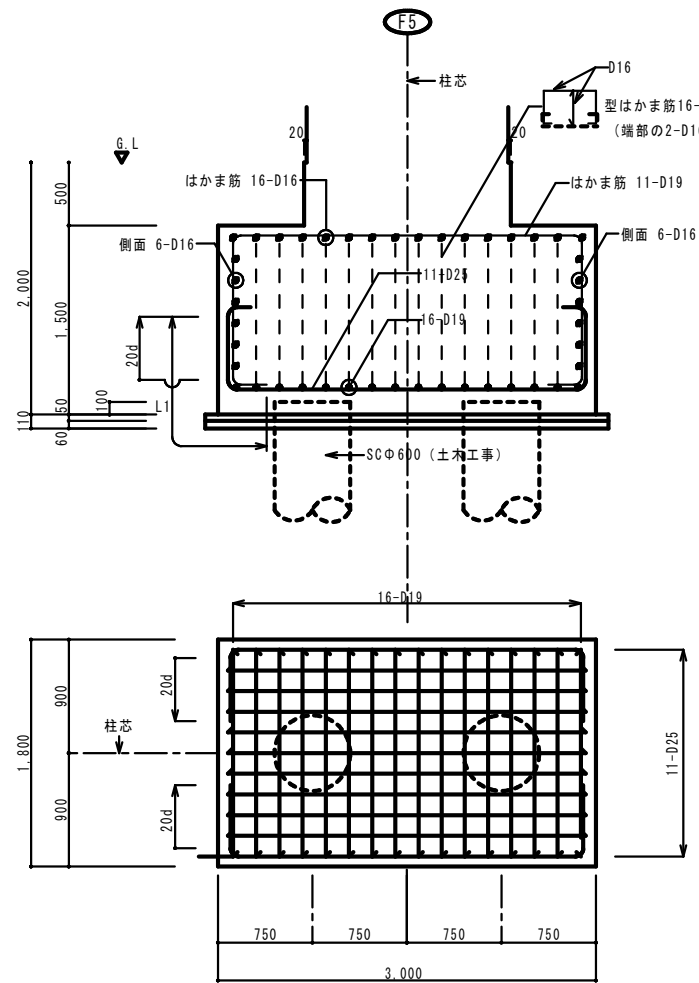
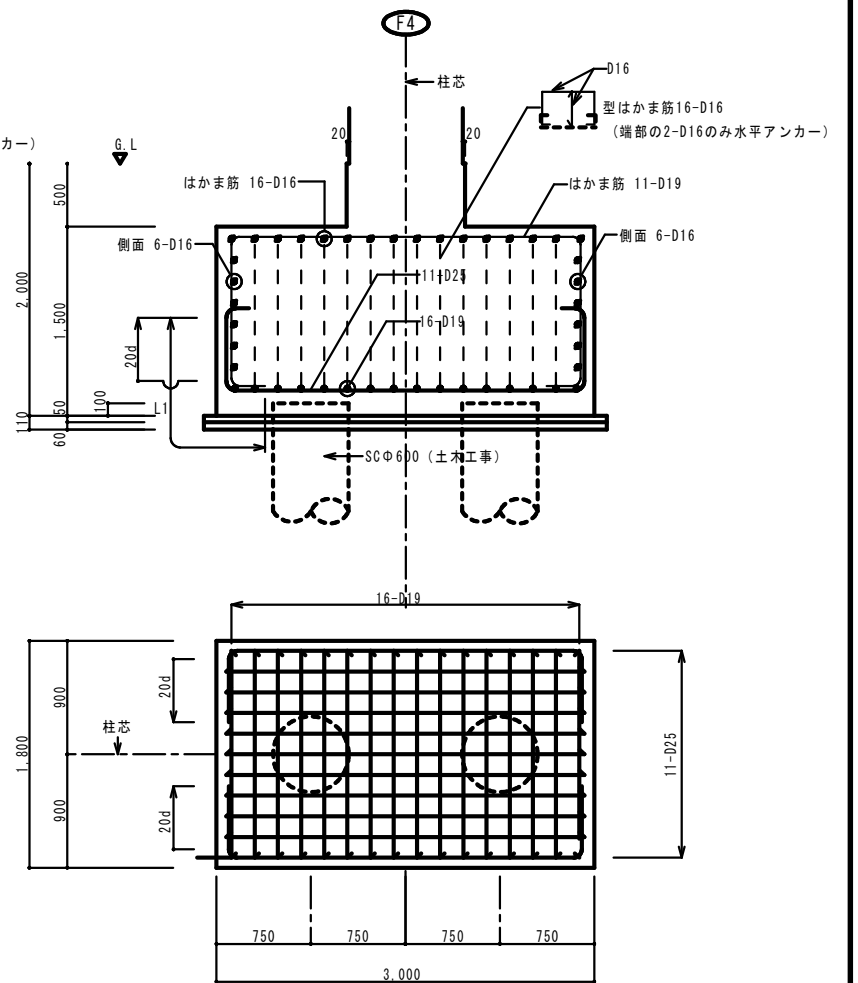
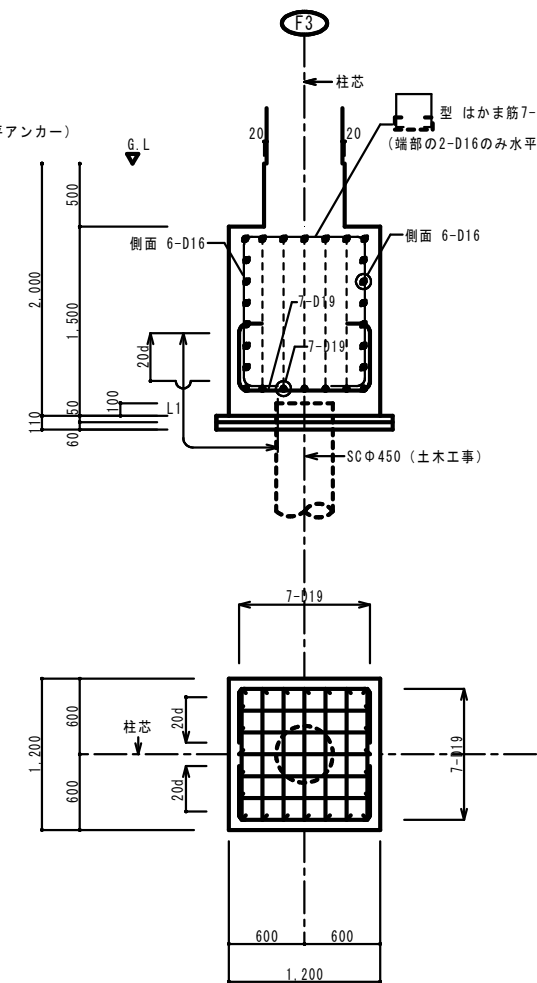
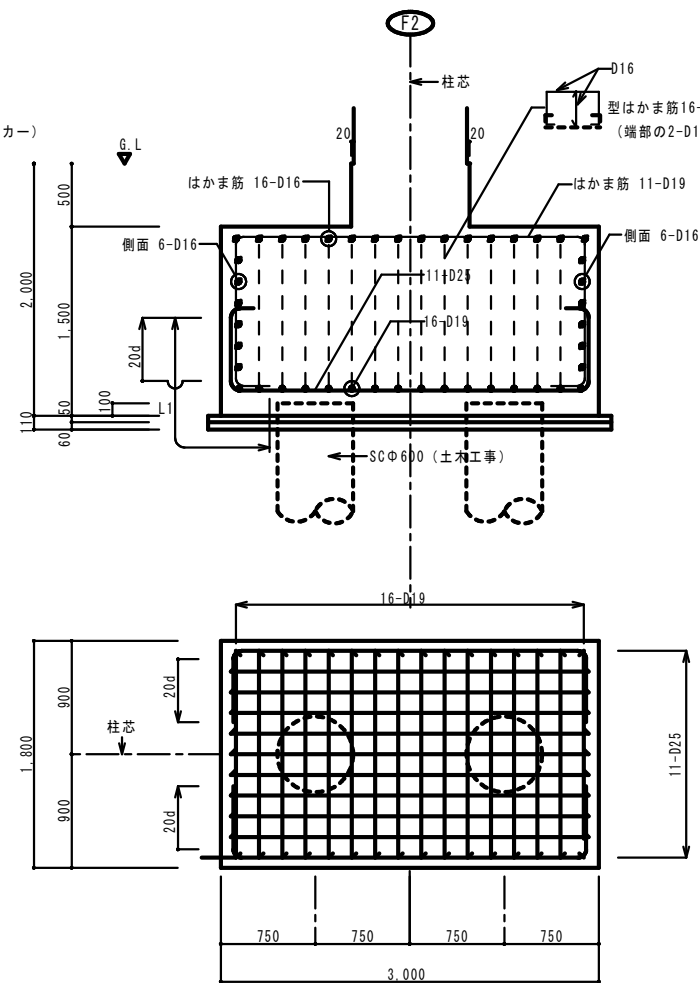
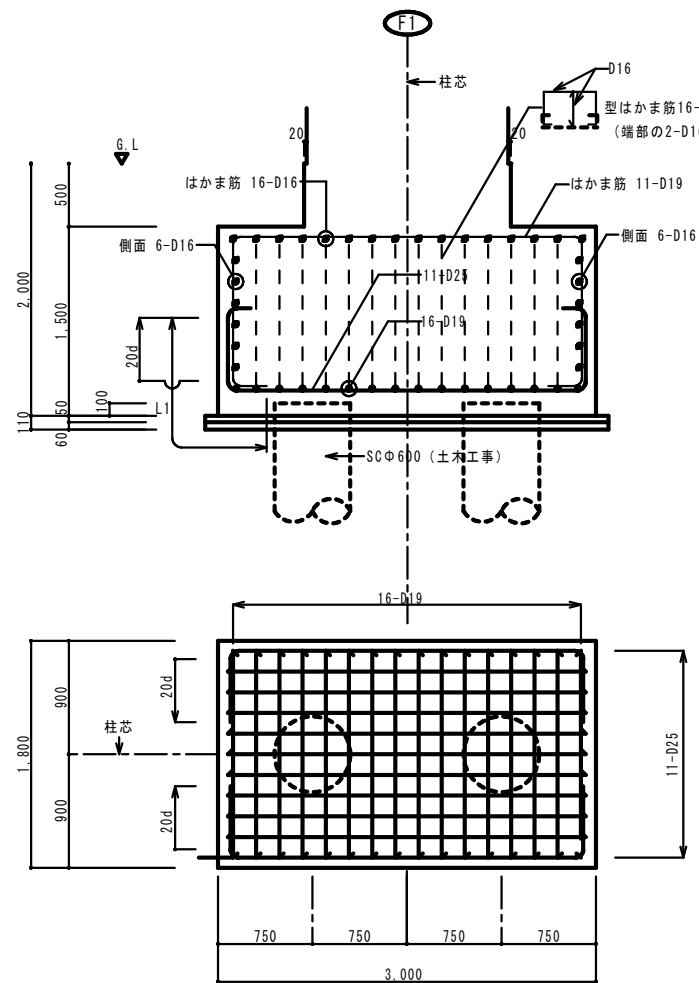
構造物名称	建屋独立フーチング		
	F1, F5	F2, F4	F3, F6
杭径(mm)	φ600	φ600	φ450
杭種及び	上杭	SC杭 t=6mm SKK490 L=9.00 m	SC杭 t=9mm SKK490 L=10.00 m
	中杭	PHC杭A種 L=11.00 m	PHC杭B種 L=11.00 m
	下杭	PHC杭A種 L=12.00 m	PHC杭A種 L=12.00 m
杭長	全長	32.00 m	32.00 m
杭本数(本)	2	2	1
底版厚 T (mm)	1500	1500	1500
杭頭標高 (m)	(-)0.70	(-)0.70	(-)0.70

構造物名称	建屋独立フーチング	
	F7	F8
杭径(mm)	φ500	φ400
杭種及び	上杭	SC杭 t=6mm SKK490 L=9.00 m
	中杭	PHC杭A種 L=12.00 m
	下杭	PHC杭A種 L=11.00 m
杭長	全長	32.00 m
杭本数(本)	1	1
底版厚 T (mm)	1500	1500
杭頭標高 (m)	(-)0.70	(-)0.70

工事名	八代平野農業水利事業 流瀬川排水機場建設工事		
図面名	杭伏図		
作成年月日			
縮尺	A1 S=1:100 A3 S=1:200	図面番号	C-15
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		

一級建築士 大臣登録 第301654号 板倉 祥浩

構造設計担当 田中 稔
一級建築士大臣登録 第134608
構造設計一級建築士 第3047



構造設計担当 田中 稔
一級建築士大臣登録 第134608
構造設計一級建築士 第3047

一級建築士 大臣登録 第301654号 板倉 祥浩

工事名	八代平野農業水利事業 流藤川排水機場建設工事		
図面名	基礎詳細図		
作成年月日			
縮尺	A1 S=1:30 A3 S=1:60	図面番号	C-16
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		

1階床・梁・壁伏図 共通事項

1. 1FL=6. L (TP 1. 20m)+300とする。

2. 特記なき壁はW22とする。

3. 特記なきスラブ天端は1FL-300、梁天端は1FL-550とする。

梁

1FL-550

1FL-550

1FL-550

スラブ

1FL-300

1FL-280~1FL (打ち増しコン天)

1FL± 0

4. 出入口スラブの天端は詳細図を参照のこと。

1階床・梁・壁伏図

一級建築士 大臣登録 第301654号 板倉 祥浩

構造設計担当 田中 稔
一級建築士大臣登録 第134608
構造設計一級建築士 第3047

工事名	八代平野農業水利事業 流瀬川排水機場建設工事		
図面名	1階床・梁・壁伏図		
作成年月日			
縮尺	A1 S=1:100 A3 S=1:200	図面番号	C-17
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		

2階床・梁・壁伏図 共通事項

1. 基本梁天端(ポンプ室部分) = 2SL = 1FL + 5,200とする。

2. 特記なき壁はW22とする。

3. () 内は梁天2SLよりのよりの梁天端高さを示す。

梁

2SL±0

2SL±0~-100

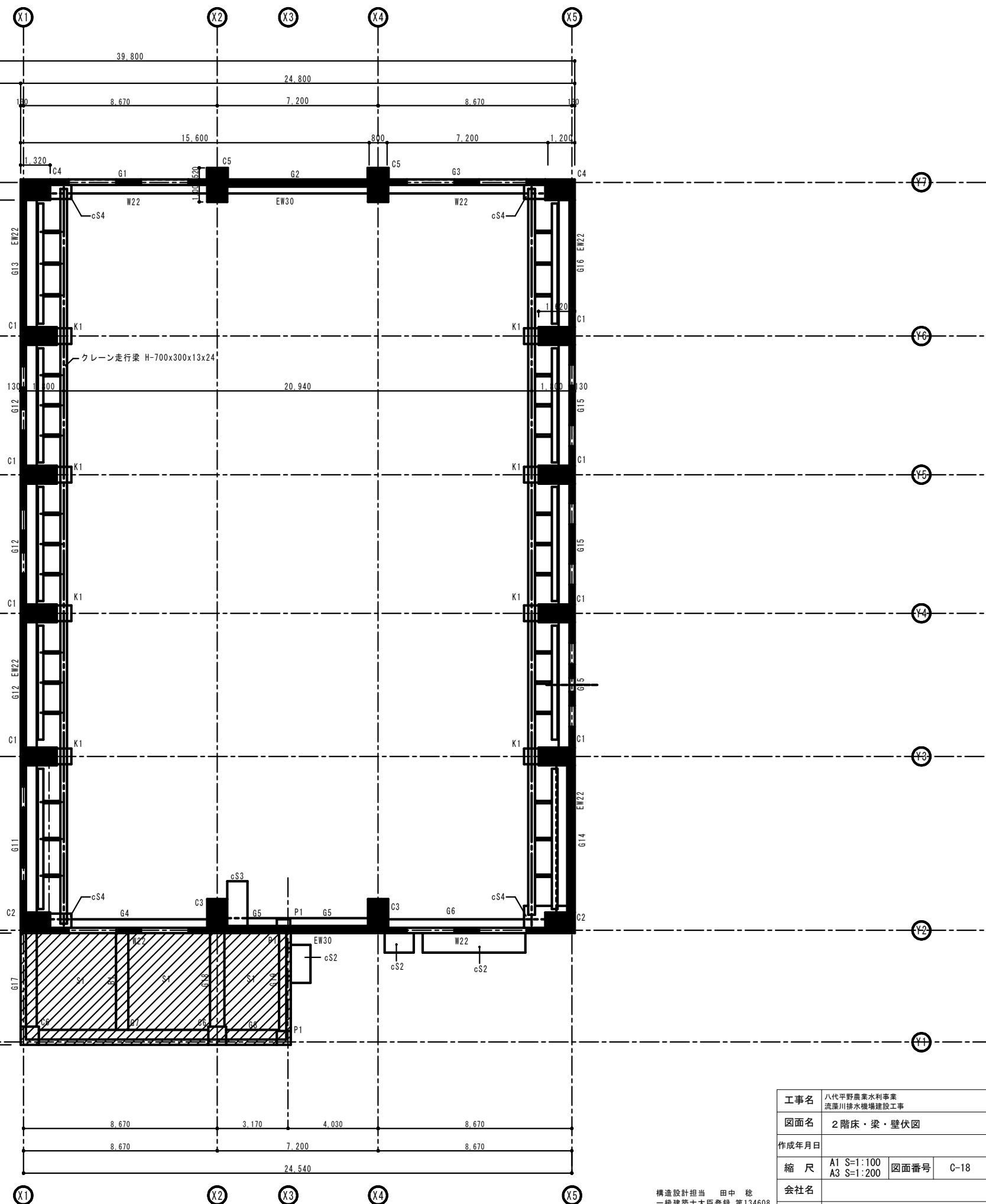
スラブ

2SL+50~-100

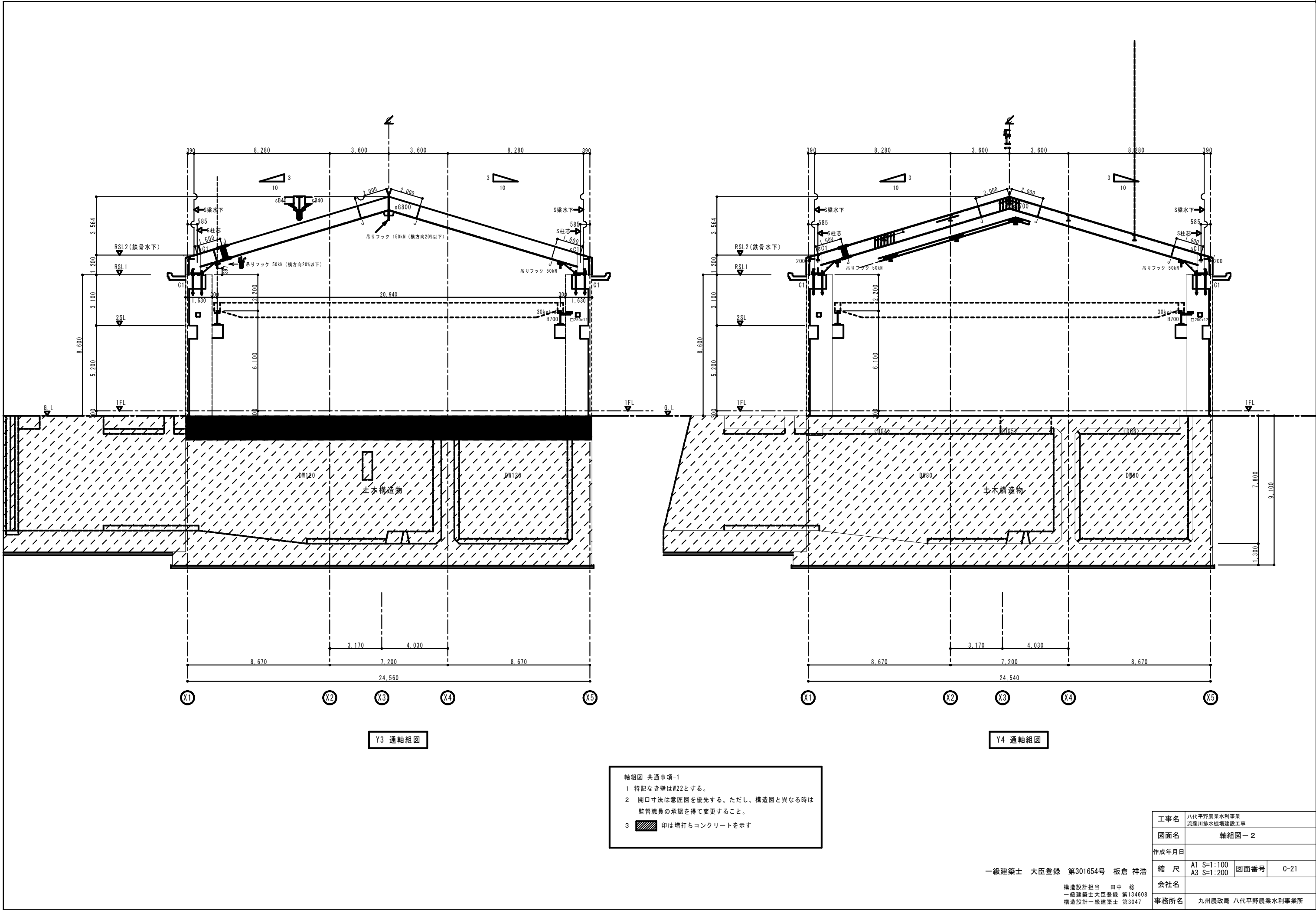
4. K1のレベルは軸組図及び雑(クレーン)詳細図を参照。

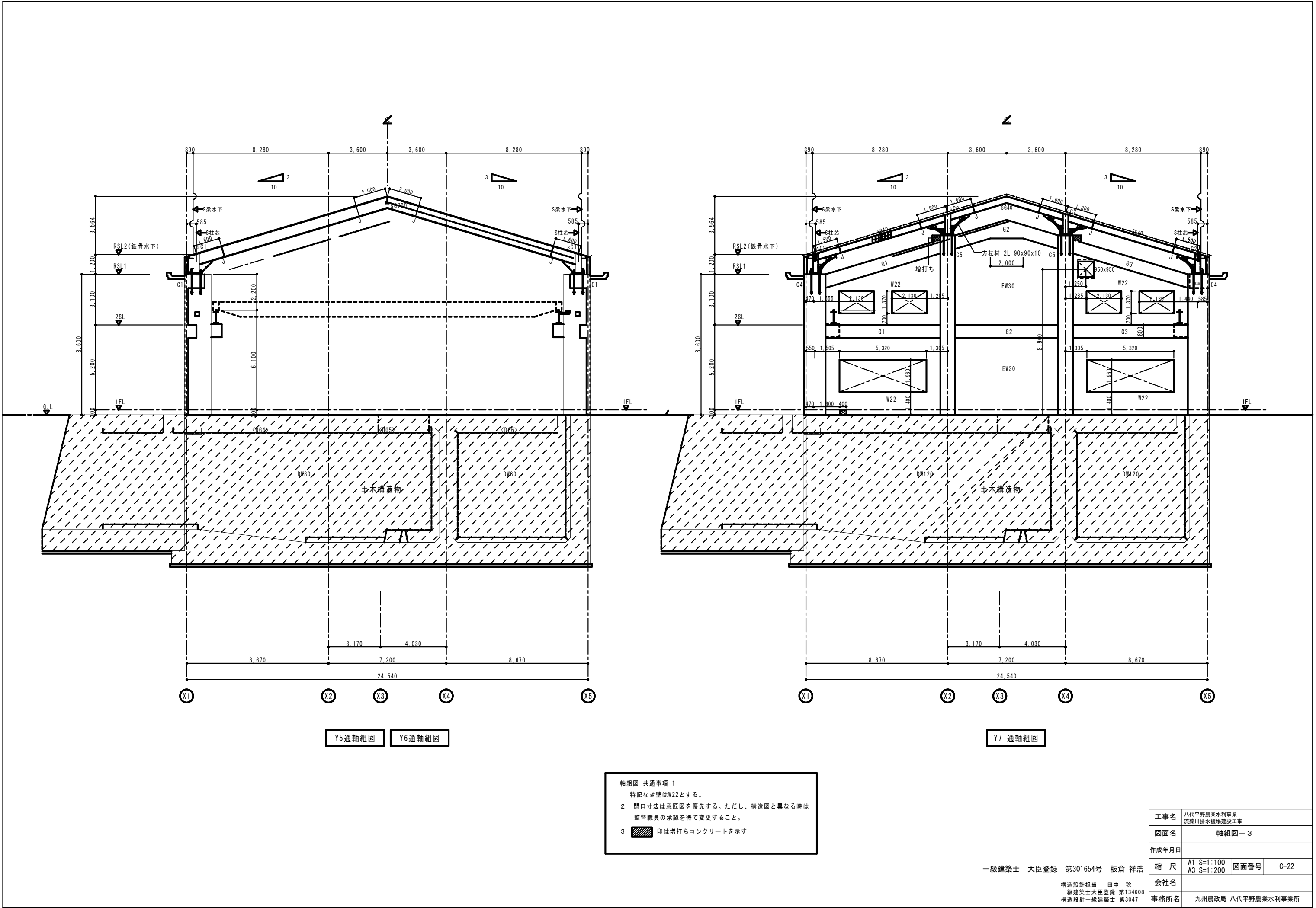
5. 出入口底 のレベルは意匠図を参照。

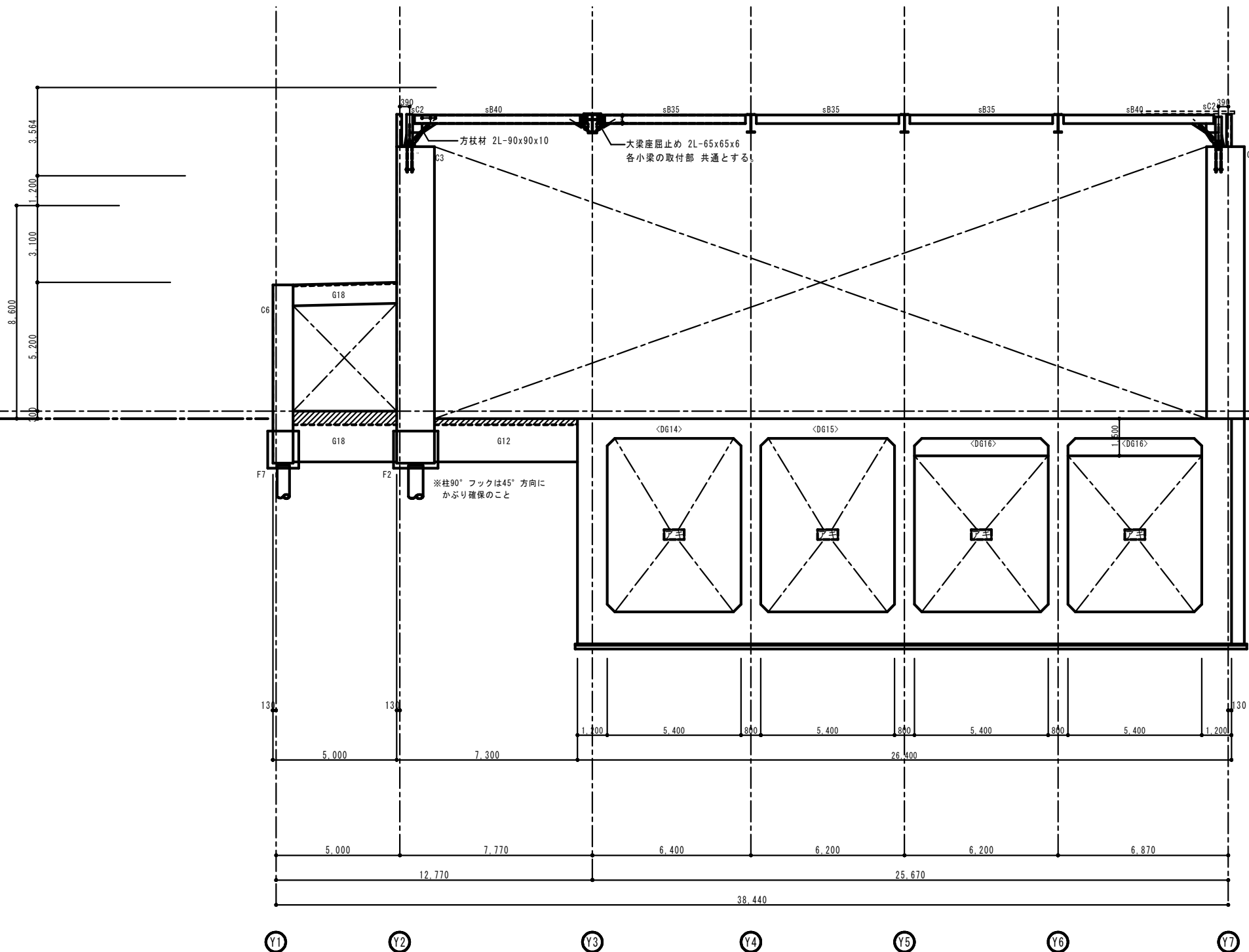
2階床・梁・壁伏図



工事名	八代平野農業水利事業 流瀬川排水機場建設工事		
図面名	2階床・梁・壁伏図		
作成年月日			
縮尺	A1 S=1:100 A3 S=1:200	図面番号	C-18
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		







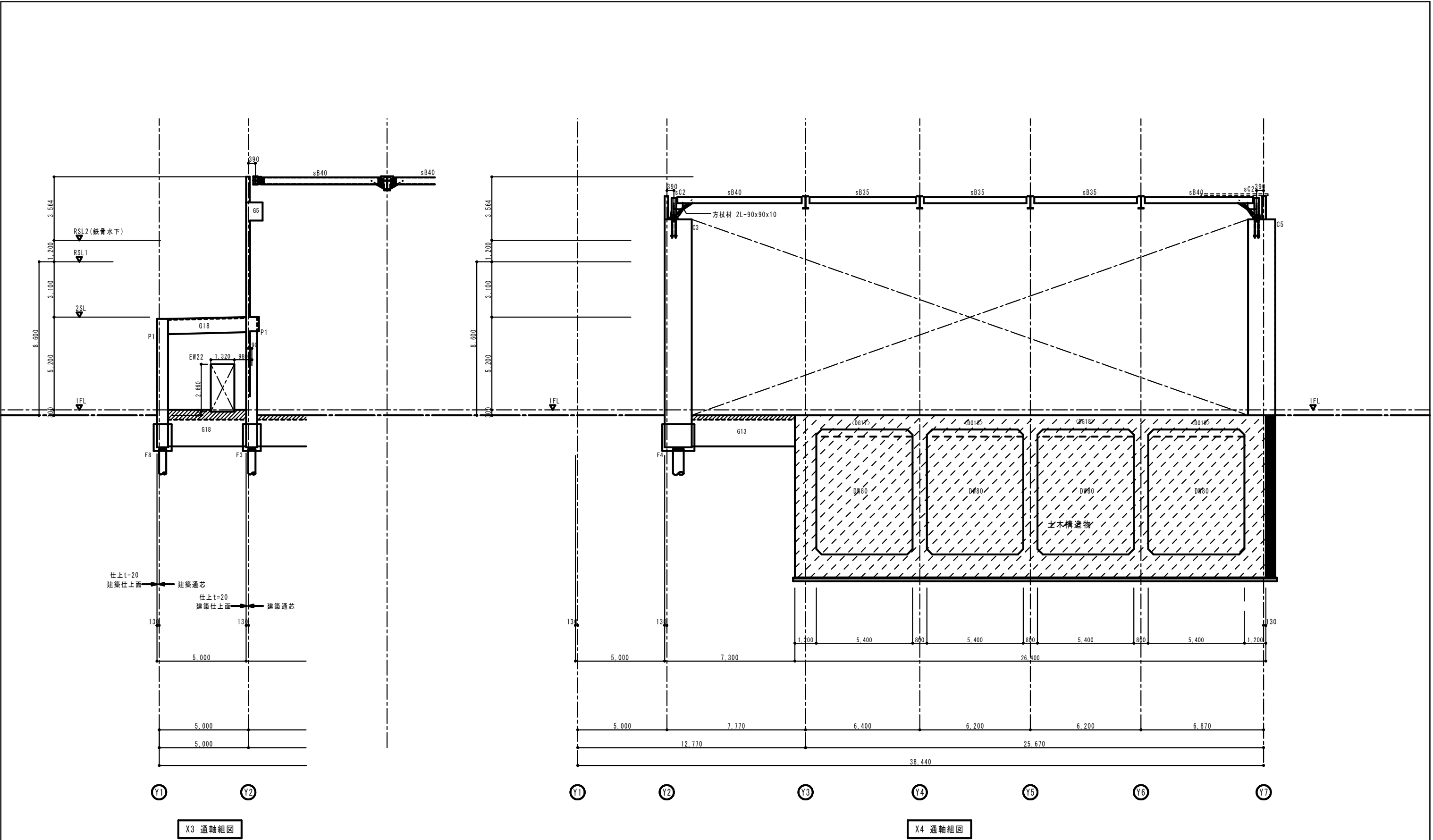
X2 通軸組図

- 軸組図 共通事項-1
- 特記なき壁はW22とする。
 - 開口寸法は意匠図を優先する。ただし、構造図と異なる時は監督職員の承認を得て変更すること。
 - 印は増打ちコンクリートを示す

一級建築士 大臣登録 第301654号 板倉 祥浩

構造設計担当 田中 稔
一級建築士大臣登録 第134608
構造設計一級建築士 第3047

工事名	八代平野農業水利事業 流藤川排水機場建設工事		
図面名	軸組図ー5		
作成年月日			
縮尺	A1 S=1:100 A3 S=1:200	図面番号	C-24
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		



X3 通軸組図

屋根部は棟位置を示す。

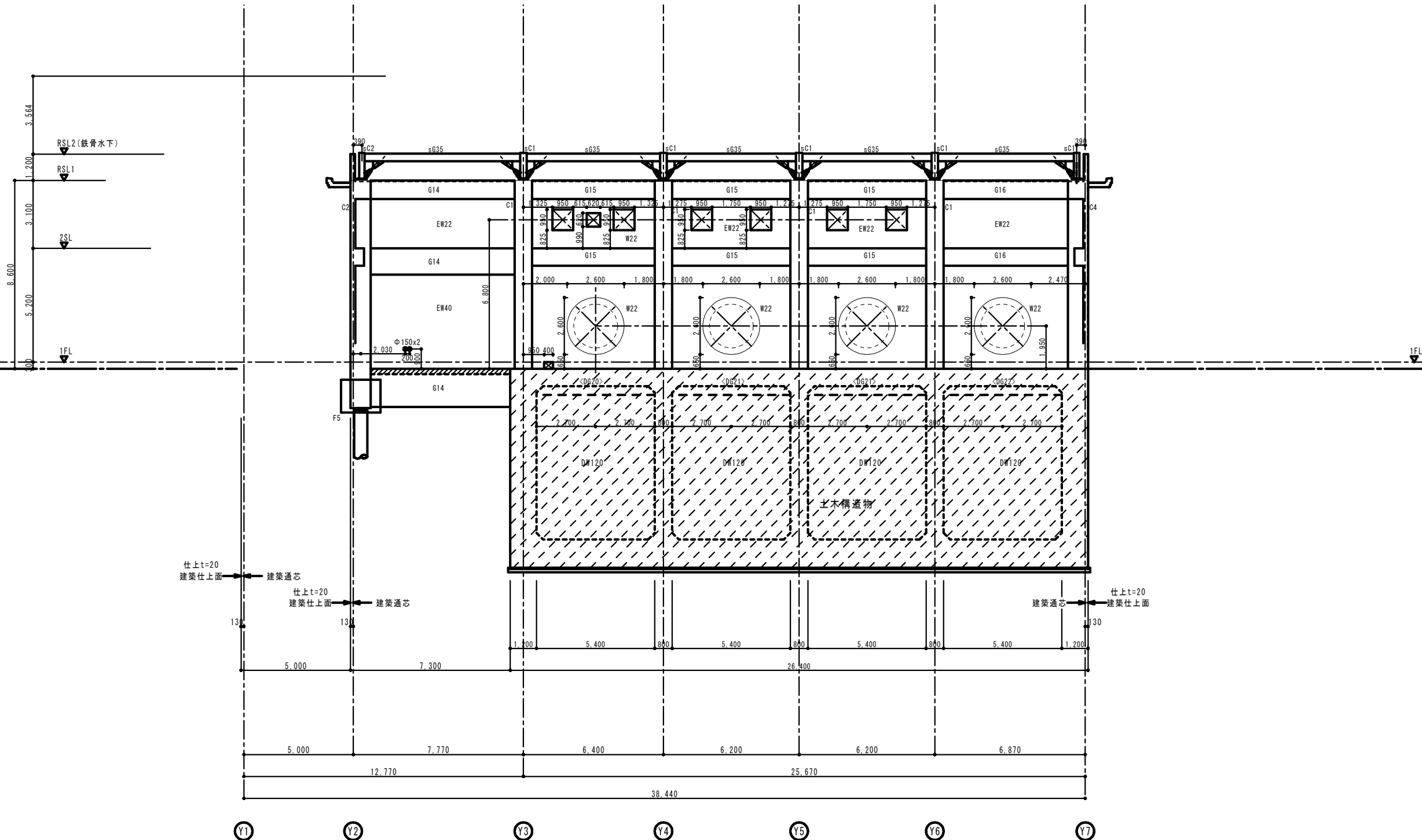
X4 通軸組図

- 軸組図 共通事項-1
- 特記なき壁はW22とする。
 - 開口寸法は意匠図を優先する。ただし、構造図と異なる時は監督職員の承認を得て変更すること。
 -  印は増打ちコンクリートを示す

一級建築士 大臣登録 第301654号 板倉 祥浩

構造設計担当 田中 稔
一級建築士大臣登録 第134608
構造設計一級建築士 第3047

工事名	八代平野農業水利事業 流藤川排水機場建設工事		
図面名	軸組図ー6		
作成年月日			
縮尺	A1 S=1:100 A3 S=1:200	図面番号	C-25
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		



X5 通軸組図

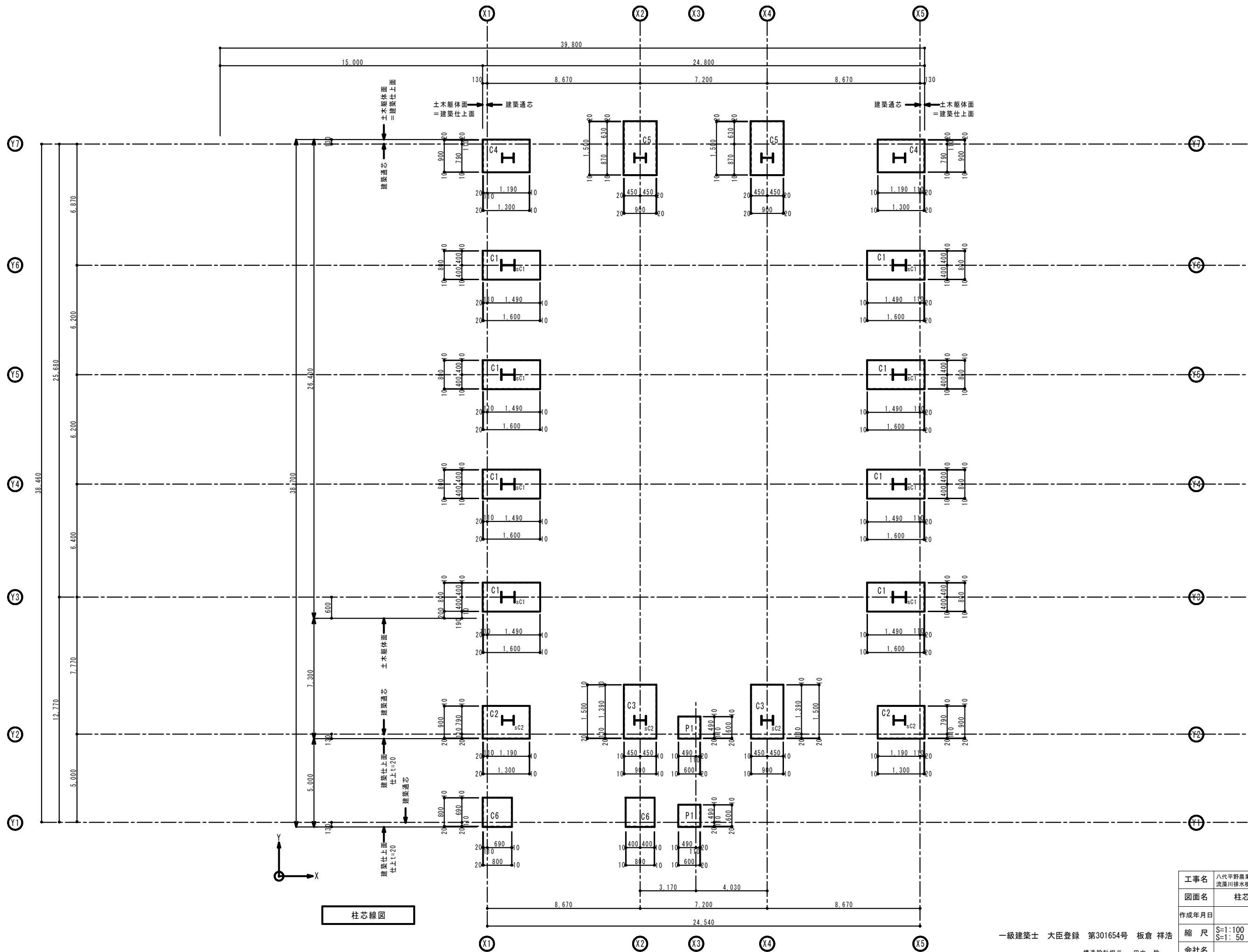
軸組図 共通事項-1

- 特記なき壁はW22とする。
- 開口寸法は意匠図を優先する。ただし、構造図と異なる時は監督職員の承認を得て変更すること。
- 印は増打ちコンクリートを示す

工事名	八代平野農業水利事業 流藤川排水機場建設工事		
図面名	軸組図ー 7		
作成年月日			
縮 尺	A1 S=1:100 A3 S=1:200	図面番号	C-26
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		

一級建築士 大臣登録 第301654号 板倉 祥浩

構造設計担当 田中 稔
一級建築士大臣登録 第134608
構造設計一級建築士 第3047



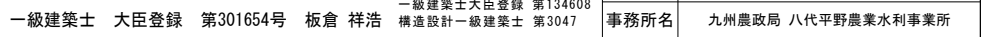
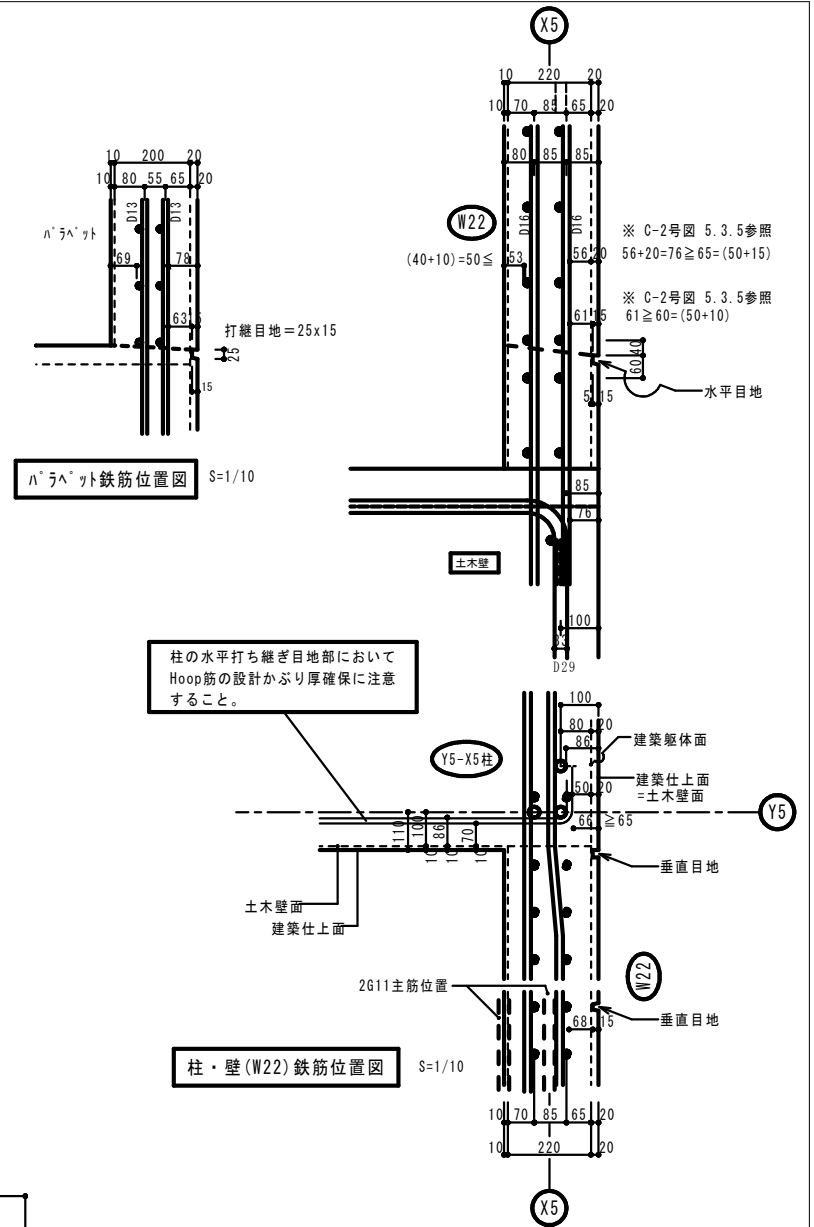
柱芯線図

一級建築士 大臣登録 第301654号 板倉 祥浩

構造設計担当 田中 稔
一級建築士大臣登録 第134608
構造設計一級建築士 第3047

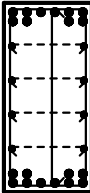
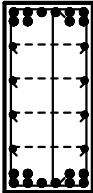
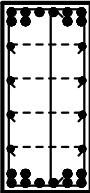
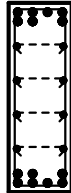
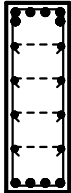
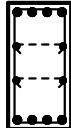
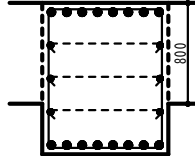
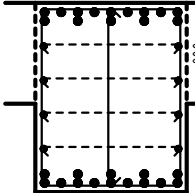
工事名	八代平野農業水利事業 流瀬川排水機場建設工事		
図面名	柱芯線図		
作成年月日			
縮尺	S=1:100 S=1:50	図面番号	C-27
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		

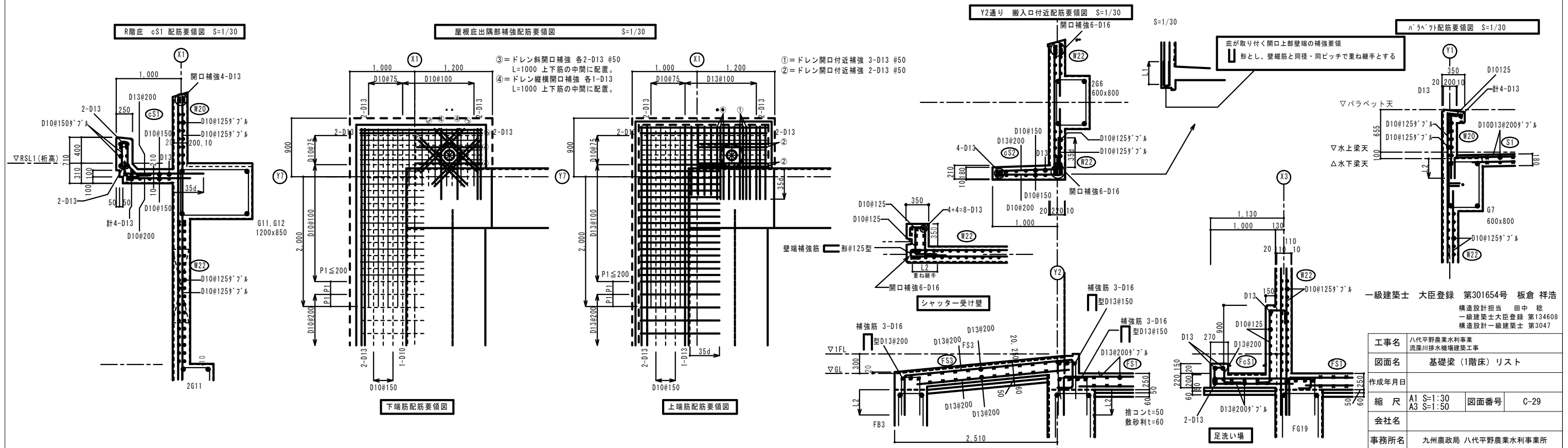
符号		C1	C2	C3	C4	C5	C6	P1
2 階	 全断面							
	B × D	1600 × 800	1300 × 900	900 × 1500	1300 × 900	900 × 1500		
	主筋	32-D25	22-D25	34-D25	22-D25	34-D25		
	2 段筋	6-D25	-----	4-D25	-----	6-D25		
	帯筋	-D13@100	-D13@100	-D13@100	-D13@100	-D13@100		
	柱梁接合部	-D13@100	-D13@100	-D13@100	-D13@100	-D13@100		
1 階	 全断面							
	B × D	1600 × 800	1300 × 900	900 × 1500	1300 × 900	900 × 1500	800 × 800	600 × 600
	主筋	32-D25	22-D25	34-D25	22-D25	34-D25	12-D25	8-D25
	2 段筋	6-D25	-----	4-D25	-----	4-D25	-----	-----
	帯筋	-D13@100	-D13@100	-D13@100	-D13@100	-D13@100	-D13@100	-D13@100
	柱梁接合部	-D13@100	-D13@100	-D13@100	-D13@100	-D13@100	-D13@100	-D13@100

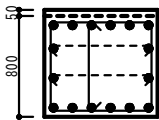
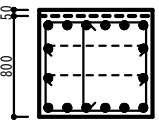
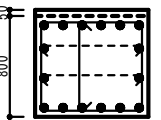
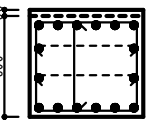
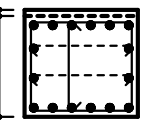
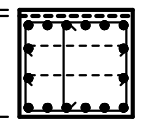
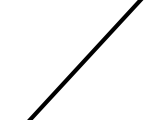
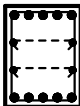
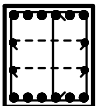
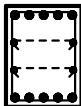
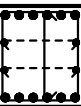
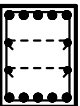
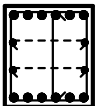
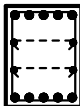
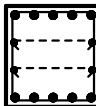


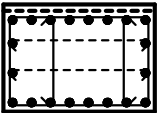
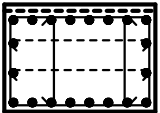
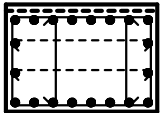
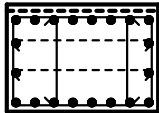
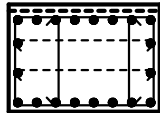
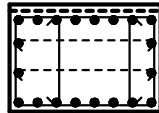
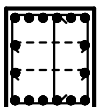
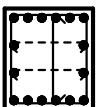
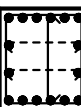
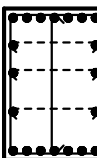
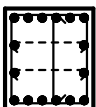
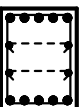
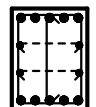
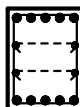
地中梁リスト 1 : 30

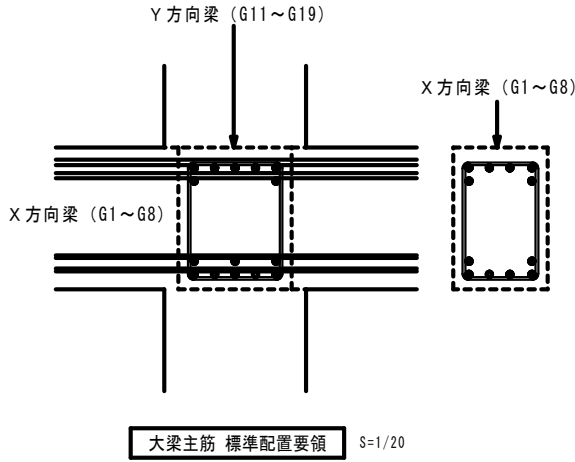
符号		G1, G2, G3, G15, G16	G4	G5	G6	G7	G8		G11	G12	G13	G14
位置		全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面		全断面	全断面	全断面	全断面
1 階	断 面	欠番										
	B × D		700 × 1500	700 × 1500	700 × 1500	700 × 1500	700 × 1500		700 × 1500	700 × 1500	1200 × 1500	800 × 1500
	上端筋1		6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25		6-D25	6-D25	11-D25	7-D25
	2		4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25		4-D25	4-D25	9-D25	3-D25
	下端筋1		6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25		6-D25	6-D25	11-D25	7-D25
	2		4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25		4-D25	4-D25	9-D25	3-D25
	あばら筋		□ □ -D13@150	□ □ -D13@150	□ □ -D13@150	□ □ -D13@150	□ □ -D13@150		□ □ -D13@150	□ □ -D13@150	□ □ □ □ -D13@150	□ □ -D13@150
	腹 筋		8-D10	8-D10	8-D10	8-D10	8-D10		8-D10	8-D10	8-D10	8-D10

											土木構造物床板 t=800 (X1-X5) : (Y3-Y7) の下端より下に大きくなる梁	
符号		G15, G16	G17	G18	G19		FB1	FB2、FK1	FB3		DG11, DG12, DG13	DG16
位置		全断面	全断面	全断面	全断面		全断面	全断面	全断面		全断面	全断面
1 階	断 面	欠番										
	B × D		700 × 1500	700 × 1500	700 × 1500		500 × 1500	500 × 1500	500 × 1000		1000 × 1200	1200 × 1500
	上端筋1		6-D25	6-D25	6-D25		4-D25	4-D25	4-D25		8-D25	9-D25
	2		4-D25	4-D25	4-D25		3-D25	2-D25	-----		-----	6-D25
	下端筋1		6-D25	6-D25	6-D25		4-D25	4-D25	4-D25		8-D25	9-D25
	2		4-D25	4-D25	4-D25		3-D25	-----	-----		-----	6-D25
	あばら筋		 -D13@150	 -D13@150	 -D13@150		 -D13@200	 -D13@200	 -D13@200		 -D13@100	 -D13@100
腹 筋	8-D10	8-D10	8-D10		8-D10	8-D10	4-D10		6-D10	8-D10		



符号		G1	G2	G3	G4	G5	G6	G7	G8		K1	B1
位置		全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面		全断面	全断面
3階	断面											
	B × D	900 × 850	900 × 850	900 × 850	900 × 850	900 × 850	900 × 850					
	上端筋	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25					
	下端筋	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25					
	あばら筋	□□ -D13@150	□□ -D13@150	□□ -D13@150	□□ -D13@150	□□ -D13@150	□□ -D13@150					
2階	断面											
	B × D	600 × 800	700 × 800	600 × 800	600 × 800	700 × 800	600 × 800	700 × 800	600 × 800		750 × 800	350x550
	上端筋	5-D25	6-D25	5-D25	5+2=7-D25	6-D25	5-D25	6-D25	5-D25		5-D25	3-D25
	下端筋	5-D25	6-D25	5-D25	5+2=7-D25	6-D25	5-D25	6-d25	5-D25		5-D25	3-D25
	あばら筋	□□ -D13@150	□□ -D13@150	□□ -D13@150	□□ -D13@150	□□ -D13@150	□□ -D13@150	□□ -D13@150	□□ -D13@150		□□ -D13@100	□□ -D10@150
	腹筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D16	4-D16		4-D10	2-D10

符号		G11	G12	G13	G14	G15	G16	G17	G18	G19
位置		全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
3階	断面									
	B × D	1200 × 850	1200 × 850	1200 × 850	1200 × 850	1200 × 850	1200 × 850			
	上端筋	8-D25	8-D25	8-D25	8-D25	8-D25	8-D25			
	下端筋	8-D25	8-D25	8-D25	8-D25	8-D25	8-D25			
	あばら筋	□□□ -D13@150	□□□ -D13@150	□□□ -D13@150	□□□ -D13@150	□□□ -D13@150	□□□ -D13@150			
2階	断面									
	B × D	700 × 800	700 × 800	700 × 800	800 × 1200	700 × 800	700 × 800	600 × 800	600 × 800	600 × 800
	上端筋	6-D25	6-D25	6-D25	7-D25	6-D25	6-D25	5-D25	5-D25	5-D25
	下端筋	6-d25	6-d25	6-d25	7-D25	6-d25	6-d25	5-D25	5-D25	5-D25
	あばら筋	□□ -D13@150	□□ -D13@150	□□ -D13@150	□□ -D13@150	□□ -D13@150	□□ -D13@150	□□ -D13@150	□□ -D13@150	□□ -D13@150
	腹筋	4-D25	4-D25	4-D25	6-D25	4-D25	4-D25	4-D16	4-D16	4-D16



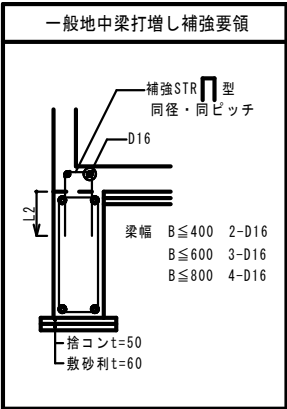
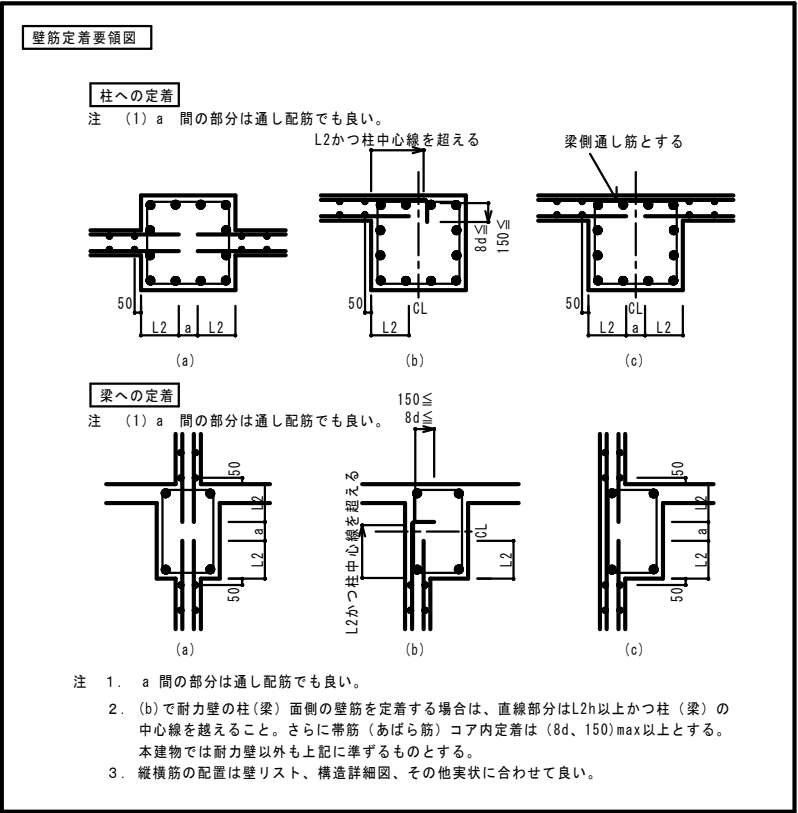
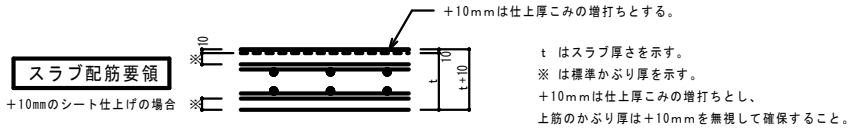
注) 1 各階及び基礎大梁を示す。
2 X、Y方向は1階床伏図及び柱芯線図を参照

壁リスト 1:30 注) 縦筋の位置は柱リスト等参照の事。建物内においての(外)(内)は、下部土木構造物に対してとする。

符号	W15	W18	W20	EW20	W22	EW22	EW25	EW30	EW35	EW40		1) 開口部補強要領
断面 (垂直断面)		(外) (内)	(外) (内)	(外) (内)	(外) (内)	(外) (内)	(外) (内)	(外) (内)	(外) (内)	(外) (内)		
縦筋	D10@200 ダブル	D10@150 ダブル	D10@125 ダブル	D10@125 ダブル	D10@125 ダブル	D10@125 ダブル	D13@150 ダブル	D13@150 ダブル	D13@125 ダブル	D13@125 ダブル		a (ヨコ補強筋) b (タテ補強筋) La=Lb=Lc=40d 開口部が柱梁に接する部分は補強を要しない
横筋	D10@200 ダブル	D10@150 ダブル	D10@125 ダブル	D10@125 ダブル	D10@125 ダブル	D10@125 ダブル	D13@150 ダブル	D13@150 ダブル	D13@125 ダブル	D13@125 ダブル		2) 壁端部・開口部小口補強 (形補強筋) (水平垂直断面)
開口補強筋	縦 4-D13 横 4-D13 斜め 2-D13	縦 6-D13 横 6-D13 斜め 2-D13	縦 4-D13 横 4-D13 斜め 2-D13	縦 6-D16 横 6-D16 斜め 2-D13	縦 6-D16 横 6-D16 斜め 2-D13	縦 6-D16 横 6-D16 斜め 2-D13	縦 8-D16 横 8-D16 斜め 2-D13	縦 8-D16 横 8-D16 斜め 2-D13	縦 10-D16 横 10-D16 斜め 2-D13	縦 10-D16 横 10-D16 斜め 2-D13		
巾止筋		D10@900	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@1000	D10@900	D10@900	D10@1000	D10@1000		
備考			ハ'ラ'ハ'									

スラブリスト					
符号	厚さ	位置	短辺方向配筋	長辺方向配筋	備考
S1	180	上端筋 下端筋	D10・D13@200 D10・D13@200	D10・D13@200 D10・D13@200	1階屋根 押えコンクリートt=80+防水層より 屋外の最小かぶり厚=40、設計かぶり厚=50とする。
		上端筋 下端筋			
		上端筋 下端筋			
cS1	210	上端筋 下端筋	D13@200 D10@200	D10@150 D10@150	ヤネ庇
cS1A	210	上端筋 下端筋	D13@100 D10@100	D10@75 D10@75	ヤネ庇の出隅部分
cS2	180~ 210	上端筋 下端筋	D13@200 D10@200	D10@150 D10@150	出入口庇 (Lo<=1200)
cS3	200	上端筋 下端筋	D13@200 D13@200	D13@200 D13@200	点検床
cS4	≒800	上端筋 下端筋	D13@125 D13@125	D13@125 D13@125	Y2通、Y7通のクレーン走行梁受けスラブ スラブ筋はX,Y各方向の壁内に垂直定着。上筋=30d 下筋=25d
		上端筋 下端筋			
FS1	250	上端筋 下端筋	D13@200 D13@200	D13@200 D13@200	機械室、搬入室
FS2	200	上端筋 下端筋	D13@200 D13@200	D13@200 D13@200	居室
FS3	270 (250+20)	上端筋 下端筋	D13@200 D13@200	D13@200 D13@200	スロープ搬入床 +20mmは仕上げ込みの増し打ちコンクリートとする。
		上端筋 下端筋			
FcS1	220 (200+20)	上端筋 下端筋	D13@200 D13@200	D13@200 D13@200	ポーチ床 Lo<=1200
		上端筋 下端筋			
		上端筋 下端筋			

注) FS、DSスラブ下は、捨てコンt=50、敷砂利t=60とする。



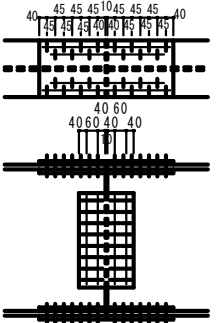
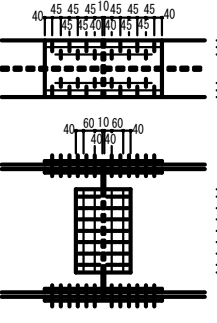
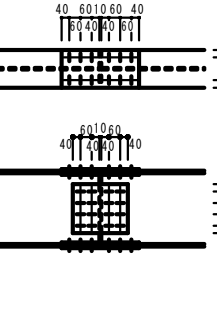
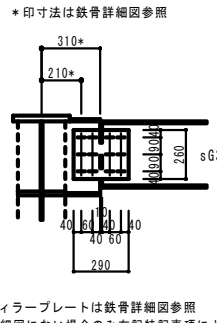
一級建築士 大臣登録 第301654号 板倉 祥浩

構造設計担当 田中 穆
一級建築士大臣登録 第134608
構造設計一級建築士 第3047

工事名	八代平野農業水利事業 流瀬川排水機場建設工事		
図面名	その他部材リストー1		
作成年月日			
縮尺	S=1:100 S=1:50	図面番号	C-31
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		

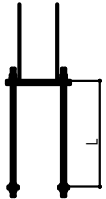
H形鋼 梁継手リスト (400級)

S=1/20

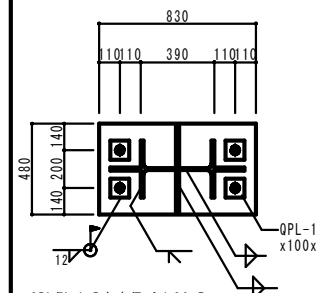
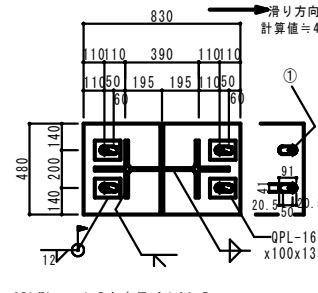
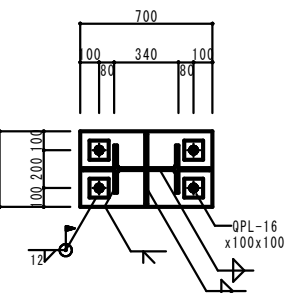
符 号			s G800	s G700	sG40	sG35	特記事項
形 鋼			H-800×300×14×26	H-700×300×13×24	H-400×200×8×13	H-350×175×7×11	
現場継手・・・							
フランジ	F 取	外	2PL-19×300×710	2PL-16×300×620	2PL-9×200×410	-----	1 梁はSN400Bとする。フランジ・ウェブ添板の材質は、母材と同じとする。 母材及び添板は溶融亜鉛メッキ処理とする。 2 高力ボルトは溶融亜鉛メッキボルト JIS B 1186 1種 (F8T) A 建築基準法に認定されたものとする。 3 接合する材に板厚差があり隙間が1mmを越えるときはフィラープレートを用いる。 フィラープレートの厚さは1.6mm以上とする。 4 母材、添板などの摩擦面はメッキ後、軽くブラスト処理を行い、摩擦係数 $\mu=0.40$ 以上確保できるものとする。 5 薬品による表面処理を行う場合は すべり試験を行い $\mu=0.40$ 以上であることを確認すること。 6 本接合は、J A S S 6 鉄骨工事に従うものとする。 7 構造図に示す事項の他は本図による。 8 ボルト本数、P L 枚数はその継手一式を示す。 9 裏サイズのH鋼も同じとするが、フランジの外P L の幅は母材と同じとする。 10 S B 梁のジョイントも本リストによる。 11 ALC板、セメント板取付の溶接は構造体柱へ溶接をしないこと。
		内	4PL-19×110×710	4PL-19×110×620	4PL-9×80×410	-----	
ウェブ	W 取	H T B	(7x2) x4=56-M22	(6x2) x4=48-M22	24-M20	-----	

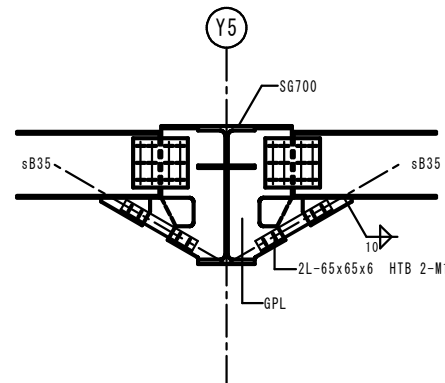
ウェブ	W 取	-----	2PL-16x500x290	2PL-12×440×290	2PL-9×260×290	2PL-9×260×290	
		H T B	(8x2) x2=32-M22	(7x2) x2=28-M22	16-M20	12-M20	

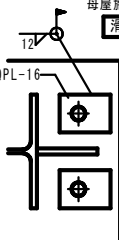
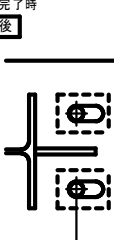
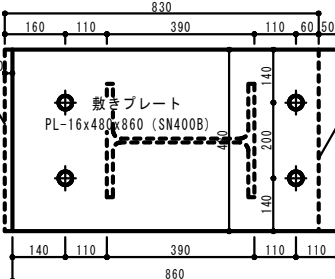
鉄 骨 部 材 リ ス ト			
sC1	H-390x300x10x16	SN400B	sG700の柱脚： BPL-45x480x740 (TMCP325) A.B 4-M36 (SNR490B) 鉄骨詳細図参照
sC2	H-340x250x9x14	SN400B	sG40の柱脚： BPL-45x400x700 (TMCP325) A.B 4-M36 (SNR490B) 鉄骨詳細図参照
sG800	H-800x300x14x26	SN400B	H鋼継手リスト及び鉄骨詳細図参照
sG700	H-700x300x13x24	SN400B	H鋼継手リスト及び鉄骨詳細図参照
sG40	H-400x200x8x13	SN400B	H鋼継手リスト及び鉄骨詳細図参照
sG35	H-350x175x7x11	SN400B	H鋼継手リスト及び鉄骨詳細図参照
sB40	H-400x200x8x13	SS400	2PL-9 HTB16-M20 鉄骨詳細図参照
sB35	H-350x175x7x11	SS400	2PL-9 HTB12-M20 鉄骨詳細図参照
sB194	H-194x150x6x9	SS400	2PL-6 HTB8-M20 鉄骨詳細図参照
屋根面ブレース	L-100x100x10	SS400	GPL-12 HTB 5-M20 (保有力接合) ブレースリスト及び鉄骨詳細図参照
X1, X5通S梁構方材	2L-90x90x10	SS400	GPL-16 HTB 5-M20 (保有力接合) ブレースリスト及び鉄骨詳細図参照
Y2, Y7通S梁構方材	2L-90x90x10	SS400	GPL-16 HTB 5-M20 (保有力接合) ブレースリスト及び鉄骨詳細図参照
sG700 座屈トメ方材	2L-65x65x6	SS400	GPL詳細図参照、HTB 2-M16 SG800も同じとする。
クレーン部分			
KG1	H-700x300x13x24	SN400B	鉄骨詳細図参照
水平受け材	□-250x250x12	BCR295	鉄骨詳細図参照
※ 上表になきは以下とする。 1 特記なきG梁・K梁及び溶接を伴うH鋼はSN400B、B梁はSS400とする。 高力ボルト (HTB) F8T、普通ボルト SS400、A.B (7ヶ所) ABR400 ダブルナット 定着版付き 各部材は溶融亜鉛メッキ処理とする。ただし、コンクリートに被覆される部位は未処理とする。 2 特記なき柱・梁接合部のダイヤフラムはSN490Cとする。鉄骨標準図 (2) も参照のこと。 G梁の曲がり部分のはさみ板はSN490Cとし、特記なき板厚はGフランジの3サイズアップとする。 間柱、小梁B、水平梁及びブレース等のガセットP L の材質はSN400Bとする。 3 突き合わせ溶接部はノンスカラップ工法 (別図参照) とする。 4 鉄骨詳細図、及びその他の構造図にないジョイントは本リストによる 5 アンカーボルトの長さLはB P L 上より定着版上までの長さを示す。 $L \geq 25d$ (d=ボルト径) 6 ターンバックルはJIS A5540 建築用ターンバックル (セット：胴+ボルト) とする。 7 大梁のハンチ有り部分はビルドHとする。			



ブレースリスト					※ 取り付け側のPLの板厚 t_w が $t_w \leq S$ の場合 $S=t_w$ とし溶接長さを α 倍する。 $\alpha=S/t_w$		S=1/20	
	L-100x100x10		保有力接合		G P L 最小寸法			
	GPL-12		タイプ		b 190			
	HTB 5-M20		①		L 443			
	S=10 ※		②		238			
			③		254			
	2L-90x90x10		保有力接合		G P L 最小寸法			
	GPL-16		タイプ		b 230			
	HTB 5-M20		①		L 670			
	S=11 ※		②		360			
			③		370			
				G P L 最小寸法		特記事項 1 a は GPL始端の最小寸法。b は ボルト終端の最小寸法を示す。 a は ブレース幅+20、b/2 は ボルト軸線に対しても最小寸法とする。 L は GPLの溶接タイプによる有効溶接長さの最小値とする。 故に施工図の段階にて必ず係員の承認を得ること。 2 構造詳細図は本ジョイントリストより優先する。 3 Mブレースはターンバックルを使用 4 HTBの仕様はH鋼梁継手リストによる。		
				b				
				タイプ				
				①				
				②				
				③				

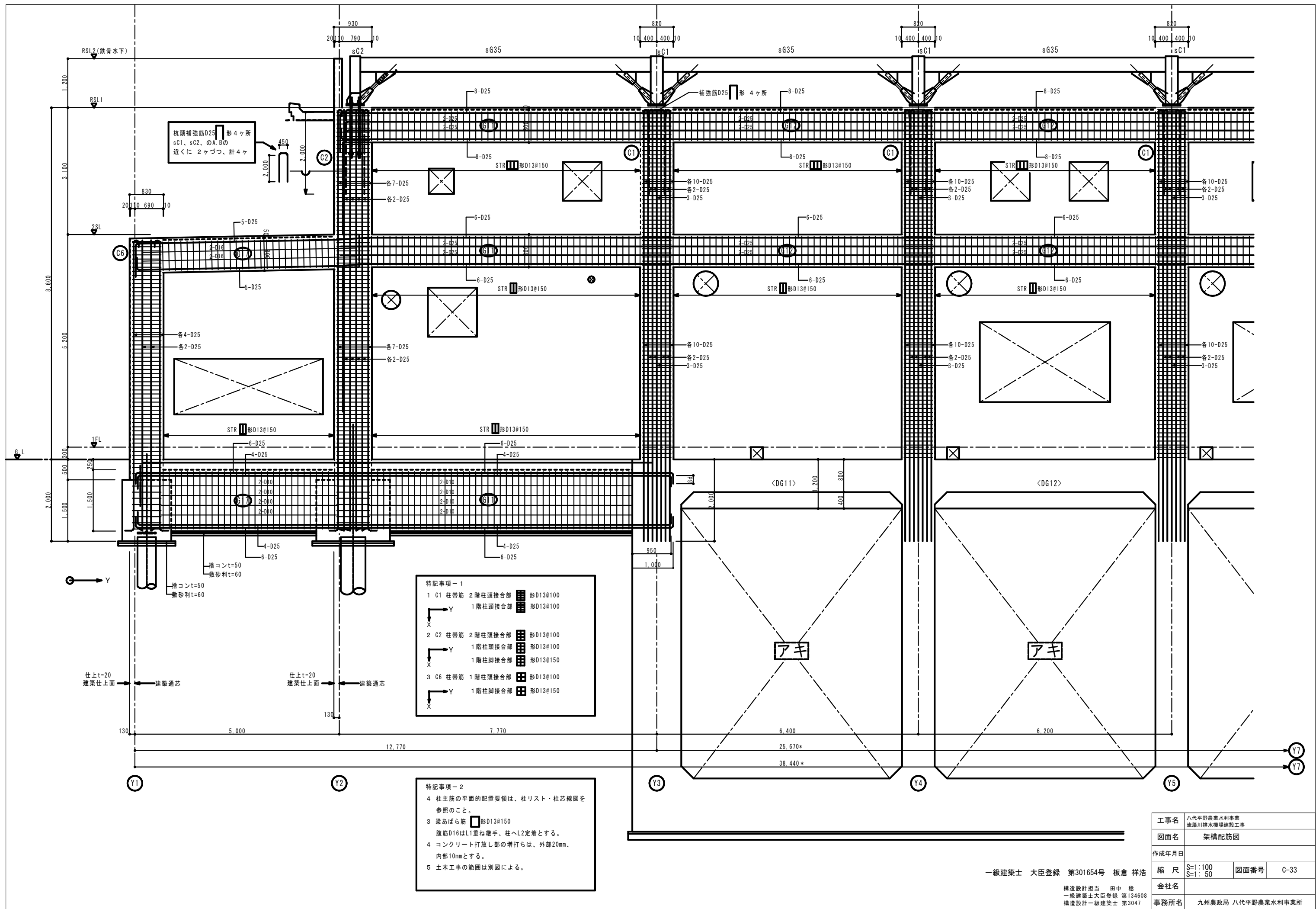
柱脚リスト S=1/20			
記 号	sC1	sC2	
部 材	H-390x300x10x16	H-340x250x9x14	
形 状	X1通側ビン支承→パネ支承 	X5通側ローラー支承→パネ支承 	
	QPL側 A.B穴直径 $\leq \phi 36.5$ BPL側 A.B穴直径 $= \phi 41$	QPL側 A.B穴直径 $\leq \phi 36.5$ mm BPL側 A.B穴直径 $= 41 \times 91$ mm 敷きPL側 A.B穴直径 $\leq \phi 36.5$ mm	QPL-16 x100x100 QPL-16 x100x135
ベースプレート	BPL-45x480x830 (TMCP325C)	BPL-45x480x830 (TMCP325C)	BPL-45x400x700 (TMCP325C)
アンカーボルト	4-M36 L=1200 (ABR490) ダブルナット 座金付き せん断 QPL-16x100x100 (SN400B) 定着版 PL-19x110x110 (SS400)	4-M36 L=1200 (ABR490) ダブルナット 座金付き せん断 QPL-16x100x135 (SN400B) 定着版 PL-19x110x110 (SS400)	4-M36 L=1200 (ABR490) ダブルナット 座金付き せん断 QPL-16x100x100 (SN400B) 定着版 PL-19x110x110 (SS400)
リブプレート	PL-16	PL-16	PL-16

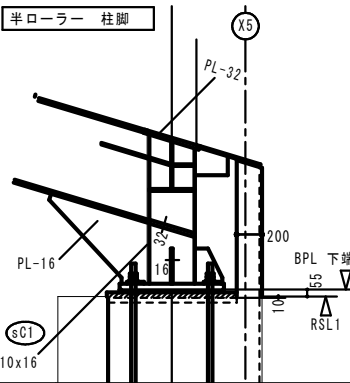
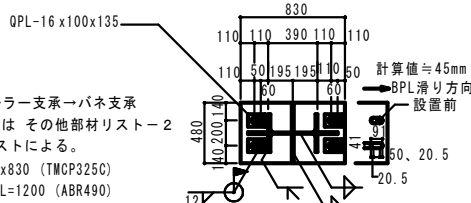
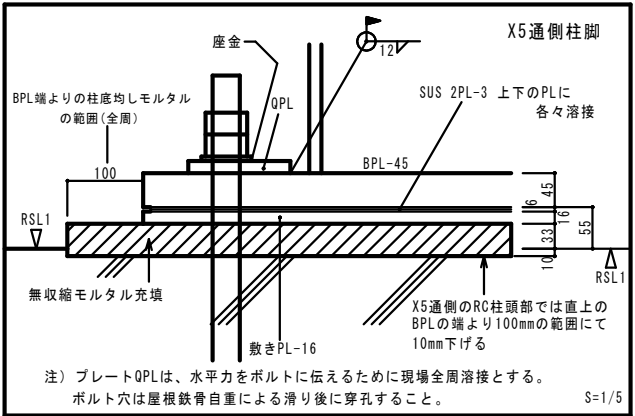
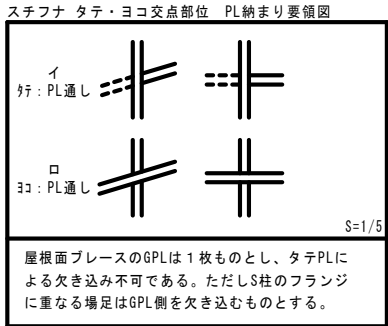
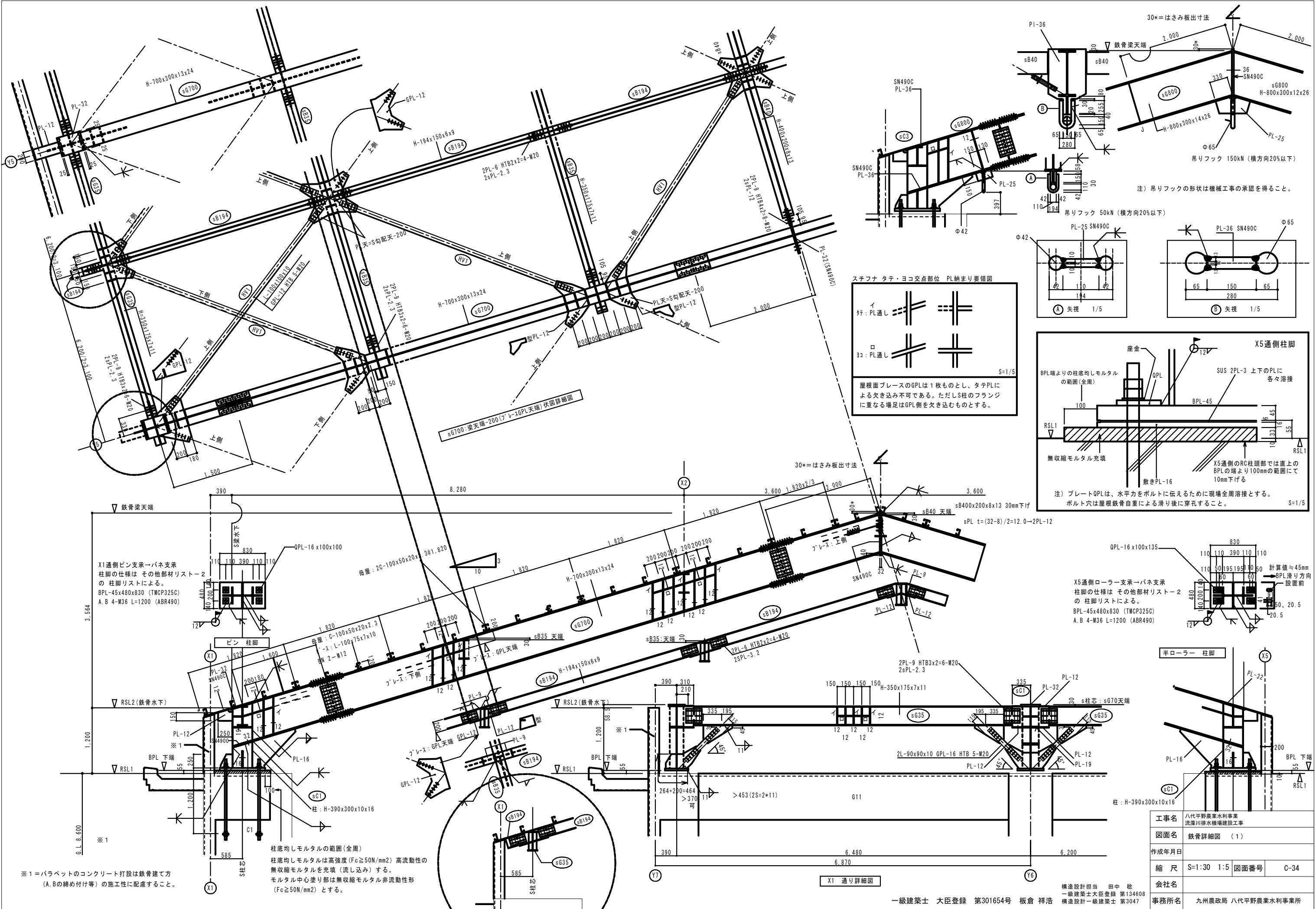
大梁の座屈止め材 S=1/20	
S6700、SG800 に適用	

母屋施工完了時		滑り前	
			
滑り前BPL位置		滑り前 BPL位置	
BPL部分詳細		S=1/10	
			
工事名		八代平野農業水利事業 流藻川排水機場建設工事	
図面名		その他部材リストー2	
作成年月日			
縮 尺		S=1:20 S=1:10	図面番号 C-32
会社名		九州農政局 八代平野農業水利事業所	
事務所名			

構造設計担当 田中 稔
一級建築士大臣登録 第134608
構造設計一級建築士 第3047

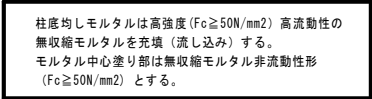
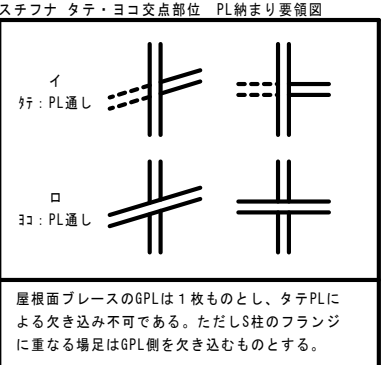
一級建築士 大臣登録 第301654号 板倉 祥浩





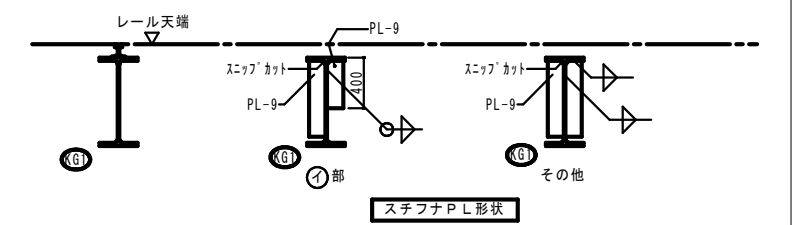
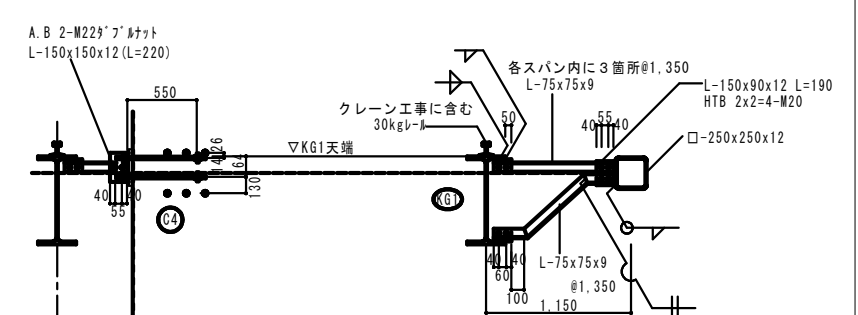
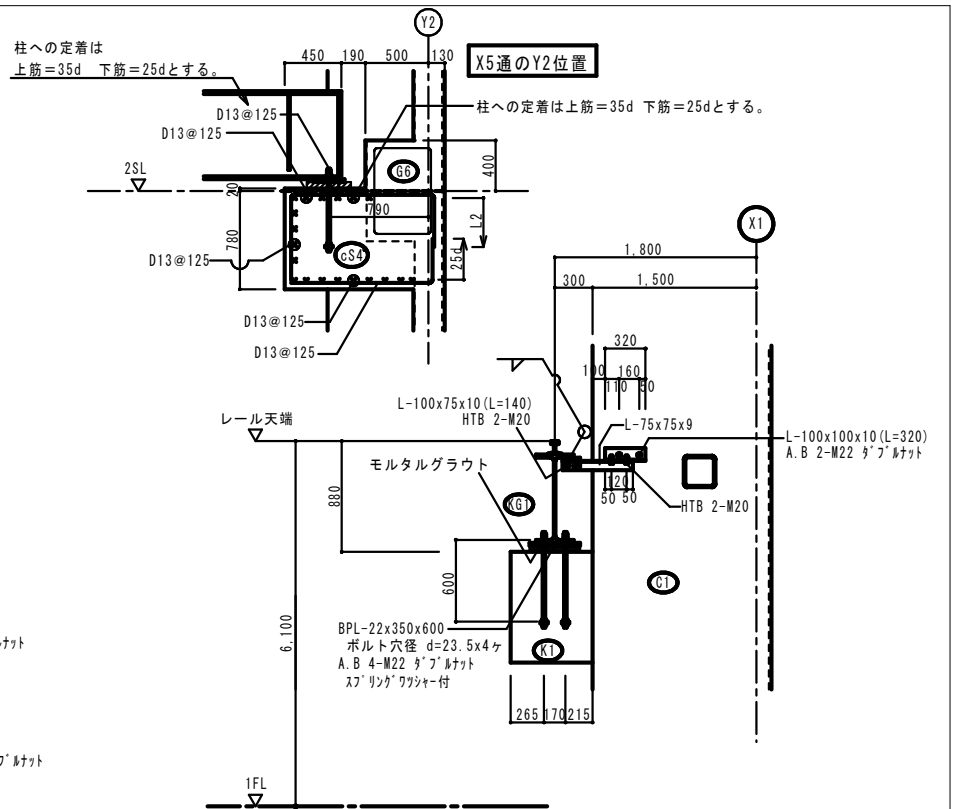
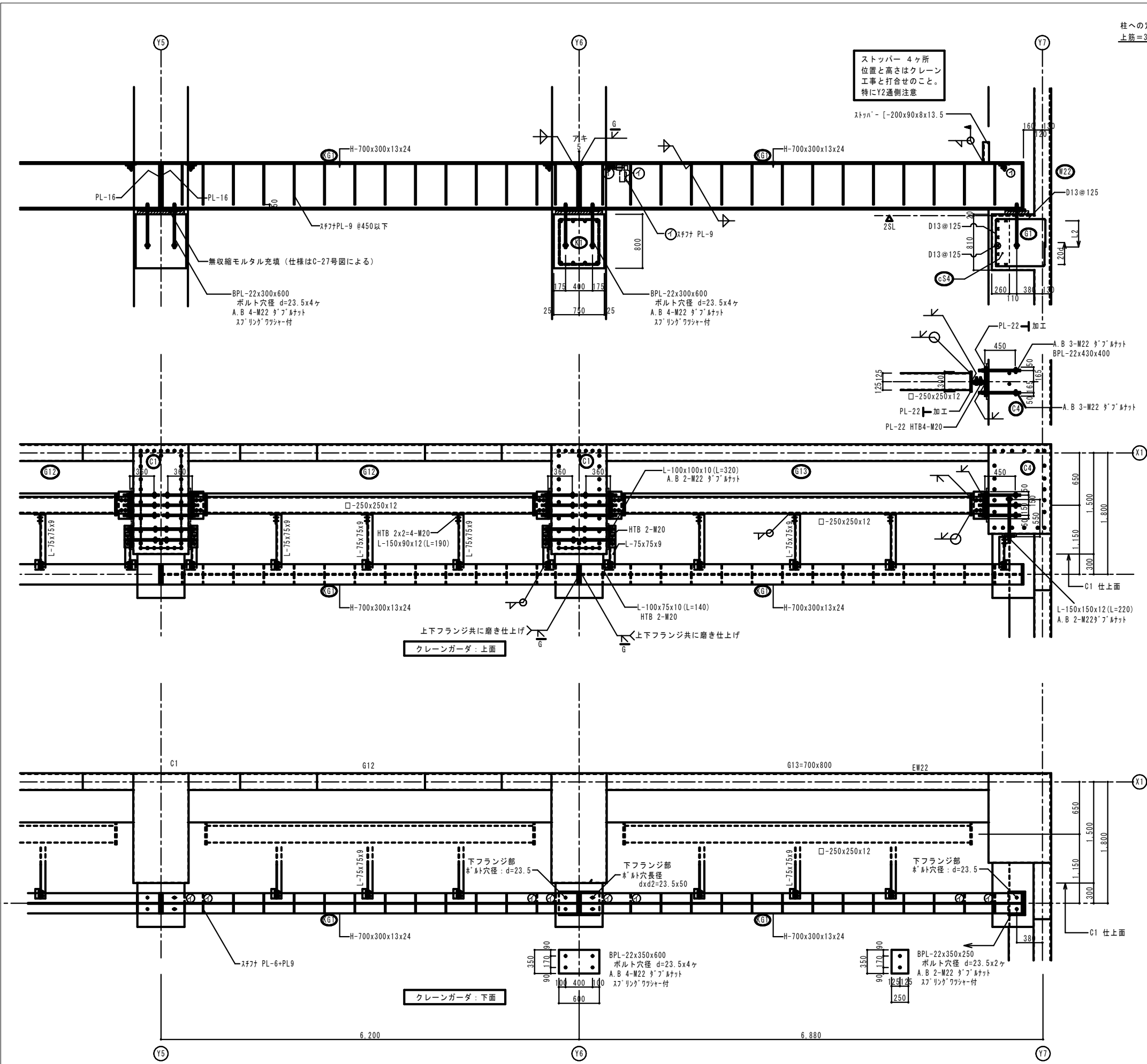
X1 通り詳細図

構造設計担当 田中 稔
一級建築士大臣登録 第134608
構造設計一級建築士 第3047



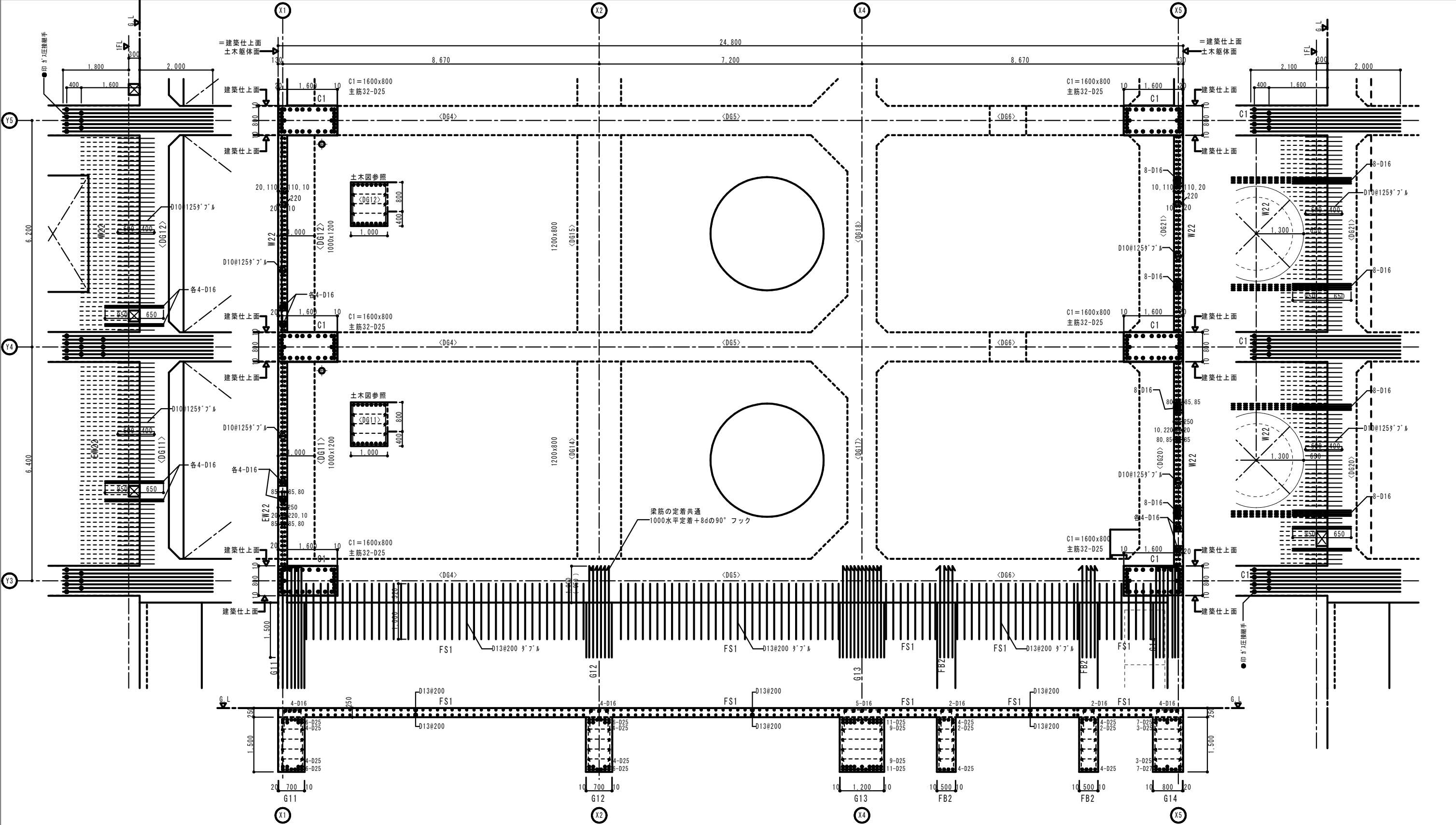
構造設計担当 田中 稔
一級建築士大臣登録 第134608
構造設計一級建築士 第3047

工事名	八代平野農業水利事業 流渾川排水機場建設工事		
図面名	鉄骨詳細図 (2)		
作成年月日			
縮 尺	S=1:30 1:5	図面番号	C-35
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		



※クレーンレール (30kg) の取り付けはクレーン工事とする。 C-29号図 その他の部材リスト-2参照

鉄骨部材リスト			クレーン受け部材用
符号	断面	材質	備考
KG1	H-700x300x13x24	SN400B	プレート (P.L.) もSN400Bとする。
取付けアングル	L-75x75~L-100x100	SS400	
溝形鋼	[-250x90x11x14.5	SS400	
HTB (高力ボルト)	HTB M22	F8T	溶融亜鉛メッキボルト
A.B (アンカ-ボルト)	A.B M22 (Lの取付)	ABR400	ﾀﾞﾌﾞﾙﾈｯﾄ、定着板付き。躯体への定着は図示による。
	A.B M22	ABR400	ﾀﾞﾌﾞﾙﾈｯﾄ+ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞﾜｯｼｰ、定着板付き。躯体へ20dの定着
水平受け材	[-250x250x12	BCR295	



打ち継ぎ面処理

- 1 コンクリート打ち継ぎ面は、目荒らし清掃をおこなう。
- 2 主筋は錆などを取り除き、必要なふり厚さを確保する
主筋の台直しは原則行なわない。
- 3 コンクリート打設前に清掃、散水が可能なように、
型枠は適切な処置をおこなう。

ガス圧接継手

- 1 圧接位置はコンクリート面より1,600mm以上とし、建築工事でその位置にて
切断する。 隣り合う継手は400mm以上離すこと。
- 2 圧接端面及びその周辺は、錆、油脂、塗料、セメントペースト、等を取り除くこと。
圧接端面は平滑に仕上げ、その周辺は軽く面取りをする。
圧接端面の処理は原則として圧接作業当日におこなう。
- 3 ●印はガス圧接位置を示す
- 5 A級継手圧接施工会社によるA級継手圧接施工とする。

特記事項

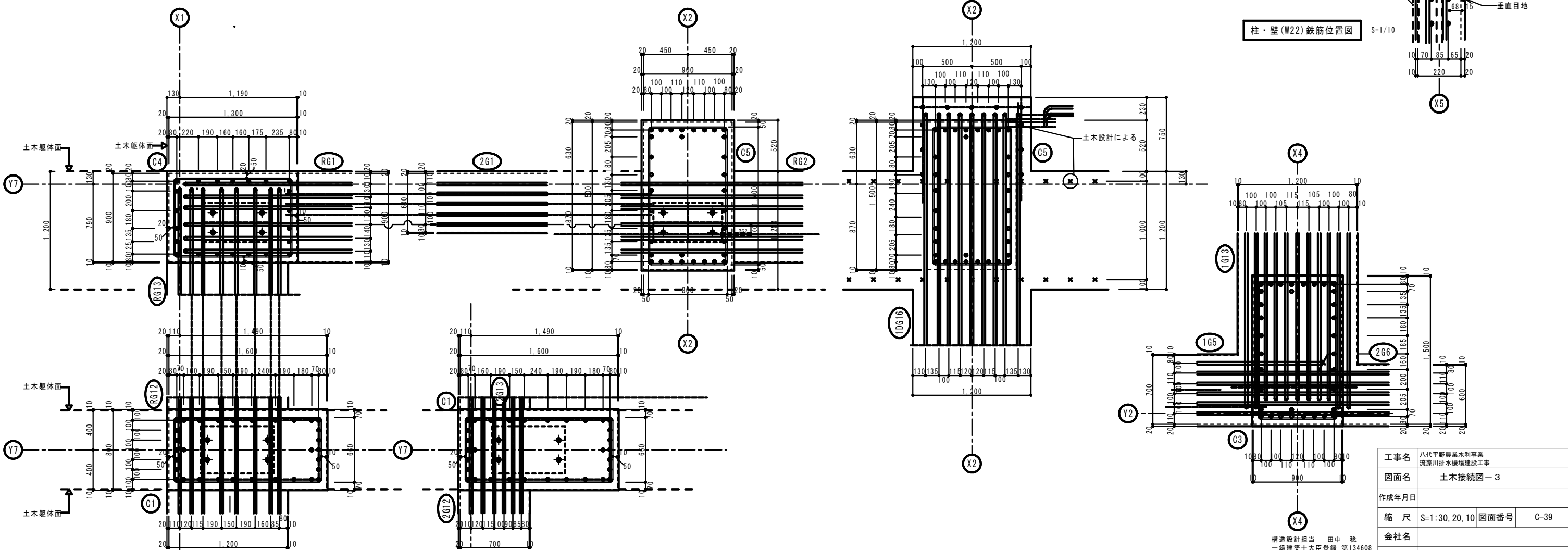
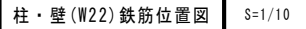
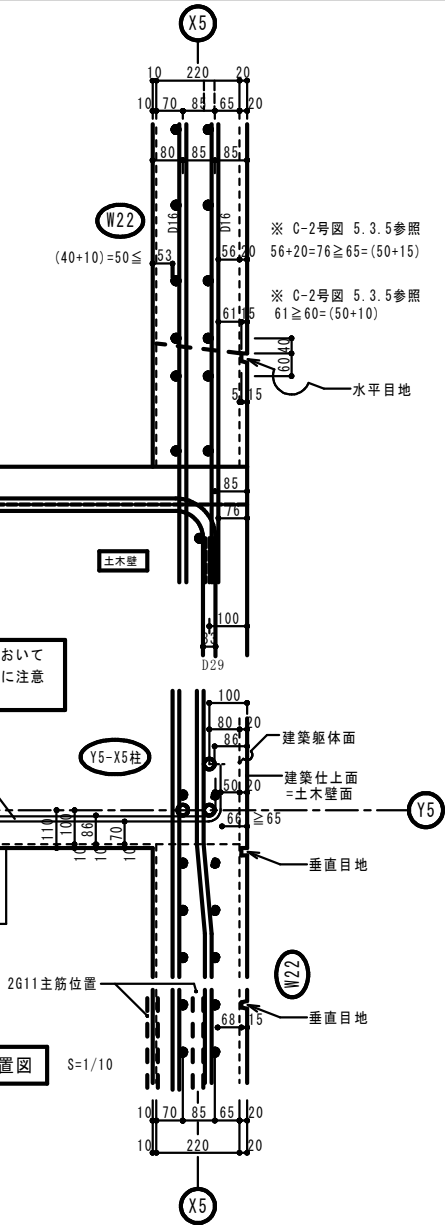
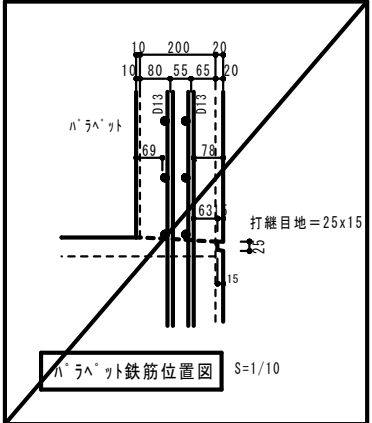
- 1 使用材料 鉄筋 SD345 D19以上
SD295A D16以下
- 2 特記なき土木構造物への定着長さ L は
壁筋、スラブ筋は $L \geq 40d$
柱筋は $L = 2,000$
梁筋は 水平定着長さ 1段目筋=1,000、2段目筋=950とし
かつ それぞれ 8d 以上の90度フックをつける。
dは鉄筋径：建築架構配筋図も参照のこと
- 3 柱主筋・梁主筋及び壁筋・スラブ筋等の位置は土木接続図-3
及び建築意匠・構造図を参照確認のこと。
- 4 壁縦補強筋の位置は、建築図により壁開口位置を確認して
施工図を作成して決定すること。

一級建築士 大臣登録 第301654号 板倉 祥浩

構造設計担当 田中 稔
一級建築士大臣登録 第134608
構造設計一級建築士 第3047

工事名	八代平野農業水利事業 流濁川排水機場建設工事		
図面名	土木接続図 - 1		
作成年月日			
縮尺	A1 S=1:50 A2 S=1:100	図面番号	C-37
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		

柱リスト 1 : 30

[illegible]

構造設計担当 田中 稔
一級建築士大臣登録 第134608
構造設計一級建築士 第3047

一級建築士 大臣登録 第301654号 板倉 祥浩 構造設計一級建築士 第3047 事務所名 九州農政局 八代平野農業水利事業所

令和２年度

八代平野農業水利事業

流藻川排水機場実施設計業務

工事設計図

平成

年

月

(金)

枚

仕様書

1. 工事概要

1. 工事場所

2. 建物概要

建物名称	構造	階数	延べ面積(㎡)	消防法施行令別表第一	備考

(備考中の特定の施設、一般の施設とは耐震安全性の分類を示す。)

3. 工事項目(●印を付けたものを適用する)

建物別及び屋外	工事種別						
工事種目	電気室	新設	一式	一式	一式	一式	一式
●空気調和設備	新設	一式	一式	一式	一式	一式	一式
●換気設備	新設	一式	一式	一式	一式	一式	一式
○排煙設備	新設	一式	一式	一式	一式	一式	一式
○自動制御設備	新設	一式	一式	一式	一式	一式	一式
●衛生器具設備	新設	一式	一式	一式	一式	一式	一式
●給水設備	新設	一式	一式	一式	一式	一式	新機式
●排水設備	新設	一式	一式	一式	一式	一式	新機式
●給湯設備	新設	一式	一式	一式	一式	一式	一式
○消火設備	新設	一式	一式	一式	一式	一式	一式
○厨房設備	新設	一式	一式	一式	一式	一式	一式
○ガス設備	新設	一式	一式	一式	一式	一式	一式
○ごみ処理設備	新設	一式	一式	一式	一式	一式	一式
○浄化槽設備	新設	一式	一式	一式	一式	一式	一式
○	新設	一式	一式	一式	一式	一式	一式

4. 指定部分

○無

○有

工期：平成 年 月 日

5. 設備概要(●印のついたものを適用する)

方式及び種別	設備概要		
空調方式	●空気調和	●単一ダクト方式	●全空調方式
主要動熱機	●セントラルパッケージ	○ファンコイルユニット・ダクト併用方式	○
自動制御方式	○電気式	○電子式	○デジタル式
給水方式	○高圧タンク方式	●直圧給水方式	○
排水方式	建物内の汚水と雑排水(○合流式 ●分流式) ポンプ排水 ○あり(○汚物 ○雑排水 ○湯水) 建築物排水流 (1)汚水 ○直放流下水管 ●合流浄化槽 (2)雑排水 ○直放流下水管 ●合流浄化槽 ○室内汚水処理設備 ○スプリンクラー設備 ○洗滌水設備 ○連絡排水方式 ○連絡送水管 ○フード等用簡易自動火災 ○不活性ガス消火設備(○ ○都市ガス(種別13A、高圧危険物貯蔵(種別14Q)(N)、低圧危険物貯蔵(種別14Q)(N) 供給能力 Pa、供給事業者名 東電ガス線)		
消火設備の種類	○	○	○
ガスの種類	○	○	○

(6. 改修内容(改修工事のみ))

2. 工事仕様

1. 共通仕様

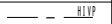
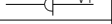
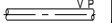
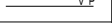
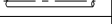
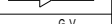
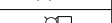
(1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大匠官庁庁営繕部監(機械設備工事編)(平成22年版) (以下、「標準仕様書」という。)、 「公設設備工事編」(平成22年版) (以下、「改修標準仕様書」という。) 及び「設備工事編」(平成22年版) (以下、「標準図」という。) による。
(2) 電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、電気設備工事及び建築工事は、なお、電気設備工事の工事仕様は、(/) 図、建築工事の工事仕様は(/)

2. 特記仕様

章、項目、特記事項共に●印の付いたものを適用し、○印のものは適用しない。

章	項目	特記事項																										
●特定建設資材の再資源化等について	●本工事は「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」(平成12年5月31日対象建設工事であり、分別解体、特定建設資材の再資源化等について適切な処理を行う工事契約時にやむを得ない事情により予定した条件により難しい場合は監督職員と協議再資源化等の完了時に、以下の事項を書面に提出する監督職員に報告する。 ①再資源化等が完了した年月日 ②再資源化等をした施設の名称及び住所 ③再資源化等をした費用 1) 分別解体の方法 <table><thead><tr><th>工種</th><th>作業内容</th><th>分別解体の方法</th></tr></thead><tbody><tr><td>○新築</td><td>建築設備工事</td><td>○手作業</td></tr><tr><td>○増築</td><td>○あり</td><td>○手作業・機械作業併用</td></tr><tr><td>○修繕</td><td>○なし</td><td></td></tr><tr><td>○解体替</td><td></td><td></td></tr></tbody></table> 2) 特定建設資材廃棄物の種類と再資源化等をする施設 <table><thead><tr><th>特定建設資材廃棄物の種類</th><th>再資源化等をする施設の名称</th><th>所在地</th></tr></thead><tbody><tr><td>○コンクリート及び鉄筋 成る建設資材</td><td></td><td></td></tr><tr><td>○木材</td><td></td><td></td></tr><tr><td>○アスファルト・コンクリート</td><td></td><td></td></tr></tbody></table>	工種	作業内容	分別解体の方法	○新築	建築設備工事	○手作業	○増築	○あり	○手作業・機械作業併用	○修繕	○なし		○解体替			特定建設資材廃棄物の種類	再資源化等をする施設の名称	所在地	○コンクリート及び鉄筋 成る建設資材			○木材			○アスファルト・コンクリート		
工種	作業内容	分別解体の方法																										
○新築	建築設備工事	○手作業																										
○増築	○あり	○手作業・機械作業併用																										
○修繕	○なし																											
○解体替																												
特定建設資材廃棄物の種類	再資源化等をする施設の名称	所在地																										
○コンクリート及び鉄筋 成る建設資材																												
○木材																												
○アスファルト・コンクリート																												
●建材等	●本工事は「建設副産物情報交換システム」を活用する。 総合施工計画作成時、工事完了時及び登録情報に変更が生じた場合、速やかに当該施工計画を行う。また、同システムにより工事着手時に再生資源利用計画書及び再生資源工事完了時に同計画書の実施報告書(書式は同一)を作成し、監督職員に提出する。 (1) 本工事に使用する建材等は、設計図書に定める品質及び性能を有するもの又は同ただし、同等以上のものとする場合は、あらかじめ監督職員の承認を受ける。 (2) 別表-1に建材等名が記載された製造業者等は次の1) から6) すべての事項を満たすこととなる資料又は外部機関(社)公共建築協会他)が発行する品質及び性能となる資料等を出発を省略することができる。 1) 品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 2) 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 3) 安定的な供給が可能であること。 4) 法令等で定めがある場合は、その許可、認定又は免許を取得していること。 5) 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 6) 販売、保守等の営業体制が整えられていること。なお、システムとして機能するシステムの構築能力があり、現場での施工体制が整えられていること。 ●本工事は「建設副産物情報交換システム」を活用する。 総合施工計画作成時、工事完了時及び登録情報に変更が生じた場合、速やかに当該施工計画を行う。また、同システムにより工事着手時に再生資源利用計画書及び再生資源工事完了時に同計画書の実施報告書(書式は同一)を作成し、監督職員に提出する。 (1) 本工事に使用する建材等は、設計図書に定める品質及び性能を有するもの又は同ただし、同等以上のものとする場合は、あらかじめ監督職員の承認を受ける。 (2) 別表-1に建材等名が記載された製造業者等は次の1) から6) すべての事項を満たすこととなる資料又は外部機関(社)公共建築協会他)が発行する品質及び性能となる資料等を出発を省略することができる。 1) 品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 2) 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 3) 安定的な供給が可能であること。 4) 法令等で定めがある場合は、その許可、認定又は免許を取得していること。 5) 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 6) 販売、保守等の営業体制が整えられていること。なお、システムとして機能するシステムの構築能力があり、現場での施工体制が整えられていること。 ●本工事は「建設副産物情報交換システム」を活用する。 総合施工計画作成時、工事完了時及び登録情報に変更が生じた場合、速やかに当該施工計画を行う。また、同システムにより工事着手時に再生資源利用計画書及び再生資源工事完了時に同計画書の実施報告書(書式は同一)を作成し、監督職員に提出する。 (1) 本工事に使用する建材等は、設計図書に定める品質及び性能を有するもの又は同ただし、同等以上のものとする場合は、あらかじめ監督職員の承認を受ける。 (2) 別表-1に建材等名が記載された製造業者等は次の1) から6) すべての事項を満たすこととなる資料又は外部機関(社)公共建築協会他)が発行する品質及び性能となる資料等を出発を省略することができる。 1) 品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 2) 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 3) 安定的な供給が可能であること。 4) 法令等で定めがある場合は、その許可、認定又は免許を取得していること。 5) 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 6) 販売、保守等の営業体制が整えられていること。なお、システムとして機能するシステムの構築能力があり、現場での施工体制が整えられていること。 ●本工事は「建設副産物情報交換システム」を活用する。 総合施工計画作成時、工事完了時及び登録情報に変更が生じた場合、速やかに当該施工計画を行う。また、同システムにより工事着手時に再生資源利用計画書及び再生資源工事完了時に同計画書の実施報告書(書式は同一)を作成し、監督職員に提出する。 (1) 本工事に使用する建材等は、設計図書に定める品質及び性能を有するもの又は同ただし、同等以上のものとする場合は、あらかじめ監督職員の承認を受ける。 (2) 別表-1に建材等名が記載された製造業者等は次の1) から6) すべての事項を満たすこととなる資料又は外部機関(社)公共建築協会他)が発行する品質及び性能となる資料等を出発を省略することができる。 1) 品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 2) 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 3) 安定的な供給が可能であること。 4) 法令等で定めがある場合は、その許可、認定又は免許を取得していること。 5) 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 6) 販売、保守等の営業体制が整えられていること。なお、システムとして機能するシステムの構築能力があり、現場での施工体制が整えられていること。 ●本工事は「建設副産物情報交換システム」を活用する。 総合施工計画作成時、工事完了時及び登録情報に変更が生じた場合、速やかに当該施工計画を行う。また、同システムにより工事着手時に再生資源利用計画書及び再生資源工事完了時に同計画書の実施報告書(書式は同一)を作成し、監督職員に提出する。 (1) 本工事に使用する建材等は、設計図書に定める品質及び性能を有するもの又は同ただし、同等以上のものとする場合は、あらかじめ監督職員の承認を受ける。 (2) 別表-1に建材等名が記載された製造業者等は次の1) から6) すべての事項を満たすこととなる資料又は外部機関(社)公共建築協会他)が発行する品質及び性能となる資料等を出発を省略することができる。 1) 品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 2) 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 3) 安定的な供給が可能であること。 4) 法令等で定めがある場合は、その許可、認定又は免許を取得していること。 5) 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 6) 販売、保守等の営業体制が整えられていること。なお、システムとして機能するシステムの構築能力があり、現場での施工体制が整えられていること。 ●本工事は「建設副産物情報交換システム」を活用する。 総合施工計画作成時、工事完了時及び登録情報に変更が生じた場合、速やかに当該施工計画を行う。また、同システムにより工事着手時に再生資源利用計画書及び再生資源工事完了時に同計画書の実施報告書(書式は同一)を作成し、監督職員に提出する。 (1																											

凡例

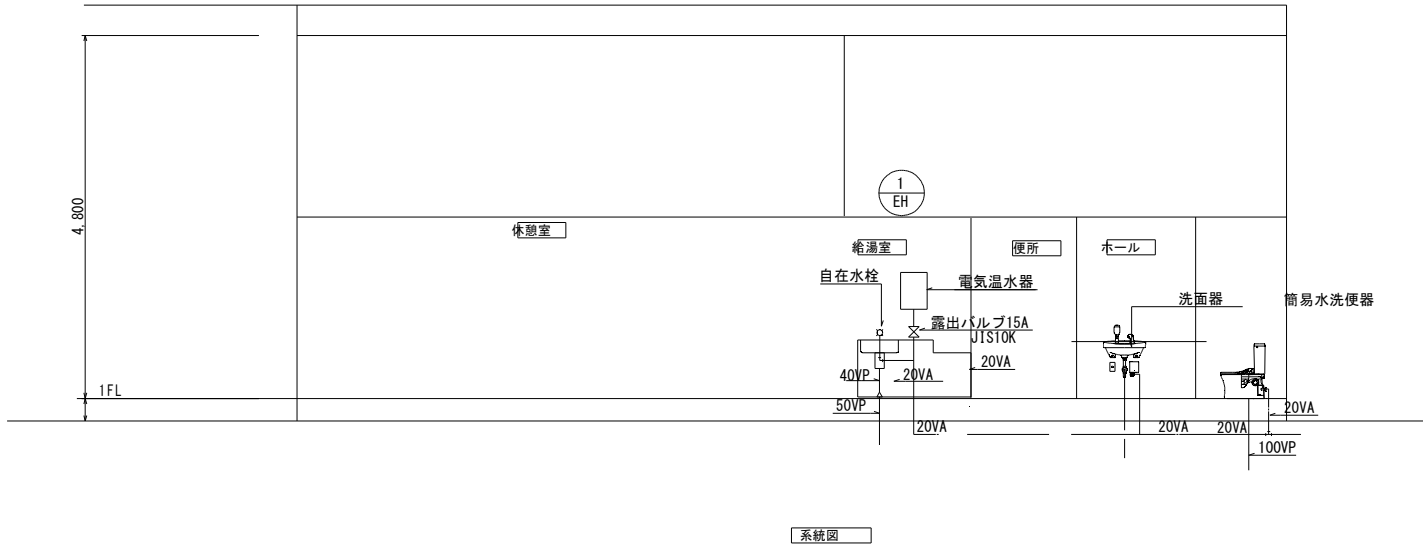
記号	名称	仕 様		使用箇所等	備考
		管種等	規格		
	給水管	耐衝撃性硬質塩化ビニル管 (RIVP)	J I S K 6 7 4 2	屋外土中埋設	
		硬質塩化ビニルライニング鋼管 (VD)	J W W A K 1 1 6	土間埋設	
		硬質塩化ビニルライニング鋼管 (VA)	J W W A K 1 1 6	屋内一般	
	汚水管	硬質塩化ビニル管 (VP)	J I S K 6 7 4 1	屋内土間	
		土中埋設125φ以下：硬質塩化ビニル管 (VP)	J I S K 6 7 4 1	屋外土中埋設	
	雑排水管	硬質塩化ビニル管 (VP)	J I S K 6 7 4 1	屋内土間	
	雨水管	土中埋設125φ以下：硬質塩化ビニル管 (VP)	J I S K 6 7 4 1	屋外土中埋設	
		土中埋設150φ以上：硬質塩化ビニル管 (VU)	J I S K 6 7 4 1	屋外土中埋設	
	小口径例立上り	排水用硬質塩化ビニル管 (VU)	J I S K 6 7 4 1	屋外土中埋設	
	レデューサー	口径変更を表す			
	仕切弁	JIS10K			
	水栓柱	樹脂製水栓柱 (1200H)			
	地中埋設標	表示杭 表示ピン			

衛生器具表

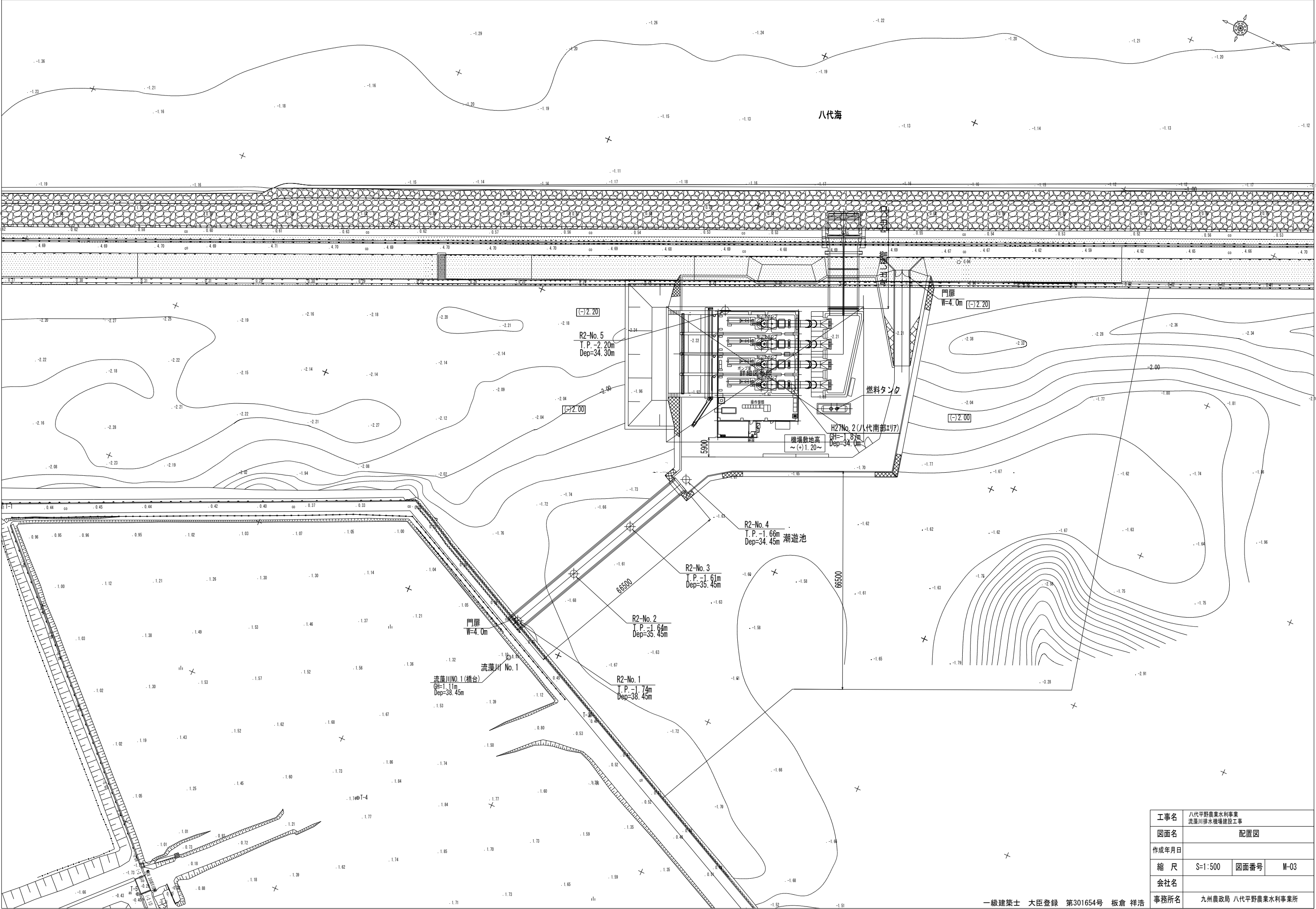
器具	仕 様	構 成 品						設 置 場 所			数 量	備 考
								1 階		屋 外		
								便 所	湯 沸 コーナ	足 洗 場		
水洗洋風大便器（壁・床給水兼用）	洋風大便器	FZ500						1			1	
タオル掛け		YT500S4						1			1	
壁掛洗面器	台付単水栓	L250DM	TLS1101J	TS126AR	T6SM1	TL250D	T7PW1	1			1	取付金具一式
棚付き2連紙巻器		YH600FM						1			1	
自在水栓		13F5							1		1	
水栓柱	VLP（13）60×1200H									1	1	
万能ホーム水栓		13F7								1	1	

機器表

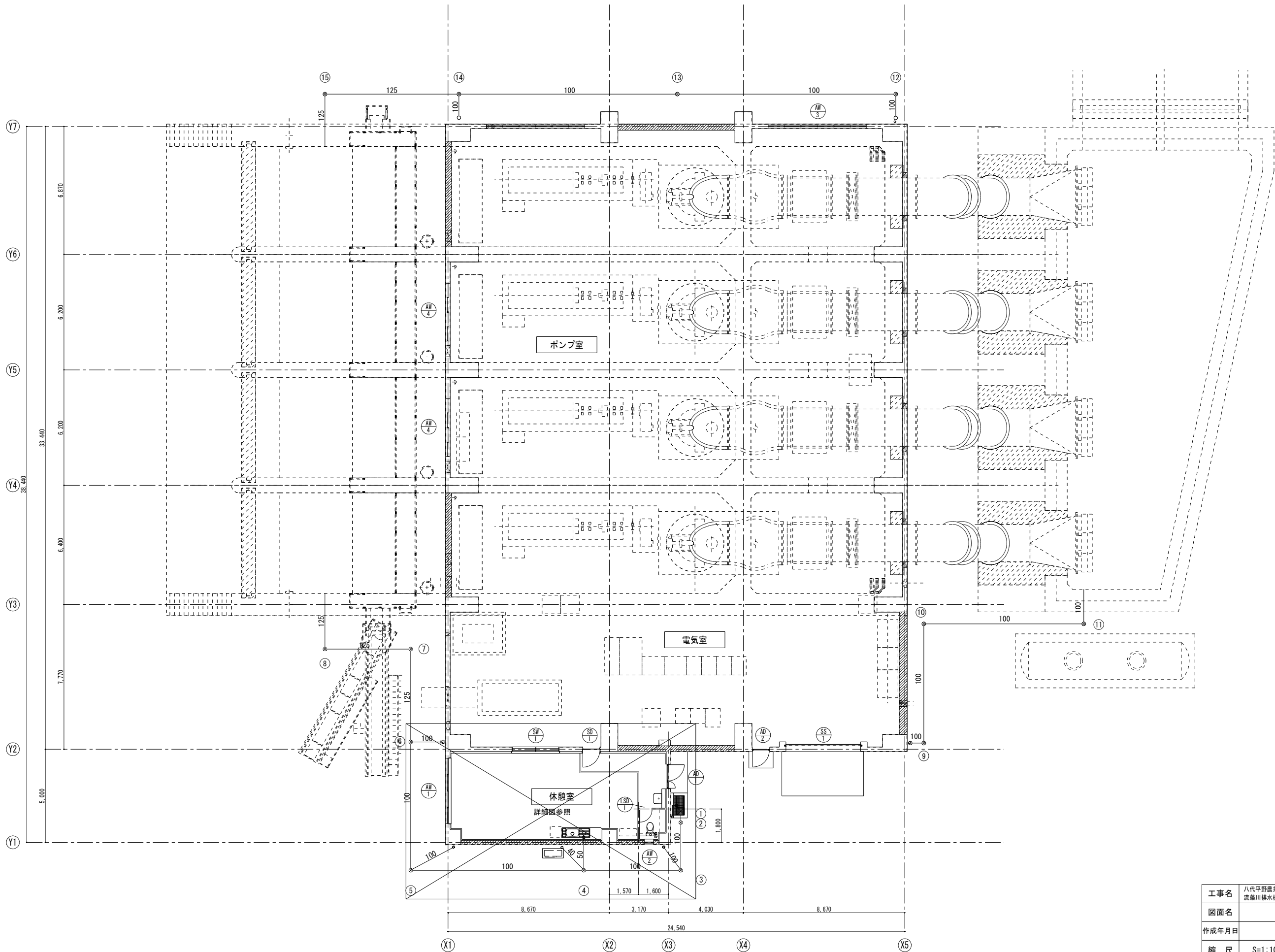
記 号	名 称	仕 様	台 数	設置場所	備 考
	電気湯沸器 フレキシブル	壁掛型 貯湯量 14L 消費電力=0.701 Kw 1φ100V 出湯管400mm（断熱シリコンチューブ付）	1	2F 給湯室	



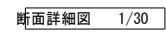
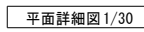
工事名	八代平野農業水利事業 流藻川排水機場建設工事		
図面名	凡例・衛生器具表		
作成年月日			
縮 尺		図面番号	M-02
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		



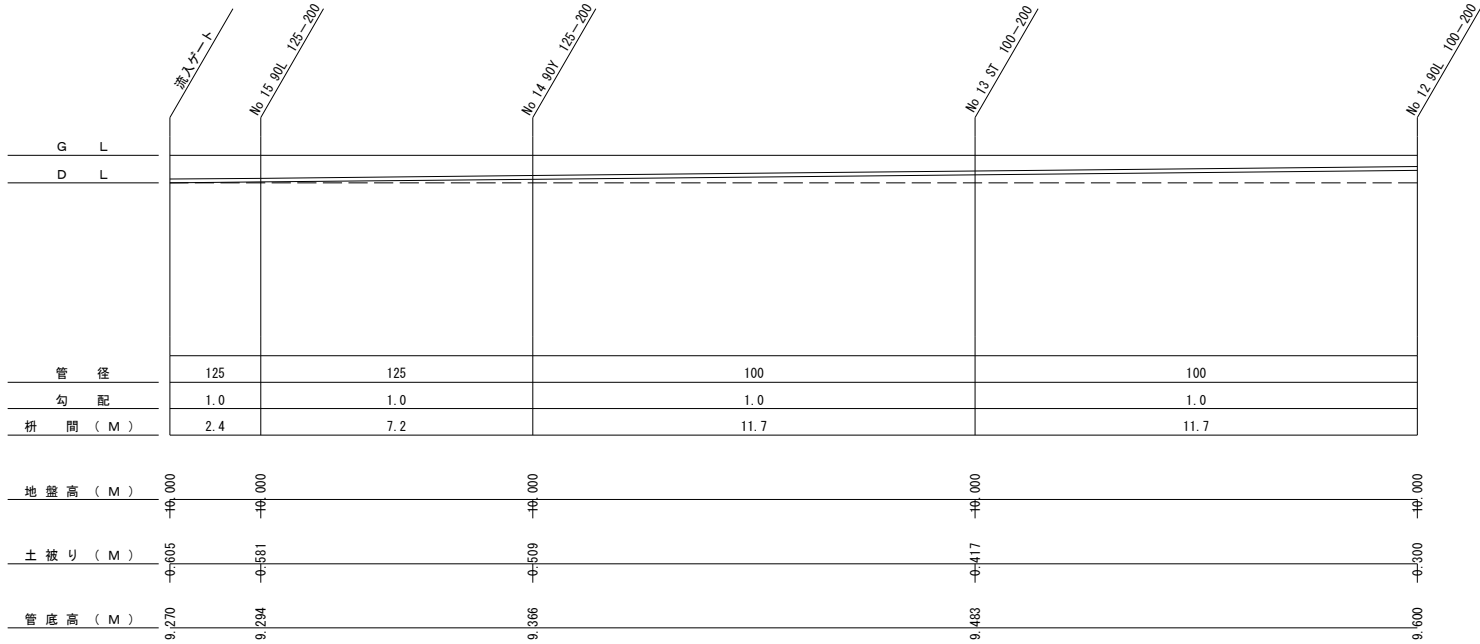
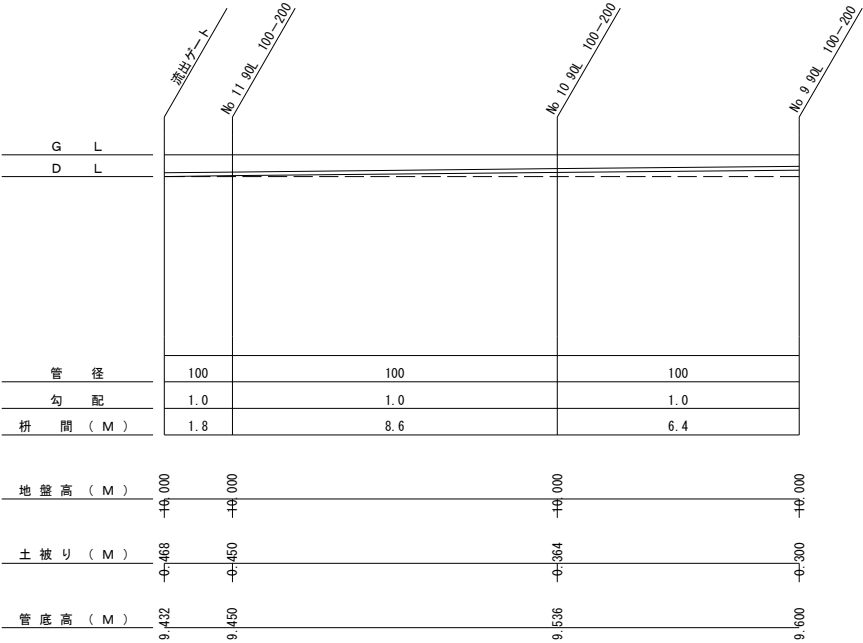
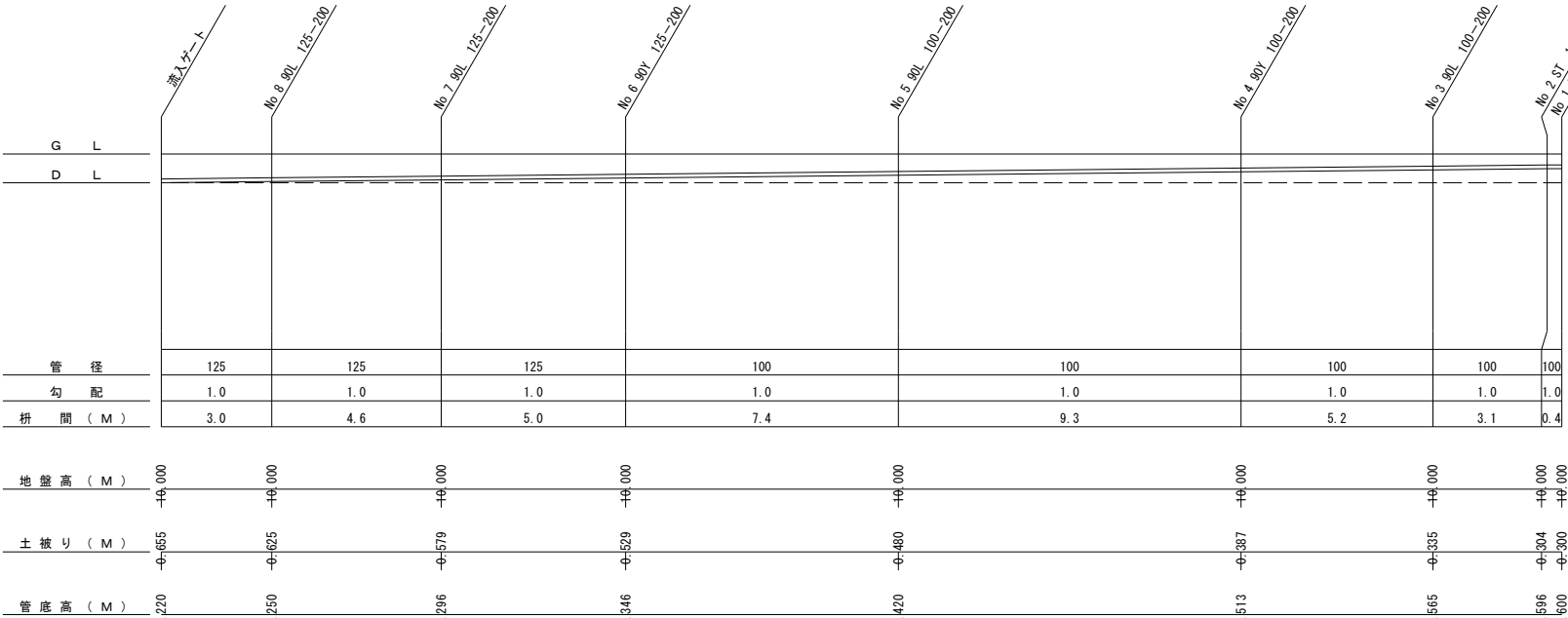
工事名	八代平野農業水利事業 流藻川排水機場建設工事		
図面名	配置図		
作成年月日			
縮 尺	S=1:500	図面番号	M-03
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		



工事名	八代平野農業水利事業 流藻川排水機場建設工事		
図面名	平面図		
作成年月日			
縮 尺	S=1:100	図面番号	M-04
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		



工事名	八代平野農業水利事業 流澤川排水機場建設工事		
図面名	平面図詳細図		
作成年月日			
縮尺	S=1:30	図面番号	M-05
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		



雨水樹リスト									
NO	名称	種別	樹形状	地盤高	管底高	高さ (管底) m	樹蓋		備考
				m	m		小口径鍍鉄蓋 T=2（防水） 200φ	小口径鍍鉄蓋 T=24（防水） 200φ	
1	コンクリート樹	雨水	300×300	10	9.6	0.4			蓋なし泥溜150H
2	小口径雨水樹	雨水	90Y 100-200	10	9.596	0.404	1		泥溜バケット共
3	小口径雨水樹	雨水	90L 100-200	10	9.565	0.435		1	泥溜バケット共
4	小口径雨水樹	雨水	90Y 100-200	10	9.513	0.487		1	泥溜バケット共
5	小口径雨水樹	雨水	90L 100-200	10	9.42	0.58		1	泥溜バケット共
6	小口径雨水樹	雨水	90Y 125-200	10	9.346	0.654		1	泥溜バケット共
7	小口径雨水樹	雨水	90L 125-200	10	9.296	0.704		1	泥溜バケット共
8	小口径雨水樹	雨水	90L 125-200	10	9.25	0.75		1	泥溜バケット共
9	小口径雨水樹	雨水	ST 100-200	10	9.6	0.4		1	泥溜バケット共
10	小口径雨水樹	雨水	90L 100-200	10	9.536	0.464		1	泥溜バケット共
11	小口径雨水樹	雨水	90L 100-200	10	9.450	0.55		1	泥溜バケット共
12	小口径雨水樹	雨水	90L 100-200	10	9.6	0.4		1	泥溜バケット共
13	小口径雨水樹	雨水	ST 100-200	10	9.483	0.517		1	泥溜バケット共
14	小口径雨水樹	雨水	90Y 125-200	10	9.366	0.609		1	泥溜バケット共
15	小口径雨水樹	雨水	90L 125-200	10	9.294	0.681		1	泥溜バケット共

地盤高管底高は参考とする。

工事名	八代平野農業水利事業 流藻川排水機場建設工事		
図面名	排水縦断面図・樹表		
作成年月日			
縮 尺	S=1:100	図面番号	M-06
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		

空調機器表

記 号	名 称	仕 様			台 数	設置場所	備 考	
		能 力		電 気 容 量 (参考値)				電 源
11.2 ACP	空冷ヒートポンプ パッケージエアコン	天井埋込カセット型4方向		消費電力 2.47KW 圧縮機出力 1.95KW 運転電流 7.5A 運転電流(最大) 21.9A	3φ200V	1	1F 休憩室	コンクリート基礎共 リモコンスイッチ共
		冷房能力 10.0 Kw (2.5～11.2)KW 暖房能力 11.2 Kw (2.8～14.0)KW						

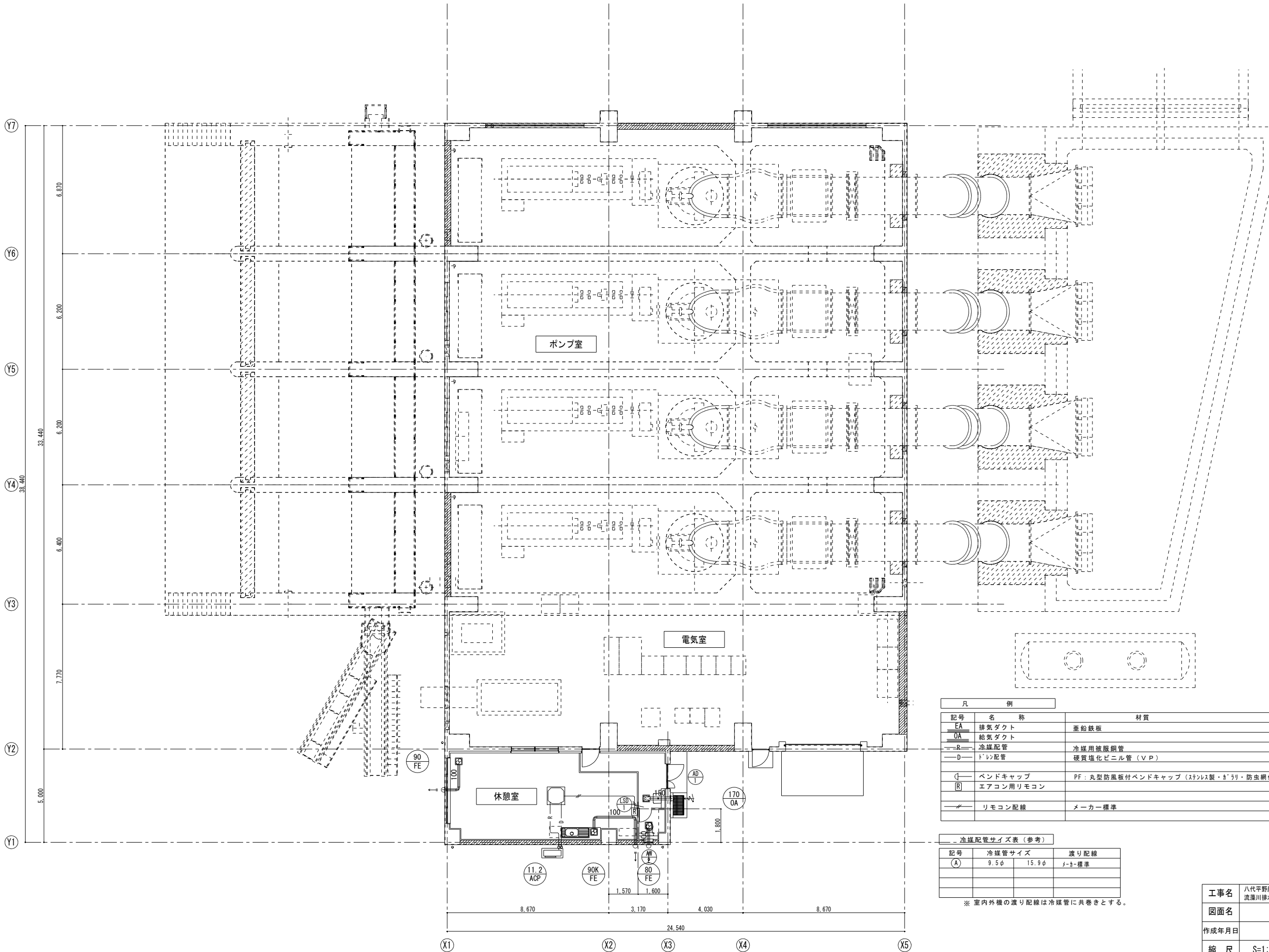
換気機器表

記 号	名 称	仕 様				電 源 1φ×100V (60HZ)	公称出力	台 数	設置場所	備 考			
		能 力		付属品									
80 FE	天井扇	風量	80 m3/H	機外静圧	60 Pa	SUS製深型フード防虫網付き100φ	静圧損失	10 Pa以下	1φ×100V	15.5W	1	便所	
90 FE	天井扇(24時間換気対応)	風量	90 m3/H	機外静圧	100 Pa	SUS製深型フード防虫網付き100φ	静圧損失	15 Pa以下	1φ×100V	23W	1	休憩室	
90K FE	天井扇(ミキッテ用)	風量	90 m3/H	機外静圧	100 Pa	SUS製深型フード防虫網付き100φ	静圧損失	15 Pa以下	1φ×100V	27W	1	休憩室	
4500 FE	圧力扇(450φ) (排気タイプ)	風量	4500 m3/H	機外静圧	100 Pa	SUS製ウエザーカバード防虫網付き500φ用 鋼板製電動シャッター500φ用(10Pa以下) 取付枠500φ用(5Pa以下) 全開口型消音ボックス750×750×3100H	静圧損失	60 Pa以下 消音内貼りGW50mm(亜鉛鉄板1.6mm) 外装部分塗装共	3φ×200V	400W	1	搬入スペース	消費電力 405W 運転電流 1.48A 起動電流 10.8A
27000 FE-1	圧力扇(800φ) (排気タイプ)	風量	27000 m3/H	機外静圧	150 Pa	SUS製ウエザーカバード防虫網付き1050φ用 鋼板製電動シャッター800φ用(15Pa以下) 全開口型消音ボックス1250×1250×3700H	静圧損失	100 Pa以下 消音内貼りGW50mm(ステンレス1.5mm)	3φ×200V	3700W	4	ポンプ室 No.1～No.4主ポンプ 4台	消費電力 3450W 運転電流 8.7A 起動電流 56.6A
27000 FE-2	圧力扇(800φ) (排気タイプ)	風量	27000 m3/H	機外静圧	150 Pa	SUS製ウエザーカバード防虫網付き1050φ用 鋼板製電動シャッター800φ用(15Pa以下) 全開口型消音ボックス1250×1250×3700H	静圧損失	100 Pa以下 消音内貼りGW50mm(亜鉛鉄板1.6mm) 外装部分塗装共	3φ×200V	3700W	1	ポンプ室 非常用自家発電 1台	消費電力 3450W 運転電流 8.7A 起動電流 56.6A
4500 FS	圧力扇(450φ) (給気タイプ)	風量	4500 m3/H	機外静圧	100 Pa	SUS製ウエザーカバード防虫網付500φ用 鋼板製電動シャッター500φ用(30Pa以下) 取付枠500φ用(5Pa以下) 全開口型消音ボックス750×750×3100H	静圧損失	50 Pa以下 消音内貼りGW50mm(亜鉛鉄板1.6mm) 外装部分塗装共	3φ×200V	400W	1	搬入スペース	消費電力 375W 運転電流 1.37A 起動電流 11.1A
24000 FS-1	圧力扇(800φ) (給気タイプ)	風量	24000 m3/H	機外静圧	200 Pa	SUS製ウエザーカバード防虫網付き1050φ用 鋼板製電動シャッター800φ用(40Pa以下) 全開口型消音ボックス1250×1250×3300H	静圧損失	60 Pa以下 消音内貼りGW50mm(亜鉛鉄板1.6mm) 外装部分塗装共	3φ×200V	3700W	6	ポンプ室 No.1～No.4主ポンプ 6台	消費電力 2670W 運転電流 14.6A 起動電流 65.7A
24000 FS-2	圧力扇(800φ) (給気タイプ)	風量	24000 m3/H	機外静圧	200 Pa	SUS製ウエザーカバード防虫網付き1050φ用 鋼板製電動シャッター800φ用(40Pa以下) 全開口型消音ボックス1250×1250×3700H	静圧損失	60 Pa以下 消音内貼りGW50mm(亜鉛鉄板1.6mm) 外装部分塗装共	3φ×200V	3700W	2	ポンプ室 No.1～No.4主ポンプ 2台	消費電力 2670W 運転電流 14.6A 起動電流 65.7A

給排気グリル

記 号	名 称	仕 様		台 数	設置場所	備 考
		能 力	付属品			
170 OA	角型給排気グリル	風量 170 m3/H 静圧損失 15 Pa以下	SUS製深型フード防虫網付き150φ 静圧損失 20 Pa以下	1	ホール	

工事名	八代平野農業水利事業 流藻川排水機場建設工事		
図面名	空調換気機器表		
作成年月日			
縮 尺	-	図面番号	M-07
会社名			
事務所名	九州農政局八代平野農業水利事業所		

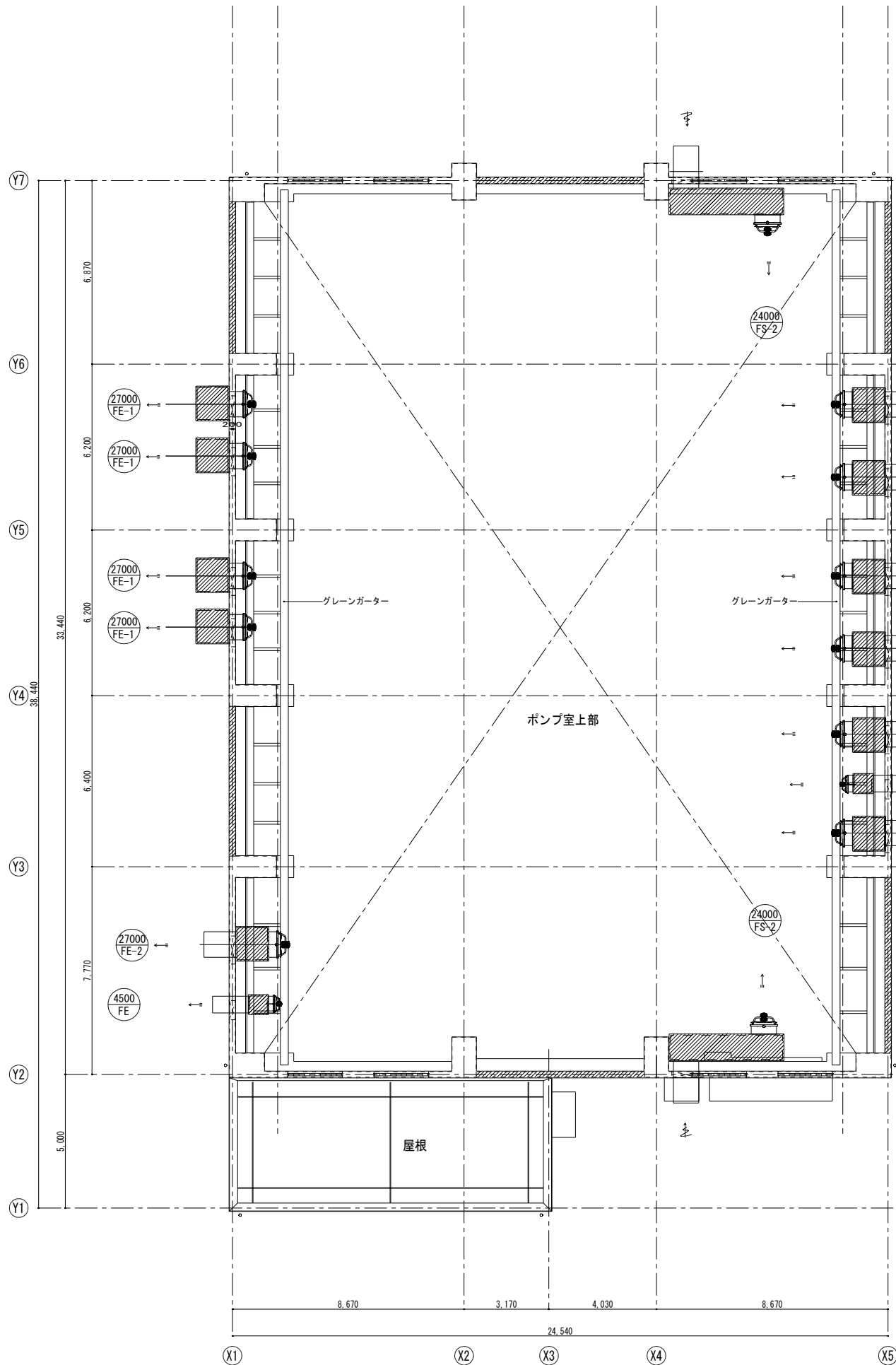


凡 例		
記号	名 称	材質
EA	排気ダクト	亜鉛鉄板
OA	給気ダクト	
R	冷媒配管	冷媒用被服銅管
D	ドレン配管	硬質塩化ビニル管 (V P)
⌒	ベンドキャップ	PF : 丸型防風板付ベンドキャップ (ステンレス製・ｶﾞﾗﾘｰ・防虫網付)
R	エアコン用リモコン	
—	リモコン配線	メーカー標準

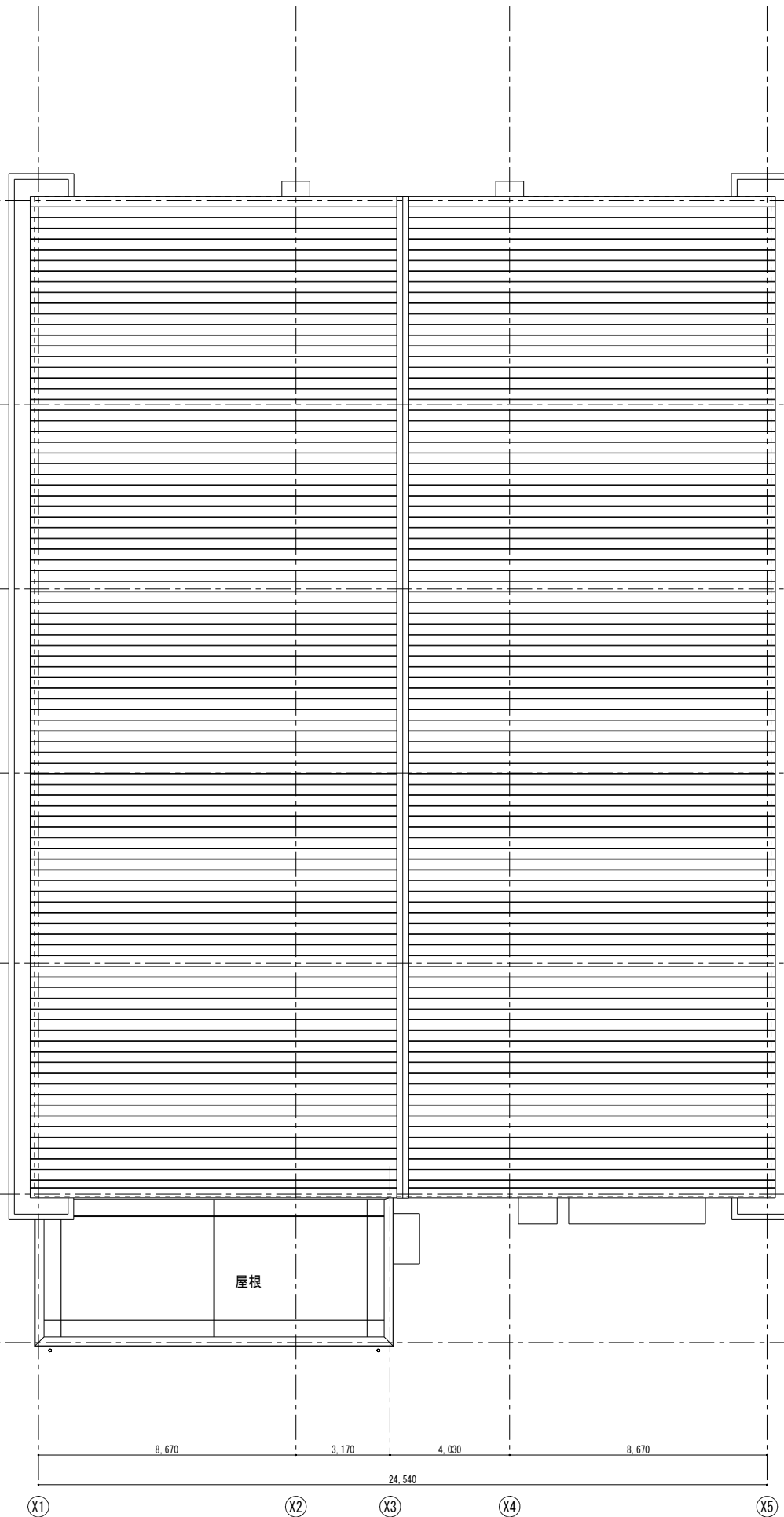
冷媒配管サイズ表 (参考)			
記号	冷媒管サイズ		渡り配線
(A)	9.5φ	15.9φ	メーカー標準

※ 室内外機の渡り配線は冷媒管に共巻きとする。

工事名	八代平野農業水利事業 流藻川排水機場建設工事		
図面名	換気平面図		
作成年月日			
縮 尺	S=1:100	図面番号	M-08
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		

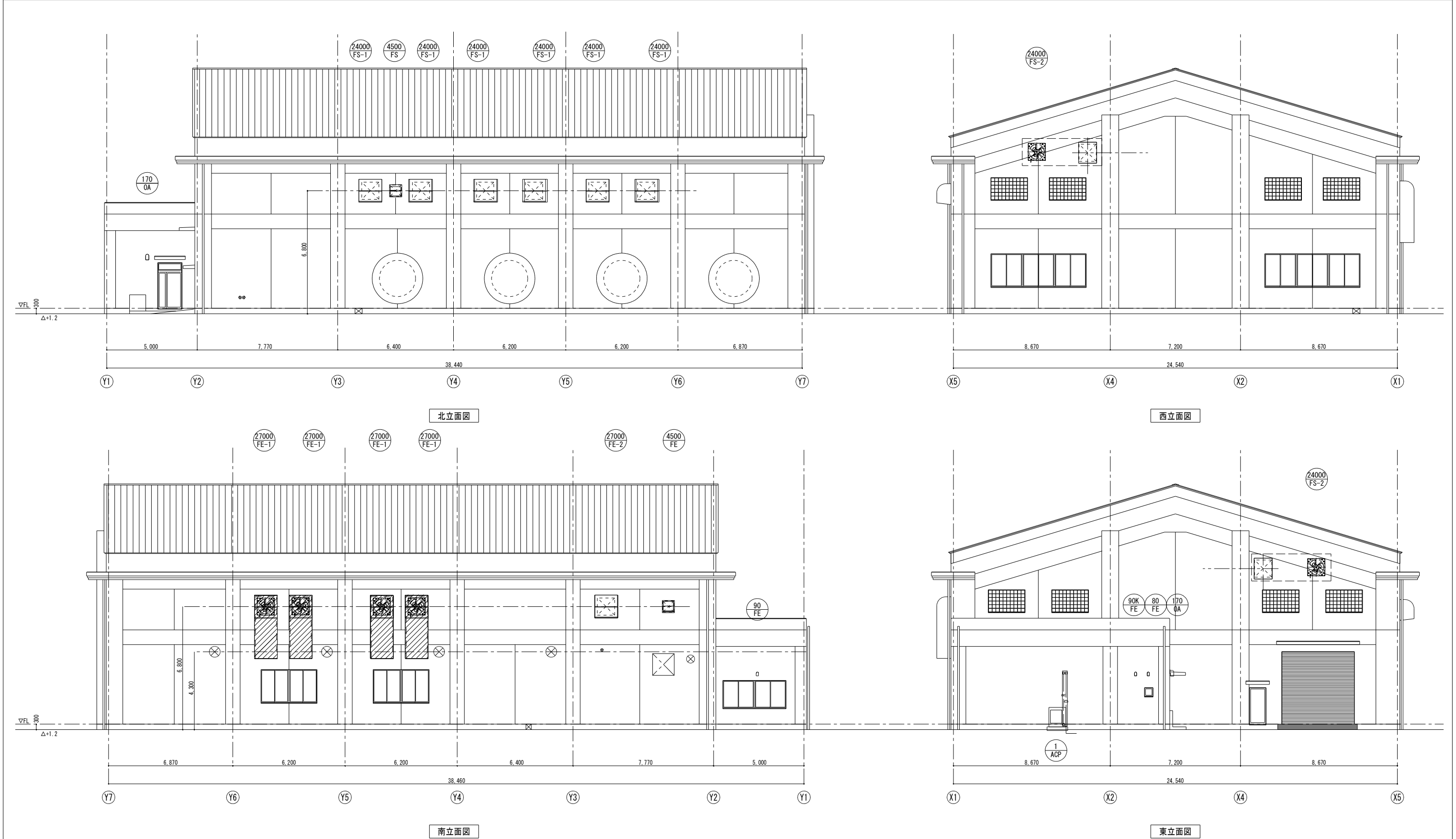


平面図(上部)

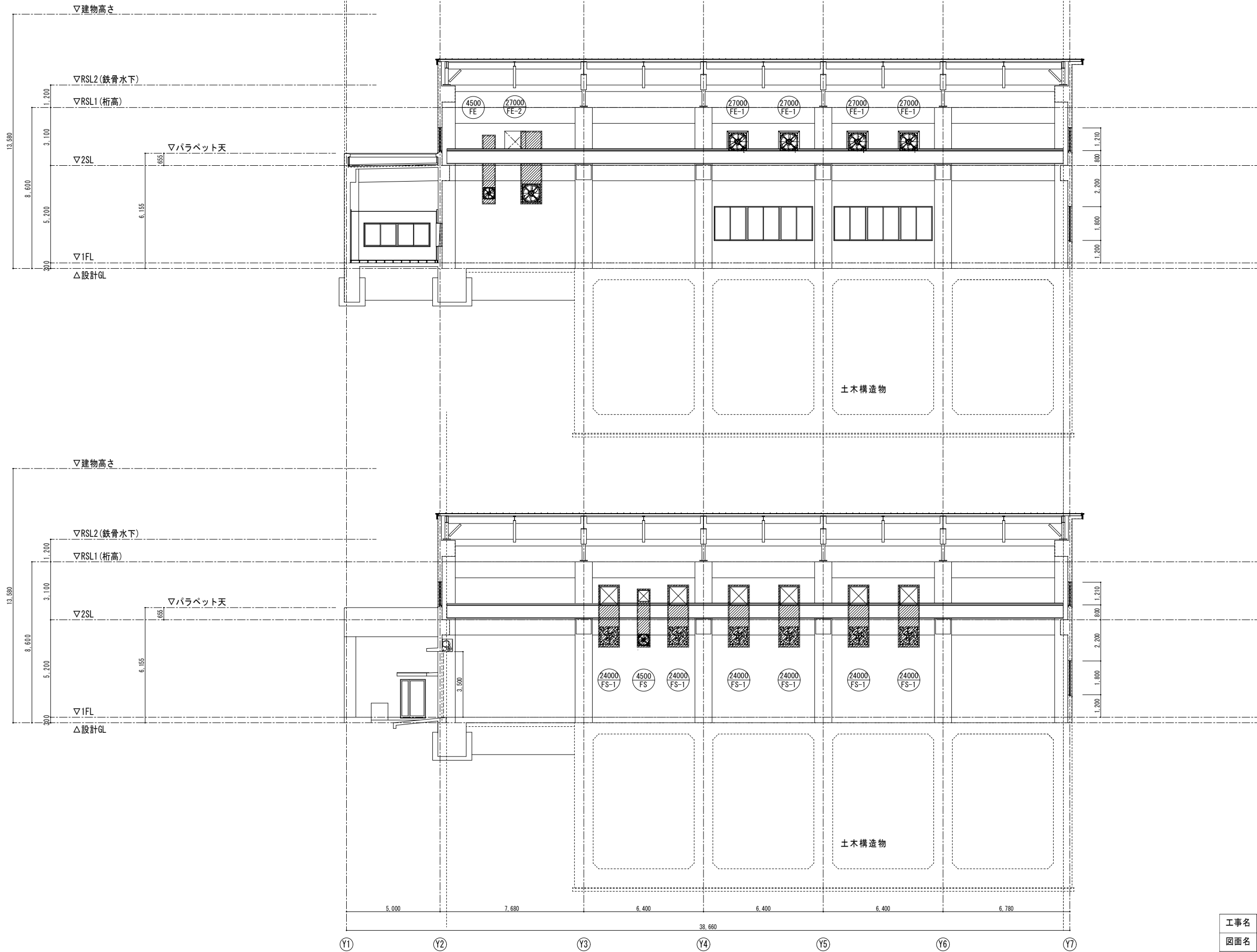


屋根伏図

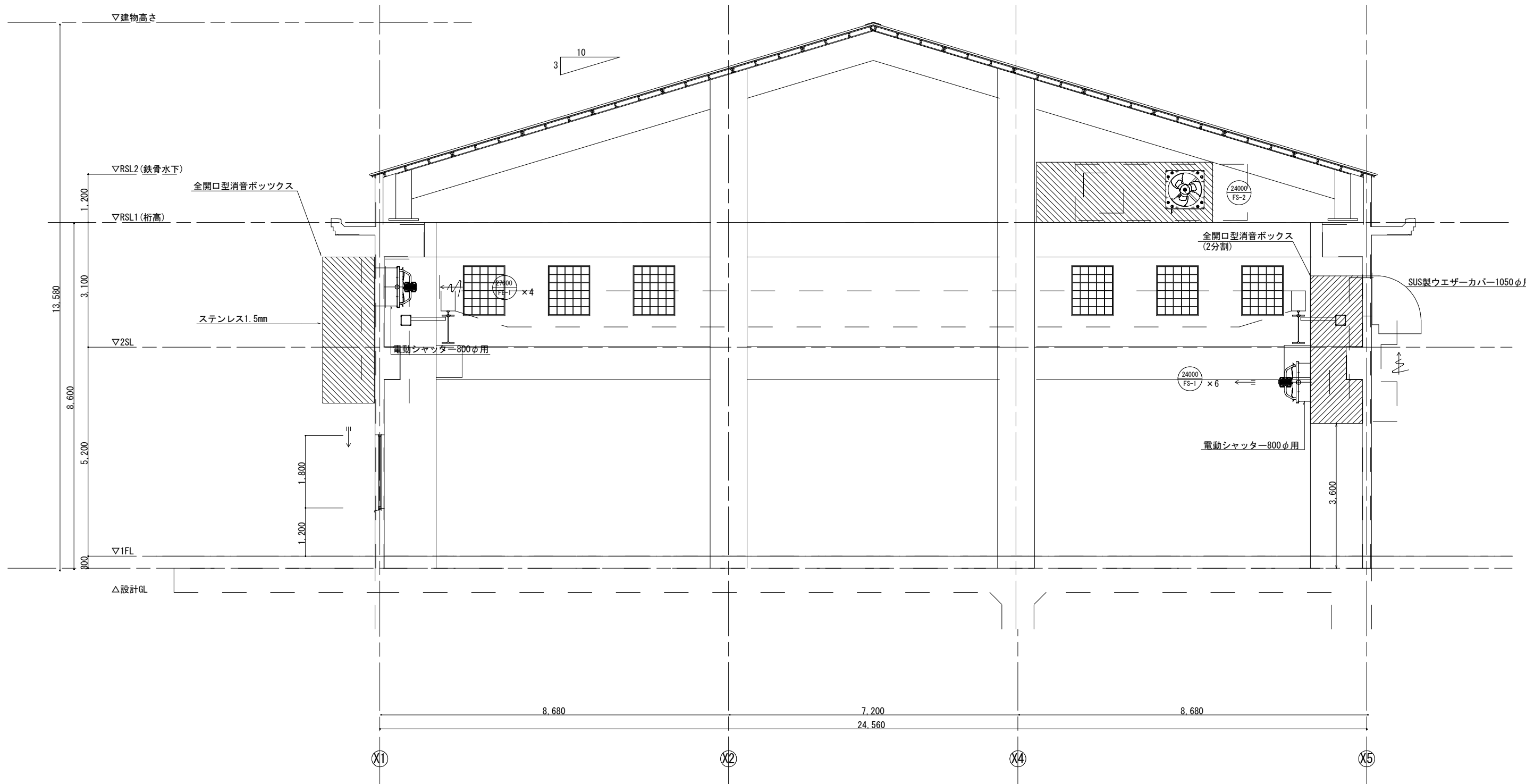
工事名	八代平野農業水利事業 流瀬川排水機場建設工事		
図面名	平面図(上部)・屋根伏図		
作成年月日			
縮尺	S=1:100	図面番号	M-09
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		



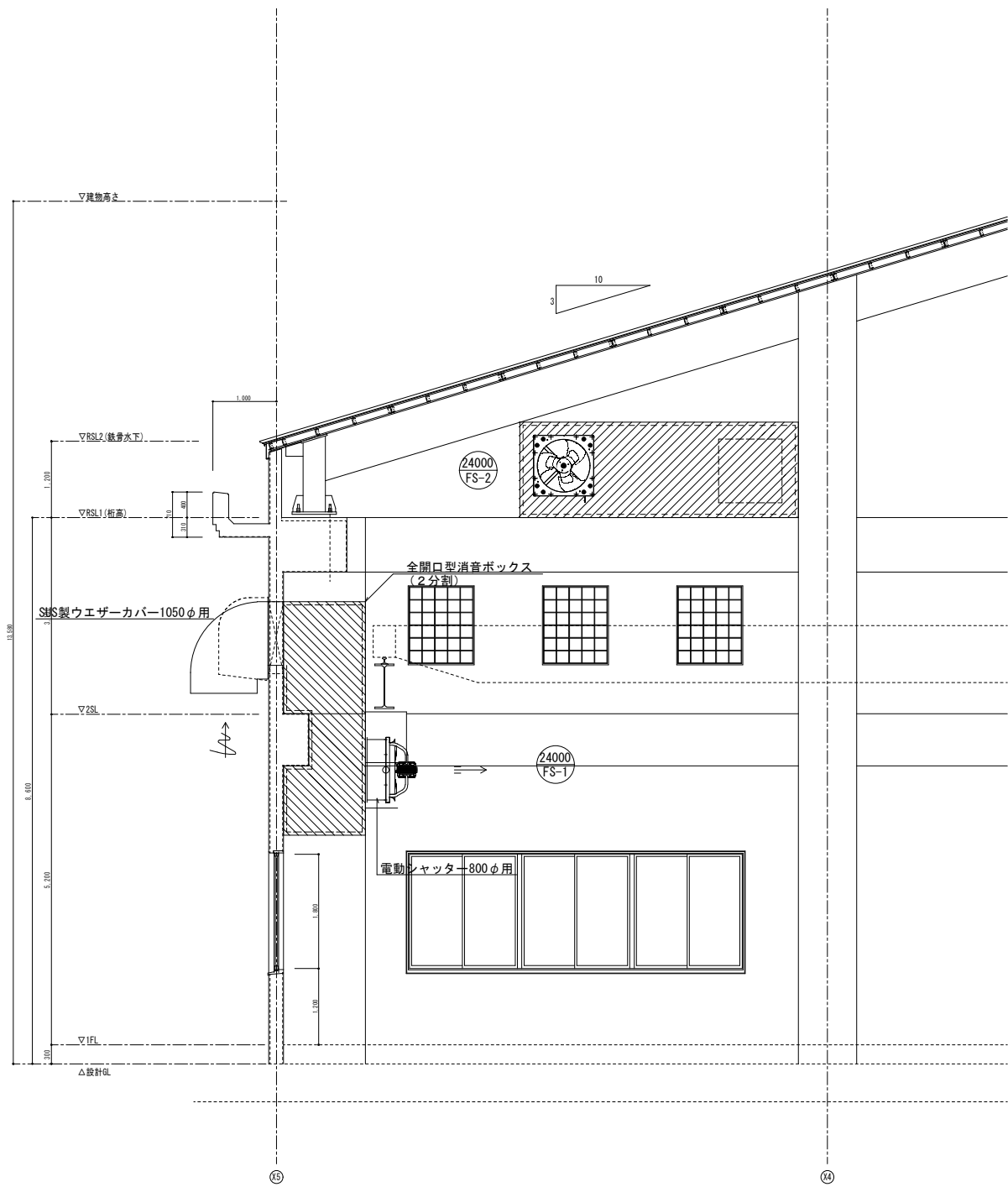
工事名	八代平野農業水利事業 流瀬川排水機場建設工事		
図面名	立面図		
作成年月日			
縮尺	S=1:100	図面番号	M-10
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		



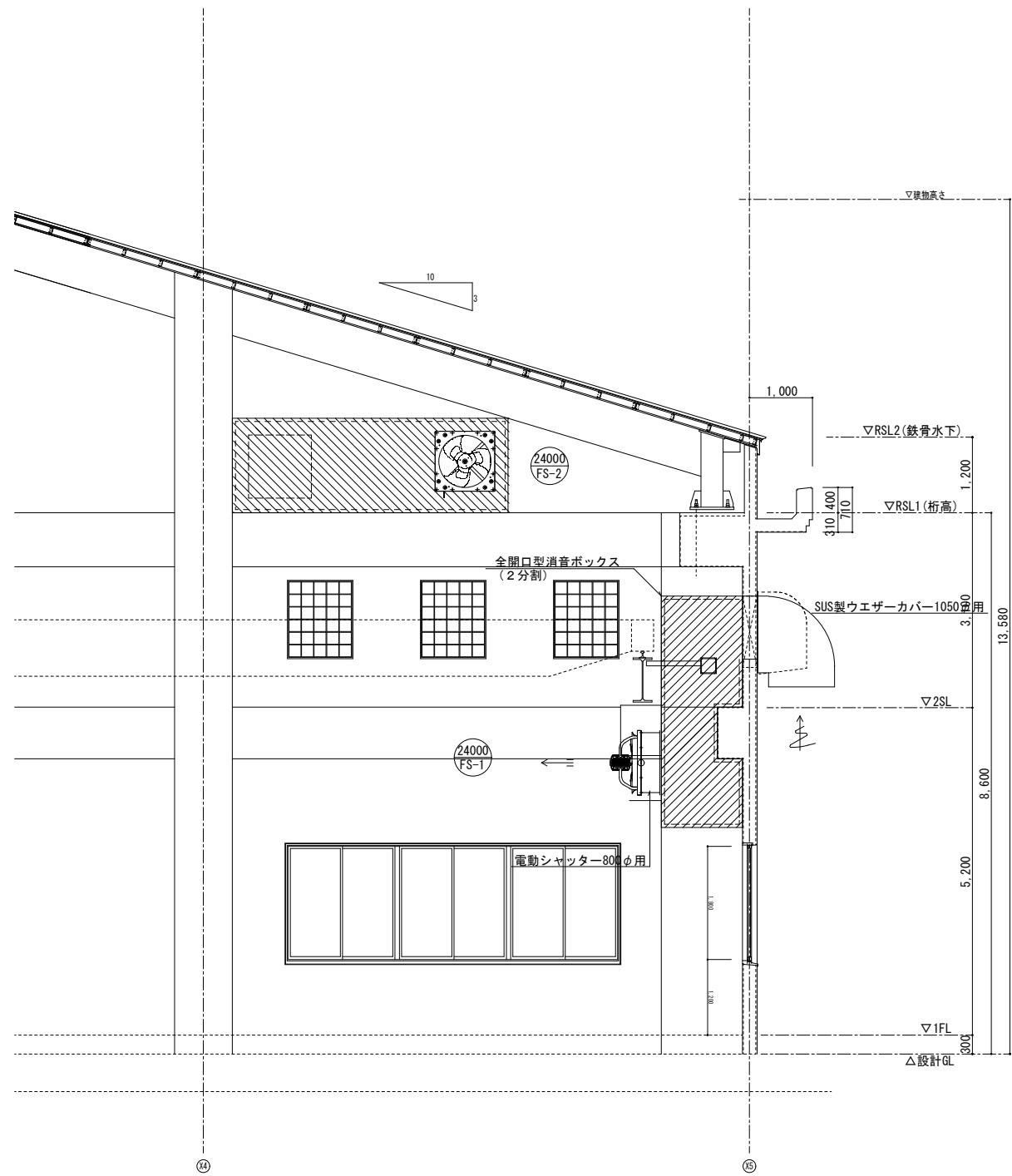
工事名	八代平野農業水利事業 流源川排水機場建設工事		
図面名	断面図 (1)		
作成年月日			
縮 尺	S=1:100	図面番号	M-11
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		



工事名	八代平野農業水利事業 流藻川排水機場建設工事		
図面名	断面図 (2)		
作成年月日			
縮 尺	S=1:50	図面番号	M-12
会社名			
事務所名	九州農政局八代平野農業水利事業所		



Y2断面



Y7断面

工事名	八代平野農業水利事業 流源川排水機場建設工事		
図面名	断面図 (3)		
作成年月日			
縮 尺	S=1:30	図面番号	M-13
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		

令和2年度 八代平野農業水利事業
流溪川排水機場実施設計業務

工事設計図

平成 年 月(金 秋)

特記仕様書

1. 工事概要

1. 工事場所

2. 建物概要

建 物 名 称	構 造	階 数	建築基準法による 延べ面積(m ²)	消防法施行令 別表第一の区分	備 考
排水機場	RC造	1階建(地下 階 塔屋 1階)			新築

(注) 延べ面積は建築基準法による表記)

3. 工事種目 (●印の付いたものが対象工事種目)

建築物及び建外 工 事 種 目	工 事 種 別	屋 外
●電灯設備	一式	
●動力設備	一式	
○電気自動車用充電設備		
○電熱設備		
●雷保護設備	一式	
○安定電設備		
○電力貯蔵設備		
○発電設備		
○構内情報通信網設備		
○構内交換設備		
○情報表示設備		
○映像・音響設備		
○拡声設備		
○誘導支援設備		
●テレビ共同受信設備	一式	
○監視カメラ設備		
○駐車場管制設備		
○防犯・入退室管理設備		
○火災報知設備		
○中央監視制御設備		
○配電配線路		一式
○構内通信線路		一式
○		
○		
○		
○		
○		

4. 指定部分 ○ 無 ○ 有 (対象部分

指定部分工期 年 月 日

II. 工事仕様

1. 共通仕様

1) 図面及び本特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の下記仕様書等のうち、●印の付いたものを適用する。

○「公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編) (最新版)」(以下「標準仕様書」という。)

○「公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編) (最新版)」(以下「改修標準仕様書」という。)

○「公共建築設備工事標準図(電気設備工事編) (最新版)」(以下「標準図」という。)

2) 機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合は、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの特記仕様書を適用する。

なお、機械設備工事の特記仕様書は(/)図、建築工事の特記仕様書は(/)図による。

2. 特記仕様

項目及び特記事項は、●印の付いたものを適用する。

項 目	特 記 事 項																																																									
● 機材の品質等	(1) 本工事に使用する機材は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 (2) 下表に機材名が記載された製造業者等は、次の①から⑥すべての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督職員の承認を受ける。ただし、製造業者等名が記載されているものは、証明となる資料等の提出を省略することができる。 ① 品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 ② 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 ③ 安定的な供給が可能であること。 ④ 法令等で定めがある場合は、その許可、認可、認定又は免許を取得していること。 ⑤ 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ⑥ 販売、保守等の営業体制が整えられていること。																																																									
● 足場その他	● 別契約の関係受注者が定置したものは無償で使用する。 ○ 本工事で設置する。 「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。 ○ 内部足場(○ 種 ○ 種) ○ 外部足場(○ 種 ○ 種)																																																									
○ 養生	既存部分の養生は、改修標準仕様書第1編第1章による。																																																									
● 施工図等	本工事で作成する施工図等のうち、次の原因及びその複写図(1部)を監督職員に提出する。 ただし、製作図等で原因として提出ができないものは、原因に代るものとしてよい。 なお、施工図等の著作権に係る当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲する。 機 器 製 作 図 制 御 シ ス テ ム 図 試 験 成 績 書 機 器 ・ 配 管 固 定 の 施 工 図 一 式 一 式 一 式 一 式																																																									
○ 施工調査	事前調査(○ 本工事 ○ 別途) 調査項目(○ 既存資料調査 ○) 調査範囲(○ 図示 ○) 調査方法(○ 図示 ○)																																																									
● 電源周波数	50Hz																																																									
● 耐震措置	設備機器の固定は、次に示す事項を除き、すべて「建築設備耐震設計・施工指針 2014年版」(独立行政法人建築研究所監修)による。 (1) 設計用水平地震力 機器の重量 [kN] に、設計用標準水平震度を乗じたものとする。 なお、特記なき場合は、設計用標準水平震度は、次による。 設計用標準水平震度 <table><thead><tr><th rowspan="2">機 器 種 別</th><th colspan="2">○ 特定の施設</th><th colspan="2">○ 一般の施設</th></tr><tr><th>重要機器</th><th>一般機器</th><th>重要機器</th><th>一般機器</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="3">上層階、 屋上及び塔屋</td><td>機器</td><td>2.0</td><td>1.5</td><td>1.5</td><td>1.0</td></tr><tr><td>防振支持の機器</td><td>2.0</td><td>2.0</td><td>2.0</td><td>1.5</td></tr><tr><td>水槽類</td><td>2.0</td><td>1.5</td><td>1.5</td><td>1.0</td></tr><tr><td rowspan="3">中間階</td><td>機器</td><td>1.5</td><td>1.0</td><td>1.0</td><td>0.6</td></tr><tr><td>防振支持の機器</td><td>1.5</td><td>1.5</td><td>1.5</td><td>1.0</td></tr><tr><td>水槽類</td><td>1.5</td><td>1.0</td><td>1.0</td><td>0.6</td></tr><tr><td rowspan="3">地下、1階</td><td>機器</td><td>1.0</td><td>0.6</td><td>0.6</td><td>0.4</td></tr><tr><td>防振支持の機器</td><td>1.0</td><td>1.0</td><td>1.0</td><td>0.6</td></tr><tr><td>水槽類</td><td>1.5</td><td>1.0</td><td>1.0</td><td>0.6</td></tr></tbody></table> 【備考】・上層階とは2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は3階、13階以上の場合は上層4階とする。 ・中間階とは地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの 重要機器は次のものを示す。 ○ 配電盤 ○ 発電装置 (防災用) ○ 直流電源装置 ○ 交流無停電電源装置 ○ 交換機 ○ 自動火災報知受信機 ○ 中央監視制御装置 ○ (2) 設計用鉛直地震力 設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。	機 器 種 別	○ 特定の施設		○ 一般の施設		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器	上層階、 屋上及び塔屋	機器	2.0	1.5	1.5	1.0	防振支持の機器	2.0	2.0	2.0	1.5	水槽類	2.0	1.5	1.5	1.0	中間階	機器	1.5	1.0	1.0	0.6	防振支持の機器	1.5	1.5	1.5	1.0	水槽類	1.5	1.0	1.0	0.6	地下、1階	機器	1.0	0.6	0.6	0.4	防振支持の機器	1.0	1.0	1.0	0.6	水槽類	1.5	1.0	1.0	0.6
機 器 種 別	○ 特定の施設		○ 一般の施設																																																							
	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器																																																						
上層階、 屋上及び塔屋	機器	2.0	1.5	1.5	1.0																																																					
	防振支持の機器	2.0	2.0	2.0	1.5																																																					
	水槽類	2.0	1.5	1.5	1.0																																																					
中間階	機器	1.5	1.0	1.0	0.6																																																					
	防振支持の機器	1.5	1.5	1.5	1.0																																																					
	水槽類	1.5	1.0	1.0	0.6																																																					
地下、1階	機器	1.0	0.6	0.6	0.4																																																					
	防振支持の機器	1.0	1.0	1.0	0.6																																																					
	水槽類	1.5	1.0	1.0	0.6																																																					
○ はつり	はつり工事は、事前に以下の調査を行い、監督職員に報告を行うこと。 (○ 土性状土壌物調査 ○ X線調査 (費用は別途とする))																																																									
○ 天井仕上区分	() 書きの室名は直天井の室を示し、それ以外は二重天井の室を示す。																																																									
○ 電気工事士	最大電力が500 [kW] 以上の場合においても、第一種電気工事士により施工を行う。																																																									

○ 仮設備工事

● 配管本数、管路等

● フラッシュプレート

○ 金属管の塗装

○ インバータ装置の規約効率

● 機器取付高さ

● 接地極

● 他工事又は他工種との
取り合い

仮電源 (○ 受変電)
(○ 発電)
仮設備期間(○ 図示)

分電盤、制御盤、端子盤等の2次側以降の配線経路、電線本数、電線本数、管径等は、図面と相違しても差し支えない。ただし、相違する場合は監督職員の承認を受ける。

フラッシュプレートは、図面に記載がない場合、
(○ 金属製 (ステンレス、新金属を含む) ○ 樹脂製) とする。

下記の露出配管は塗装を行う。
(○ 金属管 ○)

三相可変速運転用インバータ装置の規約効率は、次の数値以上とする。

電動機出力 (kW)	0.4	0.75	1.5	2.2	3.7	5.5	7.5	11	15	18.5	22	30	37	45
規約効率 (%)	86.0	88.5	92.0	93.0	94.0	94.0	94.5	94.5	95.0	95.5	95.5	95.5	95.5	95.5

【備考】(1) 規約効率は、JEM-TR 245「汎用インバータの規約効率」により算出した値とする。
(2) 規約効率は、JIS C 4212「高効率低圧三相かご形誘導電動機」の定格電圧200V、IP4X、6極、50Hzの電動機を駆動したときの値とする。

図面に記載がない場合は、表－1「機器標準取付高さ」による。

図面に記載がない場合は、表－2「接地極一覧表」による。

図面に記載がない場合は、工事区分表による。

表－1 機器標準取付高さ

名称	測点	取付高 [mm]	名称	測点	取付高 [mm]
計算計器	地上～窓中心	1,800～2,000	壁掛形時計	床上～中心	1,500 (上端1,900以下)
引込開閉器	地上～中心	1,800～2,200	子時計	"	"
分電盤	床下～中心 (上端 900以下)	1,500	壁掛形スピーカ	"	(天井高) × 0.9 (天井高) × 0.9
			壁付アッテネータ	"	1,300
スイッチ	床下～中心	1,300			
" (多機能トイレ)	"	1,100	情報表示盤	床上～中心	(天井高) × 0.9
コンセント (一般)	"	300	壁付発電機	"	1,300
" (和室)	"	150	ベル、ブザー、チャイム	"	2,300
" (台上)	台上下中心	150～200	壁付押しボタン (一般)	"	1,300
" (車椅子用)	床上下中心	900			
ブラケット (一般)	"	2,100～2,300			
" (鏡箱)	"	2,000～2,500			
" (鏡上)	鏡上端～中心	150			
			外部受付用インターホン(子機)	"標準図"による。	
			壁付インターホン(上記以外)	床上～中心	1,300
			壁付呼出ボタン(多機能トイレ)	"	900
壁掛形制御盤	床上～中心 (上端1,900以下)	1,500	機器収容箱	天井下～上端	200
制御箱	"	1,500	テレビ端子ユニット(一般)	床上～中心	300
制御用スイッチ	"	1,300	" (和室)	"	150
端子盤 (室内)	床上下下端	300			
集合保安装置	天井下～上端	200	受信機・副受信機	床上～操作部	800～1,500
壁付電話機 (一般)	床上～中心	1,300	機器収容箱	"	800～1,500
			受信機	床上～中心	800～1,500
			警報ベル	"	2,300
			表示灯	"	2,100
			液化石油ガス検知器	床上下上端	300

注) 天井高3,000mm以上の場合及び上記取付高さでは機器の使用に支障がある場合は、監督職員と協議する。

表－2 接地極一覧表

接地の種類	記号	接地抵抗値	接地極の規格・数量
○ 共同接地	E A・B・C・D	Ω以下	図(D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200) × 3連－ 1 根
○ 共同接地	E A・C・D	10Ω以下	図(D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200) × 3連－ 1 根
○ A 種	E A	10Ω以下	図(D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200) × 3連－ 1 根
○ B 種	E B	Ω以下	図(D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200) × 3連－ 1 根
○ C 種	E C	10Ω以下	図(D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200) × 3連－ 1 根
● D 種	E D	100Ω以下	図(D=10, L=1,000 又は W=30, L=900) × 1
○ D 種	E D	Ω以下	図(D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200) × 3連－ 1 根
○ 高圧避雷器用	E L H	10Ω以下	図(D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200) × 3連－ 1 根
○ 交換装置用	E t	10Ω以下	図(D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200) × 3連－ 1 根
○ 通信用 (10Ω)	E A t	10Ω以下	図(D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200) × 3連－ 1 根
○ 通信用 (100Ω)	E D t	100Ω以下	図(D=10, L=1,000 又は W=30, L=900) × 1
○ 電話引込口の保安器	E L t	100Ω以下	図(D=10, L=1,000 又は W=30, L=900) × 1
○ 測定用	E D	Ω以下	図(D=10, L=1,500 又は W=30, L=1,200) × 1

工事名

八代平野農業水利事業
流溪川排水機場建設工事

図面名

電気設備工事特記仕様書

作成年月日

縮 尺

図面番号

E-01

会社名

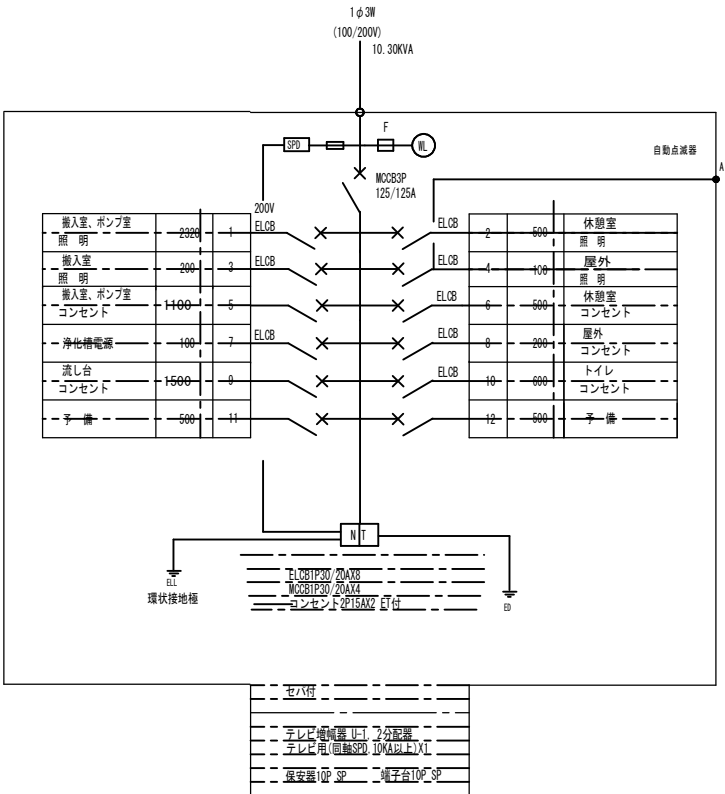
事務所名

九州農政局 八代平野農業水利事業所

一級建築士 大臣登録 第301654号 板倉 祥浩

照明器具参考姿図

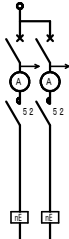
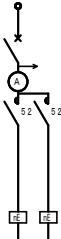
A01	LED20.6W	3200lm	F01	LED232W	42300lm
LSS10-4-30LE9  一般タイプ、3200lmタイプ 消費電力20.6W、定格出力型、電圧100～242V 本体：銅板（白色粉体塗装） ライトバー（カバー）：ポリカーボネート（乳白） 光通量4000時間（光衰維持率85%） 照度色（5000K）、Ra83 電源接続はライトバー側に内蔵			LSR2W-400LZ2  昼白色、5000K、Ra70、広角タイプ、直付型 光束42300lm、消費電力232W、電圧100～242V 光通量40000時間（光衰維持率85%） 本体：亜鉛鋼板、パネル：ポリカーボネート（透明） アーム：亜鉛鋼板 約5～8%高反射光拡散角度減正型 落下防止ワイヤー付、電源内蔵型（4.2kg）		
B08	LED7.9W	970lm			
LR51-850LM  5000K、Ra70、電圧100～242V 反射板（下部）：銅板（ホワイトつや消し仕上） 枠：銅板（ホワイトつや消し仕上） 光源寿命：40000時間					
C01	LED34W	5800lm			
LRS9F1-4-45LA9  □450、乳白パネル、調光可能タイプ（約10～100%） 定格出力型、消費電力34W、電圧100～242V 光源寿命：40000時間（光衰維持率85%）、Ra：83 本体：銅板（高反射白色粉体塗装） 枠：銅板（高反射白色粉体塗装） パネル：亜鉛鋼板（乳白） （パネル：アクリル（乳白）） 照度色（5000K）					
D01	LED19.1W	2210lm			
LBFSMP/RP-4-20LE9  高効率・高調光 消費電力22.10lm、消費電力19.1W、電圧100～242V 5000K、Ra83、光源寿命40000時間（光衰維持率85%） 本体：スチレンス、カバー：ポリカーボネート（乳白） 天井直付型・壁直付型					



動力負荷リスト表

[illegible]

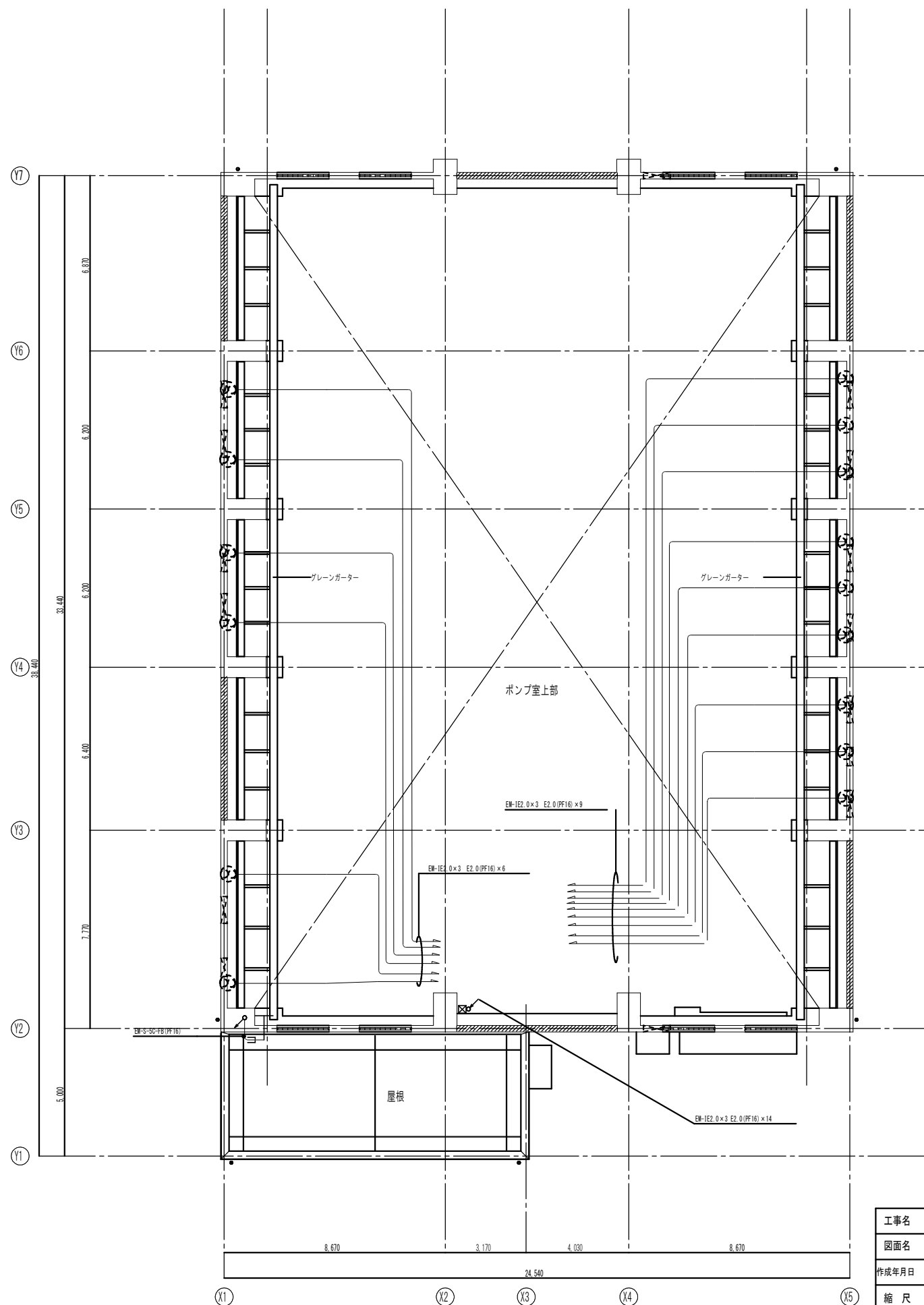
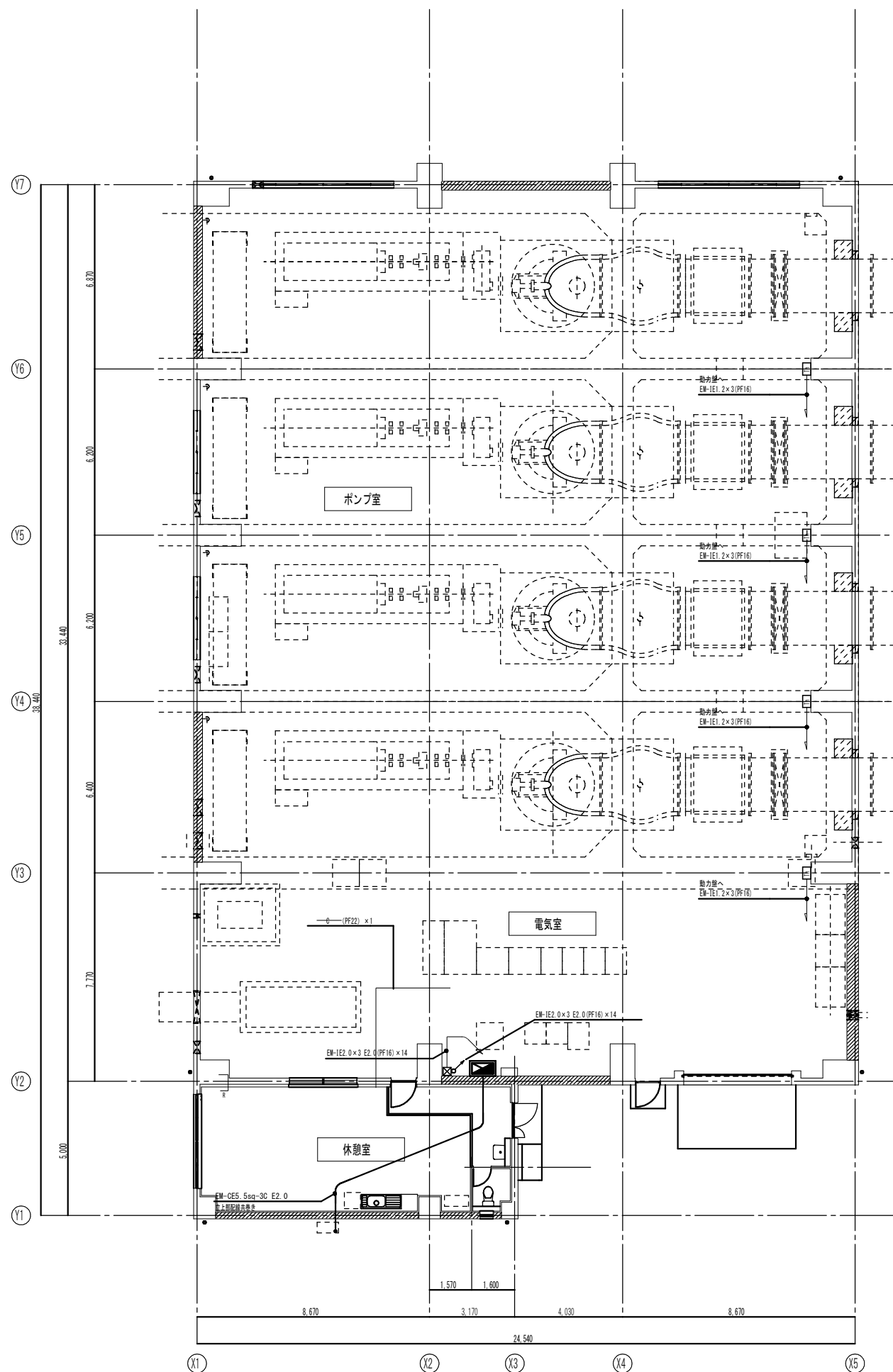
主回路結線図

A 電源送り 	B 直入始動 	C 直入始動 
D 直入始動 	E 直入始動 	F 直入始動 

凡 例		
記 号	名 称	備 考
	電灯燈	接続図参照
	照明器具	装置参照
	照明器具	装置参照
	照明器具	装置参照 壁付
	照明器具	装置参照
	照明器具	装置参照 壁付
	埋込コンセント	3P15A×1
	埋込コンセント	2P15A×2
	埋込コンセント	2P15A×2 E.T付
	防水コンセント	2P15A×2 E.T付
	埋込スイッチ	1P15A×1
	埋込スイッチ	2P15A×1
	埋込スイッチ	1P15A×1・1P4A×1 確認ランプ付
	電話用モジュラージャック	6極4芯
	並列ユニット (端束)	
	ブルボックス	300×300×200 銅板製

[illegible]

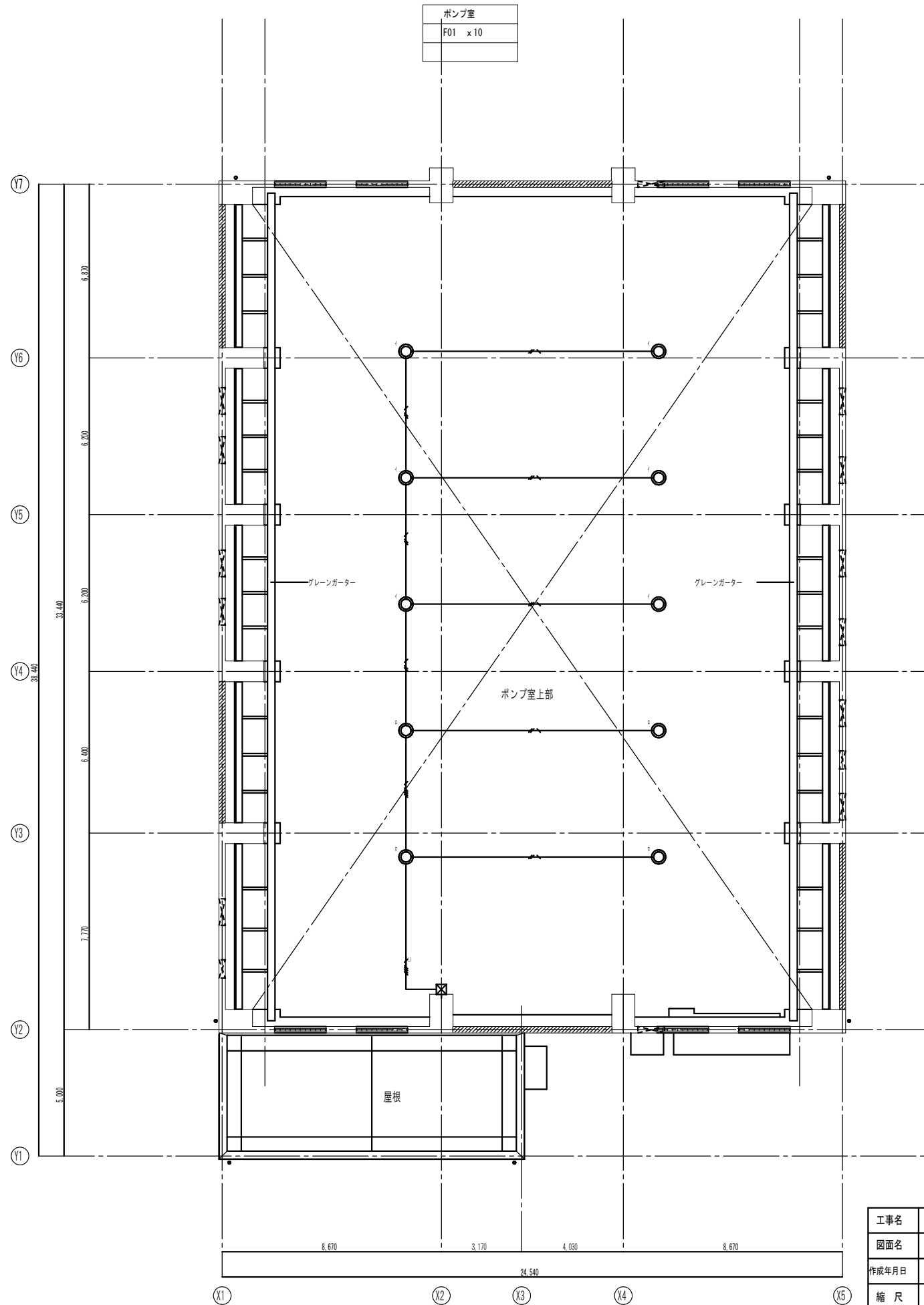
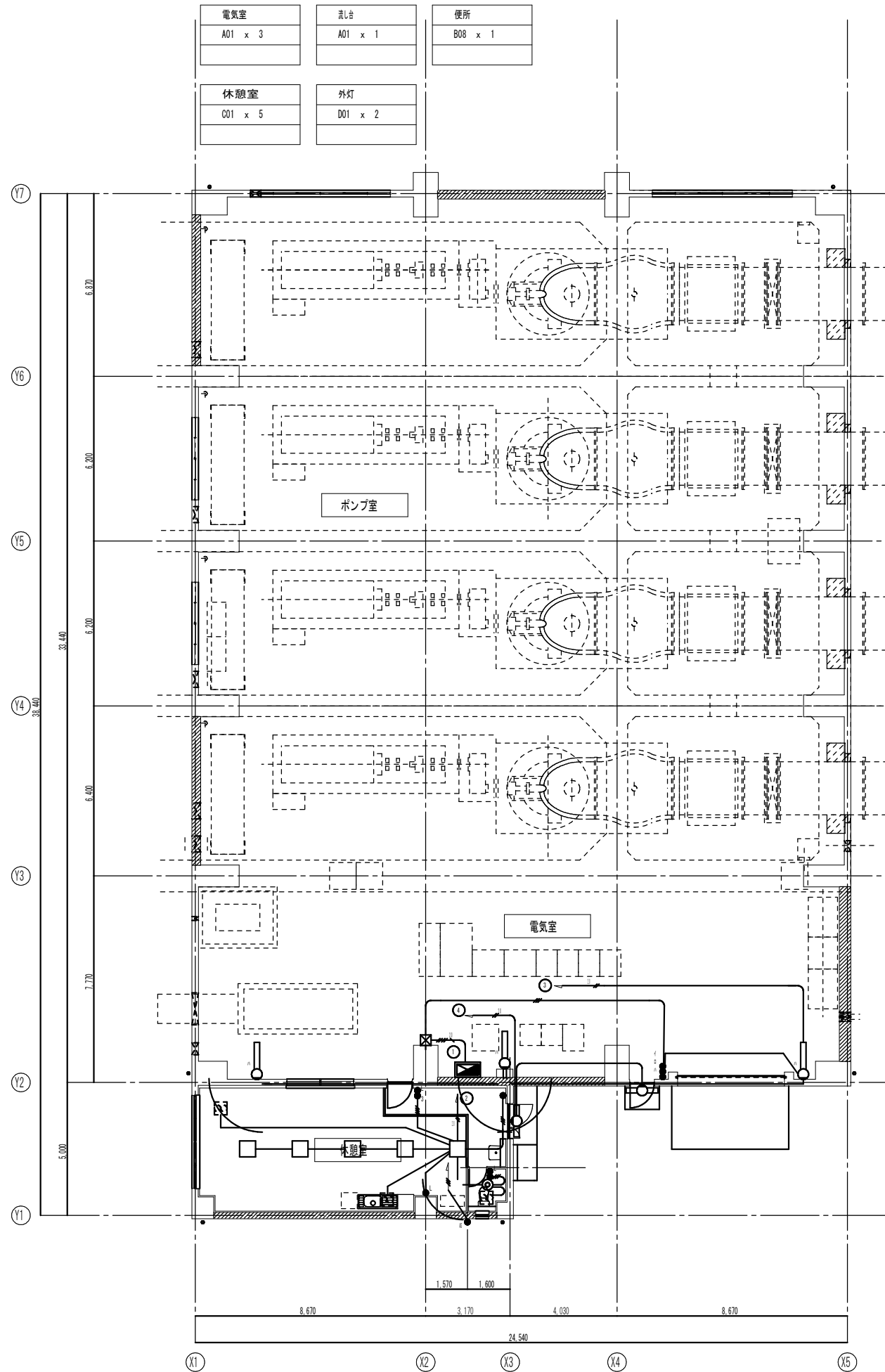
工事名	八代平野農業水利事業 流溪川排水機場建設工事		
図面名	分電盤結線図・照明器具配置図		
作成年月日			
縮 尺	S=1:100	図面番号	E-02
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		



平面図(上部)

一級建築士 大臣登録 第301654号 板倉 祥浩

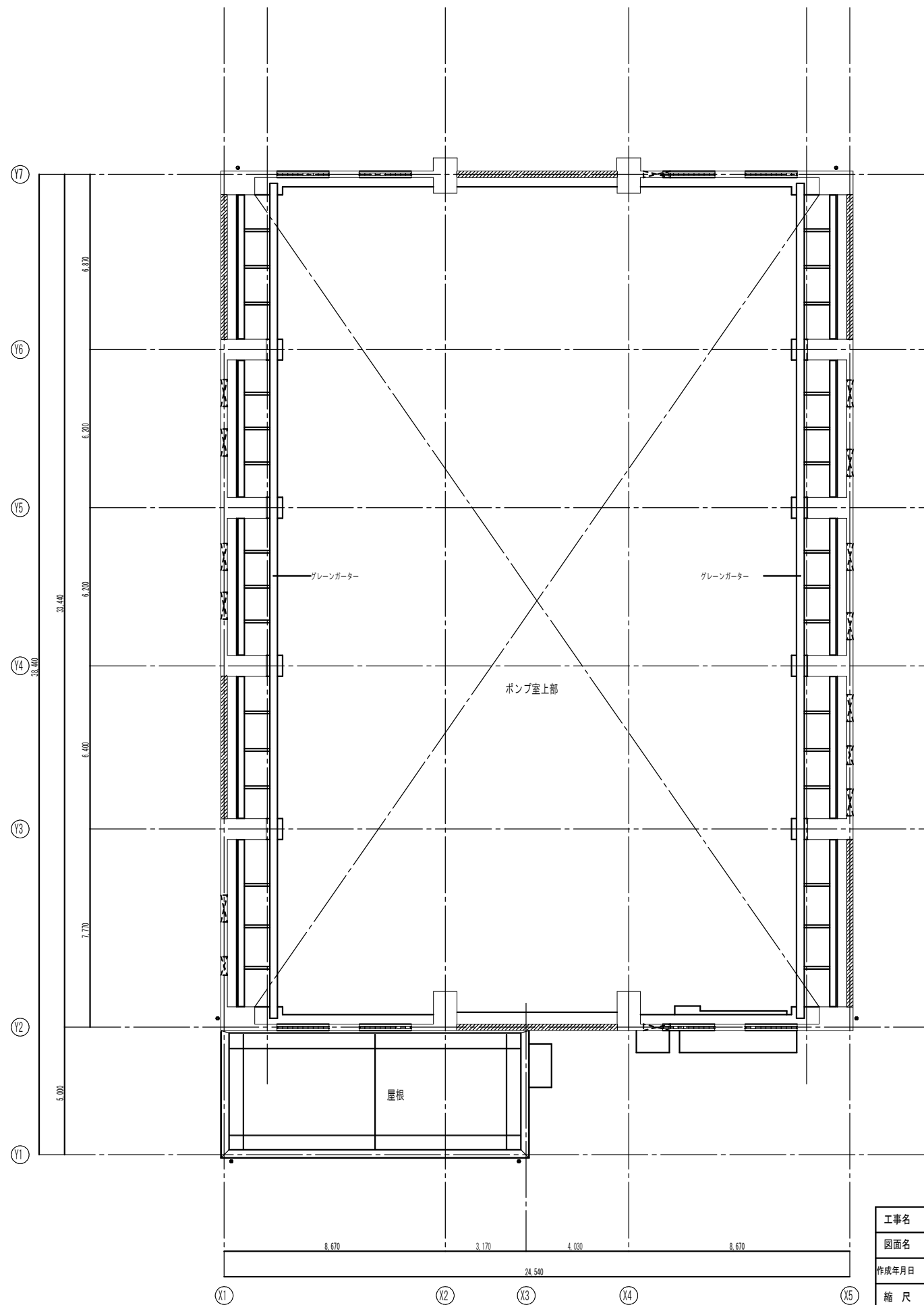
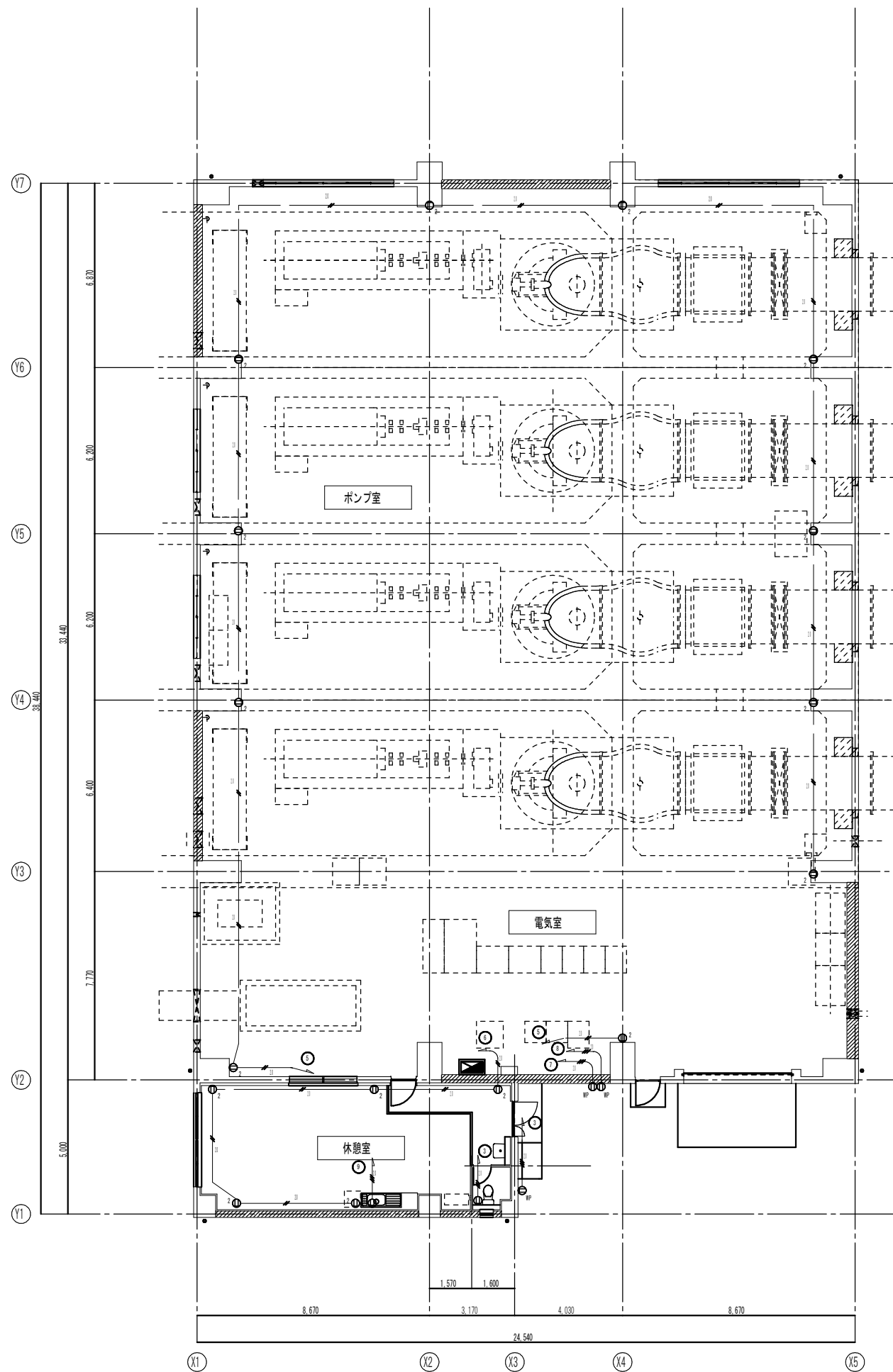
工事名	八代平野農業水利事業 流源川排水機増設工事		
図面名	動力・弱電設備平面図		
作成年月日			
縮尺	S=1:100	図面番号	E-03
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		



平面図(上部)

一級建築士 大臣登録 第301654号 板倉 祥浩

工事名	八代平野農業水利事業 流源川排水機場増設工事		
図面名	電灯設備平面図		
作成年月日			
縮尺	S=1:100	図面番号	E-04
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		



平面図(上部)

一級建築士 大臣登録 第301654号 板倉 祥浩

工事名	八代平野農業水利事業 流源川排水機場増設工事		
図面名	コンセント設備平面図		
作成年月日			
縮尺	S=1:100	図面番号	E-05
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		

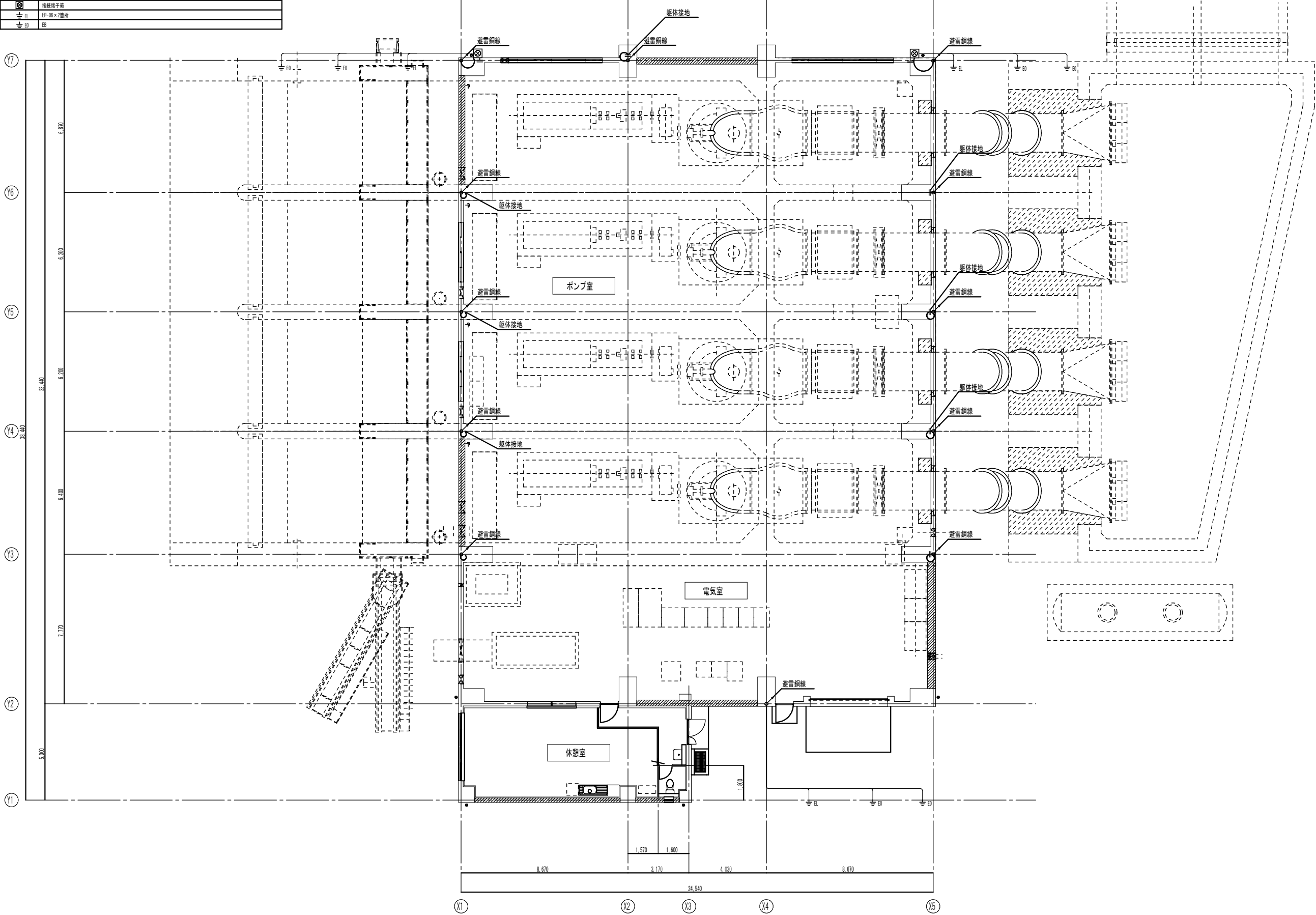
雷保護設備凡例

記号	名	称
	避雷導線	アルミ線 2.0 x 25本
	導線取付金物	(耐食アルミ合金製) 水平@=600 垂直@=1000
●	接続端子	(耐食アルミ合金製)
○	水切端子	(黄銅クロムメッキ製、片側：耐食アルミ合金製)
---	鋼線	2.0 x 13本 (PF22) 埋込配管
	鉄筋接続端子	
⊗	接続端子箱	
±EL	±EL	EP-06 x 2箇所
±E0	±E0	E0

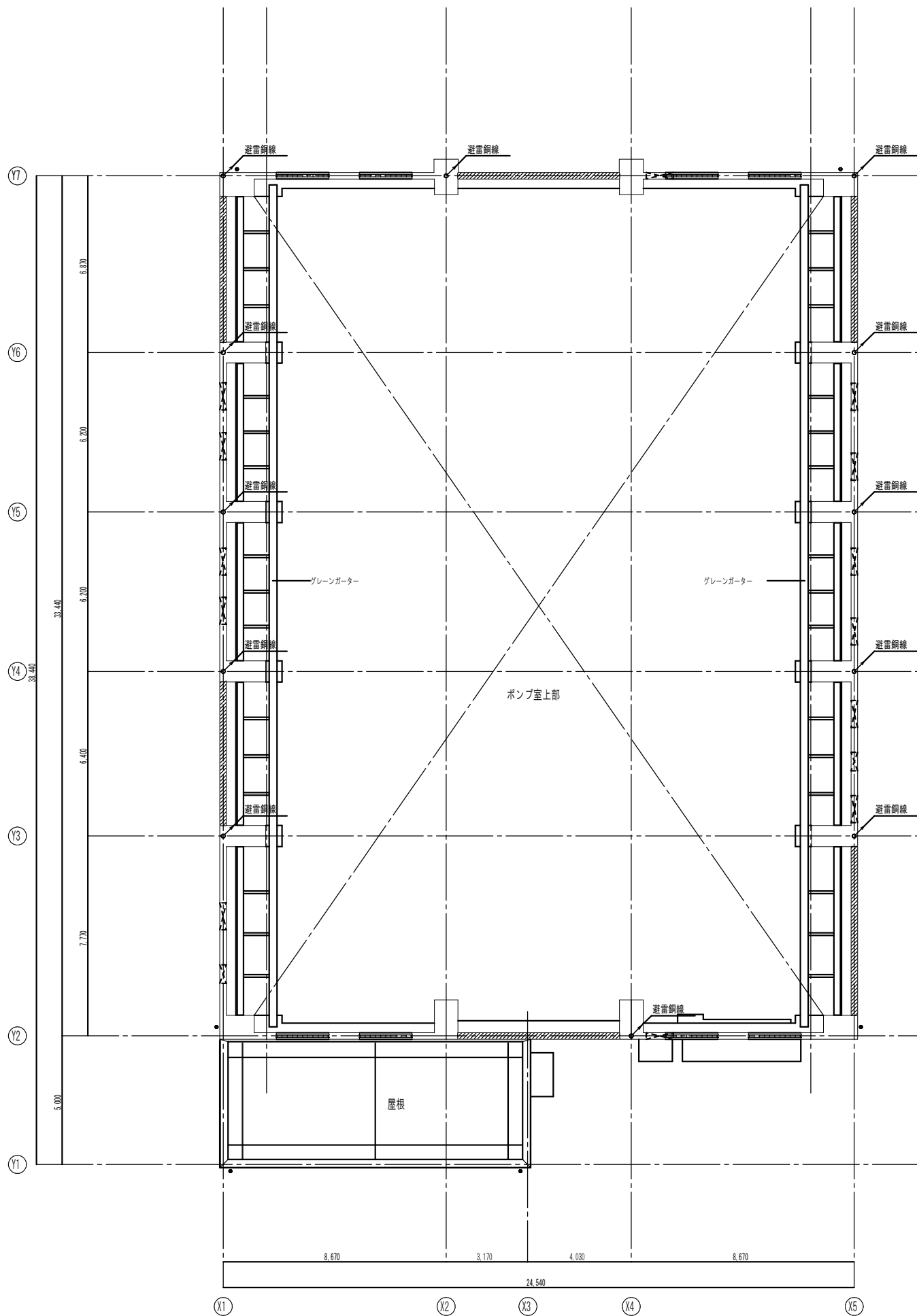
保護レベルに応じた引下げ導線の平均間隔

保護レベル	平均間隔 (m)
Ⅱ	25

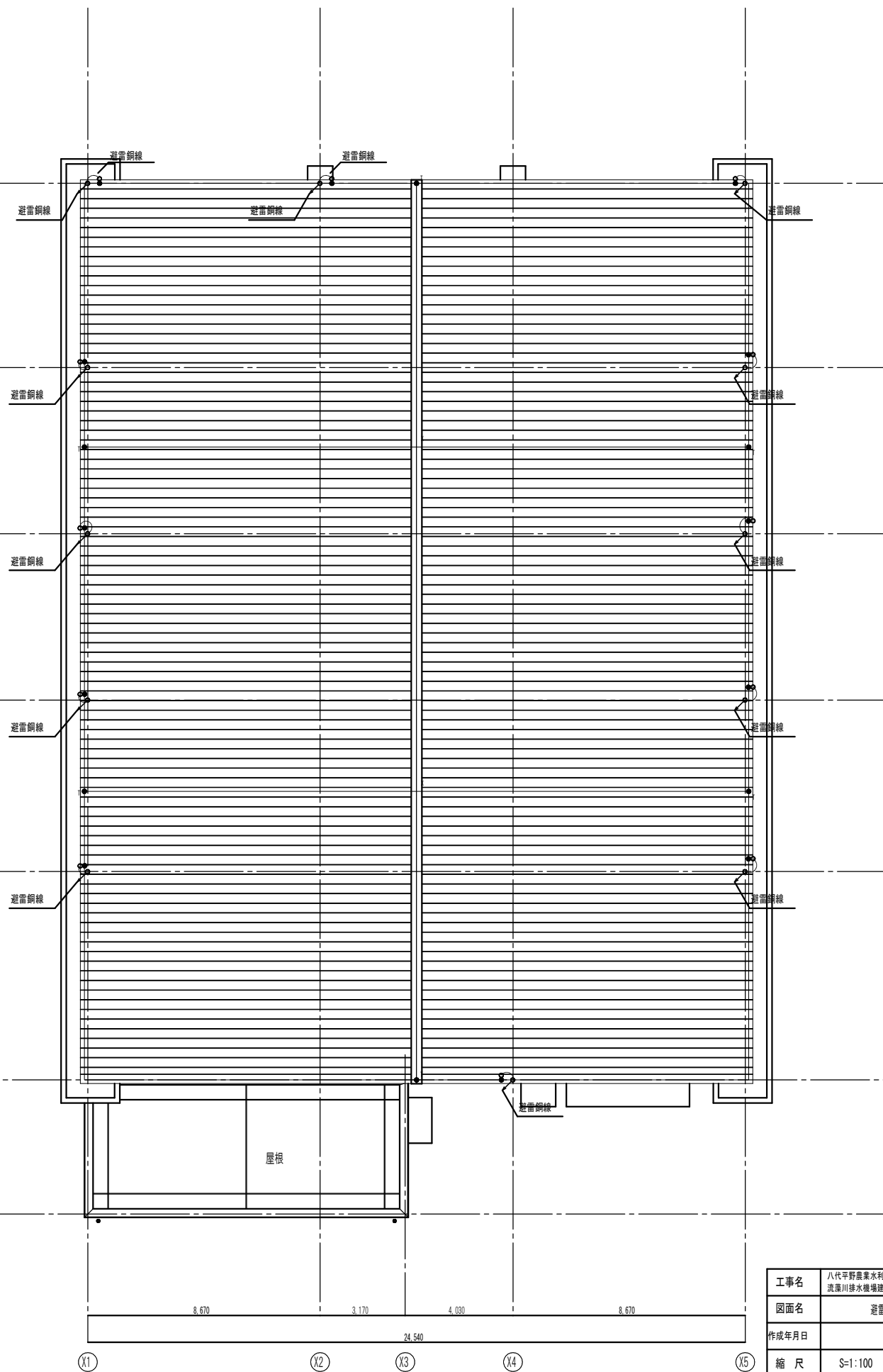
記号	名	称
●	接続端子	(直線型)
●	接続端子	(T型)
●	接続端子	(十字型)
●	接続端子	(伸縮型)



工事名	八代平野農業水利事業 流源川排水機場増設工事		
図面名	避雷針設備平面図 (1)		
作成年月日			
縮 尺	S=1:100	図面番号	E-06
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		



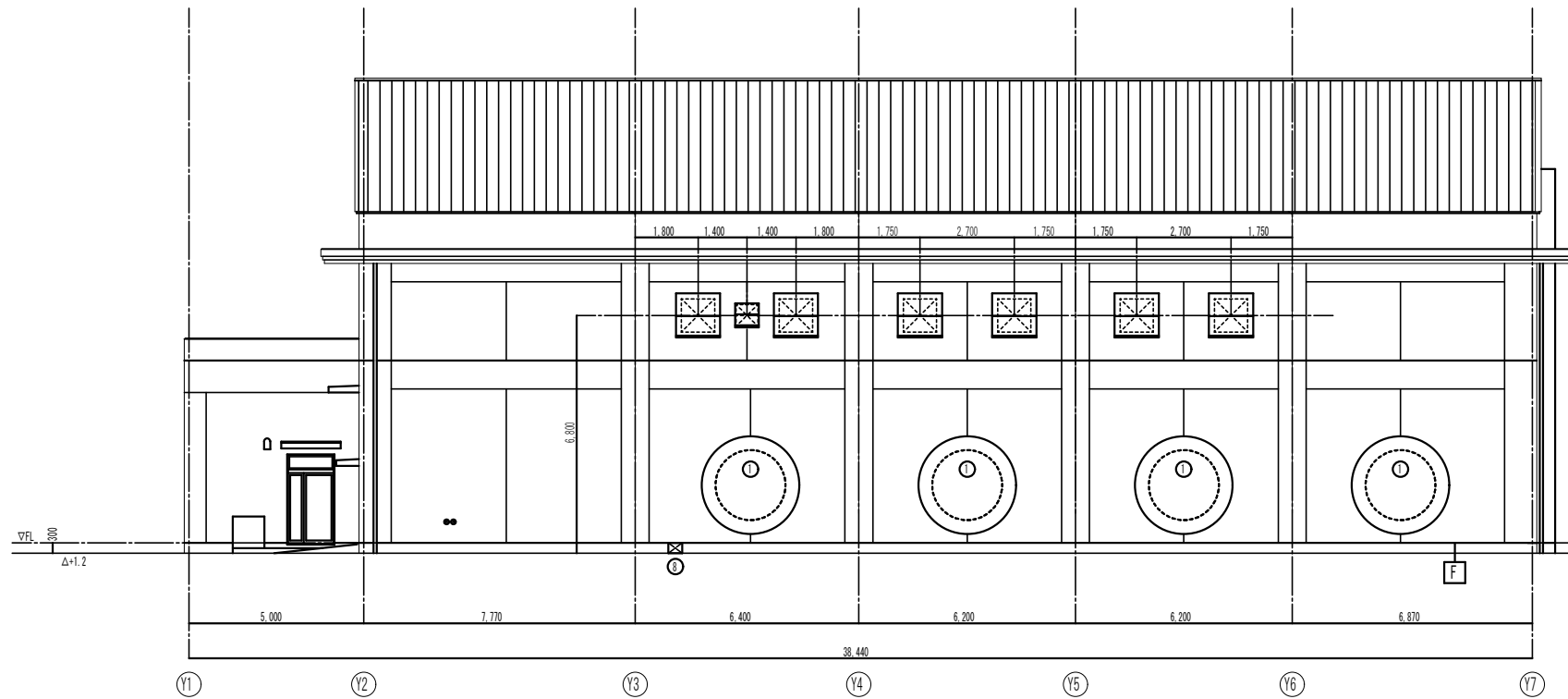
平面図(上部)



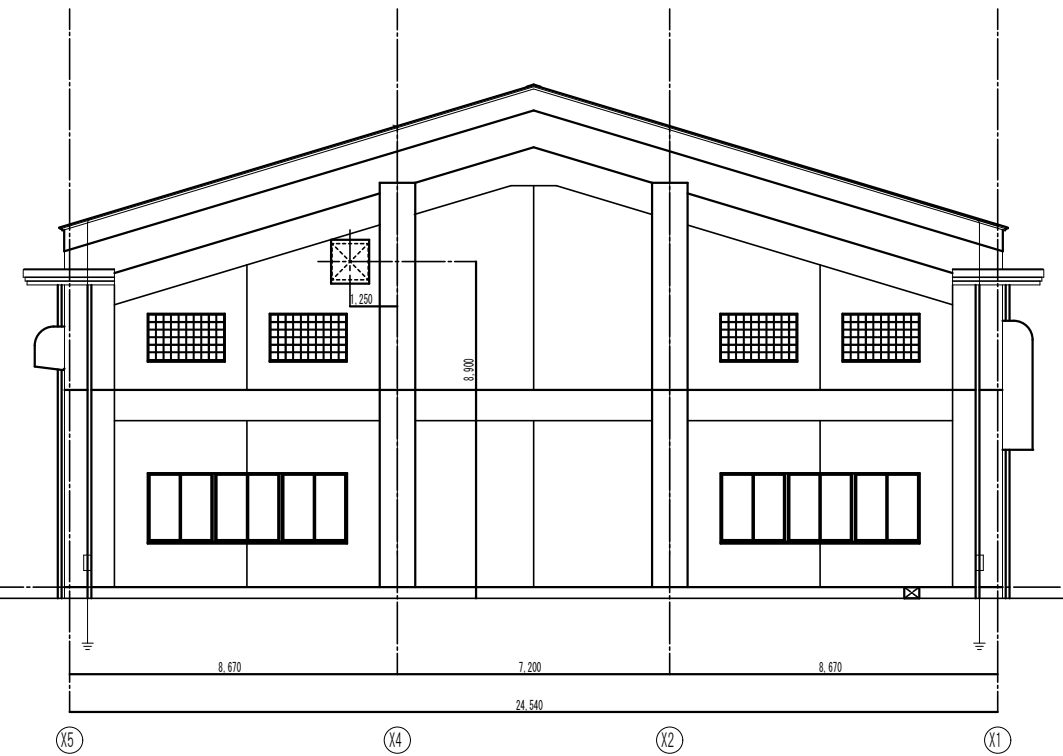
屋根伏図

一級建築士 大臣登録 第301654号 板倉 祥浩

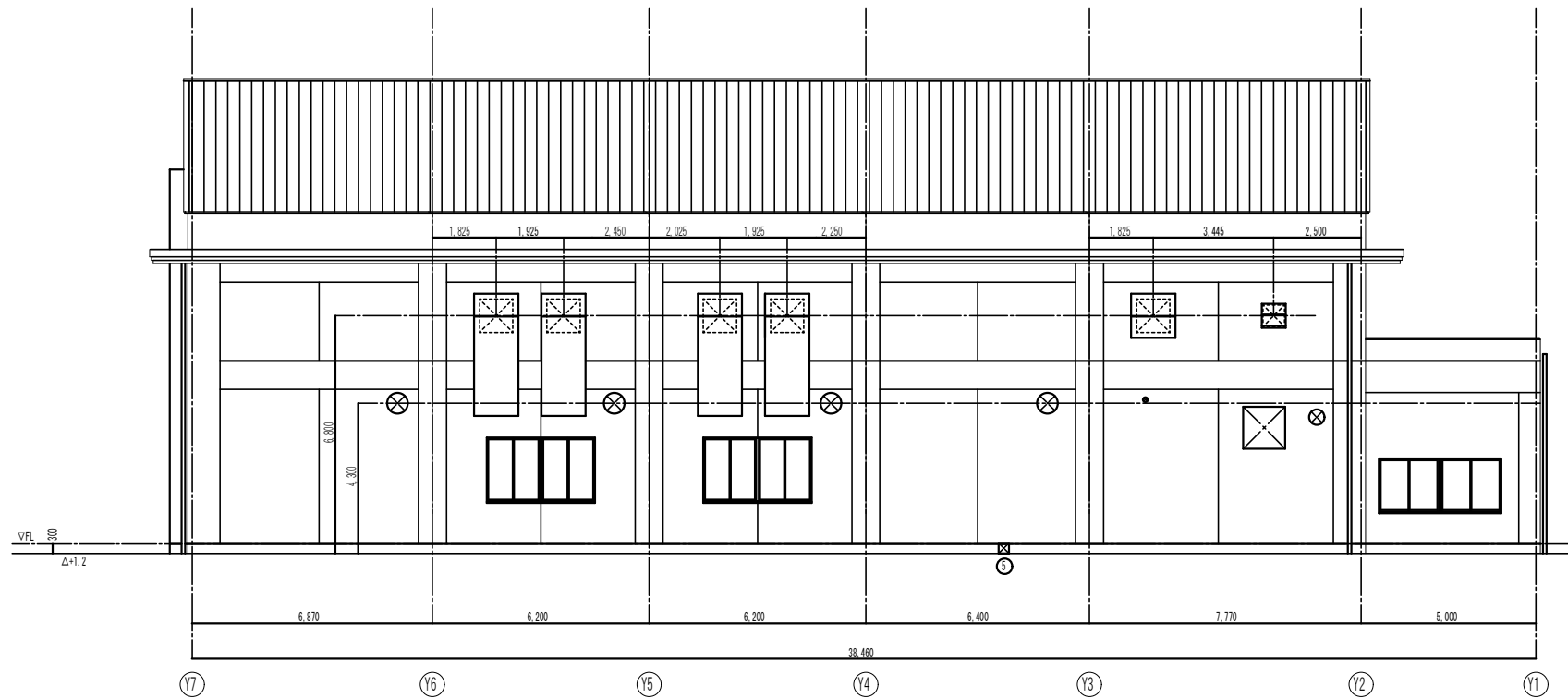
工事名	八代平野農業水利事業 流源川排水機場増設工事		
図面名	避雷針設備平面図 (2)		
作成年月日			
縮 尺	S=1:100	図面番号	E-07
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		



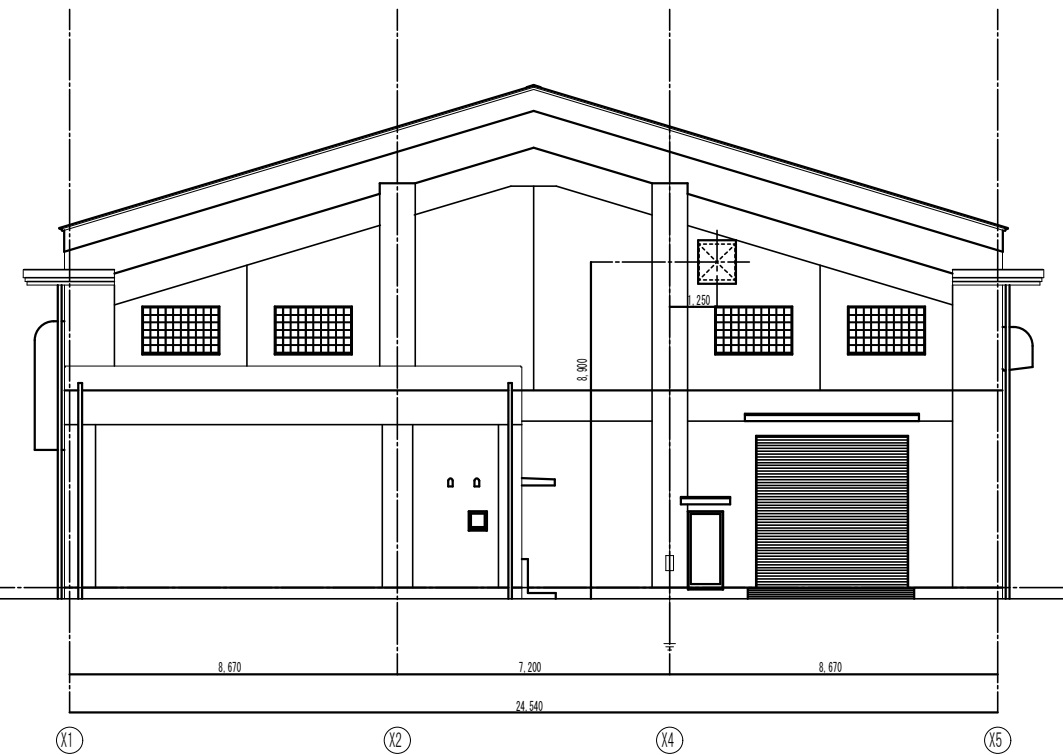
北立面図



西立面図



南立面図



東立面図

工事名	八代平野農業水利事業 流源川排水機場建設工事		
図面名	避雷針設備立面図		
作成年月日			
縮尺	S=1:100	図面番号	E-08
会社名			
事務所名	九州農政局 八代平野農業水利事業所		